

明治三十七八年海戦史

第十一部(日誌)

第一編 開戦前誌

從明治三十六年四月八日
至明治三十七年二月五日

日本外交及ヒ軍事行動

四月八日
帝國海軍ハ去三月十日以來大演習ヲ開始シ九州方面及
朝鮮海峡ニ於テ動作中ナリシカ今八日全艦隊舉ツテ
和泉海ニ在リ大演習御親閱ニ關スル諸準備ヲ爲ス
當時帝國軍艦ノ役務左ノ如シ(表中大演習中臨時就役
ハ之ヲ掲ケス)

府	守	鎮	吳	府	守	鎮	賀	須	横		
筑	高	殿	常	淺	和	高	須	須	八	常備艦隊	
紫	砂	島	盤	間	泉	穂	穂	穂	雲	測量艦	
大和											
鎮	鎮	鎮	天	鎮	天	平	扶	豐	練習艦	第三預備艦	
透	中	北	龍	東	城	遠	桑	朝			
赤	千	筑	明	吉	八	富	石	島	士	武	八
城	代	波	野	島	士		龍	田		藏	重
龍田											

露國外交及ヒ軍事行動

此ノ日ハ明治三十五年(西曆一九〇二年)三月二十六日
露清間ニ締結セル滿洲還附協約ニ定メタル第二撤兵期
ニシテ即チ此ノ期ハ露國カ盛京省地域内第一撤兵期ニ
撤兵セサル殘部及ヒ吉林省ヨリ撤兵スル管アルカ共ノ
期前露國ハ撤兵ノ準備ヲ爲セルニモ拘ラス期日ニ至リ
俄然撤兵ヲ見合ハセ又在牛莊露國民政長官ハ稅關及ヒ
行政事務ヲ清國官憲ニ引渡サス
此ノ日在東洋露國艦艇勢力ハ十一万七千六百九十一噸
東洋ヘ向ケ回航中ノモノ五万二千六百七十二噸合計十
七万〇三百六十三噸ナリ
共ノ所在左ノ如シ

- 戰艦 「セリストーポリ」
 - 同 「ペトロパウロウスク」
 - 同 「ベレスウエート」
 - 同 「ボルタール」
 - 巡洋艦 「グロモボイ」
 - 同 「ロシーア」
 - 同 「リユーリク」
- 仁川 旅順 旅順 旅順 旅順 旅順 旅順

明治三十六年四月

明治三十六年四月

Table showing military unit distributions across various regions including 佐世保, 松島, 磐城, etc. with columns for unit names and counts.

當時部團水雷敷設隊及水雷艇隊ノ配備左ノ如シ

Table detailing the deployment of mine-laying and mine-sweeping units across various ports and regions.

Text listing specific ship names such as 'アスコリド', 'ノール非ク', 'ワリヤーク' and their assigned bases or missions.

當時部團水雷艇隊ノ編制左ノ如シ

Table detailing the organization and structure of the mine-sweeping units.

Table detailing the organization and structure of the mine-laying units across various divisions like 竹敷要港部, 横須賀水雷團, etc.

當時常備艦隊ノ主要職員左ノ如シ
司令長官 海軍中將 日高壯之丞

明治三十六年四月

Text listing ship names and their assignments, including 'レシーテリヌイ', 'スメートル', '右驅逐艦五隻旅順ニテ組立タルモノ'.

參謀長 海軍大佐 加藤友三郎
 司令官(練習枝隊) 海軍少將 上村彦之丞
 司令官 海軍少將 伊集院五郎
 司令官 海軍少將 伊東義五郎

四月九日

天皇陛下ハ七日東京御發着八日舞子へ御著アラセラレ
 本日同地ニ御駐登大演習統監海軍大將子爵伊東祐亨ハ
 午前在所ニ伺候シ大演習ノ經過ヲ奏上ス統監ハ勅命
 ニ依リ午後本演習ニ參與シタル各艦艇長以上ヲ軍艦敷
 島ニ呼集シ講評ヲ行フ

四月十日

舞子行在所御發着神戶沖ニ於テ觀艦式御舉行アラセラ
 レ畢リテ大演習ニ參與シタル司令官長官司令官幕僚司
 令艦長及ヒ艇長ヲ御前ニ召サセラレ左ノ勅語ヲ賜ハル
 勅語
 朕親シク艦隊ヲ閱シ又演習ノ成績ニ考ヘ深ク進歩ノ著

此ノ月初旬ヨリ露國ハ諾威瑞典及ヒ獨逸ノ汽船ヲ雇ヒ
 旅順口ヨリ大東溝ニ石炭及ヒ軍需品ヲ輸送シ居レリ(駐清
 領事及ヒ陸軍駐
 在員數名發電)
 在義州日野陸軍歩兵大尉ノ本日附發電ニ曰ク過日來安
 東縣ニハ露國騎兵約三十名内將校二名アリ又本月五日
 夜林七ナルモノ部下五十餘名(内露人四韓人一他ハ悉
 ク清人)ヲ率井突然安東縣ニ來ル共ノ揚言スル所ニ據
 レハ奉天將軍ヨリ材木收稅權ヲ得テ大東溝ニ該稅關ヲ
 開ク云々ト七日拂曉林七八十餘名ト共ニ安東縣ヲ發シ
 船ニテ大東溝方面ニ去ル林七ハ馬賊ノ頭領ニシテ數多
 ノ黨類ヲ有スト云フト

此ノ日露國代理公使フランソワハ外務部右侍郎聯芳ノ
 不撤兵理由ノ詰問ニ對シ右ハ之ニ必要ナル準備ノ間ニ
 合ヒ兼ネタルトレツサル公使ノ聖彼得堡ニ不在ナルヨ
 リ必要訓令ノ發セラレサリントノ爲メ約定期限内ニ於
 テ實行セラレサリシヲ遺憾トスル旨ヲ述ヘ且撤兵ハ數
 日間遲延セラルトモ共ノ實行セラルヘキヤ疑ヲ容レス
 ト告ケタリ(駐清内田公使發電)

露艦「アスコリド」ハ昨年九月二十二日東洋ニ向ケ本國
 フ出發シ回航中異狀ナク本年二月十日長崎ニ著セシカ
 此ノ日神戶ニ來リ觀艦式ニ參與ス(是ヲ本年露艦)
 此ノ日頃露國ハ突然變裝兵ヲ以テ韓國龍岩里ノ占領ヲ
 企テ安ニ其ノ土地ヲ買收シテ此ニ經營ノ基礎ヲ作レリ

明ナルヲ嘉ス今ヤ宇内ノ大勢海軍日進ノ運ニ會セリ汝
 等其レ益奮勵以テ朕カ望ニ副ハンコトヲ努メヨ
 此ノ觀艦式ニ參加ノ艦艇左ノ如シ
 御召艦 淺間
 供奉艦 宮古、千早、夕霧、金剛、吳鎮守府所屬吳丸
 參列軍艦
 第一列、敷島、富士、朝日、初瀬、八島
 三笠、磐手、常磐、吾妻、八雲
 出雲
 第二列、千歲、笠置、高砂、吉野、浪速
 高千穂、秋津洲、明石、須磨、扶桑
 和泉、千代田、鎮遠
 第三列、高雄、平遠、筑紫、濟遠、電
 喂、雷、隴、叢雲、陽炎
 不知火、海雲、曉、霞、白雲
 朝潮、漣
 第四列、千鳥、鵠、集、真鶴、白鷹

參列外國軍艦ハ英艦「グロリアー」同「ブレニム」獨艦「ハ
 シ」露艦「アスコリド」伊艦「カラブリア」佛艦「パスカ
 第二十九號、第四十二號、第四十一號
 第四十號、第四十三號、第六十五號
 第六十三號、第六十四號、第六十二號
 第六十六號、第三十二號、第三十四號
 第三十五號、第三十三號、第三十一號
 福龍、第二十一號、第二十四號

彼ハ豫テ韓廷ヨリ鴨綠江一帶ニ於ル森林伐採權ヲ獲得
 シ居タルヲ以テ之カ經營ニ著手シタルナリト聲言スル
 モ元ヨリ土地買收ハ許スヘキモノニアラス目下之ニ關
 シテ日露韓ノ間卷ニ交渉中ナルカ如シ
 本日附奉天發信ニ依レハ該地ニ在ル露兵三千二百ハ幾
 ト撤退セリ官衙宮殿モ清國官憲ニ引渡方了レリ風風
 城營口、鐵嶺、遼陽ニハ尙駐兵ス(在天津秋山陸軍少將
 發電)

四月十二

ルノ六隻ナリ

豫備艦隊八島出雲吉野ハ常備艦隊ニ編入セラル
 常備艦隊軍艦三笠淺間高砂笠置ハ役務ヲ解カレ第一
 豫備艦ト定メ全定員ヲ置ク
 豫備艦須磨明石ハ練習艦ト定メラル
 常備艦隊軍艦和泉千早筑紫ハ役務ヲ解カレ豫備艦濟
 遠ハ常備艦隊ニ編入セラル
 軍艦敷島八島八雲常磐韓國へ派遣セシメラル
 軍艦和泉千早筑紫ハ清韓居留民保護ノ任務ヲ解キ歸
 朝セシメラル
 軍艦高千穂ハ清韓二國へ濟遠ハ韓國へ何レモ居留民保
 護ノ爲メ派遣セシメラル
 常備艦隊司令官伊東少將横須賀鎮守府艦政部長ニ轉補
 セラル
 海軍々令部第一局長海軍少將瓜生外吉常備艦隊司令官
 ニ轉補セラル

四月十三

日高常備艦隊司令官ハ將旗ヲ敷島ニ掲ケ磐手扶桑千
 歲浪速常磐三笠八島八雲吉野高千穂秋津洲千代
 田宮古筑紫濟遠ヲ率非大阪築港外ニ錨泊ス

巡洋艦「ノール」ハ昨年九月二十九日露都出艦回航
 中異狀ナク本月二日上海ニ著セシカ此ノ日北方ニ向ケ
 出港ス(新著艦)
 在天津秋山陸軍少將ノ本日附發電ニ曰ク遼陽ヨリ摩天
 嶺ヲ經テ鳳凰城ニ通スル道路ハ三月下旬露國之ヲ修理
 シテ三日間ニ鳳凰城ニ達スルヲ得セシメ又貔子窩及ヒ
 花園口ノ江岸ニ少數ノ軍隊ヲ配備セリト

四月十四

大阪沖在泊日高常備艦隊司令官ハ明治三十六年度常
 備艦隊主隊行動豫定書ヲ提出ス其ノ外國巡航ニ關スル
 モノ左ノ如シ
 五月上旬 敷島八島出雲常磐佐世保發清國南部、露
 灣、澎湖島巡航
 六月上旬 敷島出雲ハ朝鮮南岸巡航鎮海灣ニテ煩砲
 射擊水雷發射並ニ諸訓練
 九月初旬 敷島八島常磐ハ小樽發セントウラジミル、
 フスボイニツクヲ經テ浦鹽港ニ入り(八島
 ハ浦鹽ニ入ル能ハサレハラスボイニツクニ
 テ解列朝鮮東岸巡視)千歲吉野(伊集院支
 隊)ハ吳發朝鮮南部巡航
 九月中旬 敷島常磐ハ浦鹽ヨリ敦賀ヲ經テ八島ハ元
 山ヲ經テ舞鶴ニ入ル
 千歲吉野ハ鎮海灣附近ニテ四季演習並ニ
 煩砲射擊水雷發射了テ仁川鎮南浦巡航
 九月下旬 千歲吉野ハ渤海灣巡航

此ノ日露國將官マドリロフハ騎兵二十餘騎ト共ニ大東
 溝ヨリ安東縣ニ來リ知縣ニ面會シ林七ハ賊ニ非ス露國
 政府ノ承認スル收稅吏ナリト辯ス又林七ハ奉天將軍ヨ
 リ大東溝ニ於テ木材ノ徵稅ヲ爲ス件ヲ許與スル公文ヲ
 持チ居レリト又將官マドリロフハ四月十日汽船ニテ大
 東溝ニ上陸セシモノニシテ此ノ船ニハ銃器六百ヲ積ミ
 居リ皆林七ノ部下ニ渡セリト云フ(在京城野津陸軍歩
 兵少佐發電(四月八日參看))

此ノ日ヨリ露國官吏芝罘ニ出張シ旅順大連、浦鹽行ノ
 各國商船ニ對シ檢疫ヲ實施シ滿洲旅行者ヲ檢査ス

十月初旬 敷島外三隻及ヒ千歳、吉野ハ佐世保ニ入港

四月十五 驅逐艦朝霧横須賀造船廠ニ於テ進水ス(昨午四月十
五日起工)

四月十七 練習艦須磨、明石ハ海軍少機關士候補生練習ノ爲メ韓
清沿岸ヲ巡航セシメラル此ノ二艦大演習結了後共ニ横
須賀ニ向ケ神戸出港去十四日何レモ横須賀著

四月十八

此ノ日露國代理公使ハ本國政府ノ電訓ヲ奉シ七ヶ條ノ
新要求ヲ清國政府ニ送致シ清國政府ニシテ之ヲ允諾シ
タル以上ハ露國軍隊ハ盛京吉林ノ二省ヨリ撤退シ露國
民政官ハ營口ヲ清國道臺ニ還附スヘシト附言セリ(是
世ニ所謂「フランソワ案」ナリ)其ノ要領ハ左ノ如シ
(一)清國ニ還附スヘキ疆土ノ何レノ部分タリトモ就中營
口竝ニ遼河ノ水域ニ於ル部分ハ何レノ國ニモ賣渡シ
又ハ貸與スヘカラサルコト
(二)蒙古ニ於ル現今ノ政治組織ヲ變更セサルコト
(三)清國ハ露國ニ豫告セシメテ今後東三省ノ市及ヒ港ハ
外國貿易ノ爲メニ開クヘカラサルコト
(四)清國ニ於テ行政事務ノ爲メ外國人ヲ聘用スルコトア
ルモ右外國人ノ權力ハ北部地方(直隸省ヲモ含テ有ス)
ニ於ル事項ニハ及フコトナカルヘキコト
(五)東三省ヲ通シテ露國ハ自用ノ爲メ清國ノ總テノ電柱
ニ電線ヲ架スルノ權ヲ有スヘキコト

四月十九 伊集院常備艦隊支隊司令官ハ來二十一日大阪出港後岡
山、吳、狄波、蘆屋、濱田、舞鶴、敦賀、金石、穴水、新潟、小樽、
青森灣、函館、室蘭、山田ノ諸港ヲ巡歴シテ六月二十四日
東京灣著ノ行動豫定表(第一期)ヲ提出ス

四月二十

軍艦秋津洲千代田ハ常備艦隊ニ編入セラル
軍艦大島ハ昨明治三十五年五月以來清國居留帝國臣民
保護ノ爲メ北清方面ニ在リシカ此ノ日任務ヲ解キ歸朝
セシメラル
軍艦筑波ハ警備艦ト定メ馬公要港部司令官ノ指揮ヲ受
ケシメラル
敷島外三艦韓國派遣ノ件取止メシメラル(四月十二日
參看)
軍艦宮古、秋津洲ハ清國南部ヘ千代田ハ同國北部ヘ何
レモ居留民保護ノ爲メ派遣セシメラル
驅逐艦朝霧ハ木籍ヲ舞鶴鎮守府ト定メラル

四月二十

常備艦隊八雲役務ヲ解カル
常備艦隊敷島出雲常警清國南部ヲ巡航セシメラル

(六)營口ニ於ル海關收入ハ露清銀行ニ預ケ入ルヘキコ
ト
(七)占領中露國臣民ノ滿洲ニ於テ正當ニ獲得シタル權利
ハ撤兵後モ故障ナク存在セシムヘク且營口ニ於ル檢
疫署ハ露人ノ管理ニ歸スヘキコト(駐清内田公使發
電)
露國太平洋洋艦隊司令官海軍中將アレキセイエフ大將
ニ昇進ス

此ノ日頃露國ハ遼陽及ヒ其ノ附近ニ於テ馬賊ヲ召集セ
リ其ノ目的ハ鴨綠江岸ニ於ル森林伐採業ノ保護ニ任ス
ルニアリト稱ス(在義州日野陸軍歩兵大尉發電)
駐清内田公使ノ本日附發電ニ曰ク奉天ニ於ル露兵ハ四
月四日ヨリ八日マテニ悉ク撤退シ其ノ占領シ得タル各
衙門及ヒ支那兵舎ヲ明渡シ各城門ニ清國々旗ヲ樹テ表
面上ハ全ク撤退シ民政ヲ引渡シ了シタルトモ裡面ニ於
テハ奉天城ノ内外ニ尙七百餘名ノ露兵アリテ民家ヲ借
入レ潜伏シ居ルト云フ又鐵嶺ニアル露兵ハ少シモ撤退
セスト

戰艦「レトウ非ザン」及ヒ巡洋艦「ヂイヤーナ」昨三十五年
十月三十一日露都ヲ發セシカ何レモ回航中異狀ナク木

敷島、出雲、常磐、鹿兒島ニ向テ大阪發

四月二十

海軍大臣海軍中將男爵山本權兵衛ハ軍艦敷島、出雲、常磐ヲ率テ近々南清巡航ノ途ニ就カントスル日高常備艦隊司令長官ニ向ヒ露兵ノ不撤退及ヒ露國堅艦漸次極東ニ到著シ來月ヲ期シテ海軍大演習ヲ舉行スルノ報ニ接シタルヲ告ケ且曰ク今回ノ巡航中ハ成ルヘク遠ク南進スルヲ避ケ一朝警報アラハ速ニ北轉スヘキ覺悟ヲ以テ常ニ交通ノ便アル港灣ニ寄泊セシコトヲ望ムト

四月二十

常備艦隊敷島、出雲、常磐大阪ヨリ鹿兒島ニ入港

四月二十

日長崎ニ著ス(新著第三) 巡洋艦「バルラーダ」ハ昨三十五年十一月十三日露都ヲ發シシカ回航中異狀ナク本日長崎ニ著ス(新著第五)

駐清内田公使ノ本日附發電ニ曰ク露國ハ馬賊及ヒ農夫等ノ中ヨリ清國人千名ヲ募集シ「大俄國衛植中軍前營」ノ文字ヲ記セル露國三色ノ肩章ヲ帶ハシメ遼陽ヨリ鳳凰城ニ送レリト

清國政府ハ去十八日提出ノ露國要求ヲ拒絕スルノ公文ヲ本日夕又ハ明二十六日朝發送スルコトナラント云フ(駐清内田公使發電)

營口海關道臺李席珍ハ此ノ日奉天出發著任ノ筈ナリシモ露國ノ同地駐在官ヨリ出發ヲ止メラレタリト云フ(在牛莊瀨川領事發電)

四月二十

四月二十

軍艦濟遠木浦ニ向ケ佐世保發(四月十二日)

山本海軍大臣ハ常備艦隊司令長官ニ電訓スルニ事態大ニ注意ヲ要スルモノアリ故ニ艦隊ノ南清航ハ此ノ際延引シ成ルヘク佐世保竹敷附近ニ在リテ專ラ教育訓練ニ從事スヘキ旨ヲ以テス

四月二十

常備艦隊敷島、出雲、常磐佐世保ニ向ケ鹿兒島發

四月二十

山本海軍大臣ハ常備艦隊司令長官ニ電訓スルニ事態大ニ注意ヲ要スルモノアリ故ニ艦隊ノ南清航ハ此ノ際延引シ成ルヘク佐世保竹敷附近ニ在リテ專ラ教育訓練ニ從事スヘキ旨ヲ以テス

常備艦隊敷島、出雲、常磐鹿兒島ヨリ佐世保著
日高司令長官ハ常備艦隊ヲ左ノ如ク區分ス
主隊 本隊 敷島、八島、出雲、常磐
支隊 千歲、吉野

練習枝隊 松島、橋立、嚴島
警備枝隊 高千穂(佐世保)、浪速(佐世保)、秋津洲(佐世保)
千代田(在泊)、濟遠(木浦附近)、宮古(佐世保)

四月二十

山本海軍大臣ハ常備艦隊司令長官共ノ他要路ノ向キニ特別訓示ヲ發シテ我カ海軍ノ覺悟ヲ知ラシメタリ其ノ要領ハ先ツ四月十八日ノ露國提案ヲ示シ其ヨリ露國ノ東洋ニ對スル近狀及ヒ來月露國ノ海軍大演習ヲ行ハ

在旅順關東州長官アレキセイエフハ此ノ日ノ新聞紙上ニ左ノ通り告示ス

盛京省ニ於ル露國軍隊ハ今ヤ全ク撤退ヲ了シタルヲ以テ同省内各市邑ニ旅行セントスル外國人ハ今後其ノ許可ヲ露國軍務官ニ請フニ及ハス

陸軍大臣步兵大將クロバトキンハ極東軍事視察ノ勅命ヲ蒙リ特別列車ニテ露都ヲ出發ス

駐露米國大使ハ此ノ日露國外相ト會見シテ北京駐在代表者ヨリ提出セラレタリト稱スル要求(四月十八日)ノ件ニ談及セルニ外相ハ露國政府カ此ノ如キ要求ヲナシタルコト決シテコレナキ旨ヲ最明白ニ同大使ニ確保シタリ(駐清内田公使發電)

此ノ日慶親王ハ露國代理公使ト會見シ露國ノ要求ノ容諾シ能ハサル理由ヲ縷述シ之ヲ拒絕シタルニ代理公使ハ一ノ覺悟ヲ取リ之ヲ差出シテ曰ク清國政府ニシテ此等ノ保證ヲ與ヘララハニ於テハ本國武斷派モ鎮靜シ撤

ントスル底意ヲ察シ我カ政府ノ方針及ヒ我カ海軍ノ探ルヘキ態度ヲ説キ一朝事アルニ當テハ毫モ違算ナキヲ期シ而モ我ニ此ノ異常ノ覺悟アルコトハ外人ハ勿論局外者ニハ推知セシメサルコトヲ努メシム

四月三十日

山本海軍大臣ハ此ノ際ニ於ル下士卒ノ定期補充交代ハ何分訓示スルマテ之ヲ止ム

五月二日

兵ハ遲滞ナク遂行セラルヘシト此ノ覺書ハ清國政府ニ對スル質問的ノモノニシテ四項ヨリ成リ其ノ要領左ノ如シ(駐清内田公使發電)
(一)蒙古ニ於ル政治組織ヲ變更スルノ考案アルヤ否ヤ
(二)露國ヨリ清國ニ還附スヘキ領土ヲ他ニ讓渡スノ考案アルヤ否ヤ
(三)現時ヲ以テ外國領事ノ東三省ニ駐在スルノ好時機ト考ヘザルヤ否ヤ
(四)外國人ヲ參贊トシテ備聘スルノ考案アルヤ否ヤ又斯クシテ現ニ東三省ニ居住スル露國臣民ヲ凌蔑スル意思アリヤ否ヤ
駐英林公使ノ本日附發電ニ曰ク「ロイテル」電報社ハ露國外務省ヨリ其ノ半官通信社ニ送レル通信ナリトシテ「露國カ清國ニ對シ新要球ヲ提出シタリトノ報ハ全然無根ナル旨」ヲ報道スト

在牛莊瀨川領事ノ本日附發電ニ曰ク本月下旬鳳凰城ニハ露騎兵七百砲兵八十砲二門沙河子ニハ騎兵五百大東溝ニハ露人八人外ニ多少ノ馬賊アリト云フト
此ノ月中露國ハ芝罘香港及ヒ橫濱等ニ多量ノ「ビスケツ」ト「注文」且多クノ肉類雜貨ヲ米國ヨリ輸入セリ(駐清領事及ヒ陸軍駐在員數名發電)
駐清内田公使本日附發電ニ曰ク慶親王ノ郵書記官ニ告ク

五月二日

部團水雷敷設隊及ヒ水雷艇隊配備表(四月八日參看)中佐世保水雷團ノ欄水雷艇隊ノ下三ノ四ニ改正セラレ部團水雷艇隊編制中佐世保水雷團ノ欄第三水雷艇隊ノ次ニ左ノ一欄ヲ追加セラル

第四水雷艇隊一雁、蒼鷹、磯、燕

水雷艇雁ハ明治三十四年一月九日本籍ヲ佐世保鎮守府ト定メラレ同三十五年四月五日吳海軍造船廠ニ於テ起工同三十六年二月二十六日進水セシカ目下尙工事中
水雷艇蒼鷹ハ明治三十四年一月九日本籍ヲ佐世保鎮守府ト定メラレ同三十五年四月十五日吳海軍造船廠ニ於テ起工同三十六年三月十四日進水セシカ目下尙工事中
水雷艇磯ハ明治三十四年一月九日本籍ヲ佐世保鎮守府ト定メラレ同三十五年五月二十二日吳海軍造船廠ニ於テ起工セシカ目下尙船臺ニアリ

明治三十六年五月

ル所ニヨレハ駐露清國公使ノ電報ニ露國外務省ニ於テハ今回ノ要求ニ付全ク知ル所ナシ問題ハ北京ニ於テ解決セララルヘキナリト稱ヘ居レリトアリト

去四月二十六日關東州長官アレキセイエフハ盛京省全部撤兵完了ヲ告示セシニモ拘ラス此ノ日遼陽ニハ十五聯隊ノ一大隊及ヒ騎兵、砲兵、「コサツク」兵各一個中隊駐屯シ盛京吉林二省ニ於ル重要地ハ露國尙之ヲ占領シ居レリ(駐清内田公使發電)

昨年十一月以降豫備艦トシテ浦港ニ碇泊セル裝甲巡洋艦「ロモボイ」同「ロシーヤ」ハ此ノ日突然旅順ニ向ヒ急行ス

五月五日

水雷艇燕ハ明治三十四年一月九日日本籍ヲ佐世保鎮守府ト定メラレ同三十五年六月二日吳海軍造船廠ニ於テ起工セシカ目下尙船臺ニアリ
軍艦常磐長崎ニ向ケ佐世保發

五月六日

軍艦出雲長洲ニ向ケ佐世保發

五月七日

伊東海軍々令部長ハ此ノ際突然事起ラハ人員不足セルヲ以テ規定ノ戰時編制實施ノ順序ニ依テ諸準備ヲ整ヘ難キ點アルヲ知リ此ノ日豫メ之ニ處スルノ策ヲ建テ之カ著手ノ順序ヲ五段ト爲シ出戰ニ差支ナカラシムルコトヲ期シ夫々内定シ置ク
軍艦千代田北清ニ向ケ佐世保發(四月二十)
練習艦須磨明石ハ清韓巡航ノ爲メ横須賀發(四月十七)

裝甲砲艦「アツワジヌイ」旅順港ヨリ大連灣入港
戰艦「ベトロパウロウスク」同「ポルターワ」同「レトウ井ザン」同「セロスト」ボリ裝甲巡洋艦「リユール」同「クルラ」同「ワリヤーク」ノ七隻外ニ不明ノ二艦大連灣ニ入港ス之ニ昨日入港ノ「アツワジヌイ」及ヒ過般來碇泊ノ水雷敷設艦「アムール」同「エニセイ」ノ二隻ヲ合セ十二隻ノ艦隊ヲ以テ大演習舉行ノ準備ニ就ク
在京城野津陸軍歩兵少佐ノ本日附發電ニ曰ク四月中旬露國ハ鴨綠江龍岩里ノ地二百町ヲ買收セシカ本月上旬ニ至リ露兵六十、韓人八十、清人四十名ニテ此處ニ營舎建築ノ準備中ナリト

在芝罘守田陸軍歩兵少佐ノ本日附發電ニ曰ク五月初旬大連灣口大孤山南角ヨリ三山島ニ至ル間ニ水雷ヲ敷設セリト

五月八日

駐清内田公使ノ本日附發電ニ曰ク清國政府ノ露國覺書(四月二十)ニ對スル回答ノ要領左ノ如シト
(一)蒙古ハ清領ノ一部ナレハ清國臣民ニシテ之カ行政改革ヲ勸請スルモノアレハ適宜之ヲ考料シ且採用スルコトアルヘシ目下ノ處ニテハ未タ改革ノ議アラズ假令今後之ヲ改革スルコトアルモ其ノ目的ハ衆庶教民間ノ平和ヲ維持シ隣境ノ安全ヲ保ツニアルヘキノミ
(二)露國ヨリ清國ニ還附セラルヘキ東三省ノ領土全部ハ何レノ國ニモ讓與ズルコトナカルヘシ
(三)營口ハ既ニ外國貿易ノ爲メニ開放セラレ他國領事此處ニ駐在ス共ノ他ノ處ヲ開放スヘキヤ否ハ清國政府時態ヲ考査シ獨裁スヘシ
(四)現ニ東三省ニ於テ外國人ヲ參贊トシテ聘用スルモノナレ
此ノ日安東縣ヨリノ情報ニ據レハ四月二十二日露國騎兵二十、外ニ同シ服裝ニテ徒歩スルモノ二十名鳳凰城ヨリ安東縣ニ來ル右ノ外同地ニハ馬賊ニシテ露國徽章ノ服裝ヲナシタルモノ約三十名市民同様ノモノ約四十餘名入込ミ尙日々増加ノ模様アリ清國地方官ハ人民ニ諭示スルニ馬賊ノ來ルハ白馬山城ノ伐木其ノ他獲ヲ買收スル爲メナリ事韓國及ヒ日本國ニ關ス安堵スベキヲ以テス又二三日以内ニ馬賊尙多ク來縣シ直ニ韓國白馬山ニ向フ筈ナリト(在京城野津陸軍歩兵少佐發電)

五月九日	日高司令官旗艦敷島福岡灣ニ向ケ佐世保發	此ノ日露國ハ韓國國境ニ向ヒ百四十輛ノ荷車ヲ送レリ該車輛ニハ銃丸類ヲ詰メタル木函ヲ搭載セリ而テ李ト稱スル通譯ハ地所及ヒ材木購買ノ爲メ韓國ニ派遣セラレタリト云フ(在牛莊瀨川領事發電)
五月十日	日高司令官旗艦敷島福岡灣ニ向ケ佐世保發 軍艦秋津洲福州ニ向ケ佐世保發(四月三十)	李道臺ハ去九日營口ニ到著翌十日露國民政長官ト訪問ノ禮ヲ交換セシカ此ノ日錦州ニ向フ露國民政長官グロツセ曰ク牛莊ハ衛生及ヒ電信ニ關スル問題決了次第速ニ清國官憲ニ引渡サルヘシト(在牛莊瀨川領事發電)(四月二十)
五月十一日	日高司令官旗艦敷島福岡灣著	巡洋艦「ホヤーリン」ハ昨三十五年一月十一日露都ヲ發セシカ回航中異狀ナク此ノ日上海ニ著ス(新著艦)(第六)
五月十二日	軍艦浪速上海ニ向ケ佐世保發(本艦ハ昨明治三十五年十一月二日露都ニ派遣セシメテ爾來福建方面ニ在リシカ大演習參加ノ爲メ一時歸朝ヲ命セラレタルモノニシテ此ノ日再任地ニ向フナリ)	露國ハ遼陽ヨリ鳳凰城ヲ發類運搬ノ爲メ貨車百輛ヲ注
五月十三日	軍艦常磐馬山浦著	露國ハ遼陽ヨリ鳳凰城ヲ發類運搬ノ爲メ貨車百輛ヲ注

五月十四日	軍艦出雲ハ去五日佐世保出港後長洲長崎今福沖ヲ經テ楠久ニ入りタルカ此ノ日同所發釜山ニ向ヒ即日著	文セシカ此ノ日之ヲ發送シタリト(在牛莊瀨川領事發電)
五月十五日	日高司令官旗艦敷島福岡灣ヨリ釜山ニ向フ 軍艦常磐馬山浦ヨリ鎮海灣著	在京城野津陸軍歩兵少佐ノ本日附發電ニ曰ク龍岩里ニ在ル露國人ハ變裝セシ軍人ナルコト疑フシ又白馬山伐木ハ聲ノミニテ實ナシト
五月十六日	豫備艦富士常備艦隊ニ編入セラレ 日高司令官旗艦敷島釜山著 軍艦常磐鎮海灣ヨリ馬山浦著	本日附大連發信ニ曰ク全東洋艦隊ノ大連灣附近ニ於ル演習ハ既ニ事實ニ現ハレ旅順ニハ運炭船輻輳シ軍艦ハ目下小艦僅ニ二三隻碇泊スルアルノミト
五月十七日	瓜生司令官旗艦高千穂上海ニ向ケ佐世保發(四月十三) 軍艦出雲釜山ヨリ鎮海灣著	巡洋艦「アスコリド」同「ノール」ヲ釜山港口ヲ徐行シ東向ス
五月十八日	軍艦常磐馬山浦ヨリ釜山著	在牛莊瀨川領事ノ本日附發電ニ曰ク露國民政長官ハ在錦州李道臺ニ書面ヲ以テ牛莊還附期日未定ナル旨ヲ回答セリト云フ

五月十九 日高司令官旗艦敷島釜山ヨリ馬山浦著
軍艦出雲鎮海灣ヨリ大口灣著

此ノ日ノ調査ニヨレハ露國貯炭高左ノ如シ
五萬九千八百噸 浦 鹽 斯 德

一萬四千六百噸 英 炭 現 在 高
七百五十噸 和 炭 現 在 高
四千三百噸 露 炭 現 在 高
一萬百五十噸 雜 種 炭 現 在 高
三萬噸 本年六月迄ニ英國ヨリ積出
スヘキ契約ノ積炭
十四萬千七百噸 旅 順 口

五萬五千噸 英 炭 現 在 高
一萬八千噸 和 炭 現 在 高
二萬八千七百噸 英國カーチンヨリ現ニ輸送
中
三萬噸 三十二年六月迄ニ英國カーチン
ヨリ積出スヘキ契約ノ積炭
一萬噸 現ニ輸送中ノ和炭
四萬三千噸 大連灣(現在高炭種不詳)
但東清鐵道用ニシテ海軍用ニ非ス

五月二十 此ノ日ヨリ海軍々令部ニ於テ露國ノ行動ニ關スル情報
ヲ逐號印刷シ必要ノ諸向ニ配賦ス

日高司令官旗艦敷島馬山浦ヨリ鎮海灣著
軍艦磐城ハ本年四月一日測量艦ト定メラレ第一海軍區
ヘ回航セシメラレ四月十一日横須賀ニ向ケ佐世保ヲ發
セシカ横須賀著後品海清水、紀伊、大島神戶、川口ヲ經テ
此ノ日佐世保著

此ノ日頃露國ハボシエツト、プラチンスキーカラウー
ル、揮春ノ兵營ニ増兵ヲ行ヒ砲臺ノ修理地雷ノ敷設等ヲ
爲セリト云フ
露國ハ當初清國馬賊ノ徒ヲ使役シテ己レカ經營ニ利ナ
ラシメント圖リタルモ此ノ日頃安東縣ニ於テ清國官兵
ノ爲メニ圖ラス大打撃ヲ蒙リ賊徒潰散シタル以來此ノ
企畫ハ空シク水泡ニ歸シタルモノ、如シ(四月十三日參看)

五月二十 日高司令官旗艦敷島及ヒ常磐大口灣著
軍艦大島芝罘ヨリ佐世保著(四月二十)

五月二十 軍艦操江ハ本年三月十日測量艦ト定メラレ測量ノ爲メ
第一海軍區ヘ回航セシメラレシカ此ノ日北海道根室沖
ニ於テ坐礁ス(下士一名卒七名死亡卒
三名病人一名行衛不明)

五月二十 軍艦出雲大口灣ヨリ楠久ヲ經テ此ノ日佐世保著
瓜生司令官旗艦高千穂吳淞著(五月十七日參看)
日高司令官旗艦敷島、常磐大口灣ヨリ佐世保著

汽船「ウオロネジ」號ハ東洋ニ向ケオデッサヲ出帆ス其
ノ積荷ハ同港駐在飯島領事ノ報スル所ニ依レハ「カート
リツジ」七千「ブード」(「ブード」ハ四)及ヒ彈藥三千「ブード」
ナリト云フ
在芝罘伊集院海軍大尉ノ本日附發信ニ曰ク小官大連灣
ヘ出張實査スルニ過日來入港ヒシ露國艦隊ハ兩三日
前總テ出港目下沖合ニ於テ演習中ナルカ如シ一般形勢極
メテ靜謐ニシテ内地旅行モ亦容易ナリト
驅逐艦「ボイキ」及ヒ「ブールヌイ」ハ昨三十五年十月三十
日露都ヲ發セシカ何レモ回航中異狀ナク此ノ日上海ニ
著ス(新著艦第七八附選)
上海駐在陸軍少將デシノハ曩ニ上海ヲ出發セシカ此
ノ日突然家族ヲ携ヘ歸還ス

陸軍大臣クロバトキン大將ハ既ニ北滿洲ノ視察ヲ終リ
轉シテ烏蘇里地方ニ入り沿黑龍江總督府所在地タル
ハバローフスクノ軍隊ヲ檢閲シテ去五月二十三日同地
ヲ發セシカ本日正午浦鹽ニ到着シ午後三時半ヨリ郊外
ニ於テ沿海州守備隊浦港要塞第一、第二聯隊及ヒ各狙

五月二十
軍艦愛宕ハ昨年五月十日南清警備トシテ横須賀出艦上
海ニ向ヒ爾來長江各港ニ出入シ探檢スル所アリシカ
此ノ日佐世保ニ向ケ吳淞發

五月二十
測量艦磐城ハ測量ノ爲メ鹿兒島方面ヘ向ケ佐世保發(五
二二)
參看)

五月二十
軍艦愛宕佐世保著(五月二十
六日參看)

五月二十
九日

五月三十
日

六月一日

軍令部ハ此ノ月初旬ヨリ浦港往來ノ本邦汽船ニ依托シテ

擊大隊ノ觀兵式ヲ舉行ス(四月二十
八日參看)

クロバトキン大將ハ前日ニ引續キ浦港各砲臺及ヒ兵營
ヲ檢閲シ郊外ニ於テ再各科兵ノ演習ヲ觀目下碇泊中
ノ軍艦ニ到ル

クロバトキン大將ハ浦鹽港口ノ露西亞島ヲ視察シ又市
内若干ノ兵營ト市街附近ノ移住民村落トヲ一見ス
本日附オデッサ發信ニ依レハ同港ヨリ續々彈藥軍需品
等ヲ絶東ニ輸送ス

クロバトキン大將ハ尙浦鹽ニ滞留シ馬車ヲ東西ニ驅リ
市中ノ主要ナル官衙其ノ他ヲ巡視ス

クロバトキン大將ハ沿黒龍江總督スボーチチ中將ト共
ニ巡洋艦「アスコリド」ニ搭乘シ巡洋艦「ノウ井ク」ヲ隨
ヘ浦鹽ヲ出發シボシエツトニ到リ同地ノ駐屯軍隊ヲ檢
閱慰問ス

本日附浦鹽發信ニ曰ククロバトキン大將ハボシエツト
ヨリニコリスク府ニ至ル沿道一帶ノ兵營視察ヲ終レハ
黒龍江口ヲ巡視シ共ヨリ浦港ニ歸リテ更ニ「アスコリド」
ニ搭乘シ日本ニ來ル筈ナリト
軍人ヲ交ヘタル露人十六名ハ此ノ日ヨリ韓國茂山ニ侵
入シ森林伐採ヲ開始ス(在鐵城高柳陸軍
歩兵大尉發電)

去五月四日浦鹽ヨリ旅順ニ急行シタル「ロシーヤ」及ヒ

出入毎ニ其ノ見聞セシ所ヲ報告セシメ又在浦港川上貿
易事務官トノ間ニ秘密電報ノ規定ヲ設クル等種々ノ手
段ヲ以テ同地ノ狀況ヲ偵知ス
豫備艦笠置第一海軍區及ヒ第四海軍區ヘ回航セシメラ
ル
山本海軍大臣ハ佐世保鎮守府司令長官海軍中將齋島貞
規ニ訓令スルニ佐世保ニ於テ製造中ノ大湊水雷團用浮
船渠竣工ノ上ハ麾下軍艦笠置ヲシテ之ヲ大湊ニ回航セ
シメ同所ニ於テ受授ヲナシムヘキヲ以テス

六月二日

艦隊職員及ヒ旗艦增加定員表改正セラル
軍艦對馬ハ明治三十四年十月一日吳海軍造船廠ニ於テ
起工三十五年十二月十五日進水式舉行同日日本籍ヲ舞鶴
鎮守府ト定メラレ共ノ類別等級ヲ三等巡洋艦トナセシ
カ此ノ日定員表(將校下士卒合計三百七人)ヲ設ケラレ
同日半定員表ヲ設ケ

軍艦新高ハ明治三十五年一月七日横須賀海軍造船廠ニ
於テ起工同年十一月十五日進水式舉行同日日本籍ヲ舞鶴
鎮守府ト定メラレ共ノ類別等級ヲ三等巡洋艦トナセシ
カ此ノ日定員表(將校下士卒合計三百七人)ヲ設ケラレ
同日半定員表ヲ設ケ
淺喫水砲艦宇治ハ明治三十五年九月一日吳海軍造船廠
ニ於テ起工本年三月十四日進水式舉行同日日本籍ヲ吳鎮
守府ト定メラレ共ノ類別等級ヲ二等砲艦トヒシカ此ノ

「グロモボイ」ハ何日旅順ニ著セシヤ不明ナレトモニ隻
共此ノ日旅順口ニ在リ
巡洋艦「アスコリド」同「ノウ井ク」浦鹽ニ歸泊ス
驅逐艦「ウニマーテリヌイ」ウイノスリーウイ「ウヌシ
ーテリヌイ」グロソウオイ「ウラースツヌイ」ハ昨三十
五年十月十六日共ニ露都ヲ發セシカ回航中此ノ内ノ一
隻紅海ニ於テ汽罐ニ故障ヲ生シ全ク航進力ヲ失ヒ巡洋
艦「ボガツイリ」ニ曳カレテ英領ペリム島ニ入りタレト
モ間モナク修理成リ他ノ四隻ト共ニ此ノ日上海ニ著ス
(新著艦第九、十、十一、十二、
十三増進運艦七隻ノ内)

日定員表(將校下士官合計八十八人)ヲ設ケラレ同日半定員表ヲ設ク

驅逐艦春雨ハ明治三十五年三月一日横須賀海軍造船廠ニ於テ起工同年十月三十一日進水式舉行同日日本籍ヲ舞鶴鎮守府ト定メラレシカ此ノ日定員表設ケラル

驅逐艦村雨ハ明治三十五年三月二十日横須賀海軍造船廠ニ於テ起工同年十一月二十九日進水式舉行同日日本籍ヲ舞鶴鎮守府ト定メラレシカ此ノ日定員表設ケラル

驅逐艦速鳥ハ明治三十五年四月十五日横須賀海軍造船廠ニ於テ起工三十六年三月十二日進水式舉行同日日本籍ヲ舞鶴鎮守府ト定メラレシカ此ノ日定員表設ケラル

驅逐艦朝霧定員表設ケラル(四月十五日同)(二十日參看)

六月三日

騎兵二百山砲二門、鳳凰城ニ來ル依テ同地駐在ノ露兵ハ合計八百砲六門トナル(在義州日野陸軍歩兵大尉發電)

六月四日

海軍大臣ハ常備艦隊司令長官ニ電訓スルニ四月二十八日附電訓ノ趣アレトモ向後日本海方面沿岸九州沿岸及ヒ吳附近迄巡航セシメ差支ナキ旨ヲ以テス(四月二十日參看)

六月五日

駐米高平公使ノ本日附發電ニ曰ク米國國務卿ハ本月四日日本官ニ語テ曰ク當地ニ歸省シタル我が露國駐劄大使ノ語ル所ニ依レハ同大使カ露國外相ヲムスドルフ伯トノ會談ニヨリ察スルニ滿洲ニ關スル露國政府ノ公言スル所ノ意志ハ之ヲ疑フヘクモアラス剩ヘ滿洲鐵道ノ成効

ト否トハ貿易ノ増加ト否トニ屬スルモノナルカ故ニ同伯ハ該鐵道ノタメニモ滿洲ノ開港ハ露國ノ利益ナリト認メ居レリト云フ又駐米露國大使ヨリモ本國政府ノ訓令ニ遵ヒ同様ノ聲明ヲナシタルヲ以テ予(國務卿)ハ清國駐劄ノ我カ公使ニ訓令シテ露國公使ニ告グルニ以上ノ事實ヲ以テセシメ露國公使ニ於テ同意ナレハ共同シテ開港ノ事ヲ清國政府ニ勸誘セント申込マンメタリ之ニ對スル我カ公使ノ報告ニ依レハ露國公使ハ右滿洲開港ハ左袒スルモ本國政府ノ訓令ナキ故共働スルノ意ナシト云ヘリト

クロバトキン大將ハ巡洋艦「アスコリド」ニ搭乗シ巡洋艦「ノウヰク」ヲ隨ヘ下ノ關ニ向ヒ浦鹽ヲ出港ス

クロバトキン大將ノ乘艦「アスコリド」及ヒ「ノウヰク」六連島ニ著ス大將ハ即日下ノ關ヨリ陸路東京ニ向フ

クロバトキン大將ニ隨航セル巡洋艦「ノウヰク」神戸ニ入港ス

在浦鹽川上貿易事務官ハ本日附ヲ以テ沿海州ノ軍務行動ニ關スル概觀ヲ報告ス其ノ言ヲ所左ノ如シ

浦鹽軍港正面背面砲臺ハ經營ニ多年ヲ費シ今ヤ大略竣成シタル觀アルモ露國政府ハ今尙防備ノ充實ニ怠ラス各處砲臺ノ改修、新築、砲ノ据替工事ニ致々タリ客年當

六月八日

軍艦宮古上海ニ向ケ佐世保發(四月二十日參看)

伊集院海軍大尉義州ニ著シ視察スル所アリ

六月十日

海軍々令部ニ於テハ此ノ日ヨリポルトセード日刊新聞「La phare de port-said」ヲ購讀シ同地通航艦船ニ注目ス

六月十一日

常備艦隊軍艦敷島、常磐、出雲清國南部ニ巡航ノ件取止メシメラル(四月二十日參看)

六月十二 軍艦宮古佐世保ヨリ吳淞著(六月八日參看)

六月十三 日高司令官旗艦敷島ハ横須賀ニ向ヒ常磐ハ吳ニ向ヒ此ノ日何レモ佐世保發

港ニ輸入シ目下武庫ニ貯藏スル大砲ハ加農砲野砲及ヒ白砲等ヲ合シテ約百門内外ナルヘシ殊ニ本年四月ノ交ヨリ臨時船ノ出入頻繁ナルノ一事ハ例年ニナキ一現象ニシテ諸威汽船「ブランド」號同「アルギエリ」號同「スポーリ」號同「ラクネル」號同「セルーン」號同「ノール」號同「カモール」號同「ビクトー」號(各船ノ登簿噸數ハ三、千噸以下ナルヘシ)等ノ各船ハ旅順、大連又ハ薩哈噠島ツエト浦鹽間ヲ往復シ石炭、材木其ノ他商品以外ノ材料搭載ノ任ニ當ルカ如シ目下當港「マコー」フスキー貯炭所ノ在炭高ハ約一万三四千噸以上ニシテ本月九日又々諸威船「カモール」號ハ薩哈噠炭ヲ滿載入港ス、東清鐵道會社汽船「ノニー」號同「ムクテン」號同「ゼーヤ」號同「スンガリ」號等ハ先頃來ボシエツト方面、沿海州スズヘ又ハニコラエフスク港其ノ他ノ臨時出帆シテ兵員又ハ糧食兵器ヲ輸送シタリ以上ヨリ推セハ露國政府カ近來著シク當沿海州各方面ノ防備ニ全力ヲ注ケルハ争フヘカラサル事實ナリトス

クロバトキン大將ハツルログ陸軍中將ウオガック陸軍少將、ベルノウ、グノルリソング兩陸軍大佐、イリンスキ、シウユルス兩陸軍中佐等ヲ隨ヘ此ノ日午前九時新橋ニ著シ特ニ其ノ旅館ニ充テラレタル芝離宮ニ入ル

クロバトキン大將ノ乘艦タリシ「アスコロド」神戶ニ入港ス
此ノ日頃龍川郡守ハ露國ニ買收セラレタリ依テ龍岩里ニ於ル露國ノ地域擴張セリ露國官業木植公司ハ安東縣

六月十四

軍艦常磐吳著
軍艦富士、八島ハ大演習結了後共ニ吳ニ在泊シ富士ハ六月五日、八島ハ同日吳ヲ發シ相前後シテ佐世保ニ著セシカ此ノ日共ニ鎮海灣ニ向ケ同所發

六月十五

瓜生司令官旗艦高千穂及ヒ宮古吳淞發長江筋溯航ノ途ニ上ル(五月十七日參看)
部團水雷艇隊編制表(四月八日參看)中横須賀水雷團ノ欄第二水雷艇隊ノ下「第二十號」ヲ次ニ「第六十九號第七十號」ヲ追加セラレ同水雷團同艇隊定員表改正セラル
第六十九號ハ本籍ヲ横須賀鎮守府ト定メラレ明治三十五年五月七日佐世保海軍造船廠ニ於テ起工本年三月三十日進水
第七十號ハ本籍ヲ横須賀鎮守府ト定メラレ明治三十五年五月三十一日佐世保海軍造船廠ニ於テ起工本年四月三十日進水
横須賀水雷團第一水雷艇隊水雷艇第六十七號第六十八號同第二水雷艇隊水雷艇第六十九號佐世保水雷團第四水雷艇隊水雷艇第六十號ニ定員ヲ置キ横須賀水雷團第二水雷艇隊水雷艇第七十號、佐世保水雷團第四水雷艇隊水雷艇第六十一號當分ノ内定員ヲ置カス
日高司令官旗艦敷島横須賀著

六月十六

日高司令官旗艦敷島横須賀著

明治三十六年六月

二十五

ニ於テ森林採伐條約ヲ楯ニ取り自國ノ兵力ヲ借り韓人ノ復ヲ悉皆占有セリ露國ハ右同一ノ手段ニ依リ清國入ノ復ニ露國々旗ヲ立テタリ安東縣ノ人民騒ク(在京城野兵少佐及ヒ在義州日野陸軍歩兵大尉發電)
在芝罘伊集院海軍大尉ノ本日附發電ニ曰ク砲艦「ポール」鴨綠江ニ航行ス多分測量ノ爲メナラント

騎兵百、砲一門鳳凰城ヨリ安東縣ニ來ル通化縣ニ於テ露人ト支那人トノ間ニ土地貸借ノ約成ル(在義州日野陸軍歩兵大尉發電)(六月三日參看)

クロバトキン大將ハ滯京中陸軍中央幼年學校ヲ參觀シ

又青山練兵場ノ觀兵式ニ臨場シ其ノ他各方面ノ視察ヲ終リ午前七時三十分東京發歸途ニ就ク

六月十七

英國「ヤーロー」社ニ注文ノ第二號淺噴水砲艦ヲ伏見ト同國「クニク」社ニ注文ノ第三號淺噴水砲艦ヲ隅田ト命スルコトニ御治定相成リタル旨海軍大臣ヨリ本日附ヲ以テ内達ス

六月十八

山本海軍大臣ハ本年三月二十三日平時裝束スヘキ水雷艇炭庫ヲ自今秋ノ濱下田波浮須崎佐伯大浦西郷夷馬山浦ノ九ヶ所ニ設置シタルモノニ止ムル旨ヲ達セシカ此ノ日志摩國鳥羽ニモ水雷艇炭庫ヲ置キ舊島羽海軍需品支庫ノ敷地及ヒ建物ヲ以テ之ニ充ツ

六月十九

在浦鹽川上貿易事務官ノ本日附報告ニ曰ク浦鹽港シニコート半島チーグル山砲臺ヨリ南第三砲臺ノ直西海角ニ於テ客月初旬頃ヨリ土工ヲ起セシカ此ノ程ニ至リ同海角海面ヨリ約一丈ノ高地ニ砲臺ヲ築キ亞爾灣ニ面シ細長身ノ砲(長サ一四門ヲ据附ケタリ又當港西邊即チシニコート半島ノ各砲臺ハ過般來頻ニ各砲臺附屬ノ彈藥庫ニ彈藥輸送中ナリト

露國ハ此ノ日無法ナル口實ノ下ニ在安東縣清國電報局ノ器械ヲ其ノ兵舎内ニ移轉シ之ヲ其ノ管理下ニ置ク(在義州新庄外務書記生報告)
戰艦「ポベーター」ハ三十五年十一月十一日露都ヲ發セシカ回航中汽罐ニ故障ヲ生シ約三月月滯留ノ後此ノ日香港ニ著ス(新著艦第十四)

六月二十

此ノ月下旬駐清露國公使レンツサルハ貿易場トシテ張家口外ニ縣ヲ租借センコトヲ要求セシモ拒絶セララト云フ

六月二十

警備艦筑波常備艦隊軍艦大島同愛宕役務ヲ解カレ第二豫備艦ト定メ特別定員ヲ置ク(四月二十日五月二十日)軍艦島海常備艦隊ニ編入セラレ清國居留帝國臣民保護ノ爲メ同國ヘ派遣センメラル
瓜生司令官旗艦高千穂及ヒ宮古ハ去六月十三日吳淞出港後鎮江南京下關蕪湖湖口ヲ經テ此ノ日漢口著

明治三十六年六月

在浦鹽川上貿易事務官ノ本日附報告ニ曰ク去十八日附報告提出後内密ニ各方面ヲ探檢セシムルニ砲彈ノ輸送ハシニコート砲臺ノ外ニボボープ島露西亞島ウリス灣岬角及ヒ岬頂并ニガルドーピン砲臺其ノ他各所ノ砲臺共輕便鐵道又荷車ニ依リ盛ニ多量ノ彈藥ヲ請込中ナリ右様ノ大準備ハ未曾有ノ事ナル旨多年當地ノ陸海軍各部内ニ出入セル本邦人某ヨリ内報スト
夜半過、浦港東方砲臺ハ大砲試驗ノ爲メナルカ實彈十餘發ヲ射撃ス市中ノ人民ハ本件ヲ豫知セザリシ故カ皆驚怖ス右ハ曩日陸軍大臣ノ浦港到著以後遽ニ開始シタル陸兵ノ訓練ナリト傳フ(小倉丸船長報告)(五月二十)

在義州新庄外務書記生ノ本日附發電ニ曰ク去十九日露國ハ安東縣電報局ノ機械ヲ其ノ營内ニ移セシ以來電報ノ種類ヲ選ヒテ打電ヲ扱ヒ居レルコト、既往ノ模様トヲ合セ考フレハ露國ハ事實ニ於テ遼東地方ノ電線ヲ占領セシモノト見ルヘシ龍岩工事ハ益々盛ニ近日芝罘ヨリ五百名ノ人夫來ル筈ナリ右二十一日實見スト

此ノ日附オデッサ發信ニ依レハ黑海艦隊ニシテ今回新ニ海上勤務ニ就キタル艦船ハ戰艦五隻、巡洋艦一隻、驅逐艦三隻、小運送船二隻、砲艦三隻、練習艦一隻、運送船一隻、沿岸測量船一隻、水雷艇六隻ナリ

六月二十

御前會議アリ伊藤侯、山縣、大山兩元帥、松方、井上兩伯、桂總理大臣、山本海軍大臣、小村外務大臣、寺内陸軍大臣參列ス

五月二十

新造軍艦音羽ハ明治三十六年一月六日横須賀海軍造船廠ニ於テ起工セシカ此ノ日本籍ヲ横須賀鎮守府ト假定シ又定員表(將校下士卒合計三百八十八人)ヲ假定ス

新造淺吹水砲艦伏見ノ木籍ヲ吳鎮守府ト假定シ又定員表(將校下士卒合計四十八人)ヲ假定ス(六月十七日參看)

新造淺吹水砲艦隅田ノ木籍ヲ吳鎮守府ト假定シ又定員表(將校下士卒合計三十七人)ヲ假定ス(六月十七日參看)

新造水雷艇雲雀ハ明治三十四年一月九日日本籍ヲ佐世保鎮守府ト定メラレ同三十五年七月二十五日吳海軍造船廠ニ於テ起工セシカ此ノ日定員表ヲ假定ス

新造水雷艇雉ハ明治三十四年一月九日日本籍ヲ佐世保鎮守府ト定メラレ同三十五年九月二日吳海軍造船廠ニ於テ起工セシカ此ノ日定員表ヲ假定ス

新造水雷艇鷲ハ明治三十五年十月四日吳海軍造船廠ニ於テ起工同年同月三十一日日本籍ヲ佐世保鎮守府ト定メラシカ此ノ日定員表ヲ假定ス

新造水雷艇鵜ハ明治三十五年十月三十一日日本籍ヲ佐世保鎮守府ト定メラレ三十六年一月二十日吳海軍造船廠ニ於テ起工セシカ此ノ日定員表ヲ假定ス

新造水雷艇鷗ハ明治三十五年十月三十一日日本籍ヲ佐世保鎮守府ト定メラレ本年二月二十四日吳海軍造船廠ニ於テ起工セシカ此ノ日定員表ヲ假定ス

此ノ日夜半浦港市中南方ノ砲臺ヨリ亞母爾灣ニ向ケ實彈三發ヲ發射セシトノ風説アリ(交通丸船長報告)

クロバトキン大將ハ神戸ニ著後大阪巡覽及ヒ攝海沿岸清遊ノ後此ノ日巡洋艦「アスコロド」ニ搭乘ノールウ井クヲ隨ヘ神戸ヲ出發ス

保鎮守府ト定メラレ本年二月二十四日吳海軍造船廠ニ於テ起工セシカ此ノ日定員表ヲ假定ス

新造水雷艇鶴ハ明治三十五年十月三十一日日本籍ヲ佐世保鎮守府ト定メラレ本年六月十四日川崎造船所ニ於テ起工セシカ此ノ日定員表ヲ假定ス

新造水雷艇鴻ハ明治三十五年十月三十一日日本籍ヲ佐世保鎮守府ト定メラレ本年六月十四日川崎造船所ニ於テ起工セシカ此ノ日定員表ヲ假定ス

新造水雷艇第七十一號ハ明治三十三年十二月六日日本籍ヲ横須賀鎮守府ト定メラレ三十五年八月十五日佐世保海軍造船廠ニ於テ起工セシカ此ノ日定員表ヲ假定ス

新造水雷艇第七十二號ハ明治三十五年十月三十一日日本籍ヲ佐世保鎮守府ト定メラレ三十六年二月一日横須賀海軍造船廠ニ於テ起工五月二日進水セシカ此ノ日定員表ヲ假定ス

新造水雷艇第七十三號ハ明治三十五年十月三十一日日本籍ヲ佐世保鎮守府ト定メラレ三十六年六月十二日川崎造船所ニ於テ起工セシカ此ノ日定員表ヲ假定ス

新造水雷艇第七十四號ハ明治三十五年十月三十一日日本籍ヲ佐世保鎮守府ト定メラレ三十六年六月十二日川崎造船所ニ於テ起工セシカ此ノ日定員表ヲ假定ス

新造水雷艇第七十五號ハ明治三十六年十月一日日本籍ヲ佐世保鎮守府ト定メラレ三十六年六月十二日川崎造船所ニ於テ起工セシカ此ノ日定員表ヲ假定ス

六月二十	水雷艇鶴、同華韓東岸ヲ巡航セシメラル 瓜生司令官旗艦高千穂及ヒ宮古吳淞ニ向ケ漢口發(六月二十) 淺吹水砲艦隅田英國「ソーニクロフト」社工場ニ於テ進水(六月二十) <small>(五)參看</small>	クロバトキン大將長崎ニ著ス 駐韓露國公使ハ韓國外部大臣ヲ訪ヒ義州開市ニ反對ス 襄日來在義州本邦人二名ハ韓人ヲ從ヘ鴨綠江ノ上流ニ到リテ木材ノ運出ニ從ヒツ、アリシカ六月二十六日滿浦鎮ト稱スル地ニ於テ清國馬賊ノ爲メニ襲撃セラレ重傷ヲ負フ蓋該馬賊ハ豫テ露國ノ使役スル所ノモノナリト認メラル <small>(在義州日野陸軍歩兵大尉及ヒ在京城野津陸軍歩兵少佐發電)</small> 巡洋艦「ボガツイリ」ハ昨年十一月十三日露都ヲ發セシカ回航中異狀ナク此ノ日芝罘ニ著ス <small>(新著艦第十五)</small> 浦港ニ於テ午後四時頃市中ノ北方約一哩ヲ距ル俗ニ一番川ト稱スルベルバヤ河口ニ於テ約二千ノ陸兵訓練ヲナシ又午後九時頃同港市巾南方ノ砲臺ニ於テ亞母爾灣ニ向ケ探海燈ノ照射練習ナス <small>(交通丸船長報告)</small>
六月二十	軍艦常磐吳ニ於テ入渠修理竣工此ノ日品海ニ向ケ吳發練習艦須磨、明石福州著 <small>(五月七)參看</small>	クロバトキン大將旅順ニ著ス(六月二十) 斯塔ケルベルグ少將旗艦「ロシーヤ」及ヒ「グロモボイ」ボ
六月二十	軍艦出雲青森ニ向ケ佐世保發	此ノ日ヨリ西比利鐵道輸送試験ノ口實ノ下ニチタニ向ヒ歩兵第二旅團、砲兵一大隊騎兵、輜重兵各若干ヲ歐露ヨリ輸送ス <small>(在露國明石陸軍歩兵中佐發電)</small>
六月三十	軍艦常磐ハ吳ヨリ品海著	ガツイリノ三艦ハ鎮海灣ヲ經テ浦港ニ入ル <small>(六月一日及ヒ六月本目附浦鹽發信ニ依レハ當港ノ軍糧貯蓄高ハ陸軍蒸氣製粉所ノ大倉庫六棟ニ小麥ヲ充積スルノ外屋外ニ堆積シ被覆ヲ施シアルモノ概算總計壹萬六千俵ノ見當ナリ給源ハ西比利又ハ滿洲ナルヘク悉ク烏蘇里鐵道ニ由テ輸送シ來レルモノナリ</small>

七月一日	軍艦朝日、八雲、磐手、驅逐艦漣、臘、曉、薄雲、陽炎、朝潮、白雲ハ常備艦隊ニ編入セラル 海軍大臣ハ本日附ヲ以テ常備艦隊司令長官ニ訓令スルニ今回軍艦朝日、八雲、磐手等ヲ其ノ艦隊ニ臨時編入セラレタルニ就テハ左ノ諸項ノ通り心得ヘキ旨ヲ以テス 一、臨時編入セラレタルハ艦隊トシテ此ノ際乗員ヲ訓練セシムルニ外ナラス即チ約二ヶ月後ハ再豫備艦トセラル、豫定 二、臨時編入軍艦ノ定員中准士官以上ハ不得止多數缺員ノ儘トス 三、臨時編入中即チ二ヶ月間ノ石炭其ノ他ノ消耗品ハ十海里速力ニテ七晝夜分ニ止ム 驅逐艦春雨ヲ第一豫備艦ト定メ全定員ヲ置ク <small>(六月二)參看</small> 日高司令長官ハ常備艦隊ヲ左ノ如ク區分ス	クロバトキン大將旅順口ニ於テ閱兵式ニ臨ム 此ノ日日頃露國ハ安東縣ト龍岩里トノ間ニ電線ヲ架設セシコトヲ企テ先ツ六道溝ト彌勒洞トノ間ニ水底電線ヲ沈置シ次テ韓國河岸ニ電柱ヲ建設セシモ韓廷意外ニ強硬ノ態度ヲ採リテ之ヲ拒否シ直ニ其ノ電柱ヲ撤去セシヲ以テ不得已之ヲ中止セルモノ、如シ 露艦「オケアン」(太平洋艦隊附屬運送船兼練習艦)東洋ニ向ケ露都ヲ發ス
<p>○主 隊</p> <p>第一戰隊 敷島、朝日、富士、八島</p> <p>第二戰隊 磐手、出雲、八雲、常磐</p> <p>第一驅逐隊 霞、朝潮、曉、白雲</p>		

第二驅逐隊 漣、颯、薄雲、陽炎、支隊、吉野、千歲 (司令官伊集院少將)
 ○練習枝隊 (司令官上村少將)
 嚴島、松島、橋立
 ○警備枝隊 (司令官瓜生少將)
 高千穂(江陰)、浪速(安奉)、千代田(芝罘)、秋津洲(基隆)
 宮古(江陰)、濟遠(在泊)、烏海(佐世保)
 日高常備艦隊司令官瓜生ハ本隊ニ左ノ日令ヲ發ス
 新ニ本隊ニ編入セラレタル各艦(驅逐艦ヲ除ク)ハ準備完成次第各其ノ所在ノ軍港ヲ發シ捷路ヲ取リテ室蘭ニ到リ石炭滿載ノ後七月十五日マテニ青森港ニ到リ驅逐艦ハ天候ノ支障ナキ限リ七月十五日以前ニ室蘭ニ到着直ニ石炭ヲ搭載シ次テ青森ニ回航スヘシ
 從來各水雷艇隊警備艇ノ數ハ竹敷要港部第二水雷艇隊、吳水雷團第二水雷艇隊、舞鶴水雷團第二水雷艇隊ニハ三隻其餘ノ各艇隊ニハ二隻ト定メラレシカ横須賀水雷團第一水雷艇隊モ此ノ日ヨリ三隻ニ改メラル
 水雷艇隊同準韓國東岸巡航ノ爲メ竹敷發(六月二十) 六日發着

七月三日
 瓜生司令官旗艦高千穂及ヒ宮古、大冶、九江、安慶、江陰ヲ經テ此ノ日吳淞發着(六月廿六)
 軍艦宮古上海ニ向ケ吳淞發即日著(七月二) 六日發着

クロバトキン大將ハ旅順口ニ於テ野營地兵營及ヒ海岸防禦線等ヲ巡閱ス
 クロバトキン大將旅順口在泊艦隊ヲ往觀ス
 浦鹽港口ニ横ハル露西亞島サロヨールヌイ半島ノ掘割ノ使用目的、位置、水深、幅長、兩岸ノ情況及ヒ砲臺ノ個數位置、備砲ノ種類及ヒ砲數ニ關シ目撃者ヨリ本日附ニテ見取圖ヲ添ヘ發信ス

義勇艦隊汽船ニシジメイ、ノヴゴロド號ハ多量ノ彈藥ヲ浦鹽ニ輸入ス右ハ本年度同艦隊定期發船表ニ據レハ十月初旬ニ入港スヘキ豫定ナルニ今回ノ入港ハ多分海軍省ノ命令ニ依リ右貨物輸送ノ爲メ臨時ニ發船セシモノナラント云フ

七月四日
 軍艦常磐品海ヨリ横須賀著
 七月六日
 第一豫備艦千早、摩耶ヲ第二豫備艦ト定メ特別定員ヲ置ク
 海軍々令部第一局員海軍中佐山下源太郎ハ日英同盟ノ結果英國海軍官憲ト打合ノ用件ヲ帶ヒ香港駐在中此ノ日軍事視察ノ爲メ威海衛出張ヲ命セラル
 驅逐艦霞、曉、陽炎、薄雲ハ七月一日ノ本隊日令ニ從ヒ此ノ日佐世保發室蘭ニ向フ

七月七日
 海軍少將中溝徳太郎常備艦隊司令官ニ補セララル
 驅逐艦村雨ヲ第一豫備艦ト定メ全定員ヲ置ク(六月二) 六日發着

クロバトキン大將軍艦ニ乗シタルニニ赴ク
 此ノ日ノ調査ニ依レハ旅順口ニ於ル露國海軍貯藏ノ炭量ハ英炭約四万噸和炭約一万五千噸ナリト云フ
 在旅順伊集院海軍大尉ノ本日附發信ニ曰ク勅使ベゾフヲソフ陸軍大臣クロバトキンハ去月末前後シテ旅順ニ

七月九日

驅逐艦白雲、朝潮ハ七月一日ノ木隊日令ニ從ヒ此ノ日舞鶴發室蘭ニ向フ

瓜生司令官旗艦高千穂吳松發韓國及ヒ北清ニ向フ(七月二日參看)

七月十日

山本海軍大臣ハ目下東洋ノ形勢ニ依リ一等戰艦六隻、一等巡洋艦六隻、優勢ナル二等巡洋艦四隻ニ平常ノ航海ニ要スル石炭ノ外英炭ヲ積載スヘキヲ訓令ス

軍艦八雲ハ大演習結了後横須賀ニ在泊セシカ七月七日同港ヲ發シ野蒜室蘭大湊ヲ經テ此ノ日青森ニ著ス

軍艦出雲ハ去六月二十九日佐世保出港後杵築、宮津、金石、室蘭ヲ經テ此ノ日青森ニ著ス

驅逐艦瀧、隴ハ七月一日ノ木隊日令ニ從ヒ此ノ日横須賀發室蘭ニ向フ

七月十一日

軍艦警手ハ大演習結了後吳ヲ經テ佐世保ニ至リ在泊セシカ七月三日佐世保ヲ發シ函館、室蘭ヲ經テ此ノ日青森ニ著ス

來著シ駐韓公使ハブロッハ在韓警備艦「コレーション」ニ乘シ去月卅一日仁川出發間モナク來著駐清公使レツサルハ天津ニ迎トシテ特派遣シタル軍艦ニ乘シ七月三日來著在哈爾濱軍團長チヤゴフハ東清鐵道ニ由リ七月四日著其ノ他絶東在勤ノ文武要職概ネ當地ニ集合シ關東州長官アレキセイエフ艦隊司令長官等ト會議ヲ開ク同會議ハ何カ格別ニ協議熟籌スヘキ要件アルカ如ク見ユルモ其ノ模様ハ極メテ秘密ニシテ更ニ探知スルヲ得スト

在芝罘水野領事ノ本日附發電ニ曰ク米國艦隊司令長官艦隊司令長官イーヴァンスノ本官ニ語ル所ニ依レハ水雷艇三十八艘ノ組成材料ハ露西亞本國ヨリ鐵路旅順ニ著シタリ右ノ内十六艘ハ既ニ進水シ殘部ハ日夜共ニ組合セ中ナリト

在芝罘水野領事ノ本日附發電ニ曰ク米國艦隊司令長官イーヴァンス少將ハ先ニ密ニ旅順ニ於ル露國艦隊ノ實況視察ノ爲メ派遣シ唯今歸著シタル米國軍艦々長ヲ特

七月十二日

瓜生司令官旗艦高千穂吳松ヨリ仁川著(七月九日參看)

日高司令官旗艦敷島及ヒ常磐ハ横須賀解纜室蘭ニ向フ

軍艦朝日ハ大演習結了後横須賀ニ在泊セシカ本月六日同港ヲ發シ室蘭大湊ヲ經テ此ノ日青森ニ著ス

七月十三日

軍艦富士、八島ハ六月十四日共ニ佐世保ヲ發セシカ鎮海灣、舞鶴、新湊、室蘭、函館ヲ經テ此ノ日青森ニ著ス

驅逐艦霞、曉陽、薄雲(七月六日參看)白雲、朝潮(七月九日參看)瀧、隴(七月十日參看)ハ相前後シテ室蘭ニ著シ石炭滿載ノ上此ノ日何レモ青森著

軍艦島海清國ニ向ケ佐世保發(六月二十日參看)第二豫備艦高雄ヲ第一豫備艦ト定メ特別定員ヲ置ク

七月十五日

山本海軍大臣ハ佐世保鎮守府司令長官ニ訓令スルニ軍艦笠置浮船渠ヲ大湊ヘ回航ノ任務終ラハ至急根室ニ至

明治三十六年七月

三十五

二本官ノ許ニ送レリ右艦長ノ言フ所ニ據レハ七月十日旅順港外ニ戰艦、裝甲巡洋艦各六隻港内ニ三千噸以上ノ巡洋艦六隻及ヒ水雷艇若干碇泊シ居レリト

露國太平洋艦隊ノ大部分ハ毎年夏秋四五箇月間ハ浦鹽ニ碇泊スルヲ例トスルカ故ニ此ノ日頃マテニハ十數隻ノ入港ヲ豫期セシニ曩ニ陸軍大臣ノ乗用ニ供スル爲メ「アスコリド」「ノール非ク」ノ入港セシト目下「ロシーヤ」外ニ艦ノ在泊スルノミニテ他ニ一隻モ入港セサリシカ爲メ浦鹽ニ於テ稍不穩ノ説起ル

クロバトキンハ旅順ノ會議半ニシテ露都ヨリ急電ニ接シ歸國ノ途ニ就ク

東ボスフォル海峽ニ於テウリス灣ヲ形成スルナヒモフ半島及ヒ露西亞島東北邊ニ設置セル砲臺ノ位置、備砲ノ口径及ヒ門數顯著點ニ關シ實地目撃者ヨリ本日附ニテ見取圖ヲ添ヘ發信ス

在京城瓜生常備艦隊司令官ノ本日附發電ニ曰ク本月十日旅順口ヨリ芝罘ニ到著セシ米國軍艦ノ秘密報告ト察セラル、モノニ依レハ露國軍艦「グロモボイ」「ロシーヤ」「ボガツイリ」「エニセイ」其ノ他驅逐艦三四艘本月十日以前旅順口ヲ發シ浦港ニ向ヒ其ノ他ノ諸艦ハ旅順口ニアリト

此ノ日頃ヨリ長春齊々哈爾濱附近ヨリ旅順ニ向ヒ絶エス小部隊ノ陸兵ヲ輸送ス(在營口川崎陸軍歩兵大尉發電)

リ軍艦操江ヲ曳キ横須賀軍港へ回航セシムヘキヲ以テス
(五月三十日參看)

海軍々令部第三局員海軍中佐井内金太郎ハ軍事視察ト
シテ浦鹽ニ出張ヲ命セラレ此ノ日東京ヲ出發ス

伊集院常備艦隊司令官ハ來二十七日横須賀發伊勢灣神
戶須崎吳軍港釜山浦馬山浦鎮海灣大湊秦皇島山海
關營口芝罘威海衛仁川木浦鹿兒島長崎ノ諸港ヲ巡
歴シテ十月六日佐世保著ノ行動豫定表(第二期)ヲ提出ス
日高常備艦隊司令官旗艦敷島及ヒ常警室蘭著(五月十二
日高司令官ハ左ノ本隊日令ヲ發ス

出征若クハ遠航ノ場合ニ際シ如何ナル程度マテ驅逐
艦ハ其ノ伴隨スル戰隊ノ補助ヲ要スルモノナルカ將
タ又絶對的ニ之ヲ要セサルモノナルヤ或ハ特種ノ母
艦ヲ必要トスヘキヤ等ヲ實驗センカ爲メ特命アルト
キノ外戰隊諸艦ハ左ニ記スル組合セノ如ク各驅逐艦
ノ母艦ト爲リ本務ニ差支ナキ限り其ノ補助給養等相
當ノ便宜ヲ得セシムヘシ

敷島曉、富士、胡潮、朝日、霞、八島、白雲、出雲、陽炎、
八雲、海雲、磐手、漣、常磐、廬

七月十六日 軍艦常警室蘭ヨリ青森ニ向ヒ即日著

七月十七日 日高司令官旗艦敷島青森へ向ケ室蘭發

在仁川瓜生司令官ノ本日附發電ニ曰ク軍艦濟遠ハ當港
ニ於テ十六日午後軍艦明石(練習艦トシテ清韓巡邏中)ノ錨場
ヲ變更セントスルニ際シ之ト相觸レ艦首水雷發射管前

駐韓林公使ノ本日附發電ニ曰ク在義州新庄外務書記生
ヨリ左ノ電報アリタリ當郡守ハ十五日彌勒洞ニ於ル露
國ノ既設電柱ヲ撤去セシメタリ右ニ關シ龍岩建築主任
露人ヨリ抗議書ヲ送リタリシモ韓國森林監理趙性協ノ

扉ヲ破損セリ入渠ヲ要ス但漏水ナシト

七月十八日 日高司令官旗艦敷島室蘭ヨリ青森著

水雷艇鶴、同隼、元山、新浦、羅津、浦其ノ他韓國東岸諸港ヲ
經テ此ノ日竹敷著(七月一日參看)

七月二十日 常備艦隊第一戰隊(敷島、富士、朝日、八島)青森ヨリ大湊
ニ向ヒ發即日著

常備艦隊第一戰隊大湊ヨリ野邊地ニ向ヒ發即日著
軍艦濟遠ハ去四月二十六日韓國派遣以來木浦、高砂島、
飛揚島、群山浦、仁川、鎮南浦、椏島、八口浦ヲ歴航セシカ入
渠修理ノ爲メ本日佐世保入港(七月十七日參看)

七月二十日 軍艦笠置ハ浮船渠ヲ曳キ昨二十一日佐世保發大湊ニ向
フノ途中長門國角島沖ニテ坐礁ス浮船渠ハ安全ナリ
驅逐艦不知火ハ笠置救難ノ爲メ佐世保發即日角島著
常備艦隊第一戰隊野邊地發青森著

七月二十三日 軍艦高砂ハ昨二十二日朝笠置救難ノ爲メ至急出港ノ命
ヲ受ケ今朝吳發角島著

七月二十四日 常備艦隊第一戰隊及ヒ第二戰隊(出雲、八雲、磐手、常警)

助言ニテ右ハ中央政府ト露國公使トノ談判セラル、筋
ナル旨ヲ回答シタリト云フ然ルニ陸線ニヨラス水底線
ヲ直接安東縣ヨリ龍岩ニ敷設シ既ニ十五日ヨリ開通セ
シトノ報アリ一説ニハ清國(不明)ノ下(不明)ヨリ水底
線ヲ通シタリト云フト

露國ハ此ノ日ヨリ滿洲ノ穀物輸出ヲ禁ス(在營口川崎陸軍
歩兵大尉發電)

青森發大湊著(七月一日) 軍艦比叙一昨二十二日笠置救難ノ爲メ角島ニ向ケ舞鶴ヲ出港セシカ此ノ日角島著

七月二十 伊集院支隊(千歲、吉野)横須賀出港同日横濱ニ投錨 水雷艇第八號佐世保發同日午後角島著

軍艦笠置午前九時四十五分離礁ス船體無事午後笠置、不知火、比叙、浮船渠(比叙之ヲ曳行ク)高砂何レモ油谷灣著(七月二十) (二日參看)

七月二十 驅逐艦不知火油谷灣發即日佐世保著(七月二十) (二日參看)

七月二十 小村外務大臣ハ本日附ヲ以テ在露栗野公使ニ電訓スルニ滿韓兩地ニ關シ日露間ニ協商ヲ遂クル爲メ商議ヲ開クコトニ付露國政府ノ意ヲ確ムヘキ旨ヲ以テス

山本海軍大臣ハ吳鎮守府司令長官海軍中將柴山矢八ニ訓令スルニ軍艦高砂ヲシテ大湊水雷團用浮船渠ヲ大湊ヘ回航セシメ右任務終ラハ至急根室ニ至リ軍艦操江ヲ曳キ横須賀軍港ヘ回航セシムヘキヲ以テス 水雷艇第八號油谷灣發即日佐世保著

七月二十 軍艦比叙昨二十八日油谷灣發本日舞鶴著

七月三十 常備艦隊第一、第二戰隊大湊發青森著

伊集院大尉歸朝旗順口、大連灣、鴨綠江方面、奉天方面視

露國運送船「カムチャター」號ハ韃靼海峽及ヒ黑龍江下流ノ航路取調ノ任務ヲ帶ヒ浦港ヲ出港ス

此ノ日頃露國ト趙監理トノ間ニ龍岩里ノ租借協約成ル 韓國政府ハ未タ之ヲ允許セスト云フ

去二十四日浦鹽ニ著港シ此ノ日同港ヲ拔錨セル伊勢丸 船長ノ報スル所ニ據レハ同船著港當日ハ東ボスフォル 海峽内ナジモツ岬及ヒノボシルスキ岬間ニ於テ水 雷敷設演習ヲ施行シツ、アリ又碇泊中同海峽附近ニ於 テ二日間(午後三時頃ヨリ日没マテ)實彈射撃ヲ施行セ リ又浦鹽ニ於テハ目下本邦商船ノ輸入品及ヒ船客手荷 物等ニ對シテ稅關手數取締等次第ニ嚴重ヲ加ヘ動モス レハ法外ノ罰金ヲ課セラル云々ト

本日附浦鹽發信ニ曰ク常港駐米國貿易事務官ノ談ニ ヨレハ兩三日前軍務知事要塞司令官、副知事其他二三ノ

附記

七月三十

察ノ結果ヲ復命ス(五月十二) 軍艦笠置昨二十九日油谷灣發本日佐世保著 軍艦高砂油谷灣出港浮船渠ヲ曳キ舞鶴ニ向フ 獨逸東洋艦隊司令長官グイスレル中將旗艦「フニルス」ト、ビスマルク」浦鹽ニ入港露艦碇聚水域内ニ錨泊ス

要職會合シ中央政府ノ電訓ニ基キ戰備ニ關シ擬議シタル 山ニテ日露戰爭ハ到底避クヘカラサルカ如シト現ニ 該會議ニ列シタル者ヨリ親シク聞取リタリト云フト

露國外務大臣ラムスドルフ伯ハ本日栗野公使ニ會見シ 一己ノ意見トシテ日本政府ノ提議(八月二十)ニ異議ナキ モ皇帝ノ允可ヲ得確答スヘキ旨ヲ回答ス

本日附浦鹽發信ニ曰ク露國ハ既ニ今ヨリ一週前關東 州ニ於テ動員令ヲ發シタリト云ヒ又動員準備中ナリト 云ヒ何トナク動搖ノ模様アリ何レニモ露國軍隊ノ關 東州ニ集中シツ、アルハ爭フヘカラサル事實ナリ又黑 龍軍管區糧餉部ハ今日巨多ノ軍糧ヲ旅順ニ送致スルニ 當リ其ノ多クハ外國船隻ニ諾威船ニ搭載セリ「グンス ト、アルベルス」商會ノ取扱ニ係ル諸威船「エネルグ」號ノ 如キハ當時專ラ雜穀輸送ニ從事ス

此ノ月中東洋ニ向ケ露國用石炭船ノ蘇士ヲ通航シタル モノ三艘共ノ英炭搭載量合計一萬二千噸又喜望峰ヲ迂 回シタルモノ二艘共ノ英炭搭載量合計千六百噸 駐露英國大使館附陸軍武官ハ本日附ヲ以テ本國官憲ニ 發電シテ曰ク第三十五及ヒ第三十一兩師團ノ各第二旅 團ハ八千人以上ノ砲兵ト共ニ七月十六日ヲ出發汽車 ニテ哈爾濱ニ向ヘリ右ノ諸隊ハ露國軍務當局者ニ於テ 單ニチタ迄前進スヘキ旨ヲリト稱シタルモノナリ、歐 露ヨリノ動兵ハ七月二十三日迄引續キ行ハレタリト

八月一日

山本海軍大臣ハ各鎮守府司令長官ニ訓令スルニ一等戰

艦、一等巡洋艦、優勢ナル二等巡洋艦并ニ諸驅逐艦ニシテ常備艦隊以外ノモノハ修理完成ニ從ヒ豫備艦ノ儘佐世保軍港ニ回航シ何分ノ訓令アルマテ同港ニ泊留セシムヘキ旨ヲ以テシ尙申添フルニ目下臨時常備艦隊ニ編入ノ富士、朝日等ノ諸艦并ニ驅逐艦モ本月盡日ヲ以テ除隊セラル、ニ於テハ其ノ儘佐世保軍港ヘ集合セシメ置キ又該艦ニハ成ル可ク多量ノ和炭ヲ搭載セシメサル様注意シ其等諸艦ノ行動ニ就テハ努メテ内外ノ耳目ヲ惹カサル様極メテ秘密ニ取扱フヘキ旨ヲ以テス

又海軍大臣ハ日高司令長官ニ訓令スルニ常備艦隊モ東北方面ニ在ルヨリ此ノ際成ルヘク佐世保方面ニ在テ訓練ニ従事スヘキ旨ヲ以テス

伊集院支隊ノ行動豫定表海外巡航區域(七月十五)ハ韓國南岸ノミニ止メシメラル

八月二日

八月三日

艦軍高砂浮船渠ヲ曳キ舞鶴發大棧ニ向フ

小村外務大臣ハ本日附ヲ以テ内密ニ栗野公使ニ豫示スルニ帝國政府ヨリ提出スヘキ協商案ヲ以テシ尙申添フルニ本案ハ更ニ木大臣ヨリ何分ノ訓令アルヲ俟チテ後ヲムスドルフ伯ニ手交セラルヘシト本案ノ摘要左ノ如シ

一 清韓兩國ノ主權及ヒ領土保全ヲ尊重シ又該兩國ニ於ル各國ノ商工業ノ爲メ機會均等ノ主義ヲ保持スヘキコト

二 露國ハ韓國ニ於ル日本ノ優越ナル利益ヲ承認シ日本ハ滿洲ニ於ル鐵道經營ニ就キ露國ノ特殊ナル利益ヲ承認シ併セテ日露ハ韓滿ニ於ル各其ノ利益ヲ

巡洋艦「ノーツ」非グ旅順ヨリ長崎入港

號第二百二十二號(東洋)向ヒ露都出港

保護スルニ必要ナル措置ヲ執ルコト

三日露兩國ハ韓滿ニ於ル各自ノ商業的及ヒ工業的活動ノ發達ヲ互ニ阻礙セサルヘキコト又今後韓國鐵道ヲ滿洲南部ニ延長シ以テ東清鐵道及ヒ山海關牛莊線ニ接續セシメントスルコトアルモ露國ニ於テ之ヲ阻礙セサルヘキコト

四日露兩國ハ韓滿ニ於ル各其ノ利益ヲ保護センカ爲メ出兵ヲ要スル場合ニハ其ノ兵員ハ實際ノ必要ニ止メ且其ノ任務ヲ果シ次第直ニ召還スヘキコト

五 韓國ニ於ル改革及ヒ善政ノ爲メ助言及ヒ助力(但必要ナル軍事上ノ援助ヲ包含スルコト)ヲ與フル

六 日本ノ專權ニ屬スルヲ露國ニ於テ承認スルコト

六本協約ハ從前韓國ニ關シテ日露兩國間ニ結ハレタル總テノ協定ニ替ハルヘキコト

常備艦隊本隊(第一、第二艦隊及ヒ第一、第二)舉テ青森發壽都ニ向フ

伊集院支隊神戶發吳ニ向フ

八月四日

常備艦隊本隊舉テ青森ヨリ壽都著

豫備艦隊置ハ第一海軍區及ヒ第四海軍區ヘ回航ノ件取止メシメラル(六月)此ノ日佐世保ニ於テ入渠(七月三十)横須賀鎮守府及ヒ舞鶴鎮守府在籍ノ豫備艦ハ此ノ際特ニ第三海軍區ヘ回航スルコトヲ得セシメラル

伊集院支隊神戶ヨリ宮島著

八月五日

常備艦隊本隊舉テ壽都發小樽ニ向ヒ第一、第二驅逐隊ハ即日著

太平洋艦隊司令長官スタルク中將旗艦「ペトロパウロウ」司令官公爵ウフトムスキー少將旗艦「ベレスウエート」及ヒ「レトウ非ザン」セリストーポリ「ホルター」

「ボベータ」浦鹽ニ入港シ之ニ裝甲巡洋艦三隻(六月三十)ヲ合セ目下在浦鹽露國艦隊ハ九隻ニ及ヘリ(本文艦隊ハ七月十日タルコト同月十一日水野領事發電同十四日瓜生司令官ノ發電ニ依テ知ラレタレトモ其ノ後日旅順ヲ出港セシヤハ未詳ナリ)

ラムスドルフ伯ハ皇帝陛下ヨリ談判開始ノ允可ヲ得タリト本日栗野公使ニ告ク(七月二十)

水雷艇蒼鷹ハ本年八月一日吳海軍造船廠ニ於テ竣工受授結了セシカ此ノ日吳ヨリ佐世保著(五月十四日及七六)

八月六日

小村外務大臣ハ栗野公使ニ日露兩國間協商案提出方ヲ訓令ス(八月三)

常備艦隊第一第二戰隊壽都ヨリ小樽著

伊集院支隊宮島ヨリ吳著

軍艦笠置出渠(八月四)

軍艦高砂大湊著浮船渠ヲ同艦ヨリ取離ス(八月二)

八月七日

軍艦宇治ヲ第一豫備艦ト定メ全定員ヲ置ク(六月三)

八月八日

常備艦隊主隊ハ八月一日ノ訓令ニ依リ行動ヲ變更シ左記ノ豫定表ヲ提出セシカ今八日豫定通りニテ差支ナキ旨返電アリ

八月十一日

小樽發

函館發

舞鶴發

同月十四日

同月十七日

同月二十日

函館發

舞鶴發

八月九日

巡洋艦ノ一ウヰク昨四日長崎ヲ發セシカ本日浦鹽入港

スタルク中將ハ旗艦ヲ「レトウヰ」ニ變更ス

「ベトロパウロウ」ハ修理ノ爲メ浦鹽ニ於テ直ニ入渠ス

中亞アスカバントニテ「ザアムール」第四鐵道大隊ヲ編成

シ此ノ日絶東ニ派遣ス此ノ隊ハ二十六日ヲ經テ任地ニ

著ノ管(在露明石陸軍歩兵中佐發電)

浦鹽ニ於テハ去六月末頃ヨリ火藥ノ輸入及ヒ軍艦ヘノ

供給ニ汲々タリ目下浦鹽ニ碇泊セル義勇艦隊汽船「ウ

ラジミール」號モ亦若干ノ火藥ヲ輸入シタル趣ニテ此

ノ日海軍火藥庫ニ運搬ス(在浦鹽川上貿易事務官發信)

本日發兌「ダルニー」ワストーク新聞ニ曰ク烏蘇里鐵道

第二大隊編成法公布セラレタリ此ノ隊ハ現在ノ第一大

隊ト合シ烏蘇里鐵道旅團ヲ編制スルモノニシテ各大隊

四個中隊ヨリ成ルト

在浦鹽川上貿易事務官ノ本日附發信ニ曰ク露國海軍省ハ義勇艦隊汽船「モスクワ」及ヒ「ヘルツン」ヲ買上ケ艦籍ニ編入シタル山ナリト(後「モスクワ」ハ「アンガラ」ヘルツン「ハ「レナ」ト改稱ス)

蒙古札薩克圖郡王吳泰ハ露國ヨリ銀二十萬兩ヲ二十箇

八月十一日

山本海軍大臣ハ本日附ヲ以テ濟遠艦長海軍中佐但馬惟孝ニ電訓スルニ今回朝鮮東岸巡航ノ時機ヲ利用シ蔚山ヨリ羅津浦ニ至ル沿岸ニ於ル航海上ノ要點及ヒ蔚陵島ノ經緯度ヲ成ルヘク精密ニ測量スヘキ旨ヲ以テス

常備艦隊本隊奉テ小樽發函館ニ向フ

八月十二日

栗野公使ノ本日附發電ニ曰クラムズドルフ伯ハ目下多忙ニシテ漸ク今十二日ニ至リ本官ヲ接見スルヲ得タリ

本官ハ我ガ提案ヲ英文ニ認メ之ヲ伯ニ手交シタリト

(八月三)

伊集院支隊(千歲吉野)ハ第二期行動豫定表(七月十五)中

吳以後ノ分ヲ八月十二日吳發益山馬山浦鎮海灣竹

敷鹿兒島有明灣ヲ經テ八月三十一日長崎著ノ豫定ニ

改正ス

伊集院支隊吳發益山ニ向フ

軍艦濟遠入渠修理ヲ了リ此ノ日馬山浦ニ向ケ佐世保發

八月十三日

軍艦濟遠馬山浦著

年間借用シ期限ニ至リ返濟セサルトキハ該地方ヲ露國ニ割讓スルコトヲ此ノ日頃約セリト云フ

戰艦「オスタービヤ」及ヒ裝甲巡洋艦「バヤーン」東洋ニ向ヒ露都ヲ發ス

露帝ハ本日附ヲ以テ極東太守府設置ノ勅令ヲ公布シ關東州長官海軍大將アレキセイエフヲ太守ト爲ス此ノ勅

命ニ依リ新設太守ハ沿黑龍江及ヒ沿海地方并ニ關東州

ヲ管轄シ又太平洋艦隊并ニ沿黑龍江州(沿黑龍江及ヒ

沿海ヲ包含ス)關東州ニ於ル陸軍ノ司令權ヲ有シ又是

等地方ノ行政ニ就テハ本國政府ノ各省大臣ヨリ獨立シ

東清鐵道地帯ノ秩序維持モ亦其ノ職權ニ屬シ其ノ位地

ヲ露國カ一八四五年波斯ニ於ル其ノ占領地ヲ統治スル

高加索太守ト幾ト同一ナラシメ又絶東諸州ト隣接セル

諸國トノ間ニ發生スヘキ外交事務ヲ其ノ職權内ニ集中

シ從來ノ沿黑龍江州總督ヲ其ノ指揮下ニ屬セシム

在浦鹽川上貿易事務官ノ本日附發信ニ曰ク昨日港内巡視ノ際圖ヲスモ水兵約百名各自鐵製ノ一輪車ヲ以テ海軍倉庫十五棟(當港海軍團ノ對岸ニアリ)ノ内東列ノ山手ニ接スル庫内ヨリ石炭ヲ運搬シ曳船ニ移シ之ヲ軍艦

八月十四

此ノ日絶東太守府設置(八月十二)ノ報東京ニ達スルヤ我カ海軍ハ之ヲ以テ大ニ警戒ヲ要スヘキモノトナシ即日必要ノ向々ニ注意ヲ與フ

常備艦隊本隊小樽ヨリ函館著

軍艦警手小樽ヨリ大湊著

伊集院支隊佐世保ニ寄港

軍艦高砂八月七日大湊發青森室蘭ヲ經テ同十二日根室ニ著セシカ此ノ日操江ヲ曳キ出港横須賀ニ向フ(七月三十)

軍艦警手大湊ヨリ函館著本隊ニ合ス

軍艦大和ハ曇ニ臺灣方面ノ測量ヲ命セラレ本年四月一日佐世保發測量地ニ向ヒシカ測量事業ヲ完終シ此ノ日吳ニ歸著

英艦「アルゼリン」ハ密獵取締ノ爲メ白令海ニ向フノ途中函館ヲ經テ此ノ日哥爾薩入港

記附

八月十六

「ボベータ」及ヒ「ペトロパウロウス」ニ輸送スルヲ見受ケタリ同列海岸ニ面スル倉庫ニ「カーザ」戻ナル表札アルヲ以テ觀レハ前記十五棟ノ内東列七棟ハ英炭ヲ貯藏シアルモノト視テ大差ナカルヘシト尙同官ハ之ニ倉庫ノ略圖ヲ添ヘ共ノ七棟ニハ英炭約七万噸アラント推算ス

スタケルベルグ少將旗艦「ロシーヤ」グロモボイ「ボガツイリ」此ノ日浦鹽出港該艦隊ノ行先ハ判明セサルモ多分薩哈噠島沿海ナルヘク約二週間以内ニハ歸港スヘシト傳フ(在浦鹽川上貿易事務官發信)

露國運送船「カムチヤダール」號ハ吃水十二呎ヲ保チ故障ナク黒龍江ヲ溯リシカ此ノ日無事ハバロフスクノ官設埠頭ニ繫著シタリ同船ノ溯江ハ近來ノ快事トシテ世評嘖々タリ(七月二十)

八月十七

測量艦大和ハ役務ヲ解カレ第一豫備艦トシ特別定員ヲ置ク

常備艦隊本隊(八雲欠)舞鶴ニ向ケ函館發

軍艦八雲横須賀ニ向ケ函館發

軍艦高砂横須賀著同艦ヨリ操江ヲ取離ス(八月十四)

八月十八

伊集院支隊釜山著

英艦「アルゼリン」白令海峡ニ向ケ哥爾薩出港

記附

非内海軍中佐浦鹽軍港視察ヲ遂ケ此ノ日歸朝(七月十五)

軍艦八雲函館ヨリ横須賀著

伊集院支隊釜山發即日鎮海灣著

常備艦隊本隊(八雲欠)舞鶴著

伊集院支隊鎮海灣發即日馬山浦著

伊集院支隊統營ニ入港陸戰隊上陸演習了テ出港即日竹

林浦著

八月二十

英國運送船「ヂュニール」號此ノ日浦鹽港ニ入港ス本船ハ蘇士運河船舶出入表ニヨレハカーザフ港ヨリ煉炭

明治三十六年八月

四十五

豫テ勘察加沿海警備ノ任ニ當リ居レル砲艦「マンヂュール」ハ先般同沿海ニ於テ漁業規則違反ノ廉ヲ以テ本邦漁船十一隻ヲ捕獲セシカ其ノ乗組員二百七十八名ハ汽船「コーチク」號ニテ浦鹽ニ護送セラレ此ノ日入港ス

旗艦「ロシーヤ」哥爾薩ニ入港ス(八月十五)

浦鹽在泊戰艦「ベレスウエイト」及ヒ「ペトロパウロウス」ハ内港ヨリ亞母爾灣ニ出テ同灣ニ於テ水雷發射演習ヲ行フ

絶東太守アレキセイエフ大將ハ巡洋艦「アスコリド」ニテ浦鹽ニ著ス

旗艦「ロシーヤ」ニコライスクニ向ケ哥爾薩出港

此ノ日(露曆八月六日)以後ノ黒龍半官報ニ露國運送船「カムチヤダール」號黒龍江溯航記事ヲ掲載ス(八月十六)

裝甲巡洋艦「バヤーン」アルジール港ニ著ス(八月十二)

英國運送船「ヂュニール」號此ノ日浦鹽港ニ入港ス本船ハ蘇士運河船舶出入表ニヨレハカーザフ港ヨリ煉炭

八月二十

海軍々令部出仕海軍大尉増田高頼ハ福州駐在中去八月二日「其ノ官駐在地ヲ芝罘ニ改ム重モニ露國艦隊及ヒ關東半島ノ形勢ニ銳意注意スヘシ目下ノ情況可成速ニ赴任スルヲ要ス」トノ電訓ヲ受ケ同月十五日福州ヲ發

四千七百十噸ヲ積ミ來レルモノナリ(本年浦鹽入港運炭船三隻ノ一) 戰艦「ベレスウエート」同「ペトロパウロウスク」浦鹽ニ歸港ス

セシカ此ノ日芝罘著

第一、第二驅逐隊木隊ヲ離レ佐世保ニ向ケ舞鶴出港

軍艦富士木隊ヲ離レ舞鶴出港入渠ノ爲メ吳ニ向ケ急航ス

常備艦隊第一、第二戰隊(富士、八雲、八雲)舞鶴發佐世保ニ向

伊集院支隊ハ竹林浦發即日尾崎灣著

第一、第二驅逐隊舞鶴ヨリ佐世保著

八月二十

ラムズドルフ伯ハ本日栗野公使ヲ接見シ日露兩國間協商案ヲ篤ト研究シタルモ皇帝陛下ハ演習ノ爲メ一週間餘御不在ナルニヨリ之ニ關スル措置ヲ探ルコト能ハサリシト述ヘ且アレキセイエフ大將ニ移牒スヘキ細目ノ點亦抄カラサルヘキヲ以テ本件商議ヲ東京ニ移スヘキコトヲ發議ス

此ノ日(露曆八月十日)ノ黒龍半官報ニ運送船「カムチャダール」號ノ黒龍江溯航ニ關シスボーチチ總督ヨリ航海業及ヒ商港事務局總裁アレキサンデル、ミハイロウヰツチ太公ニ提出シタル報告ヲ掲載ス(八月十九)

旗艦「ロシーヤ」「グロモボイ」「ボガツイリ」ハ浦鹽ニ入港ス(本月十五)

戰艦「セワストーポリ」及ヒ「ホルターワ」ハ浦鹽内港ヨリ亞母爾灣ニ出テ水雷發射演習ヲ行フ

戰艦「オスラービヤ」アルジール港ニ著シ水雷艇第二百二十一號、同第二百二十二號ハ獨國ダンテ港ニ著ス(八月一)

八月二十

伊集院支隊長崎ニ向ケ尾崎灣發吉野列ヲ解キ佐世保ニ寄港ス

軍事輸送ノ爲メ浦港、旅順間普通列車ヲ中止シ之ト同時ニ旅順芝罘間電信不通ヲ公示ス

八月二十

小村外務大臣ハ本日附ヲ以テ栗野公使ニ電訓スルニ帝國政府ハ露京ニ於テ商議ヲ行ハントノ進行上頗ル便宜ナルヘシト信スルヲ以テ右ハ同地ニ於テ繼續セント

欲スル旨ヲラムズドルフ伯ニ告ケ同時ニ本件商議ニ關シテハ別ニ地方的智識ヲ要スルカ如キ細目事項之ナキコトヲ附言シ商議地變更ノ議ニ反對スヘキ旨ヲ以テス

伊集院支隊旗艦千歲長崎著吉野亦來リ合ス

測量艦操江ハ役務ヲ解カレ第三豫備艦ト定メ特別定員ヲ置ク(八月十七)

常備艦隊兼練習艦隊、松島、橋立ハ海軍少尉候補生練習ノ爲メ英領香港、新嘉坡、蘭領瓜哇、濠洲及ヒ新西

蘭沿岸、米領菲律賓諸島并ニ清國、韓國沿岸ヲ巡視セシメラレ本年二月十五日上村常備艦隊司令官之ヲ率非横

須賀出港遠洋航海ノ途ニ就キシカ豫定ノ巡航ヲ了リテ

此ノ日横須賀ニ歸港ス

軍艦富士舞鶴ヨリ吳著(本月二十)

第一、第二戰隊(富士、八雲、八雲)佐世保著(本月二十)

八月二十

栗野公使ハ小村外務大臣ノ昨日附電訓ニ關シ本日ラムズドルフ伯ニ會見セシカ伯ハ皇帝陛下ハ日露協商ノ進行ヲ速メンカ爲メ東京ニ於テ商議ヲ行ハシムルコトヲ

欲セラル、旨仰出サレタリト云ヒ次テ八月三十一日以後地方巡幸引續キ或期間外國ニ旅行セラルヘキ旨ニテ

其ノ間關係諸大臣ハ露都ニ不在ナルヘキカ故ニ東京ニ於テ商議ヲ行フハ本件完結ノ爲メ便宜且捷徑ナルヘシト

言ヒ栗野公使ノ之ニ反對セシニモ拘ラス伯ハ前言ヲ繰返シテ其ノ主張ヲ固持ス(八月二十)

八月二十

第一、第二戰隊(富士、八雲、八雲)佐世保著(本月二十)

八月二十

小村外務大臣ハ本日附ニテ栗野公使ニ電訓スルニ重ネテ商議地變更ニ反對シ并ニ日本ノ提案ヲ以テ商議ノ基礎ト爲サシムヘキ旨ヲ以テス

戰艦「ボルター」浦鹽ニ歸港ス(八月二十)

軍艦八雲佐世保ニ向ケ横須賀發(八月十九) 練習艦須賀明石ハ福州、上海、芝罘、仁川、釜山、元山ヲ經テ此ノ日横須賀著(八月二十)

伊艦「ヴァイクトル」ビザニア(旗艦)及ヒ「ビエモンテ」ハ馬山浦ヨリ佛艦「ブニジョー」ハ仁川ヨリ此ノ日何レモ浦鹽入港

記附

八月二十

伊集院支隊有明灣ニ向ケ長崎發(八月二十) 軍艦浪速吳淞ヨリ横須賀著(五月十二) 軍艦千代田ハ威海衛ヨリ佐世保著(五月七)

ラムズドルフ伯ハ本日栗野公使ニ會見シ同公使ノ説ク所ニ反對シ日露間商議ニ關シテハ地方的智識ノ必要ヲ述ヘ且伯ハ皇帝陛下ニ扈從シテ外國ニ旅行シ今秋ハ大抵不在ナルヘキヲ以テ露都ニ於テセハ頗ル商議ノ遷延ヲ來スノ恐レアリト言ヒ商議地移轉ニ對スル異議ヲ固執ス

此ノ日ノ勅令ニ依リ日清韓ニ駐在スル露國公使館附武官ハ全然極東太守ニ直隸セシム 戰艦「セリスト」ボル浦鹽ニ歸港ス(八月二十)

八月三十

伊集院支隊長崎ヨリ有明灣著

去七月初旬ヨリ此ノ日マテニ浦鹽ニ於テ入渠修理濟ノ各艦ハ裝甲巡洋艦「ロシーヤ」同「グロモボイ」同「ボガツイ」戰艦「ベトロパウロウスク」同「セリスト」同「ボルター」同「ボベータ」同「レトゥン」同「ベレスウエート」ノ九隻ナリ

記附

九月二

英艦「グロリー」(英國支那艦隊司令長官ブリッヂ中將旗艦)威海衛ヨリ浦鹽入港佛國絶東洋艦隊司令長官マレン「ヤール」陸路旅順口ヨリ浦鹽ニ到リ「ブニジョー」ニ乗艦ス 軍艦三笠、初瀬、吾妻、淺間、驅逐艦春雨、村雨、速鳥、電雷 曙ハ常備艦隊ニ編入セラル 右各艦此ノ日ノ所在左ノ如シ 三笠ハ吳、初瀬、吾妻ハ佐世保、淺間ハ吳、春雨、村雨ハ佐世保、速鳥ハ横須賀、電雷ハ横須賀ヨリ佐世保ヘ航行中、曙ハ佐世保ニアリ

東洋回航中ノ「オケアン」新嘉坡入港(七月一) 巡洋艦「アスコリド」ハ何日浦鹽ニ歸港セシヤ詳ナラサレトモ亞母爾灣及ヒ島蘇里灣ヲ遊弋シテ後此ノ日同港ニ在リ

記附

九月二

小村外務大臣ハ本日附ニテ栗野公使ニ再電訓スルニ露都ニ於テ商議ヲ繼續シ并ニ日本提案ヲ以テ商議ノ基礎ト爲サシムヘキ旨ヲ以テス 伊集院支隊佐世保ニ向ケ有明灣發

戰艦「オスラー」ビヤ「パロス」(希臘群島)ニ著港(八月十二)

九月三

驅逐艦電横須賀ヨリ佐世保入港(九月一)

驅逐艦「ブレスチャヤー」シチー「ブリスツルイ」及ヒ「ベツウ」ヨリ「チヌイ」ノ三隻東洋ニ向ケ露都ヲ發ス 哥爾薩帝國領事ノ本日附發電ニ曰ク當港ニハ露艦二隻モ碇泊セスト

(4)

九月四日

常備艦隊浪速清國居留帝國臣民保護ノ任務ヲ解キ歸朝
セシメラレ之ニ代ヘ軍艦宇治ヲ派遣セシメラル(八月三
日)
伊集院支隊有明灣ヨリ佐世保著

配附

九月五日

栗野公使ノ本日附發電ニ曰ク本官ハ帝國政府ノ希望ヲ
達センカ爲メ十分ノ盡力ヲ爲シタルモ今ヤラムスド
ルヲ伯ヲシテ其ノ提言シタル針路ヲ變更セシムルコト不
可能ナルヲ確認セリ就テハ帝國ノ採ルヘキ針路ハ伯ノ
發議ニ同意スルノ外之ナカルヘシト思料ス伯ハ本月十
日露京出發タルムスタットニ赴キ皇帝陛下ニ供奉スル
筈ナリト
山本海軍大臣ハ紀淡海峽水雷砲臺築造計畫要領圖ヲ添
ヘ其ノ著手方ヲ吳鎮守府司令長官ニ訓令ス
日高司令長官ハ左ノ主隊日令ヲ發ス
一常備艦隊主隊ノ軍隊區分左ノ如ク改ム

ラムスドルフ伯ハ本日栗野公使ニ會見シ説述シテ曰ク
伯カ露國外務省ニ於ル四十年ノ經驗ニ依レハ國際商議
ハ一國ノ提議ト他國ノ回答トノ上ニ行ハル、ヲ常トシ
一國ノ提議ヲ以テ商議ノ唯一ノ基礎トシテ受諾スルカ
如キハ常例ニアラス東京駐在露國公使ハ業已ニ露國
皇帝陛下ヨリ日本政府ノ提議ヲ審査シ同時ニアレキセ
イエフ大將ト協議シテ一ノ對案ヲ作成シ日本政府若シ
商議ヲ始ムルヲ欲セハ其ノ提議ト我カ對案トヲ採リテ
商議ノ基礎トナシ以テ直ニ商議ヲ開始スヘキ旨ノ勅命ヲ
受ケ居レリト伯ハ此ノ主義ニ據リ飽クマテモ兩國ノ提出
案ヲ基礎トシ又商議ハ東京ニ於テ之ヲ行ハンコトヲ主張ス
(八月三十一日
九月一日參看)

絶東太守アレキエイエフハ八月二十五日浦鹽ヲ發セシカ
此ノ日旅順ニ歸著直ニ絶東太守府條例制定ノ爲メ自カ
ヲ委員長トナリ軍務部及ヒ民政部ヨリ成立スル委員會
ヲ組織ス軍務部ハ關東州陸軍副指揮官陸軍中將ウオル
コフヲ以テ部長トシ其ノ下ニ八名ノ委員ヲ置キ民政部
ハ後員加爾州軍務知事陸軍中將ナダーロフヲ以テ部長
トシ其ノ下ニ十五名ノ委員ヲ置ク
巡洋艦「アスコリド」グロモボイ「ボガツイリ」ロシーヤ
浦鹽出港
驅逐艦「アイヌイ」及ヒ「ポードレイ」東洋ニ向ヒ露都ヲ發
ス

- 第一戰隊 富士、八島、敷島朝日、初瀬、三笠
- 第二戰隊 淺間常磐、八雲、吾妻、磐手、出雲
- 第三戰隊 吉野千歲
- 第一驅逐隊 曉霞朝潮、白雲
- 第二驅逐隊 陽炎、薄雲、漣、臙
- 第三驅逐隊 春雨、村雨、速鳥
- 第四驅逐隊 雷、電、曙

(注意)本隊支隊ノ制ヲ解ク
一各部隊ノ指揮官及ヒ其ノ乘艦ヲ定ムルコト左ノ如シ
但第二戰隊ハ當分專任指揮官ヲ置カス

隊名	指揮官	指揮艦
第一戰隊	本職 坂 掌 數	敷 島
第三戰隊	伊集院司令官 千 歲	吉 野
第一驅逐隊	長 井 司 令	曉 霞
第二驅逐隊	石 田 司 令	陽 炎
第三驅逐隊	土 屋 司 令	春 雨
第四驅逐隊	真 野 司 令	雷

中溝司令官ノ旗艦ヲ初瀬ニ指定シ第一戰隊ノ一部ヲ
分率セシム
一前記ノ軍隊區分存立スル間各驅逐隊ヲ各戰隊ニ附屬
セシムルコト左ノ如シ
第一戰隊ニ第一驅逐隊及ヒ第四驅逐隊
第二戰隊ニ第二驅逐隊
第三戰隊ニ第三驅逐隊
一特種母艦必要ノ有無ヲ實驗センカ爲メ戰隊諸艦ト驅
逐艦トノ組合ヲ定ムルコト左ノ如シ(七月十五
日參看)

義勇艦隊汽船「ヤロスラウリ」號ハ東洋ニ向ケ蘇士運河
ヲ通航ス

附 記

九月六日

敷島—曉 初瀬—霞 朝日—雷
 富士—電 八島—曙 三笠—朝潮
 淺間—漣 磐手—薄雲 八雲—白雲
 出雲—陽炎 千歳—春雨 吉野—村雨
 上村常備艦隊司令官ハ海軍教育本部長ニ轉補セラル
 伊集院常備艦隊司令官ハ海軍々令部次長ニ轉補セラル
 吳港務部長兼豫備艦隊長海軍少將梨羽時起ハ常備艦隊司令官ニ轉補セラル
 伊艦「ブエイトル」ピザア「ニ」同「ヒュモンテ」函館ニ向ケ浦鹽出港佛艦「モンカルク」神戸ヨリ浦鹽入港司令官「ブエ」ヨリ之ニ轉乘ス

九月六日

新ニ艦隊ニ編入セラレタル軍艦三笠佐世保ニ向ケ吳發

九月七日

小村外務大臣ハ本日附ヲ以テ栗野公使ニ電訓スルニ商議ヲ東京ニ移スコトニ同意ヲ表シ併テ速ニ露國對案ノ提出ヲ求ムヘキ旨ヲ以テス
 山本海軍大臣ハ常備艦隊司令官ニ訓令スルニ戰時編制所定ノ第一艦隊ニ屬スル諸艦ハ佐世保及ヒ其ノ附近并ニ韓國沿岸、第二艦隊ニ屬スル諸艦ハ舞鶴及ヒ其ノ附近近軌レモ電信ノ通スル港灣ニ於テ訓練ニ從事センメ差支無之旨ヲ以テス(八月一)
 練習艦須磨、明石ハ常備艦隊ニ編入セラル(八月二十)此ノ日須磨ハ佐世保ニ向ケ横須賀發、明石ハ昨六日横須賀發吳ニ向ケ航行中
 常備艦隊兼練習艦橋立、嚴島、松島ハ役務ヲ解カレ第一

去五日浦鹽ヲ出港シタル「ロシーヤ」「グロモボイ」「アスコリド」「ボガツイリ」函館入港

九月八日

豫備艦ト定メ全定員ヲ置ク(八月二十)
 軍艦宇治常備艦隊ニ編入セラレ此ノ際特ニ増員シ清國居留帝國臣民保護ノ爲メ同國南部ニ派遣セシメラル(八月七)
 同艦ハ上海長江筋ノ警備ニ任ス
 豫備艦嚴島ハ吳ニ向ケ同松島ハ佐世保ニ向ケ此ノ日何レモ横須賀發
 威海衛駐在山下中佐ハ訓令ニ從ヒ芝罘ニ轉シ此ノ日ヨリ帝國領事館内ニ宿泊遼東方面ニ於ル露國軍事行動ノ諜報ニ任ス(七月六)

伊東軍令部長ハ紀淡海峽防禦水雷計畫及ヒ竹敷要港防禦水雷計畫ヲ改定シ其ノ計畫書及ヒ防禦圖ヲ必要ノ向ニ配附ス

増田大尉ハ露國軍事行動諜報ノ爲メ芝罘ヨリ旅順ニ入ル(八月二十)

津輕海峽ノ警備艇トナリシ水雷艇四隻(九月)ノ内第六十七號、第六十八號ノ二隻ハ第二十二號、第二十四號ノ二隻大湊ヘ回航ノ上ハ之ト交代横須賀軍港ヘ歸航スルコト、爲ル

附 記

九月九日

軍艦三笠吳ヨリ佐世保著第一戰隊ニ合ス(九月六)
 梨羽司令官將旗ヲ千歳ニ掲ク
 軍艦明石横須賀ヨリ吳著(九月七)

佛艦「ブエ」ヨリ同「モンカルク」函館ニ向ケ浦鹽出港(八月二十九日、九月五日參看)

在旅順増田大尉ノ本日附報告中ニ曰ク最近十日間ニ於テ川崎陸軍歩兵大尉カ自カラ視察調査セシ旅順大連等ニ於ル陸軍兵數左ノ如シ

旅順口	歩兵四聯隊(砲兵二聯隊) 哥薩克騎兵一中隊
大連海軍	砲兵三中隊、工兵四中隊、輜重兵四中隊(?)
州	要塞砲兵二大隊、同歩兵二大隊
皮子窩	砲兵一聯隊、哥薩克騎兵四中隊
州	砲兵二聯隊、同歩兵二大隊
皮子窩	砲兵二中隊、同歩兵二大隊
州	砲兵一中隊、哥薩克騎兵一中隊
皮子窩	砲兵一中隊、哥薩克騎兵一中隊

ラムズドルフ伯ハ栗野公使ニ會見シテ曰ク東京駐劄ロイゼン公使及ヒアレキセイエフ大將ハ業已ニ皇帝ノ命ニ因テ出來得ル限リ速ニ對案ヲ作成シ成ルヘク早ク商議ヲ開始スヘキ旨電訓セラレタリト

九月十日

常備艦隊軍艦退速役務ヲ解カレ第一豫備艦トシ全定員

露國ハ第二次要求案ヲ清國ニ提出ス其ノ要領左ノ如シ
 (駐清内田公使發電) (四月十八日參看)
 一 露國ハ牛莊、鳳凰城、安東縣、遼陽ノ軍隊ヲ撤シ吉林、伊通州、長春、陶賴昭、沙河子ノ軍隊ハ四箇月以内、寧古塔、阿什河、齊齊哈爾、海拉爾ノ軍隊ハ一箇年以内ニ撤スルコト
 二 滿洲ハ如何ナル名義ヲ以テスルモ他國ニ割讓スルヲ許サス
 三 露國松花江沿岸ニ碼頭ヲ築キ守備隊ヲ置クコト猶齊々哈爾濱ヨリフゴウエチエンズクニ至ル沿道ニモ露兵ノ駐屯ヲ許スコト
 四 滿洲ニ電線架設ノ特權ヲ得ルコト
 五 露國ヨリ輸入スル商品ニ對シ現今ヨリ多額ノ稅ヲ賦課セサルコト
 六 滿洲内ニ在ル露清銀行ハ現在ノ儘トシ牛莊ノ關稅收入ノ取扱及ヒ同港檢疫ニ關スル業務ハ現今ノ儘トスルコト
 巡洋艦「ロシーヤ」「グロモボイ」「アスコリド」「ボガツイリ」浦鹽ニ向ケ函館出港 (九月七) (九月七)
 巡洋艦「ボヤーリン」ハ水雷艇第二五五號、第二五六號、第二五七號、第二五八號、第二五九號ヨリ馬山ニ入港ス水雷艇ハ皆濃褐色ニ塗リ煙突ハ第二五五號ハ黒及ヒ薄鼠ニ塗リ他ノ二隻ハ黒ニ塗レリ「ボヤーリン」ノ後橋ニハ無線電信機ヲ裝置シアリト云フ(在馬山浦瓜生司令官報告)
 在旅順増田大尉ノ本日附報告中ニ曰ク目下此ノ切迫ノ

九月十二

軍艦濟遠ハ韓國東海岸ノ測量ヲ終リ釜山ニ歸著ス (八月十一日參看)

九月十一

軍艦高砂及ヒ笠置常備艦隊ニ編入セラル此ノ日高砂ハ吳ヨリ佐世保ニ向ケ航行中、笠置ハ博多灣碇泊
 驅逐艦速鳥ハ本月六日佐世保ニ向ケ横須賀ヲ發シシカ兵庫、三原、糸崎、徳山、福岡ヲ經テ此ノ日佐世保著 (九月十一日參看)
 豫備艦嚴島吳著 (九月七) (九月七)
 水雷艇雁ハ本年七月二十五日吳海軍造船廠ニ於テ竣工受授結了同二十八日佐世保ニ向ケ吳ヲ發シシカ此ノ日佐世保著 (五月四日及五日參看) (九月七)
 水雷艇第二十九號、第三十號、第六十七號、第六十八號ハ大湊ニ向ケ横須賀發 (九月八) (九月八)

時機ニ於テ「リユーリック」「バルフリーダ」「ヂイヤーナ」「ワリヤイグ」其ノ他數多ノ巡洋艦及ヒ砲艦ハ近來出港シタルコトナク亦操練等ヲ施行セス晏然港内ニ繋留スルハ坊間傳説ノ如ク各艦兵員欠乏シテ運轉ヲ爲スコト能ハサルコト事實ナルヤモ計リ難シ元來旅順ノ職工ハ水雷艇工事ニ不熟練ニシテ結果不真ナリシヲ以テ政府ハ本國造船廠ヨリ熟練ノ職工ヲ招致シ目下此ノ工事ニ從事セシム旅順石炭貯藏高ハ英炭三萬噸和炭七萬噸アリ又海軍用糧(麥粉)ハ其ノ三棟ノ倉庫ニ充實シ又陸軍用糧(麥粉)ハ其ノ二十八棟ノ倉庫ニ七分通り貯藏シ又馬糧一万七千石ヲ有スト
 去九日馬山入港ノ「ボヤーリン」及ヒ水雷艇三隻出港ス
 在芝罘水野領事ノ本日附發信ニ曰ク絶東太守府參謀部ハ關東州陸軍參謀部ヨリ別ニ新設セラレ陸軍少將ニ昇進シタルフルーグ右兩部長ニ任セラレタリト
 在旅順増田大尉ノ本日附報告中ニ曰ク同地造船廠使用ノ職工數ハ概子清人千六百八人露人二百八人本邦人十九人アリ(老馬尾工場及ヒ臨時傭人ノモノヲ包含スル總數ナラン)又此ノ日旅順港口最狹部ニ於テ防材布設作業中ナリ蓋演習カ若クハ試験ノ爲メナランカハ知レヌ又鳩灣旅順間ニ電信線開通セリ又目下旅順ニ於テハ三隻ノ浚漕船ヲ使用シテ三個所ニ於テ浚漕工事作業中ナリ又過日一謀者ヨリ聞クニ椅子山砲臺ハ明年七八月頃落成

九月十三
 新ニ艦隊ニ編入セラレタル軍艦高砂吳ヨリ佐世保著
 豫備艦松島佐世保著(九月七)

九月十四
 吳鎮守府在籍水雷艇第五十五號、佐世保鎮守府在籍水
 雷艇小鷹同第二十一號、同第二十四號、同第五十四號ノ
 本籍ヲ横須賀鎮守府ト改定セラレ又横須賀鎮守府在籍
 水雷艇第六號、同第十四號、同第十八號、佐世保鎮守府在籍
 水雷艇福龍、同第十一號、同第二十五號ノ本籍ヲ吳鎮
 守府ト改定セラレ又横須賀鎮守府在籍水雷艇第七十一
 號、舞鶴鎮守府在籍水雷艇第六十號、同第六十一號、同第

ノ豫定案子山砲臺ハ八月上旬落成シタレトモ未タ備砲
 ナシ松樹山砲臺ハ目下改築中工事未タ半ニ至ラスト
 戰艦「レトウヰ」浦鹽内港ヨリ亞母爾灣ニ出ツ
 諸威艦「アギ」號石炭ヲ滿載シテ浦鹽ニ入港ス本船ハ
 蘇士運河船舶出入表ニヨレハカーヂフ港ヨリ石炭六千
 噸ヲ積ミ來レルモノナリ(是年浦鹽入港運炭船三隻ノ
 一)(八月二十)
 戰艦「ツエザレ」(一万二千九百十二噸)ハ佛國ツ
 ーロン港ヨリ驅逐艦「ベドゥイ」「プラーウイ」ハクロンス
 タツト港ヨリ東洋ニ向ケ出發ス
 鐵嶺以南東清鐵道ハ此ノ月上旬降雨ノ爲メ二十五箇所
 破壞セシカ此ノ日ヨリ假開通ヲ爲セリト云フ
 此ノ日ヨリ尼古理斯克附近ニ陸軍大演習ヲ舉行セリト
 傳フ
 義勇艦隊汽船「ヘルツン」號ハ少許ノ雜貨ト若干ノ危險物
 ノ外ニ石炭ヲ搭載シ浦鹽ニ來著ス(八月八)
 去九日函館出港ノ露艦「グロモボイ」「ロニーヤ」「ボガツ
 イリ」「アスコリド」ハ實地演習ヲ終リテ浦港入港
 露國水雷艇第二百十二號、第二百十三號ノ二隻英國國
 「ヴァーニ」著港(八月)
 巡洋艦「ノーツ」ハ浦鹽ニ於テ入渠修理ヲ了リ此ノ
 日亞母爾灣ニ出ツ

六十六號ノ本籍ヲ佐世保鎮守府ト改定セラレ
 水雷艇小鷹ヲ練習艇ト定メ海軍水雷術練習所ニ附屬セ
 シメラル
 水雷敷設隊及リ水雷艇隊配備表左ノ通り定メラル(四月八
 日參看)

所 屬	隊 名	水 雷 敷 設 隊	水 雷 艇 隊
橫須賀水雷團	水雷敷設隊	三	一
大湊水雷團	水雷敷設隊	一	一
吳水雷團	水雷敷設隊	一	一
佐世保水雷團	水雷敷設隊	四	一
長崎水雷敷設隊	水雷艇隊	一	一
竹敷要港部	水雷敷設隊	一	一
馬公要港部	水雷敷設隊	一	一
舞鶴水雷團	水雷敷設隊	一	一
舞鶴水雷艇隊	水雷艇隊	一	一
備 考	水雷敷設隊ハ其ノ所在地名ヲ冠シ其敷設隊ト稱シ又水雷艇隊 ハ艇隊番號ヲ冠シ第何艇隊ト稱ス		

水雷艇隊編制表左ノ通り定メラル(四月八
 日參看)

所 屬	隊 名	艇 名
橫須賀水雷團	第一水雷艇隊	第六七、六八、六九、七〇號
	第二水雷艇隊	第三七、三八、四五、四六號
	第三水雷艇隊	第一五、二〇、五四、五五號
大湊水雷團	第四水雷艇隊	第二二、二四、二九、三〇號

英水雷團	第五水雷艇隊	福龍第二五、二六、二七號
	第六水雷艇隊	第五六、五七、五八、五九號
	第七水雷艇隊	第一、二、一三、一四號
	第八水雷艇隊	第六、一七、一八、一九號
	第九水雷艇隊	雁、蒼鷹、鶴、燕
	第十水雷艇隊	第四〇、四一、四二、四三號
佐世保水雷團	第十一水雷艇隊	第七二、七三、七四、七五號
	第十二水雷艇隊	第五〇、五一、五二、五三號
	第十三水雷艇隊	第七、八、九、一〇號
	第十四水雷艇隊	華、鶴、真鶴、千鳥
	第十五水雷艇隊	雲雀、雄、鷲、鴉
竹敷要港部	第十六水雷艇隊	白鷺、第三九、六六、七一號
	第十七水雷艇隊	第三一、三二、三三、三四號
	第十八水雷艇隊	第三五、三六、六〇、六一號
馬公要港部	第十九水雷艇隊	鷗、鷓、鴒
	第二十水雷艇隊	第六二、六三、六四、六五號
舞鶴水雷團	第二十一水雷艇隊	第四四、四七、四八、四九號

部團水雷敷設隊及水雷艇隊配備表及部團水雷艇隊
 編制表廢セラル(四月八日參看)
 要港部并ニ水雷團所屬水雷艇一箇年間ノ警備就役日數
 ヲ六箇月トシ共ノ所管長官其ノ艇ヲ指定スルコトニ定
 メラル
 海軍水雷術練習所附屬水雷艇小鷹及ヒ各艇隊ノ定員改
 正セラル
 第十一水雷艇隊水雷艇第七十二號、同第七十三號ニハ
 定員ヲ置キ第十一水雷艇隊水雷艇第七十四號、同第七
 十五號、第十五水雷艇隊水雷艇雲雀、同雉、同鷺、同鷓、第
 十六水雷艇隊水雷艇第七十一號、第十九水雷艇隊水雷
 艇鷗、同鷓、同鷓ニハ常分ノ内定員ヲ置カス

九月十五

瓜生司令官旗艦高千穂ハ仁川著後(七月十一日)鎮南浦、大沽
 山海關、牛莊、芝罘、大連灣、威海衛、仁川、木浦、所安島、馬山
 浦鎮海灣ヲ歴航セシカ此ノ日釜山著
 新ニ艦隊ニ編入セラレタル軍艦笠置博多灣ヨリ佐世保
 保ニ向ヒ即日著

在旅順増田大尉ノ本日附報告中ニ曰ク昨十四日ヨリ本
 日ニ互リ巡洋艦二隻、砲艦一隻、水雷敷設船二隻、大小驅
 逐艦出動シ又去十二日布設ニ著手シタル防材ハ港口約三
 分ノ一ヲ塞キ今尙其ノ儘ナリ是等ノ事實ト在浦鹽主力
 艦隊來港ノ説トヲ照合スレハ主力艦隊ハ攻撃軍ト爲リ
 在旅順艦隊ヲ防禦軍トスル方略ヲ以テ演習ヲ開始シタ
 ルモノト察セラル又潛航艇ノ有無多數ニ就テハ調査ニ
 苦心シツ、アレトモ容易ニ確報ヲ得ス又驅逐艦(二百四十
 ナラ)ノ工事進捗ヲ見ルニ三隻ハ完成納附濟、五隻ハ十
 月中ニ完成納附ノ見込、二隻ハ目下船臺ニテ組立中ニ
 シテ本年内ニハ完成ノ見込ナシ又露國ハ「ギンスボル
 グ」商會ノ手ヲ經テ海洋島ニ石炭ヲ貯藏ストノ説アリ
 去十二日來亞爾爾灣ニ於テ實地演習中ナリシレトウ非ザ
 シハ此ノ日浦鹽ニ入港スタルク中將ハ旗艦ヲ「ベト」ロ
 パウロウスクニ復ス(八月六日參看)「モスクワ」ハ此ノ日愈々義
 勇艦隊旗ヲ撤シテ海軍旗及ヒ軍艦旗ヲ掲揚シ海軍少佐
 キンテル該艦々長ニ補セラレタリ同艦ハ必要ナル改造
 ヲ加フル爲メ近々旅順口ニ赴ク由ニテ昨今石炭積入中
 ナリ(在浦鹽川上貿易事務官發信(八月四日參看))
 驅逐艦「ブイストルイ」ベツウブリヨーチヌイ、プレスチ

九月十六

軍艦島海ハ本年七月十四日帝國臣民保護ノ爲メ北清ニ向ヒシカ芝罘、大沽、山海關、營口ノ各港ニ歴泊シテ後此ノ日佐世保ニ歸著

ヤシチーノ三隻佛國ハ一ブルニ著(九月三)

在北京某外國人ハ旅順口ニ關スル覺書ヲ本日同地ヨリ發送ス其ノ書中ニハ港内ニウスキー造船工事、港口外ノ防材布設、内港浚渫、新運河工事ノ中止、石炭貯藏高(合計約十二万)老鐵山岬要塞ノ新設、極東ニ於ル露國ノ伐木及ヒ採鑛事業、樞密顧問官ベソブラソフニ關スル件ヲ列舉ス

運送船兼機關兵練習艦「オケアン」ハ軍艦旗ヲ掲揚シ旅順ニ入港ス(九月一)

十四日以來亞爾爾灣内游弋中ナリシ「ノッヅク」歸港馬賊首魁林棠蔭(林七トシテ邦人間ニ知ラル)ハ露國ノ暴政ヲ惡ミ志ヲ驕シテ龍岩里ヲ脱ス(五月二十)

去十一日馬山浦出港ノ「ボヤーリン」及ヒ水雷艇三隻浦鹽ニ入港ス

在旅順増田大尉ノ本日附報告中ニ曰ク昨十六日以來ノ旅順口二三ノ砲臺ニ於テ砲聲聞エシカ本日早朝「アツワ」シスイ及ヒ「ザビヤカ」カ標的ヲ曳キ出港セシヨリ察スルニ海面要塞ノ射擊演習施行中ナラン又過般來旅順艦艇ノ大連灣出入頻繁ナルハ目下演習第一期ノ各個操練施行中ナルモノ、如ク又大連灣駐在兵ノ移動及ヒ旅順砲兵一部ノ輸送モ海軍ニ伴フ演習ノ爲メナラント

九月十七

軍艦宇治上海ニ向ケ吳發(九月七)日高常備艦隊司令長官ハ左ノ日令ヲ發ス
一、常備艦隊軍隊區分左ノ如ク改ム(九月五)

○主隊

- 第一戰隊 富士、八島、敷島、朝日、初瀬、三笠
- 第二戰隊 淺間、常磐、八雲、吾妻、磐手、出雲
- 第三戰隊 吉野、千歲、須磨、明石、笠置、高砂
- 第一驅逐隊 曉霞、朝潮、白雲
- 第二驅逐隊 陽炎、海雲、漣、龍
- 第三驅逐隊 春雨、村雨、速鳥
- 第四驅逐隊 雷、電、曙

○警備枝隊

- 高千穂、千代田、秋津洲、宮古、濟遠、島海、宇治
- 二、中溝司令官ヲ第二戰隊指揮官ニ任シ其ノ旗艦ヲ常磐ニ指定ス
- 第二戰隊ヲ率テ舞鶴軍港ニ回航シ何分ノ令アルマテ該軍港若クハ附近ニ在テ訓練ニ從事スヘシ
- 但出雲、淺間ハ修理完成次第同地ニ回航セシムヘシ
- 三、第一戰隊ノ分離行動中第二驅逐隊ヲ第一戰隊ニ附屬セシメ其ノ組合ヲ定ムルコト左ノ如シ
敷島—海雲 初瀬—陽炎
朝日—漣 八島—龍
- 四、本職出京中佐世保方面ニ於ル主隊ノ指揮ハ梨羽司令官之ヲ兼掌スヘシ

九月十八

水雷艇第七十三號ハ本年九月二日横須賀造船廠ニ於テ竣工受授結了同五日佐世保ニ向ケ横須賀ヲ發セシカ此ノ日佐世保著(九月二十)

在浦鹽川上貿易事務官ノ本日附發信ニ曰ク目下當港碇泊ノ軍艦ハ戰艦「ベトロパウロウスク」(スタルク中將旗艦)、「ベレスウエート」(公爵ウフトムスキー少將旗艦)、「レトウ井ザン」(ボベータ)、「ホルターワ」(セリストーポリ) (以上八月)巡洋艦「ロシーヤ」(シタケルベルク少將旗艦) (四月發着)

「グロモボイ」ボガツイリ「アスコロド」(以上九月十日)「ノ
ウ非ク」(八月五日)及ヒ「ボヤリー」(九月十七日)「ノ十二」(二隻ニシテ
水雷艇ハ第二一號、第二二號、第二三號、第二四
號、第二五號、第二六號、第二七號、第二八號、第二九號、第
三十號及ヒ第二十一號ノ十隻ト他ニ小形水雷艇七
隻ナリ其ノ内五隻ハ修理ノ爲メ陸上ニアリ戦艦「ベトロ
パウロウ」及ヒ「レトウ」二隻ハ此ノ日午後俄
ニ灰黒色ニ塗換ヘタリ露艦ノ動靜ヲ内偵スルニ戦艦六
隻ハ九月廿三日午後浦鹽拔錨旅順口ニ航行スル模様ア
リ其ノ航行ノ途中ニ於テ演習ヲ行フ由ニテ旅順著ハ一
週間ノ後ナルヘク各艦何レモ出港準備ニ汲ケタル概ア
リ又在港軍艦中「アスコロド」ヲ除キ戦艦「ベトロパウロ
ウ」以下十一隻ハ悉ク當地ニ於テ修理ヲ了ス(八月
一號)旅順口ヨリ回航シタル水雷艇第二五、六、八號ノ三隻
(本月十七日)モ昨日ニ至リ悉ク修理ニ著手シタリト
アスカバットヨリ輸送シタル増設鐵道大隊遼陽ニ著ス
以後同地ニ駐屯スル由ナリ(在營口川橋陸軍(八月六日)
非兵大尉發電)(日參看)

在浦鹽假裝巡洋艦「アンガラ」(元ト「モスクワ」)ハ此ノ日
彈藥ヲ積入ル(九月十五)
極東太守新設ノ結果ス「ポーチ」ハ愈々沿里龍總督ヲ罷メ
ラレ此ノ日ハバロフスク出發歸京ノ途ニ就キタリ然レ
トモ同總督府ハ暫ク存置シニコリスク軍團長リネウ非ッ
チ中將代理トシテ目下同地ニ滞在中ナリト云フ
驅逐艦「アイヌイ」ハ佛國シエールニ

中溝常備艦隊司令官ハ旗艦ヲ初瀬ヨリ常磐ニ變更ス
(九月五日)
(日參看)

九月十九

軍艦出雲佐世保ニ於テ入渠ス滯渠十日間ノ豫定ナリ

九月二十

此ノ頃ヨリ通信連絡ヲ迅速ナラシムル爲メ特ニ北見國
宗谷岬ノ望樓ニ充員シ尙陸奥國龍飛崎、佐渡國彈崎、隱
岐國西郷、壹岐國壹岐崎ハ必要ニ應シテ充員スルコト
ス

九月二十

軍艦富士吳ニ於テ入渠修理ヲ了リ此ノ日佐世保ニ向ケ
吳發(八月二十)
(七日參看)

九月二十

「ベドワイ」ブライワイハ英國ドーヴァーニ著(九月五日及ロ)
(同十二日參看)

露國水雷艇第二二一號、第二二二號、第二二三號ハ獨國キ
ール港ニ在泊ス(八月二十)
(四日參看)

駐清内田公使ノ本日附發信ニ曰ク駐清露國公使ハ三四
日前更ニ書ヲ慶親王ニ致シテ十月八日即チ第三撤兵期
マテニ利ス所僅ニ三週間ノ今日清國ニ於テ遲滞ナク我
カ要求ニ應セサレハ遂ニ最後ノ機會ヲ失スヘシト云ヘ
ル由本日英國公使ヨリ傳聞セリト
曩ニ露國ハ龍岩里ノ上部龍巖山ノ頂ニ砲臺様ノ土工ヲ
始メタリトノ風評アリシモ後砲臺ニアラスシテ信號臺
ナラントノ説眞實ラシク傳ヘラレ又此ノ日頃ニ至テ安
東縣ニ於ル露國兵營背後ノ高地ニモ同様ノ土工ヲ施セ
リト云フ右兩者共ニ無線電信竿ヲ建ツヘキ土臺ニシテ
既ニ陸上電線ノ困難ナルヲ曉リ之ニ代エント欲スルモ
ノニアラサルヤノ説アリ
昨夜東清鐵道會社汽船一隻ハ浦鹽ニ於テ野砲十餘門ヲ
積入レ今朝ボシエツト灣ニ向ヒ出港セシカ數時間ヲ經
テ歸港ス
義勇艦隊汽船「タムボフ」號東洋ニ向ヒ蘇士運河ヲ通航ス

本邦駐在露國公使ロゼン男ハ極東太守アレキセイ
フト協議ノ爲メ旅順ニ向ケ東京ヲ出發ス
砲艦「ギリヤーク」ハ去四月八日以後旅順營口、上海ニ出入

九月二十

中溝常備艦隊司令官ハ第二戰隊(出雲、淺間)ヲ率非小濱ニ向ヒ佐世保發

九月二十

軍艦富士ヨリ佐世保著第一戰隊ニ合ス(九月二十)水雷艇第七十二號ハ本年九月八日横須賀海軍造船廠ニ

セシカ此ノ日上海ヨリ長崎入港
在旅順増田大尉ノ本日附報告中ニ曰ク此ノ日黄金山砲臺ニ於テ射撃ヲ施行ス其ノ現状ヲ見ルニ主砲臺ニ於テ五門ヨリ發射シ其ノ左翼副砲臺モ亦五門ヨリス又旅順口駐屯歩兵約二個大隊小銃射撃施行ノ爲メ進軍シ海陸共多少ノ活氣ヲ帯ヒ來リタルモノ、如シト
本日附浦鹽發信ニ曰ク浦鹽海軍炭庫ノ中列ト西列ノ兩通路ヨリモ石炭ヲ搬出スルヲ認メタルコトモアリ(八月十三日)又本年上半年浦鹽ニ輸入シタル石炭ハ約二万七千三百三十四噸ニシテ主ニ薩哈噠島ヨリ輸入シタルモノナリト

在浦鹽川上貿易事務官ノ本日附發信ニ曰ク當港碇泊ノ戰艦六隻、巡洋艦六隻ニ「アングラ」(元ト「モスクワ」ヲ加ヘ總計十三隻左ノ順序ニテ出港ス(八月四日同、五日同、十八日)「アスコリド」、「ボガツイリ」、「ロシーヤ」、「グロモボイ」、「ペトロボウロウスク」、「ボルターワ」、「ベレスウエート」、「レトウ非ザン」、「セワストーポリ」、「ボペーダ」、「アングラ」ノ「ウフク」、「ポヤーリン」
此ノ日浦鹽ニ入港セシ神戶丸船長ノ報告ニ依レハ當時水雷艇八隻同所造船廠前ニテ修繕中ナリト
裝甲巡洋艦「リュウリック」旅順ヨリ長崎入港(八月二十)「リュウリック」ハローゼン公使ヲ乗セ旅順ニ向ケ長崎出港砲艦「ギリヤーク」長崎出港(九月二十)

於テ竣工受授結了同十七日佐世保ニ向ケ横須賀ヲ發セシカ此ノ日佐世保著(六月二十) (五日參看)

九月二十

去二十三日佐世保ヲ發シタル第二戰隊(出雲、淺間)本

九月二十

軍艦淺間ハ去十七日船體機關修理竣工シ同十八日汽走力公試結了ニ付此ノ日佐世保ニ向ケ吳發(九月)瓜生司令官旗艦高千穂釜山ヨリ馬山浦ヲ經テ此ノ日佐世保入港(九月十四)水雷艇第二十一號及ヒ第二十四號ノ二隻ハ横須賀ニ於テ修理ノ上津輕海峽警備艇第六十七號、第六十八號ト交代ノ命ヲ受ケ此ノ日横須賀ニ向ケ竹敷發(九月八)

砲艦「コレット」ハ去四月八日以後上海仁川、旅順ニ出入セシカ此ノ日旅順ヨリ營口入港
在旅順増田大尉ノ本日附報告ニ曰ク旅順口海正面要塞(牧猪礁、高砲臺、黄金山砲臺、同副砲臺、鷓冠山砲臺)ノ射撃結了スト(九月十七)在浦鹽義勇艦隊汽船「ヘルツン」號ハ此ノ日ヨリ武裝ニ著手セシカ其ノ作業ノ模様ヨリ見レハ同船ニハ大小二十四門ノ速射砲ヲ裝置スルモノト認ム(在浦鹽川上)在浦鹽本邦人某ハ露西亞島ボボノフ島及ヒレイニシ島ノ周航視察記事及ヒ説明圖ヲ本日附ニテ提出ス此ノ航海ノ目的ハ第一ニルースキー山砲臺ノ射距離及ヒ同處附近ニ其上陸點ノ有無ヲ視察シ第二ニ右三島ノ軍事設備ヲ確ムルニアリ

砲艦「ギリヤーク」長崎ヨリ釜山入港(九月二十)巡洋艦「ポヤーリン」浦鹽ヨリ元山入港即日日出港(九月二十)汽船伊勢丸船長ハ本邦ヨリ芝罘ニ向フノ途中此ノ日巨文島沖ニテ露艦十二隻ノ西行スルヲ見タリト云フ
ローゼン公使ノ乘艦「リュウリック」旅順口入港(九月二十)砲艦「ギリヤーク」釜山發行先不明(九月二十)在旅順増田大尉ノ本日附報告中ニ曰ク旅順口造船廠尾工場常備職工ノ數ハ露人六十七、清人五百四十合計六百七但臨時傭入多數アルモ不詳ト(九月十二)本日附浦鹽發信ニ曰ク浦鹽ニ於テハ目下豫備兵召集中

七月二十

軍艦千代田ハ入渠修理ヲ了リ此ノ日仁川ニ向ケ佐世保發(八月三十)

ナリト(七月三十)

露國艦隊ハ此ノ日ヨリ第二期演習ニ移リタルモノ、如ク港内ニアリタル艦艇ハ演習ニ參加艦艇「ワリヤーク」「グレミヤーシチー」「ツジギート」「ラズボイニク」「エルマ」「ク」「オケアム」驅逐艦五隻ノ外ハ總テ出港(在旅順増田大尉報告)(九月十五)

八月二十

日高常備艦隊司令長官ハ旗艦ヲ敷島ヨリ一時朝日ニ變更シ第一戰隊(敷島欠)第三戰隊(明石欠)第一(霞欠)第二(第三(春雨欠)第四驅逐隊(曙欠)ヲ率井鎮海灣ニ向ケ佐世保發(九月十七)

在釜山但馬濟遠艦長ノ本日附報告ニ曰ク露艦「ギリヤーク」艦長ハ去二十六日出港ノ際松田灣ニ向フヘキ旨小官ニ告ケシニモ拘ラス露國領事ハ我カ領事ノ問ニ對シテ該艦ハ城津ニ急航シ我カ仲仕カ露國醫署ヲ毆打負傷セシメタル事件ヲ查察シ再釜山ニ歸港スヘシト語レリト

九月二十

驅逐艦曙目下佐世保入渠中
水雷艇第二十九號、第三十號、第三十七號、第三十八號ハ横須賀發後處々ニ寄港セシカ此ノ日大湊著(九月十)

巡洋艦「ツジギート」ハ是迄旅順港口檢疫船タリシカ此ノ日入渠ラズボイニクニ代ル
巡洋艦「ボヤーリン」元山ヨリ旅順口入港石炭ヲ積込ミ直ニ港外ニ出ツ(本月二十)

九月二十

常備艦隊主隊鎮海灣著港灣占領基本演習ヲ施行ス
宗谷岬望樓ニハ横須賀鎮守府下士卒ノ中ヨリ一名臨時

本日附釜山發信ニ曰ク露艦「ギリヤーク」ハ多分松田灣ニ向ヒタルナラント(本月二十)

九月三十

軍艦高砂吳ニ向ケ鎮海灣發(同艦ハ東宮殿下瀬戸内御巡航ノ御召艦ト爲リシニ付其ノ準備ノ爲メ吳ニ向フモノナリ)
驅逐艦曙出渠(九月二十)

増遣シ龍飛崎、澤崎、西郷壹岐崎ノ四望樓ハ必要ニ應シ下士卒ヲ以テ充員セシムルコト、爲ス(九月二十)
軍艦千代田仁川著(本月二十)

在旅順増田大尉ノ本日附報告中ニ曰ク二十九日午前七時頃ヨリ約一時間海岸要塞(牧猪礁、黄金山、鷓冠山、饅頭山、鐵子營等)ト艦隊トノ間ニ砲戰演習アリ此ノ演習中砲臺掩護ノ下ニ港外ニ碇泊ノ軍艦ハ「ボヤーリン」「アツワージヌイ」「コレーツ」「アムール」「エニセイ」「ザビヤ」カ驅逐艦七隻ナリ旅順攻撃艦隊ハ三隻ニシテ砲擊ヲ終リ渤海灣方面ニ進航セリ又旅順海兵團副長ノ談ナリトテ傳聞スル所ニ依レハ浦鹽ヨリ來ルヘキ艦隊ハ十月三日入港ノ豫定ナリト云フ想フニ演習ハ該日ヲ以テ終結スルナラシカ又港口防材ハ其ノ後西岸ヨリモ港口ノ約三分ノ一迄布設セリ(九月十五)

在芝罘山下海軍大佐ノ本日附發信ニ曰ク在旅順増田大尉ヨリノ報告ニ依レハ露國艦隊ハ九月二十八日頃ヨリ演習開始十月三日頃終局スルモノ、如シト
在釜山但馬濟遠艦長ノ本日附報告中ニ曰ク馬山浦駐在露國領事「ゴザフ」ハ巧ニ釜山監理ヲ籠絡シテ釜山居留地ト草梁トノ間ニ於ル約一万五千坪ノ地面ヲ官有地拂下名義ノ下ニ不當ノ廉價ニテ買収セリ又此ノ日浦鹽ヨリ釜山ニ入港セル神戸丸船長ノ報スル所ニ依レハ二十八日朝同船カ城津寄港ノ際露艦一隻入港セシモ問モナク出港セシニ付之ヲ城津海關長(本邦人)ニ問ヒシニ海關長ハ該艦ニ就テ艦名及ヒ艦長ノ氏名ヲ尋ネタルニ實ヲ語ラス頗ル曖昧ナリシト言ヘル由依テ察スルニ該艦ハ「ギリヤーク」ナラシカ(本月二十六日同)又其ノ筋ノ保

附

此ノ日午後五時頃京城景福宮ノ前方ニ於テ韓兵我カ郵便配達夫及ヒ洋服店ニ暴行ヲ加ヘタリ右ニ付我カ公使ハ韓廷

護ヲ受ケテ六年間朝鮮ノ水産事業ヲ管理セル某カ今夏
漁場實査ノ目的ヲ以テ豆滿江ノ右岸ニ沿ヒ慶興附近ニ
陸行シ對岸ノ情況ヲ偵知シ數日前釜山ニ歸リ語ル所ニ
依レハ露人ハ韓境ヲ警戒スルコト意外ニ嚴重ニシテ船
番所及ヒ渡船場ニ於テハ溯江ノ小舟及ヒ旅行者ニ對シ
テ檢問苛酷ヲ極メ貿易ニ行クヲ許サ、ルヲ以テ目下對
岸トハ幾ト交通遮斷ノ有様ナリ某ノ如キモ軍事探偵視
セラレ江身ヲ下ルコト能ハスシテ空シク歸レリ又露人
ハ慶興監視黃新永ヲ日本黨ト視テ猜疑シ幾ト之ヲ幽閉
同様に束縛ス又豆滿江口慶興間沿道ハ沼澤泥濘多クシ
テ到底砲車輻重ヲ通スル能ハスト云フ

露人ハ林七ノ來襲ニ備フル名義ヲ以テ龍岩里ニ砲臺ノ
建設ヲ始ム(後之ヲ散步場ニ改造セシト稱スレトモ必
要ニ應シ砲臺トナスニ難カラスト云フ)
去十六日龍岩里ヲ脱シタル露國使役ノ馬賊首魁林七
ハ露國ノ信賴スヘカラサルヲ悟リ却テ反意ヲ起シ日本
帝國ノ爲メニ力ヲ效サント稱シテ芝罘ニ到リ帝國領事
館ニ投セシカ清國地方官ノ探知スル所トナリ此ノ日館
外遊歩中捕ハレ即時死刑ニ處セラレタリ(本月十六日)
旅順方面ニ於テハ北風猛烈ナルヲ以テ此ノ日露國艦隊
ハ演習ヲ中止シタルモノ、如シ驅逐艦ハ悉ク歸港ス此
ノ夜金州灣方面ニ於テ探海燈ノ光ヲ認ム蓋二十九日
砲臺ヲ攻撃セシ後渤海灣ニ入りタル艦隊ノ假泊セシモ
ノナルヘシ(在芝罘增田大尉報告)

記

ニ對シ嚴重ノ申込ヲ爲シ五箇條ノ要求ヲ提出ス

十月二日

驅逐艦叢雲、朝霧常備艦隊ニ編入セラル右二艦ハ此ノ
日佐世保ニアリ

軍艦敷島鎮海灣ニ向ケ佐世保發

軍艦淺間ハ佐世保ヲ經テ此ノ日小濱ニ著シ第二戰隊ニ
合ス(九月二十
六日參看)

軍艦高砂吳著

軍艦明石ハ吳ニ於テ修理竣工セシニ付第三戰隊ニ合セ
ンカ爲メ此ノ日佐世保ニ向ヒ吳發(九月九
日參看)

驅逐艦霞、春雨佐世保ヨリ鎮海灣著各其ノ隊ニ合ス

十月二日

海軍軍令部ニ於テ東洋派遣露國艦艇出入渠調査表ヲ印
刷配布ス(十月二日刊行海軍軍
令部情報第六十八號)

軍艦敷島鎮海灣著主力艦隊ニ合ス

十月三日

海軍軍令部長ハ廣島灣口防禦水雷計畫下ノ關海峽防
禦水雷計畫、舞鶴港口防禦水雷計畫及ヒ長崎港防禦水
雷計畫ヲ改定シ計畫書防禦圖ヲ必要ノ諸向ニ配布ス
常備艦隊第一戰隊第三戰隊(明石、高砂、第一、第二、第
三、第四)驅逐隊鎮海灣ヲ發ス

明治三十六年十月

六十九

露艦「リユートリク」長崎入港即日旅順へ向ケ出港(九月二
日參看)

旅順方面ニ於テハ北風未タ歇マス何等ノ演習モ施行セ
ス露國艦隊演習ノ經過ニ就テハ聞ク所ナシト雖モ其ノ
主力ハ浦鹽ヲ發シ朝鮮海峽ヨリ旅順ニ至ル間ニ演習ヲ
施行シ此ノ日ヲ以テ終結セルモノ、如シ(在芝罘增田海
軍大尉報告)
露國ハ和炭十萬噸買入レ之ヲ本年十月ヨリ三十七年一
月マテノ間ニ旅順口へ輸送スルノ契約成立セリ(十月一
日刊行海軍軍令部情
報第六十五號)

去九月二十三日浦鹽ヲ發シタル露國艦隊ノ主力ハ、ボ
ヤーリン(九月二十
八日參看)ノ外旅順ニ到着ス

此ノ日發刊ノ「ノーウオエ、ウレミーヤ」ニ曰ク露國北韓
森林會社役員ハ社長男爵ギンズブルグ(猶太人)幹事シ
テイゲル(同上)、旅順代理店長ヂウオトフスキー(同
上)、鴨綠江代理店長スキードリスキー(波蘭ノ猶太人)
ナリト

ローゼン公使ハ此ノ日旅順口ヨリ東京ニ歸來シ(九月二
日參看)小村外務大臣ヲ訪ヒアレキセイエフ太守及ヒ同公使
ヨリ露國皇帝陛下ノ允裁ヲ經タルモノナリトテ露國對
案ヲ手交ス之ヲ第一回ノ露國對案トス此ノ對案ハ八箇
條ヨリ成リ其ノ第四條ハ日本軍隊ヲ韓國ニ送還スル場

十月四日

第一戰隊鎮海灣ヨリ今福著第三戰隊中吉野千歲須磨驅逐艦雷電春雨速島村雨鎮海灣ヨリ佐世保著日高司令長官ハ將旗ヲ朝日ヨリ敷島ニ復ス
第二戰隊(出雲欠)小濱ヨリ舞鶴著
軍艦出雲出渠(九月二十日參看)

十月五日

軍艦笠置ハ昨日第三戰隊ヨリ離レ單獨片島附近ニ於テ艦砲射撃ヲ施行シ本日佐世保入港

合及ヒ權利ニ關シ第五條ハ韓國領土ノ一部タリトモ日本ニ於テ軍略上ノ目的ニ使用セザルコトニ關シ第六條ハ韓國領土ノ内北緯三十九度以北ノ部分ヲ中立地帯ト爲スコトニ關シ第七條ハ滿洲及ヒ其ノ沿岸ヲ全然日本ノ利益範圍外ト爲スコトニ關ス而テ此ノ對策中ニハ滿洲南部ニ於ル我カ鐵道經營ノ件ヲ削除ス
歐露増遣隊(九月二十日參看)ノ内約二個聯隊ハ大砲馬匹及ヒ林草等ト共ニ去九月二十八日ヨリ此ノ日ニ互リ日々鐵道ニテ浦鹽ニ下車シ東清鐵道汽船四隻ヲ以テボシエツト方面ニ轉送ス(在浦鹽川上貿易事務官報告)

旅順口ニ於テハ去二日主力艦隊入港シ此ノ日又「ボヤーリン」入港セシヲ以テ在泊艦船左ノ如シ
「レトウ非ザン」「ベレスウエート」「ボベータ」「ペトロパウロウスク」「セリスストーポリ」「ポルターワ」「グロモボイ」「ロシーヤ」「バルラード」「ヂイヤーナ」「ボガツイリ」「ワリヤード」「アスコリド」「ボヤーリン」「ノウツ井ク」「オケアン」砲艦七「アンガラ」(舊モスクワ號)
本國ヨリ材料ヲ輸入シ旅順ニ於テ組立テタル驅逐艦十二隻ノ内「ストロイヌイ」進水ス

砲艦「シウーチ」ハ去四月八日以後牛莊旅順仁川ニ出入セシカ此ノ日旅順ニ向ケ仁川出港
砲艦「ギリヤーク」釜山入港(九月二十八日參看)
増田大尉ハ本日旅順ヨリ芝罘ニ歸著ス其ノ同日附報告

十月六日

第二戰隊(出雲欠)舞鶴發小濱ニ向ヒ即日著
軍艦明石ハ吳ヨリ佐世保著第三戰隊ニ合ス(十月一日參看)
第一驅逐隊大瀨崎、福江、長崎ヲ經テ此ノ日佐世保著驅逐艦曙面高ニ向ケ佐世保發即日著(十月三日參看)

十月七日

海軍大臣ハ常備艦隊附屬驅逐隊ハ此ノ際最整備ヲ必要トスルヲ以テ可成巡航ヲナサス共ノ隊ノ建制ヲ被ラ

中ニ旅順口ノ東西港内ハ露艦隊全部ヲ容レ得ヘントスルモ全力籠居ノ勢ニ迫ラハ東洋各港ニ往復スル彼ノ商船ヲ自由ニ出入セシムルノ餘地アラスト言ヒ添フルニ出發ノ當時ニ於ル旅順港内露國艦船ノ現在位置見取圖ヲ以テス

清國政府ハ此ノ日ヲ以テ來八日マテニ滿洲ヨリ撤兵スヘキコトヲ露國公使「レツサル」ニ督促シタルニ同公使ハ清國カ露國ノ要求ヲ容ル、ニアラサレハ撤兵ヲ實行シ難シト答ヘタリ清國政府ハ元ヨリ來八日迄ニ露國カ撤兵スヘキコトヲ豫期シタルニアラサレトモ期日切迫ニ付形式上一應スル交渉ヲ爲シタルモノ、如シト云フ

砲艦「ギリヤーク」長崎ニ向ケ釜山出港(十月五日參看)
在營口川崎陸軍歩兵大尉ノ本日附發電ニ曰ク六尹砲十門旅順ニ著セリト
在浦港川上貿易事務官ハ歐露増遣兵ボシエツト上陸ノ件(九月三日參看)及ヒ彈春フンチユンスキー、カラウール、ノウオキー、エフスク、ボシエツト駐屯露兵ノ員數及ヒ配置ニ關スル密偵ノ結果ヲ本日附ニテ報告ス
義勇艦隊汽船「コストロマ」號ハ東洋ニ向ヒ蘇士運河ヲ通航ス

在京城吉田海軍少佐ノ本日附發電ニ曰ク在仁川港、ロンドン商會ハ露國人ノ委託ヲ受ケ百五十石積船三十

スシテ適宜佐世保又ハ其ノ附近ニ持重スヘキ旨ヲ命ス
日高司令長官ハ驅逐隊ノ編制ヲ左ノ如ク改ム(九月五日
同十七日
看)

第一驅逐隊 曉霞朝潮白雲

第二驅逐隊 陽炎薄雲澁叢雲

第三驅逐隊 春雨村雨速鳥朝霧

第四驅逐隊 雷電曙嘯

日高司令長官ハ戰隊諸艦ト驅逐艦トノ組合ヲ左ノ如ク
改ム(九月五日同
十七日看)

敷島一砲 初瀬一霞 朝日一雷

富士一電 八島一曙 三笠一白雲

淺間一澁 磐手一薄雲 吾妻一叢雲

出雲一陽炎

千歳一春雨 吉野一村雨 高砂一速鳥

笠置一朝霧

第二戰隊ノ分離行動中叢雲ノ母艦ヲ臨時八島ニ指定ス

第一戰隊今福發佐世保著途中高速力運動ヲ施行ス

軍艦出雲ハ小濱ニ向ケ佐世保出港(九月二十
日看)

軍艦八雲ハ入渠ノ爲メ佐世保ニ向ケ小濱發

第二驅逐隊釜山、長崎ヲ經テ此ノ日佐世保著

驅逐艦曙面高發即日佐世保著(十月七
日看)

十月八日

小村外務大臣ハ我カ提案并ニ露國ノ對案(本月三
日看)ヲ基礎
トシ且出來得ヘクハ露國ヲシテ我カ提案ノ根本主義
(八月三
日看)ヲ承認セシムルノ趣意ヲ以テ此ノ日露國公使ト

莫買收シツ、アリ其ノ成否未詳ナリト
砲艦「ボープル」鎮南浦入港(九月二十
七日看)

砲艦「ギリヤーク」釜山ヨリ長崎入港(十月六
日看)

砲艦「ボープル」大連灣ニ向ケ鎮南浦出港(十月七
日看)

砲艦「アツワリシヌイ」ハ去四月八日以後旅順上海長崎
ニ出入セシカ此ノ日旅順ヨリ營口入港

十月九日

會商ヲ開始ス
第二戰隊(出雲、八雲、小濱)舞鶴著
軍艦宮古七月三日以來上海ニ在泊セシカ此ノ日基隆ニ
向ケ出港(七月三
日看)

軍艦海門ハ本年三月十日測量ノ爲メ韓國ヘ派遣セシメ

ヲレ同四月十一日測量地ニ向ヒ佐世保ヲ發シ爾來羅州

群島ナシ、群島淺水海灣其ノ他韓國西岸諸島ヲ測量

セシカ此ノ日歸朝セシメラル

第二戰隊(出雲、八雲、小濱)舞鶴發小濱著出雲ハ佐世保ヨ

リ小濱ニ來著直ニ舞鶴ニ回航載戻ス八雲ハ小濱ヨリ佐

世保著

在釜山濟遠艦長海軍中佐但馬惟孝ノ本日附報告中ニ左

ノ事項ヲ載ス

多年國際上ノ懸案タリシ京義鐵道敷設權ハ愈々本邦

人ノ手ニ獲得スル所ト爲レリ表面上ハ西北鐵道局

(韓國官廳)ト大韓鐵道會社トノ共同事業トシテ敷設

シ該會社ハ名義上英國「ホルム、リンガー」商會支配人

十月十日

此ノ日ハ露國第三撤兵期即チ黑龍江省全部ヨリ露國軍

隊撤退ノ期日ナルモ更ニ撤兵ノ模様ナシ

驅逐艦「ベドゥイ」「プラーウイ」佛國シエルプールニ

著港(九月十九
日看)

此ノ日新嘉坡現在ノ英炭敷量ハ約二萬一千噸ナリ右ノ

內露國ハ「ギンスブルク」商會ノ手ヲ經テ英炭四千噸ヲ

同地ニテ買占ム(在新嘉坡三井物産會社支店發電)

巡洋艦「アウローラ」東洋ニ向ケ露都ヲ發ス

砲艦「ボープル」仁川入港(十月八
日看)

此ノ夜旅順ヨリ陸兵ノ船舶輸送ヲ行フ其ノ船名及ヒ行

先不明(在芝罘山下海軍大佐發信)

臨時黑龍州軍管區司令官リネウヰツ中將ハ本日附ヲ

以テ歐路ヨリ絶東ヘ送遣シタル歩兵二個旅團及ヒ砲

兵二個大隊)全部黑龍州軍管區所屬ニ編入シタルコトヲ

告示ス

十月十日

驅逐艦「アイヌイ」及ヒ「ボードルイ」ハ佛國プレストニ

著港(九月十九
日看)

砲艦「ギリヤーク」長崎出港行先不明(十月七
日看)

砲艦「ボープル」旅順ヨリ仁川入港(十月七
日看)

此ノ日在芝罘水野領事ハ在旅順米國人(官吏ニアラス)

ヨリ左ノ報ヲ得タリ同官ハ正確ヲ保セストシテ之ヲ轉

電ス

巡洋艦四隻昨九日密封命令ノ下ニ出港セリ野戰電信

トノ契約ニ依リ同人ヲシテ一切ノ下請負ヲ爲サシムル都合ナルモ實際ハ日本政府ト大韓鐵道會社トノ協定ニ依リ全然敷設事業ヲ獨占スル筈ナリト
測量艦海門木浦發佐世保ニ向フ(十月九日參看)

十月十二

第二戰隊(出雲、八雲欠)佐世保ニ向ケ小濱發
出雲舞鶴港口ニ出テ第二戰隊ニ合ス
瓜生司令官旗艦高千穂吳淞ニ向ケ佐世保發(九月二十一日參看)
軍艦宮古上海ヨリ基隆著(十月八日參看)
此ノ日頃ヨリ木邦汽船慶寶丸及ヒ和歌浦丸(約百二十噸)ノ二隻毎月約三回乃至五回ノ豫定ニテ仁川ヨリ鎮南浦及ヒ安川ヲ經鴨綠江ニ至ル航海ヲナス

隊ハ直ニ準備スヘキ様命セラル七十噸ノ陸用電信線ハハバロフスヨリ到着セリ鐵道守備隊ハ充分ナル糧食ノ準備ヲ爲セルヨリシテ人心激昂セリト
本日附浦鹽通信ニ曰ク義勇艦隊汽船「ヘルソン」號ハ全部共ノ武裝ヲ終了セリ同號ハ近々「レナ」ト改稱艦籍ニ編入シ艦長ニハ少佐ツンデルマン補職セラルヘント云フ同號ハ昨夕マテハ義勇艦隊旗ヲ掲ケ居レリト(九月十三日參看)
在釜山但馬濟遠艦長ノ本日附報告中ニ此ノ頃露人ハ木邦人及ヒ英國人ヲ猜視スルコト愈々甚シク東清鐵道長崎支店員タル英國人及ヒ釜山支店員タル木邦人ヲ初メトシテタルニ「築港技師タル木邦人等ヲ秘密瀆洩嫌疑」トシテ解雇スルニ至レリト云フ
露國ハ此ノ日遼陽ヨリ歩兵二中隊及ヒ砲二門ヲ出シ再奉天ヲ占領ス其ノ口實トスル所ハ冬期ニ迫ルモ兵營未タ完成セスト云フニ在リ露兵ハ支那兵ニ代リ城門ヲ守備セリ又清國電信局ハ露軍ノ管理下ニ歸シ電信ヲ接受セス(在營口川崎陸軍歩兵大尉發電)

在芝罘山下大佐ノ本日附發電ニ旅順ニ於テハ近來警戒殊ニ嚴重軍艦ハ黒色ニ近キ濃厚鼠色驅逐艦ハ海鼠色ニ塗替タリト
此ノ日アレキセイエフ太守旅順口ニ於テ閱兵式ヲ舉行ス其ノ節特ニ木邦人總代日野某ヲ召見シ太守直接ニ多數木邦人ノ觀覽ヲ勸誘シ且閱兵式當日ニハ露官ヲシテ周旋歡待セシム右ハ第三撤兵期ト定メラレタル本月八

十月十二

軍艦秋津洲ハ五月十三日福州著以來馬公安平、基隆、上海、澎湖島、廈門ノ各港ニ出入在泊シテ後此ノ日佐世保ニ向ケ基隆發(五月十日參看)

日以後種々ノ流説旅、大間ニ傳ハリ露國艦艇ノ塗色變更、海陸兩軍ノ行動、在ダルニ「三井支店」引揚準備等ノ爲メ一時人心動搖シ在旅木邦人中急ニ引揚ケタル者スラアリ總代日野某芝罘ニ急行シ万ノ場合ニ保護方ヲ願出ツル等騒然タル有様ナリシヲ以テ常ニ木邦人ノ去留ヲ以テ和戰ヲトスル露清人職工間ニ恐慌ノ念波及シ著手中ナル百艘ノ工事經營中絶ニ至ルヘキヲ恐レ之ヲ豫防セントノ策ニ出テタルモノナリト云フ
去月二十三日浦鹽ヲ出艦セル「ボガツイリ」「ロシーヤ」「グロモボイ」「ハ「リユーリク」(十月一日參看旅順著ノ口ハ不明)ト共ニ旅順口ヨリ浦鹽ニ入港ス
此ノ日頃露兵三十餘名清人百餘名ト共ニ義州九留洞ニ來テ木邦人所有ノ筏ヲ押奪セント企テ再紛擾ヲ醸ス兎ニ角近來此ノ方面ニ於ル木邦人頗ル動搖ノ形跡アリ其ノ一部ハ既ニ鎮南浦ニ引揚ケタリト云フ之ト同時頃露國ハ黃河號ト稱スル英國汽船(二百四十噸内外)ヲ雇用シ芝罘、大東溝間ノ定期航海ヲ爲サシム右ハ木邦汽船寧靜丸(二百四十噸)カ往復五日ヲ以テ同航路ノ定期航海ヲ行フヲ以テ之ト競争センカ爲メナリ

本日附ダルニ「發信」ニ曰ク木邦人ノ多數一時ニダレニ「引揚ケ撤去セシ」ニ付市長心得サハロフハ在留木邦人總代梅田潔ニ危機切迫ノ場合ニ於テハ機ヲ見テ木邦人ニ立退ヲ命スヘク又万一開戦ト爲ルモ生命財產ハ充

附記

十月十三

在京城野津陸軍歩兵少佐ノ本日附發電ニ曰ク韓廷ヨリ數日前參領金仁朱ナル者ヲ旅順ニ送リタリ其ノ使命ハ多分保護兵請求ニ關スルコトナラン(九月三十日) (附記參看)

伊藤、山縣、大山三侯松方、井上兩伯及ヒ菅局長大臣首相官邸ニ於テ對露問題ニ就キ會議ス(六月二十)

日高常備艦隊司令長官ハ左ノ主隊日令ヲ發ス

主隊ハ本月十五日ヨリ佐世保軍港々外ニ於テ常裝藥ヲ用ヒ高速力ニテ艦砲射撃ヲ施行ス之ヲ常裝藥艦砲射撃ト稱ス各將校ハ射撃ニ關スル研究ヲナシ意見アラハ提出スヘシ

第二戰隊(八雲欠)小濱ヨリ佐世保著

軍艦高千穂吳淞著(六月十二)

當時日露交涉ニ關シ坊間ノ訛傳百出シ我カ政府ノ外交ヲ

十月十四

砲艦「ギリヤ」ヲ旅順口入港(十月十)

在芝罘塔田大尉ノ本日附報告中ニ曰ク芝罘、大東溝間常航船寧靜丸船長ノ談ニ依レハ舊式黒色ノ露國小艦(「エルマー」ナラン)ハ十月七日ヨリ十一月マテ同船ニ附纏ヒ海洋島ツルント灣ニ入港シ又大東溝沖ニ到リ同船出帆マテ依然碇泊セリ又該露艦ハ海洋島ニ於テ測量ヲナシツ、アリタリ又同島ニ貯藏ノ石炭ハ鑿入約二萬噸ナリ又外長山列島ノ長子島東方ニ自塗ノ稍大ナル露艦碇泊中ナリト云フ

在英玉利海軍大佐ノ本日附發電ニ曰ク露國ハウエールス炭十萬噸ヲ旅順口ヘ六萬噸ヲ浦鹽ヘ價格ニ關セス輸送方ヲ注文シタル由共ノ筋ヨリ聞込ミタリト

在英宇都宮陸軍歩兵中佐ノ本日附發電ニ曰ク在露英國

憤慨シ延イテ我カ海軍ノ行動ニ言及シ終ニ共ノ無能ヲ譏ルモノアルニ至レルヲ以テ此ノ日日本海軍大臣ハ艦隊司令長官等ニ此ノ際須ク詭言ニ惑フコトナク益々態度ヲ慎重ニシ各自其ノ職責ニ忠實ナルト同時ニ戰術ノ要素タルヘキ技術ノ鍛鍊ニ努ムヘキ旨麾下一般ニ訓示方ヲ命ス

十月十五

山本海軍大臣ハ曩ニ日高司令長官ニ訓令スルニ戰時編制ノ第二艦隊ニ屬スル諸艦ハ舞鶴方面ニ於テ訓練ニ從事セシメテ差支ナキ旨ヲ以テセシカ(九月七)此ノ日更ニ右第二艦隊ノ諸艦モ何分ノ訓示ヲ爲スマテハ佐世保及ヒ其ノ附近并ニ韓國沿岸ニ於テ訓練ニ從事セシムヘキ旨ヲ訓令ス

軍艦浪速比叙常備艦隊ニ編入セラル此ノ日浪速ハ橫須賀ニアリ(九月二十)比叙ハ舞鶴港外ニアリ

山本海軍大臣ハ常備艦隊司令長官ニ訓令スルニ今般軍艦比叙常備艦隊ニ編入セラレタルハ艦隊所在地ヘノ需品供給ニ從事セシメラルヘキ旨意ニ有之右ニ關シテハ佐世保鎮守府司令長官ノ指揮ヲ受ケテ行動セシメラル様致度旨ヲ以テス

第九艦隊水雷艇鶴ニ定員ヲ置ク

水雷艇第二十一號、第二十四號ハ竹敷發後處々ニ寄港

セシカ此ノ日橫須賀著(九月二十)

軍艦秋津洲ハ其隆ヨリ佐世保著(十月十二)

大使館附武官ヨリ十三日附ノ發電ニ依レハ野戰病院ヲ積載セル十四輛ノ列車ハ大至急絶東ニ向ケ木國ヲ出發セリト

在馬山浦但馬濟遠艦長ノ本日附報告中ニ當港駐在露國領事コゾコフハ數日前家ヲ舉ツテ引拂ヒ目下釜山東清鐵道會社ノ社宅ニ滞在中ナリ其ノ真意ハ新ニ釜山ニ於テ購買セル敷地(九月三十)ニ領事本館ヲ建設シ馬山ハ分館トシテ存置スルニ在ルカ如ク又事務局問題ニ關シテモ諸方面ヨリノ諜報ヲ蒐集スルニ共ノ身釜山ニ居ルヲ便ナリトスルモノ、如ク又馬山浦ニ於ル露國人ノ所有地ハ競賣ニ附セラレントスルモノ多シト云フ

在芝罘山下海軍大佐ノ本日附報告ニ曰ク旅順口防材布設ノ位置ハ港口ノ最狹部ニシテ目下其ノ全長ヲ布設シ中央航路ニ當ル部分ハ折返シテ一方ニ繫止ス防材ハ二十呎許リノ長サニシテ二三呎ヲ隔テ、縱置シ鎖及ヒ綱索三條ヲ以テ之ヲ維キ材ノ前端木口ニ巨釘ヲ植ニ云々(九月二十九日同十五)

此ノ日浦鹽ニ於テ東亞汽船株式會社汽船「コレア」號(噸數六二六)ヲ御用船トシテ備上ケタリ不日軍隊ヲ搭載シテ旅順口ヘ向ハシムル由ナリ(大東汽船會社)巡洋艦「アウローラ」英國ポートランドニ著ス(十月八)

十月十六

小村外務大臣ハ本日附發電ニテ露國對案ニ對スル修正條項ヲ栗野公使ニ内示シ共ノ修正案ハ既ニローゼン公使ニ交附シ目下同公使ト商議ヲ進メツ、アリト申添フ
 山本海軍大臣ハ烏海ハ今年營日ニテ冬籠リヲ取止メ佐世保并ニ共ノ附近ニアリテ後命ヲ待ツヘキ旨電訓ス
 日高司令長官ハ第一第三戰隊ヲ率非佐世保出港射擊地ニ至リ第一戰隊ハ平戸近海牛ヶ首ニ第三戰隊(高砂欠)ハ黒島附近ニ假泊ス
 各驅逐隊ハ指定ノ日割ニ依リ此ノ日ヨリ順次射擊地ニ向ケ佐世保發
 測量艦海門木浦ヨリ巨濟島ヲ經テ此ノ日佐世保著(本月
 五)參

十月十七

各戰隊ハ本日ヨリ黒島附近ニ於テ射擊ヲ開始シ驅逐隊モ此ノ日ヨリ蠕ノ浦沖ニ於テ射擊ヲ開始ス
 中島東宮武官驅逐隊射擊ヲ實視セラル
 戰隊ノ射擊艦ハ明石、驅逐隊ノ射擊艦ハ曉潮、薄雲ナリ

十月十八

中島東宮武官明石、千歳ニ於テ射擊ヲ實視セラル本日ノ射擊艦ハ明石、須磨、笠置第四驅逐隊各艦ナリ
 第四驅逐隊射擊終了佐世保入港

在浦鹽川上貿易事務官ノ本日附報告ニ曰ク歐露増遣隊ノ内歩兵一個旅團ハ曩ニ浦鹽經由ボシエツトニ上陸シタリシカ右ハボシエツト附近衛戍ノ任ニ當リ該旅團長陸軍少將アルターモノフハ今回ボシエツト衛戍兵長官ニ任命セラレタリト(十月六)

此ノ日刊行ノ「ヴァスチチヌイ、ヴェストニク」新聞ニ曰ク露國陸軍省ハ東部西北利衛戍ノ爲メ今回新ニ二個ノ歩兵旅團ヲ増設スルコトニ決シ共ノ兵員ハ現ニ歐露ニ配置スル四十六個ノ歩兵師團ヨリ毎師團ニ就キ戰時編制ノ一箇中隊宛ヲ徵集シテ前記旅團ヲ編制新設スルモノナリト
 東洋回航中ノ「ツエザレウ非チ」及ヒ「バヤーン」ハ此ノ日午前十時蘇士ヲ發航ス(八月二十一日、九月十二日參看)

義勇艦隊汽船「ヘルツン」號ハ共ノ改修工事一先整備ヲ告ケ「レナ」ト改稱シ此ノ日ヨリ海軍旗及ヒ軍艦旗ヲ掲揚ス(在浦鹽川上貿易事務官報告)(本月十)參看

獨逸國旗ヲ掲揚スル「アモリ」號ト稱スル汽船長崎ヨリ仁川ニ入港
 驅逐艦「ブリスツルイ」ベツウブリヨーチヌイ「ブレスチヤーンチー」佛國「ハーブル」出港(九月十五)參看

露國帆船「ボブブリク」號(登簿噸數百噸)ハ去十月一日

十月十九

左ノ更迭アリ
 補常備艦隊司令長官 海軍中將從三位 勳二等功四級 東郷平八郎
 補舞鶴鎮守府司令長官 海軍中將正四位 勳三等功四級 日高壯之丞
 中島東宮武官笠置、吉野ニ於テ射擊ヲ實視セラル本日ノ射擊艦ハ笠置、吉野、霞、白雲ナリ
 測量艦海門ハ練習艦ト定メ佐世保海兵團長ノ指揮ヲ受ケシメラレ共ノ指揮下ニ在ル間特別定員ヲ置ク(十月十六)參看

十月二十

常備艦隊常裝藥射擊ハ此ノ日風波荒キ爲メ中止ス

十月二十

中島東宮武官射擊艦ニ於テ射擊ヲ實視セラル本日ノ射擊艦ハ千歳、磐手、敷島、八島、白雲、陽炎、漣、叢雲ナリ
 軍艦高砂ハ去四日吳出港後神戸ヲ經テ和歌ノ浦ニ至リ同港ニ於テ東宮殿下御乘艦アラヒレ、由良、高松、三津濱、絲崎ヲ經テ去十八日再吳ニ入港殿下御退艦後去二十日出港此ノ日佐世保ニ著シ第三戰隊ニ合ス第一、第二驅逐隊射擊終了佐世保入港
 驅逐艦薄雲佐世保ニ於テ入渠十一月四日出渠ノ豫定ナリ

明治三十六年十月

七十九

ボルシエレックヲ出帆セシカ此ノ日船體修理ノ爲メ函館ニ入港完成ノ上ハ横濱ニ航行ノ筈ナリト云フ

驅逐艦「ブリスツルイ」ベツウブリヨーチヌイ「ブレスチヤーンチー」ノ三隻ハ佛國「ブレス」ニ著港ス(十月十八)參看

在芝罘山下大佐ノ本日附報告ニ曰ク旅順在泊ノ驅逐艦ハ薄鼠色ヲ稍濃厚ニ塗換ヘタリト(十月十二)參看
 砲艦「シウーチ」ハ十月五日旅順ニ向ケ仁川ヲ發セシカ共ノ旅順口著ノ日ハ不明ナレトモ此ノ日既ニ旅順口ニアリ

在芝罘山下大佐ノ本日附報告ニ曰ク十月二十日タルニ一埠頭附近碇泊ノ驅逐艦ハ十二隻、十月十九日旅順ニアリシ驅逐艦ハ十二隻ニシテ内二隻ハ完全ノモノニシテ大連在泊ノモノト別物ナルヘシ、内一隻(レーテナ

在芝罘山下大佐ノ本日附報告中ニ曰ク十月二十日タルニ一埠頭附近碇泊ノ驅逐艦ハ十二隻、十月十九日旅順ニアリシ驅逐艦ハ十二隻ニシテ内二隻ハ完全ノモノニシテ大連在泊ノモノト別物ナルヘシ、内一隻(レーテナ

十月二十

軍艦派速ハ清國居留帝國臣民保護ノ爲メ派遣セシメラレ(十月十五)鳥海ハ清國居留帝國臣民保護ノ任務ヲ解キ歸朝セシメラル(七月十四)常備艦隊常備艦射撃ハ准士官下士進級會議ノ爲メ此ノ日中止ス

ント、プラークコフ)ハ未タ一回モ運動シタルコトナキモノ内六隻ハ未成ニ復ハ修理中、一隻ハ船臺ニテ組立中以上ヲ合計スレハ二十四隻ト爲ル尙一隻アル管ナレトモ所在不明ナリ又旅順ニ於テ鐵製新造運貨船(我カ敷設隊用ノモノト幾ト同型)八隻ヲ見ル共ノ外ニ尙二隻アル管ナリ都合十隻上海邊ニ於テ新造シタルモノト思ハル又旅順防材ハ現今兩岸防材ノ端ニ繼キ足シテ之ヲ折リ曲ケ緊止シ何時ニテモ全部ヲ閉塞シ得ル如ク構造ス(十月十五)又旅大共ニ陸上ノ警戒ハ依然嚴重ニシテ旅順ニ於テハ日本ハヲ除ク外居留外人一同ニ開戦後殘留スルヤ否ヲ届出ツヘキ旨告達シ又兩地共開戦ノ訛傳ニ因リ清人勞働者逸出シ爲メニ各種ノ經營ニ非常ノ影響ヲ及セシヲ以テ當局者ハ頗ル苦心シ清人ニ對シテ若シ開戦云々等ノ謠言ヲ放ツモノアラハ嚴罰ニ處スル旨ヲ告示シ共ノ逸出ヲ防止シツ、アレトモ山東出稼人ハ續々歸郷シテ止マスト云フト(十月十二)露國帆船「プログレス」號(登簿噸數五四一)ハ去十月八日ボルシエレットヲ出帆セシカ此ノ日鹹魚輸入ノ爲メ函館入港

本日附倫敦發電ニ曰ク昨夜(十月二十一日)四隻ノ露國驅逐艦佛國ブレストヲ發セリ内二隻ハ旅順ニ他ノ二隻ハ地中海ニ向フモノナリト(編者曰ク此ノ驅逐艦ハ「ベドワイ」「ブライウイ」「ボールドルイ」「ブイヌイ」ノ四隻ナラシカ) (九月八日同) (九月九日同)

十月二十

中島東宮武官ハ射撃艦ニ於テ射撃ヲ實視セラル本日ノ射撃艦ハ朝日富士初瀬三笠吾妻第三驅逐隊各艦ナリ軍艦葛城ハ去四月一日警備艦兼測量艦ト定メラレ測量ノ爲メ第一海軍區ヘ回航セシメラレ五月十一日函館ニ向ヒ爾來北海道方面ノ警備兼測量ノ任務ニ從事セシカ此ノ日役務ヲ解カレ第一豫備艦ト定メ特別定員ヲ置ク

運送船兼練習艦「オケアン」浦鹽入港(九月十六)在浦鹽川上貿易事務官ノ本日附報告中ニ曰ク歐露輸送兵(十月十六)ノ中一個聯隊ハスバスコヘニ他ノ一個聯隊ハハバロフスクニ駐屯セルモノ、如シト(其ノ後確認ノ報アリ)

十月二十

伊藤、山縣、大山、三侯松方、井上兩伯及ヒ當局大臣首相官邸ニ於テ對露問題ニ就キ會議ス(十月十三)軍艦八雲佐世保著後入渠修理ヲ了リ此ノ日黒島沖ニ向ケ出港

在仁川村上干代田艦長ノ本日附報告ニ曰ク砲艦「ボール」依然仁川ニ在泊スト(十月十九)又曰ク十九日長崎ヨリ入港ノ獨逸汽船「アモイ」號船員中ニハ露國人多シト云フ該船ハ月尾島西方ニ碇泊シ同島西側ナル露國炭庫ヘ入港ノ當日ヨリ二十三日マテ五日間石炭揚揚ヲ續行セリ依テ探査ヲ遂ケタルニ該石炭ハ長崎「ギンスブルク」商會ヨリ在仁川同商會支店ヘ宛回漕シ來リタルモノニシテ炭種ハ英炭ナリ其ノ數量ハ千七百噸ト稱スレトモ共ノ實千二百噸アルヘシト云フ而テ露國炭庫現在ノ炭額ハ從前貯藏ノモノニ前記數量ヲ合スレハ約二千噸以上ト推算ス今後尙回漕シ來ルヘキヤ否ハ

五月二十

四件トス
軍艦吾妻木隊ヲ離レ佐世保入港
常備艦隊ニ於テ此ノ日ヨリ大立島沖ニ遠距離射撃ヲ施行ス

中島東宮武官射撃艦ニ於テ射撃ヲ實施セラル遠距離射撃ニ於テハ射撃艦ハ敷島、三笠、出雲ノ三艦ニシテ射手ハ第一、第二戰隊各艦ヨリ選出ス

軍艦富士木隊ヲ離レ佐世保入港
測量艦葛城ハ室蘭厚岸、根室、乳谷路等ノ測量ヲ了リ十月八日室蘭ヲ發シカ横須賀ヲ經テ此ノ日佐世保著

六月二十

各戰隊(吾妻、富士、欠)射撃地ヲ引揚ケ佐世保入港
中島東宮武官退艦上陸

日高中將(東郷新司令長官未タ著任セサルニ付日高)ハ常裝藥射撃及ヒ遠距離射撃カ大ナル障害ヲ受クルコトナク概シテ圓滿ナル進行ヲ爲シ且比較的良好ナル成績ヲ得タルニ満足ヲ表スルト同時ニ各射撃ノ結果ニ就テ其ノ遺憾トスル所ノ各點ヲ列舉シ各艦長ニ尙一層ノ注意ヲ加ヘンコトヲ望ム

不明ニ屬スト
裝甲巡洋艦「ドミトリ」、ドンスコイ「東洋」ニ向ケ露都ヲ發ス

アレキセイエフ太守ハ巡洋艦「アスコリド」ニテ旅順口ヨリ大連灣ニ赴キ太平洋艦隊ノ檢閲ヲ始ム當時被檢閲艦隊ハ戰艦巡洋艦及ヒ爾餘ノ諸艦各一列ニ排列碇泊シ「アスコリド」ハ戰艦列ト巡洋艦列トノ間ニ入り其ノ中央ニ投錨ス(露國新聞「ノー」)

沿黑龍江總督代理新任黑龍軍管司令官陸軍中將リネウ井ツチハ陸軍檢閲ノ爲メ浦鹽ニ來ル
歐露全軍ヨリ一中隊宛ヲ取り編制シタル一師團ハ此ノ日頃ヨリ極東ニ向ヒ輸送ヲ始メタリ其ノ一部ハ浦港ニ共ノ大部ハ旅順ヘ派遣スル管ナリト云フ(十月十六日參看)

在露栗野公使ノ本日附發電ニ曰ク陸相クロバトキンハ數日前歸府シテ省務ニ執掌セリ宮内省ニ仕フル一友人ノ本官ニ語ル所ニヨレハ同大臣ハ皇帝ヨリ歸リテ再其ノ任ニ當ルヘキ旨勅命ヲ受ケタリト云フト

大連灣在泊艦船左ノ如シ
戰艦「レトウ非ザン」「ペレスウエート」「ボベード」「ベトロパウロウスク」「セリスストーポリ」ノ六隻、巡洋艦「バルラード」「ヂイヤーナ」「ノーウ非ク」「ボヤーリン」ノ四隻、砲艦「ラスボイニク」「ヅジギート」「ギリヤーク」「ザヒヤーカー」ノ四隻、假裝巡洋艦「アンガラ」及ヒ水雷布設船「アムール」「エニセイ」ノ二隻、驅逐艦十三隻

七月二十

海軍教育本部長海軍中將上村彦之丞常備艦隊司令官ニ轉補セラル(九月五日參看)

海軍省軍務局長海軍少將出羽重遠常備艦隊司令官ニ轉補セラル(七月七日參看)

常備艦隊司令官海軍少將中溝徳太郎海軍省軍務局長ニ轉補セラル

測量艦盤城ハ鹿兒島方面ノ測量ヲ了リ此ノ日佐世保著(七月二十日參看)

八月二十

第一艇隊水雷艇第七十號ニ定員ヲ置ク(六月十五日參看)

水雷艇鶴ハ去七月十一日吳海軍造船廠ニ於テ進水十月二十二日竣工受授結了十月二十三日佐世保ニ向ケ吳ヲ發セシカ此ノ日佐世保著(五月十四日及十六日參看)

アレキセイエフ太守ハ天候不良ノ爲メ端艇ニテ周行スルコト能ハサルヲ以テ檢閲ヲ中止シ「アスコリド」艦内ニ於テ戰闘操練ヲ爲サシメ太守自カラ之ヲ檢閲ス(露國新聞「ノー」)

アレキセイエフ太守ハ幕僚ヲ隨ヘ司令長官スタルク中將旗艦「ベトロパウロウスク」ニ到リ其ヨリ司令長官ヲ隨ヘ戰艦「セリスストーポリ」ニ移リ次ニ司令官ウフトムスキー少將旗艦「ペレスウエート」及ヒ「レトウ非ザン」ヲ歴閲シ其ノ途中汽艇ニテ水雷布設演習ヲ命シ「アスコリド」ニ歸艦水雷布設ノ景況ヲ閱覽シ夜ニ入り探海燈照射練習ヲ令ス(露國新聞「ノー」)

在芝罘増田大尉ノ本日附發電ニ曰ク露艦「アスコリド」旅順ニ在リト
巡洋艦「アウローラ」「アルヂール」著港(十月十五日參看)

アレキセイエフ太守ハ本日艦砲射撃ヲ施行セシムルノ豫定ナリシモ天候不良ノ爲メ之ヲ取止メ戰艦「ホルター」「ボベード」巡洋艦「ヂイヤーナ」「バルラード」ヲ歴閲シ日没後水雷艇防禦演習ヲ命ス此ノ演習約一時間ニシテ止ム(露國新聞「ノー」)

山下大佐義ニ旅順ニ至リシカ此ノ日芝罘ニ歸著即日發信シテ曰ク「アスコリド」「ワリヤーク」旅順港外ニ在リト「浦鹽」ハ「ロシーヤ」「グロモボイ」「リユーリック」「ボガツイ」「オケアン」「レナ」「元」「ヘルソン」在泊ス
此ノ日以來再北方ヨリ旅順ニ向ケ送兵ス(在營日附發電(歩兵大尉發電))

九月二十

小村外務大臣ハ本月十六日以来屢ローゼン男ト會商セリ其ノ結果此ノ日我カ修正ノ或條項ニハ同公使ニ於テ遂ニ本國政府ノ承認ヲ條件トシテ同意ヲ與ヘ又或條項ニ關シテハ彼我ノ意見未タ一致スルニ至ラス軍艦和泉ハ本年四月十二日第二豫備艦トナリシカ本日之ヲ第一豫備艦ト定メ全定員ヲ置ク

第一豫備艦高雄ニ全定員ヲ置ク(七月十四)

驅逐艦夕霧ハ本年六月十七日第二豫備艦トナリシカ本日之ヲ第一豫備艦ト定メ全定員ヲ置ク

新編常備艦隊司令官東郷中將本日著任旗艦敷島ニ乘艦日高前司令官官ヨリ事務引繼ヲ受ク

十月三十

小村外務大臣ハ此ノ日露國對案(十月三)ニ對シ帝國政府ノ確定修正案ヲローゼン公使ニ交附ス此ノ修正案ハ十一箇條ヨリ成リ其ノ第四條ハ日本軍隊ヲ韓國ニ送遣スルノ場合及ヒ權利ニ關スル件ヲ修正シ第五條ハ韓國領土使用ニ關スル制限ヲ削除シ第六條ハ中立地域ヲ滿韓ノ境界ニ於テ其ノ兩側各五十「キロメートル」ニ定ムルコトニ修正シ又第七條ハ日露兩國間ノ滿韓ニ於テ各其ノ利益交換ニ關シ第九條ハ日露兩國カ滿韓ニ於テ各其ノ現ニ有スル條約上ノ權利ヲ相互ニ妨得セサルコトニ關シ第十條ハ韓國鐵道及ヒ東清鐵道鴨綠江マテ延長セラシ、ニ至ラハ該兩鐵道ヲ連結スルコトニ關ス

第三戰隊須磨吳ニ向ケ佐世保發(下士卒百六、十四名便乘)

アレキセイエフ太守ハ「ベトロパウロウ」ニ乘艦直ニ全艦隊ニ拔錨ヲ令シ沖合ニ到リ艦砲射撃ヲ開始セシメシカ約半時間ニシテ互ニ其ノ敵艦トスルモノ、曳ケル標的ノ多クハ破壊若クハ沈没シタルヲ以テ射撃中止ヲ命シ大連灣ニ歸港ス(露國新聞「ノー」)

アレキセイエフ太守ハ各艦ヨリ端舟ヲ出サシメ端舟競漕ヲ行ハシメ「アスコロド」ヲ以テ決勝點トス(露國新聞「ノー」)

巡洋艦「ドミトリ」ドンスコイ英國ポートランドニ著(十月二十)驅逐艦「ブイメイ」「ボードレイ」ノ二隻ハ葡國リスボンニ著港(十月二十)

十月三十

但馬濟遠艦長ハ仁川ニ於テ千代田ト共ニ天長節奉祝式ヲ行ハンヨリハ一艦ハ去テ他港ニ於テスルヲ居留民保護政策上有益ナリト認メ村上千代田艦長及ヒ林駐韓公使ヘ商議ノ末此ノ日仁川拔錨鎮南浦ニ向フ

常備艦隊常備裝藥委員長梨羽時起ハ本日附ヲ以テ常備艦隊常備裝藥射擊報告ヲ提出ス其ノ報告中驅逐隊射擊成績ハ誠ニ不長ニ終リシハ遺憾ナリ而レトモ其ノ不長ナリシハ却テ將來ニ有益ナル訓戒ヲ與フルノ大ナルヲ知ルヘント述ヘ驅逐隊射擊不長ノ原因ヲ列擧ス

此ノ月海軍軍令部ニ於テハ井内中佐及ヒ英國海軍將校某氏其ノ他ノ視察報告ニ基キ浦鹽斯德防備圖ヲ改正刊行シ必要ノ諸向ニ配附ス(七月三十、二日參看)

此ノ月下旬海軍軍令部ニ於テ鴨綠江方面ニ關スル各種ノ情報ヲ綜合セシニ目下安東縣ニ駐屯スル露兵ハ百二十名内外ニシテ砲二門ヲ有スルモノ、如シ(義州ニハ韓國鎮衛隊一大隊アリ)

アレキセイエフ太守ハ大連灣ノ陸上兵營ヲ檢閱ス其ノ間清國人總代ニ對シ各自安堵シテ業務ニ服スヘキヲ諭シ其ヨリ陸戰隊上陸演習ヲ爲サシメ次ニ「アスコロド」ニテタルニ上陸ス此ノ時日本人總代ハ太守ニ向ヒ露語ノ歡迎文ヲ朗讀セシカ太守ハ深ク之ヲ謝シ且日本人ニ告グルニ諸君ハ關東州ニ住居シテ安穩ニ其ノ生業ヲ營ムヘシ何トナレハ此ノ地ニ住居スルモノハ孰レモ同一ノ權利ヲ有スレハナリ云々ト此ノ夜水雷攻撃演習ヲ命ス(露國新聞「ノー」)

浦鹽在泊巡洋艦「ボガツイ」ハリ子ウ非ッチ中將ヲ乗セ(十月二十)一昨二十九日出港シボシエツトニ向ヒシカ今三十一日同中將ヲ乗セ歸港ス

在倫敦三井物産會社ノ本日附發電ニ日ク英炭ヲ積載スル二十五隻ノ汽船ハ本年十月、十一月、十二月ノ三箇月ニ互

リ東洋ニ向ヒカーザフ港ヲ發航スルコトニ決シタリト(編者曰ク本文二十五隻ニ載スル英炭ノ内二万八千噸ハ三十七年一月(中ニ到著ノ契約ニテ日本ヨリ注文シタルモノナル山今一隻ノ積炭量ヲ約五千噸ト假想セハ其ノ六隻ハ前記噸數ヲ搭載シ得ヘシ他ノ九隻ノ積載スル九万五千噸ハ露國艦艇用ノモノト視テ可ナラン十月十三日參看)

水雷艇第二百十二號、第二百十三號ハ佛國、シエルブルニ著港(九月十四)

十一月

帝國政府ノ確定修正案(十月三十)ハローゼン公使帶有ノ訓令範圍外ニ屬スル趣ヲ以テ同公使ヨリ本國政府ノ訓令ヲ求メタルニ付小村外務大臣ハ本日附ヲ以テ栗野公使ニ訓令スルニ可成速ニ露國外務大臣代理ニ面會ノ上帝國政府ノ主張ヲ説明スヘキ旨ヲ以テス

軍艦須磨佐世保ヨリ吳著(十月卅)
軍艦濟遠鎮南浦入港
軍艦宮古十月十一日基隆著後馬公、紅頭嶼、臺灣西南岸ヲ經テ廈門著(十月八)

在芝罘山下大佐ノ本日附發信ニ曰クタルニ「ヨリノ報ニ依レハ露艦「アスコリド」入港スト

アレキセイエフ太守ハ水雷敷設艦「アムール」「エニセイ」假裝巡洋艦「アンガラ」ヲ檢閲シ正午、アスコリドニ歸艦シ同艦内ニ司令長官、司令官、艦長等七十名ヲ招キ宴會ヲ開キ其ノ席ニ於テ關東州沿岸ト北清ノ海上ニ於テ施行シタル艦隊演習ノ結果甚良好ニシテ満足ノ旨ヲ述ヘ同日夕刻旅順ニ歸著ス(露國新聞ノイ)

露國艦隊主力午後大連灣ヨリ旅順外港ニ入ル砲艦「ガイダマール」旅順ヨリ大連灣ニ入港ス

在仁川村上干代田艦長ノ本日附發信ニ曰ク露艦「ボール」ノ水兵ト帝國居留民ト波止場附近ニテ喧嘩ヲ爲シ其ノ際上陸シタル本艦水兵十餘名ハ平素ノ訓示ヲ遵奉シ慎重ノ態度ヲ執リ關係セザリシモ傍杖ノ爲メニ三名極メテ輕微ニ負傷シ居留民六七名露國水兵十二名負傷セリト

在芝罘山下大佐ハ九月廿四日ヨリ九月廿七日ニ至ル旅順口大連灣情勢觀察報告ヲ本日附ニテ提出ス其ノ要領左ノ如シ

露國艦隊ノ旅順口外泊地ハ常ニ黃金山ヨリ南以東ノ處ニ在リ同港ニ於ル軍艦ノ臨戰準備ハ其ノ塗色ノ變更ノ外ニコロソト認ムヘキ兆證ナシ旅順口外ニハ水雷布設ナキモノト確信ス旅順口防材ニ關シテハ増田大尉ノ所報(十月二十)ニ同シ旅順海面防禦工事ハ其ノ六七分成立リシモノト認ム牧猪礁砲臺ヨリ移動標的ニ對シテ射擊

スルヲ見ル射距離三千乃至四千、速力八節以下、標的ハ二十呎ニ三十呎ノ長方形帆布製ナリ約二十發ニシテ三彈貫通ス西港浚渫工事ハ晝夜急促シ旅順口背面防禦工事ハ遲緩ニシテ未タ其ノ半ニ達セサルモノト認ム新市街中鳩灣ヲ瞰視スル區域ノ設備工事ハ全力ヲ盡シテ急促シ同地附近ニアル木邦人煉瓦職工ハ悉皆解僱セラレシ山ナリ大連灣ニ於ル露國艦隊ノ所在地ハ一定セス艦隊泊地附近ニ數個ノ標的ヲ浮ヘ居ルヲ認ム同灣ニテハ艦隊乘員ハ久シク上陸セス射擊、艦隊運動等ヲ勵行セシモノ、如シ又大連在泊軍艦點燈セストノ報告アリシモ

十月廿六、七日ノ兩夜ハ常ニ異ナルコトナシ大連灣ニ水雷布設ナキモノト確信ス同灣沿岸海面ニ對スル防禦設備ナシ旅順大連兩地ニ於テ太守以下露國官憲ハ極力人心ノ鎮定ニ努メシト雖モ人々危懼ノ念ニ堪ヘス殊ニ清國人ノ如キハ木邦人ノ去留ヲ以テ其ノ身ヲ處スルノ標準トナスモノ、如シ若シ兩地ヨリ盡ク清國人ヲ引去ルノ策ニシテ成功セハ兩地ノ機關ハ幾ト停止スルニ至ランカ(十月二十)兩地ノ警戒ハ嚴ナルカ如クナレトモ漏ル、所多シ到底陸上ヨリ識別シ得ヘカラサル大連灣ニ於ル軍艦發著モ商船ノ出入ト同様日々公ニスル如キハ其ノ一例ナリ又タルニ電信局ハ三井ノ如キ信用アル商店ノ暗號ヲ受附クルモ旅順ニ在テハ露英二國語ノ平文ニアラサレハ一切拒絶ス歐洲人ノ出入ニ對シテモ警戒ヲ加フルコト愈々嚴重ナリト

驅逐艦「アイズツルイ」「ベツウブ」ヨリ「チヌイ」「プレスチ」

十一月二

栗野公使ハ本月一日ノ訓令ニ依リ此ノ日露國外務大臣代理オボレンスキー公ト會見シタルニ同大臣代理ハ其ノ一己ノ説トシテ日本ノ要求ヲ過多ナリト言ヒ又滿韓鐵道ノ接續ヲ以テ一ノ難事ト爲シ又ラムスドルフ伯爵今週ノ末ニハ歸府アルヘント語レリ

軍艦音羽ハ横須賀海軍造船廠ニ於テ進水式舉行同日本籍ヲ横須賀鎮守府ト定メラレ共ノ類別等級ヲ三等巡洋艦トナシ定員表(將校下士官合計)設ケラレタレトモ當分ノ内定員ヲ置カス(六月二十)

新編常備艦隊司令官出羽少將ハ將旗ヲ千歳ニ掲ク(十月十七)梨羽司令官ハ將旗ヲ千歳ヨリ初瀬ニ移ス(九月九)

東郷常備艦隊司令官ハ佐世保ニ於テ左ノ主隊訓令ヲ發ス

- 主隊ノ各隊ハ來五日及九日以後便宜當港出發各其ノ指定常泊地附近ニ於テ時宜ニ適切ナル諸訓練ヲ施行シ來二十一日マテニ當港ニ歸合スヘシ此ノ出動中各隊ハ主トシテ左ノ訓練ニ從事スルヲ要ス
- 一 戰闘ニ適切ナル艦隊運動
- 一 碇泊艦隊ニ對スル驅逐隊ノ夜襲訓練
- 一 甲種水雷發射(天候ノ許)
- 一 内筒砲射擊

ヤンチーノ三隻ハ葡國リスボンニ著港(十月十八)

戰艦「ツエザレウ非チ」巡洋艦「バヤーン」コロロン出港(十月十六)驅逐艦「ブイヌイ」「ボードルイ」西國カヂツニ著(十月三十)同「ベドウィ」「ブラーウイ」ハ同國ウイゴニ著港(十月二十)

十一月三

十一月四

一改正海軍信號營古
主隊ハ時局ニ異變ナキ限り來二十一日以後高速力運轉戰闘速力艦隊運動戰闘射擊ヲ施行スル豫定ナリ

第四驅逐隊佐世保發即日今福著
驅逐艦薄雲出渠(十月二十)

測量艦警城ハ役務ヲ解カレ同日第一豫備艦ト定メ特別定員ヲ置ク(七月二十)
豫備艦金剛ハ練習艦ト定メ練習ノ事ニ關シテハ舞鶴海兵團長ノ指揮ヲ受ケシメラレ共ノ指揮下ニ在ル間ハ特別定員ヲ置ク

第三戰隊(笠置、須磨欠)唐津ニ向ケ佐世保出港此ノ日笠置ハ佐世保在泊須磨ハ佐世保ニ向ケ吳發(十一月一)
第三驅逐隊(朝霧欠)福岡ニ向ケ佐世保發
英國ニ於テ製造シ清國上海ニ於テ組立タル淺噴水砲艦隅田ノ再進水式同港ニ於テ舉行同日本籍ヲ吳鎮守府ト定メラレ共ノ類別等級ヲ二等砲艦ト爲シ定員表(將校下士官合計)設ケラレ同日乘員四人ヲ置ク(六月二十)
英艦「エスビーグル」ハ十月十九日神戸ヨリ營口入港十月以來船渠工事ニ著手センカ此ノ日滞ナク入渠ス

在芝罘山下大佐ノ本日附發信ニ曰ク十一月三日朝來露國戰艦一隻(「ト」級ノ内)巡洋艦「バルラーダ」「ボヤーリ」旅順大連附近ニ見ヘス何レヘカ向ケ出發ト認ムト(後本文巡洋艦二隻ハ本雷敷設船一隻ニ正誤ノ電報アリ)
驅逐艦「ブイヌイ」ハ「ベツウプリョーチヌイ」「プレスチヤーンチー」ハ西國カヂツ著港(十一月一)

在芝罘山下大佐ノ本日附發信ニ曰ク十一月一日朝來露國驅逐艦ノ大多數大連灣ニ旅順口ニ見ヘスト
砲艦「コレーツ」旅順ニ向ケ營口出港(九月二十)
砲艦「シウーチ」旅順ヨリ營口入港(十月二十)
巡洋艦「アウローラ」伊國スベチヤ著港(七月二十)

十一月五

記附

十一月六

海軍定員令中海軍艦政本部海軍工廠海軍造兵廠鎮守府海軍經理部定員表其ノ他改正セラル(本月十日ヨリ施行)

軍艦須磨吳ヨリ佐世保著(十一月五)

第三戰隊(笠置須磨欠)唐津灣ニ投錨

第三驅逐隊(朝霧欠)佐世保ヨリ福岡著(朝霧ハ機橋ニ故障米艦「ヘレナ」ハ十一月四日上海ヨリ營口入港冬籠リノ準備中ナリシカ此ノ日滞ナク入渠ス)

記附

十一月七

在鎮南浦但馬濟遠艦長ノ本日附報告中ニ本艦營港ニ回航(本月一日)シテヨリ是迄日露ノ開戦風説喧傳ノ爲メ恠々タリシ我カ居留民ノ人氣俄ニ振興シ又韓人等ノ木邦人ニ對スル輕侮ノ舉動モ大ニ改マリタルモノ、如シ且其ノ後平壤視察ニ赴キタル本艦士官ノ言ニ依ルニ同地ニ於テモ一般人氣引立テ韓兵等モ木邦人ニ對シ俄ニ其ノ態度ヲ改メ禮待スル模様ナリト言ヘリ

十一月八

第三戰隊(笠置須磨欠)唐津碇泊中各艦航海長戮力唐房錨地ヲ測量セシカ此ノ日其ノ結果ニ依リ唐津興業株

在營口瀨川領事ノ本日附發電ニ曰ク信スヘキ一清人ノ本官ニ内報スル所ニ依レハ露國ハ盛京將軍ニ(一)東邊道袁大化ヲ鳳凰城ヨリ他ニ轉任セシムルコト(二)安東縣ニ於テ露國使用ノ馬賊ヲ殺シタル王恩布ヲ斬罪ニ處スルコト(三)王ハ現ニ烏統領ト共ニ旅順口ニ於テ監禁セラレ居ル(三)盛京省ニ於ル團練ヲ一切解散スルコトヲ迫リタリ露人ハ盛京將軍ヲシテ右ノ要求ヲ容レシムル爲メ奉天府ノ各城門ヲ占領シ又政治上ノ通信ヲ電報セシメサル際清國電信局ヲ監守セリ右ノ結果袁道臺ハ北京ニ召喚セラレ直隸候補道張錫鑾ハ東邊道代理ヲ命セラレ又將軍ヨリハ團練解散ノ告示ヲ發シタリ露國軍隊ハ當分奉天府ヨリ撤退セサルヘント

砲艦「ギリヤーク」大連灣ヨリ營口入港
巡洋艦「アルマーズ」東洋ニ向ケ露都ヲ發ス
戰艦「ボルタロー」及ヒ驅逐艦「プロゾウ」同「ウヌン」一テリヌイ」旅順ヨリ仁川入港我カ軍艦濟遠ト互ニ訪

式會社略圖ト大差ナキヲ知ル
軍艦須磨ハ佐世保發唐津著第三戰隊ニ合ス(十一月六)
軍艦濟遠鎮南浦ヨリ仁川入港(十一月一)

十一月九

第一戰隊(八島欠)佐世保出港即日伊万里令福沖著
第二戰隊(笠置欠)唐津灣内外ニ於テ晝夜訓練ニ從事ス
第三驅逐隊(海雲欠)佐世保出港即日福岡著
第三驅逐隊(朝霧欠)福岡發即日今福著(十一月六)
第四驅逐隊今福出港即日佐世保著(十一月四)

十一月十

第一戰隊(八島欠)ハ伊万里令福沖ニ於テ晝夜訓練ニ從事ス
第二戰隊福岡港外ニ於テ晝夜訓練ニ從事ス

明治三十六年十一月

九十一

問ヲ交換ス右ニ關シ濟遠艦長ノ報告ニ曰ク彼我ノ雜談中我ヨリ露艦ノ栗色ニ變塗セラレタルヲ質問セシニ「ボルタロー」艦長ハ之ニ對シ此ノ栗色ハ冬季寒氣ヲ凌キ易ク且保存上ヨリ出テタルモノニシテ他意アルニアラス唯其ノ比較的高價ナル一事ハ稍考慮スヘキ所ニシテ「ボルタロー」ノミニテモ(一年?)約一万二千圓ヲ要スヘント答ヘタリト

砲艦「マンザウール」ハ本年四月八日以後仁川長崎鎮南浦馬山浦元山浦鹽函館ニ出入シ六月中旬以來勸察加方面ニ在リ警備ノ任ニ當リシカ此ノ日浦鹽入港
巡洋艦「アルマーズ」レーウエル著港(本月七)裝甲巡洋艦「ドミトリ」ドンスコイ」西國カザツ著港(十一月三十)
水雷艇第二百二十二號、二百二十三號ハ西國ウイゴ」著港(十一月三十)

在芝罘山下大佐ノ本日附發電ニ曰ク旅順港口ノ防材ハ兩側ニ開クト(十一月一)
極東太守ハ絶東新設二個旅團長ノ所屬及ヒ權限ヲ規定シ一ハ旅順口要塞司令官ニ一ハ浦鹽斯德要塞司令官ニ屬セシム(十一月九)

砲艦「アツローシヌイ」旅順口ニ向ケ營口出港(十月八)

在芝罘山下大佐ノ本日附發電ニ曰ク旅順口ヨリノ情報ニ依レハ露國艦隊ハ今日若クハ明日(十一月)鎮南浦ニ

十一月十

第一驅逐隊佐世保出港即日伊万里著
驅逐艦胡霧佐世保出港即日福岡著(十一月六)
軍艦浪速ハ芝罘ニ向ケ佐世保發(十一月二十)
軍艦千代田ハ芝罘ニ向ケ仁川發(九月二十)

豫備艦千早龍田夕霧豫備艦隊ニ編入セラル(十一月二十)
當時千早ハ舞鶴龍田ハ吳夕霧ハ佐世保ニアリ
第三戰隊(笠置穴)ハ唐房鋪地ニ於テ夜間警戒捕泊汽艇
四隻ヲ水雷艇ト視做シ襲撃セシム
驅逐艦胡霧福岡發即日伊万里著(十一月十)
驅逐艦海雲博多ニ向ケ佐世保發(十一月四)

十一月十

栗野公使ハ我カ確定修正案ニ關シ此ノ日ヲムスドルフ
伯ト會談セシカ伯ハ協商成立ヲ妨クルモノハ滿韓鐵道
連絡ノ件ニアラスシテ滿洲問題ナリトシ露國ハ常ニ此
ノ問題ヲ以テ全然露清兩國間ノ案件ト認メ清國ト協商
ヲ遂ケ以テ滿洲ニ於ル優越ノ利益ヲ擁護スル爲メ適當
ナル一切ノ措施ヲ爲スノ權ハ我カ露國政府ニ保留セサ

向ケ出港スヘシト云フト
波羅の艦隊ノ水兵約千人旅順ニ向ケ大石橋停車場ヲ通
過ス(在營口川崎陸軍歩兵大尉發電)
驅逐艦「ブイヌイ」及ヒ「ボードルイ」アルゼール著港(十
月三)

在京城松石陸軍歩兵中佐ノ本日附發電ニ曰ク諜報ニ依
レハ曩ニ韓廷ヨリ旅順ニ送リタル保護請求ノ公文ニ對
シ承諾ノ旨返答アリタリト云フト(十一月十二)
驅逐艦「ブイヌイ」アルゼール著港(十一月四)
在營口川崎陸軍歩兵大尉ノ本日附發電ニ曰クチタニ派
遣セシ信スヘキ木邦人ノ報ニ依レハ同地ニ増遣シタル
歐露軍隊(九月二十)ノ殘餘ハ十月中旬以前浦鹽方面ニ輸
送シ目下チタニハ露兵ナシト
英國汽船「ベナーチー」號(總噸數三、九一〇噸)英炭搭載
東洋ニ向ケ蘇士ヲ通過ス(本船ハ露國屋船十九隻中ノ
一ナルコト後ニ知ラレタリ)(八月二十)

在芝罘山下大佐ノ本日附發信ニ曰ク先日來旅順口出航
ノ戰艦以下今朝歸著(十一月四)又海軍兵約千名昨十一日
露本國ヨリ陸路旅順口ニ到着ノ報ニ接シタリト
本日附新嘉坡發電ニ曰ク戰艦「ツエザレウ」及ヒ巡
洋艦「バヤーン」ハ昨十一日ブルー、ウエーニ到着シ(十
月三)同處ニテ石炭ヲ積載ス又從來東洋回航ノ露艦艇ハ

十一月十

ルヲ得サルナリト述ヘ以テ滿洲ニ關シテハ我ヲ範圍外
ニ置カントス
山本海軍大臣ハ海軍軍機電報取扱方ノ件ニ關シ遞信大
臣ト協定シ其ノ書冊ヲ必要ノ諸向ニ配附シ又在外國電
信線ヲ經過スル海軍軍機電報ニシテ木邦ヘ著信スルモ
ノ、宛名(大木營海軍大臣、軍令部長、司令長官等)ニ使
用スヘキ特別略表ヲ定ム
軍艦笠置佐世保發即日唐房鋪地ニ著第三戰隊ニ合ス
(十一月五)
驅逐艦海雲福岡著第二驅逐隊ニ合ス(十一月九日同
日參看)
第四驅逐隊(電欠)佐世保發即日今福著(十一月九)

第一戰隊(八島欠)ハ今福沖ニ於テ晝夜訓練ニ從事ス
第二戰隊福岡發出雲、淺間、八雲ハ大島附近ニ警手常警
吾妻ハ唐津灣ニ假泊ス此ノ日第二戰隊ハ艦隊運動ヲ爲
シ又第二驅逐隊ト對抗シ夜襲及ヒ警戒捕泊ノ演習ヲ行フ
第三戰隊ハ唐房在泊聯合陸戰隊陸上對抗演習ヲ施行ス
第二驅逐隊演習ノ爲メ福岡發(十一月九)
第三驅逐隊佐世保ニ向ケ今福發(十一月九)
驅逐艦電ハ佐世保ニ於テ入渠(十一月十)
軍艦浪速千代田仁川ヨリ芝罘著(十一月十)

第一戰隊(八島欠)伊万里灣内外ニ於テ訓練ニ從事ス
第二戰隊福岡へ回艦第二驅逐隊ト對抗シ夜中警戒水
雷艇防禦ノ演習ヲ爲シ淺間ハ水雷發射ヲ施行ス

十一月十

ブルー、ウエーニ於テ石炭ヲ積載スルヲ常トスレトモ同
地石炭商ト露海軍トノ間ニハ未タ之ニ關スル何等ノ特
約アララスト
驅逐艦「ベドゥイ」及ヒ「ブライウイ」西國ガヅツ著港(十
月三)
水雷艇第二百二十一號及ヒ第二百二十二號佛國ブレ
ト著港(九月二十)
水雷艇第二百二十二號及ヒ第二百二十三號葡國リスボン著
港(十一月八)

在營口川崎陸軍歩兵大尉ノ本日附發電ニ依レハ新編制
ノ師團(十一月二十)ノ大部分ハ此ノ頃陸續旅順ニ向ケ大石
橋ヲ通過セリ

巡洋艦「ドミトリ」,「ドンスコイ」アルゼール著港(十一月
參看)
獨逸汽船「ロシヤ」號(總噸數三、九五二噸)ハ此ノ日牛莊

十一月十

第三驅逐隊(朝霧欠)今福ヨリ佐世保著
水雷艇第二十一號第二十四號ハ去十一月一日修理竣工シ此
ノ日何レモ大湊ニ向ケ横須賀發(十月十五)
第一戰隊(八島欠)今福沖ニ於テ訓練ニ從事ス
第二戰隊ハ第二驅逐隊ト前夜ニ同シ作業演習ヲ爲ス
第三戰隊中笠置ハ水雷發射其ノ他ハ端舟帆走競争ヲ施
行ス

十一月十

第一戰隊(八島欠)ハ今福出港々外ニ於テ艦隊運動ヲ爲
シ當夜第四驅逐隊ト對抗シテ基本演習ヲ施行ス其ノ主
ナル研究ハ警戒雷艇水雷艇防禦法及ヒ襲撃法トス
又第一戰隊(八島欠)ハ各艦獨立ニ秋季演習ヲ施行ス
第二戰隊ハ第二驅逐隊ト前夜ニ同シ作業基本演習ヲ爲
ス
第三戰隊唐津出港艦隊運動諸操練並ニ航走中内筒砲射
撃ヲ施行ス
第一驅逐隊伊万里發即日唐津灣著(十一月十)

ヨリ神戸入港(神戸税關長發電)(編者曰ク本船ハ獨逸ナラフ
獨逸ナレトモ露國ニテ)
履ヒタルモノナランカ)

在仁川但馬濟遠艦長ノ本日附報告ニ曰ク目下當港ニ碇
泊スル露艦ハ「ボルターリ」「ポーブル」及ヒ驅逐艦「グロ
ゾウオイ」「ウヌシーテリヌイ」ニシテ先日來毎日發光信
號ヲ爲シ探海燈ヲ點シ陸上方面ヲ照輝シテ稍示
威運動ヲナスモノニ似タリ「ボルターリ」ハ昨夜夜半戰開
操練ヲ爲セリ駐韓路公使パブロンフノ如キハ露ニ露兵ト
我カ勞働者トノ爭鬭事件(十一月)ニ關シ日本人ヲ威壓
センカ爲メ大艦ヲ招致シタルモノナリナト、公言シテ
憚ラスト云フ同公使ハ去十三日ヨリ「ボルターリ」ニ在
リ尙上陸セサルモノ、如シト
驅逐艦「グロゾウオイ」旅順ニ向ケ仁川出港

在仁川但馬濟遠艦長ハ昨十五日將校三名ヲ露艦「ボル
ターリ」ニ遣シ其トナク觀察セシメタル内容ヲ本日附
ニテ報告ス其ノ末文ニ曰ク露國士官ノ我カ將校ニ對ス
ル態度ハ極メテ慈愍ニシテ毫モ隔意ナク諸種ノ雜談ヲ
爲セリ唯事局問題ニ關シテハ彼我口ヲ噤シテ何等語ル
所ナシ當日ハ恰モ同艦ニ石炭搭載中ナリシニモ拘ラス
副長自カラ先導シテ艦内ヲ縱覽セシメ更ニ忌憚ナク砲
クマテ虚心平氣ヲ裝ハントスルモノニ似タリ昨夕彼我
將校同道散策シテ互ニ快談セリト

十一月十

軍艦秋津洲佐世保ニ於テ入渠修理ヲ了リ此ノ日馬公ニ
向ケ佐世保發(十月十五)

第一戰隊(八島欠)今福出港艦隊運動ヲ爲シ當夜第一驅
逐隊ト對抗シテ基本演習ヲ施行ス其ノ主ナル研究ハ警
戒雷艇水雷艇防禦法及ヒ襲撃法トス
第二戰隊福岡灣内外ニ於テ訓練ニ從事ス
第三戰隊中吉野、須磨、明石ハ唐津灣出港水雷發射ヲ了
リテ即日歸港千歲高砂、笠置ハ千歲ニ於テ内筒砲競争
射撃ヲ爲シ本戰隊夜中戰開操練ヲ施行ス
第一驅逐隊今福ニ向ケ唐津灣發(十一月十)
軍艦高千穂廈門ニ向ケ吳淞發(十月十三)

十一月十

山本海軍大臣ハ海軍軍機電報頼信紙受授保管手續ヲ定
ム
第一戰隊(八島欠)訓練ノ爲メ今福出港即日歸港ス
八島佐世保第一船渠ニ入ル二十一日出渠ノ豫定
第一驅逐隊唐津灣ヨリ今福著(十一月十)

英國汽船「マストリー」號總噸數五、五〇六噸英庚搭載
東洋ニ向ケ蘇士ヲ通過ス(本船ハ露國履船十九隻中ノ
一ナルコト後ニ知ラレタリ)(十一月二十)

在芝罘山下大佐ノ本日附發信ニ曰ク昨十六日戰艦「ボ
ルターリ」港内ニ碇泊司令長官同艦ニ在リ各艦ニ石炭
ヲ搭載ス又露國艦隊鎮南浦行ノ情報(十一月十)ニ接セシ
モ其ノ後艦隊ハ反テ内港ニ引込ミ發航ノ模様見ヘス尤
昨今戰艦中トノコトナレハ今後如何ナル行動ヲ採ルヘ
キカ未定ニ屬ス又海軍少尉デリウロンナル者東京公使
館附トシテ旅順ヨリ増派セラレタル由又此ノ程補充水
兵到著セシニ付滿期水兵ヲ歸國セシムヘシトノ說アル
モ想像ニ過キサラン又去十四日太守官邸ニ多數ノ文武
官伺候ス太守露都行ノ說アルモ未タ其ノ時日ヲ知ルヲ
得ス

本日附京城發信ニ曰ク日、英、米三國公使ヨリ豫テ要求
シアリタル龍巖浦開放ノ件ニ付外部大臣畧理李夏榮ハ
議政府會議ノ討議ヲ經スシテ一昨夜皇帝陛下ノ直裁ヲ
受ケ昨日右開放ノ趣ヲ各國公使ニ對シ聲明セント
スルニ當リ露國公使カ今回モ復必死ノ妨害運動ヲ爲セ
シニヨリ俄ニ開放ノ聲明ヲ停止スルノ已ムナキニ至
レリト(六月二十)
戰艦「ツエザレウ井子」及ヒ巡洋艦「バヤーン」新嘉坡著
(十一月十)

十一月十

第三戰隊中須磨、明石ハ佐世保ニ向ケ唐津出港千歳吉野空置、高砂ハ唐津出港四艦ニテ高速度(十七哩)艦隊運動ヲ施行シテ唐津入港

第二驅逐隊福岡著(十一月十)

第四驅逐隊中雷艦ハ今福發即日佐世保著(十一月十)

軍艦千早佐世保ニ向ケ舞鶴發(十一月十)

軍艦秋津洲佐世保ヨリ澎湖島著(十一月十)

十一月二

戰時特設各船舶部隊條例並ニ定員表改定セラル其ノ施行ハ明治三十七年四月一日ヨリス本令ハ病院船、假裝水雷母艦、假裝巡洋艦、假設海軍望樓ノ定員表改正并ニ假裝巡洋艦(艦隊補欠員ノ兼用ヲ兼ヌルモノ)艦隊補欠員表、驅逐隊及ヒ艦隊補欠員表、門司臨時敷設隊定員表、基隆臨時敷設隊定員表及ヒ艦隊附屬敷設隊定員表追加ノ件ナリ

第三豫備艦八重山ニ定員ヲ置カス又第十六艦隊水雷艇第七十一號第九艇隊水雷艇並ニ定員ヲ置ク(六月十五日及

第一戰隊(八島欠)午後今福出港第一小隊第二小隊ノ對抗運動基本演習及ヒ當夜第一驅逐隊ト對抗シ警戒航行基本演習ヲ施行ス其ノ主ナル研究綱目左ノ如シ

一各艦ハ主トシテ戰術部署ニ於テ砲火ノ指揮、敵艦ノ距離測定及ヒ通報並ニ射手ノ照準法

二警戒航行、水雷艇襲撃法

練習艦兼運送船「オケアン」本國ニ向ケ浦鹽出港(十一月二十)

(浦鹽新聞ニ曰ク同艦今向ケ來東ハ浦鹽ノ不用鐵材ヲ直直サンクガ本國工廠ニ運送スルニアリト)

元ト天津駐在武官タリシ陸軍少將オーガックハ曩ニ露京ニ歸リ武斷派ノ勢力益増長スル模様アリトノ報ニ接セシカ此ノ日頃ヨリ北京ニ來リ清國大官間ニ運動スト傳フ

砲艦「ギリヤーク」旅順ニ向ヒ營口出港(十一月七)

驅逐艦「グロソツオイ」旅順ヨリ仁川入港(十一月十)

在芝罘増田大尉ノ本日附報告中ニ曰ク在東洋露國驅逐艦二十五隻(十一月十)ノ内最近二二箇月ニ旅順大連兩港ニ出入運動シタルコトアリテ完全ニ任務ニ堪ユヘシト斷定セラルヘキハ十四隻本國ヨリ材料ヲ輸送シ旅順ニ於テ組立テタル十二隻ノ内未タ竣工ヲ告ケサルモノ七隻(即チ「シーリヌイ」「スコールイ」「ストラシーヌイ」「ストロイヌイ」此ノ艦ハ「スターツヌイ」「ラジヤーンチー」ラ「ストロップヌイ」港内ニ屏息ノ儘ナルモノ一隻(「レリ」テナント、ブーラコフ)、本年五月以來一回モ大連灣ニ入りタルコトナシト云フモノ三隻、其ノ旅順ヲ出入シタルコトアリヤ否ハ詳ナラサレトモ水雷營前ノ繋留所ニ常ニ二三驅逐艦ノ現在スルヲ見ルハ或ハ此等三艦カ或缺點ヲ有シテ屏息スルモノナルヤモ知ルヘカラス要

十一月二

第二戰隊(常磐欠)ハ福岡發佐世保ニ向ケ途中艦隊運動施行夜中對州南方ニ於テ第二驅逐隊ト聯合演習(驅逐艦ノ襲撃ニ對シ艦隊ヲ展開漂泊スルノ可否如何ヲ試

軍艦常磐福岡發瀬戶崎ニ向ケ

第三戰隊ハ唐津ヨリ佐世保著其ノ内千歳、吉野、笠置、高砂四艦ニテ高速度(十七哩)艦隊運動、須磨、明石兩艦ハ五ニ反航シテ内筒砲射撃ヲ施行ス

第三驅逐隊(朝霧欠)佐世保發(十一月十)

第四驅逐隊中雷艦ハ今福發即日佐世保著(十一月十)電出渠本隊ニ合ス(十一月十)

小村外務大臣ハ本日附テ栗野公使ニ訓令スルニアレキレイエフ太守ハ既ニ對案ヲ露國政府ニ差出シタル趣ナレハ可成速ニラムストルフ伯ニ會見シ遲滞ナク談判ヲ繼續スル様ロゼン公使ハ發訓セラレンコトヲ促スヘキ旨ヲ以テス

東郷常備艦隊司令官ハ左ノ訓令ヲ發ス

主隊ハ來二十八日以後當港出發各隊ノ高速度艦隊運動(第三戰隊ヲ除ク)及ヒ特別高速度艦砲射撃ヲ施行

第一(八島欠)第二戰隊(常磐欠)第一、第二、第三驅逐隊佐世保著

第二戰隊(八島欠)ハ此ノ日午前黒島沖ニテ艦載水雷艇

十二月二

ヲ卸シテ之ヲ軍裝シ佐世保港内ニテ水雷發射ヲ爲サシム
軍艦高千穂吳淞ヨリ厦門著(十一月十)

栗野公使ノ本日附露京發電ニ曰ク二十一日ノ訓令ニ基
キ今二十二日ヲムスドルフ伯ト會見セシカ伯ハ日本確
定案ニ對スル修正ハ既ニ皇帝陛下ノ御手許ニ達シ居レ
トモ目下皇后陛下御不豫ノ爲メ一切ノ事務ヲ御覽アラ
セフレサルヲ以テ自然延延ヲ來セリト言ヒ共ヨリ木
官カアレキセイエフ太守ヨリ提出シタル修正個條ノ事ヲ
尋ネタルニ對シ伯ハ直接ノ答ヲ爲スニ當感シタル模様ニテ
韓國ニ關シテハ露國ハ日本ト直接ノ協定ヲ遂ケ以テ多大ノ
讓歩ヲ爲スヲモ辭ヒサルモノナレトモ滿洲ニ關シテハ爾カ
スル能ハス露國ハ一旦征服ノ權利ニ依テ滿洲ヲ占領シタル
ニモ拘ラス猶之ヲ清國ニ還附セントスルモノナリ但滿
洲ニ於ル我カ莫大ナリ利益ノ安固ニ付或種ノ保障ヲ要ス
ルハ勿論ナリ而ルニ清國ニ於テ右保障ヲ與フルヲ拒
ミツ、アル今日露清間專屬案件タル滿洲ニ關シ第三國
トノ間ニ何等協定ヲ爲サンコトハ到底我カ露國ノ能ク
スル所ニアラス云々ト飽クマテ前説ヲ固執シ終リニ伯
ハ來二十五日スケルネヴィイスニ於テ皇帝ニ謁見ノ管
ナリト言ヘリ右會談ノ模様ヨリ察スルニアレキセイエ
フ太守ノ提出シタル修正ハ清國及ヒ滿洲ニ關スル我カ
提議ニ取リテハ好都合ノモノニ非サルヘシト思ハルト
軍艦八島出渠(十一月十)第一戰隊ニ合ス
軍艦常磐瀨戶崎ヲ經テ佐世保著第二戰隊ニ合ス

十一月三

東郷常備艦隊司令長官ハ軍艦千早ヲ第一戰隊ニ編入シ
共ノ通報艦ヲラシメ軍艦龍田ヲ第二戰隊ニ編入シ共ノ
通報艦ヲラシメ驅逐艦夕霧ヲ第二驅逐隊ニ編入シ共ノ
母艦ヲ磐手ト定ム(十一月七及十)
通報艦千早舞鶴ヨリ佐世保著(十一月十)

十一月二

軍艦浪速千代田(十一月十)聯合艦砲戰射撃ノ爲メ此ノ
日午前芝罘ヲ出港セシカ天候險惡ノ爲メ射撃取止メ芝
罘ニ引返シ午後浪速ノミ山海關ニ向フ

十一月二

東郷常備艦隊司令長官ハ左ノ如ク第一戰隊日令ヲ發ス
當隊(千早ヲ除ク)ハ來三十日午前八時三十分當港出
發當日及ヒ次日港外ニ於テ高速力艦隊運動ヲ施行シ
來月一日午後當港ニ歸泊更ニ三日ヨリ特別高速力艦
砲射撃ノ爲メ出港スル豫定ナリ千早ハ今後約二週間
單獨ノ訓練ニ從事スヘシ

軍艦浪速芝罘ヨリ山海關著(十一月十)
軍艦秋津洲澎湖島發即日厦門著(十一月十)

十一月二

軍艦宮古佐世保ニ向ケ厦門發(十一月二)
津輕海峽警備艇タリシ水雷艇第六十七號第六十八號

明治三十六年十一月

九十九

在芝罘山下大佐ノ本日附發信ニ曰ク滿期水兵約九十名
汽車ニテ旅順ヨリ本國ニ向ヒ出發シ又先日來海軍下級
將校十數名乃至二十名旅順ニ到着セリト

在仁川但馬濟遠艦長ノ本日附報告中ニ曰ク現今當港碇
泊ノ露艦ハ「ボルタール」「ポーブル」及ヒ驅逐艦「グロソ
ウオイ」「ウメシ」「テリヌイ」ニシテ本日兩驅逐艦ノ内筒
砲射撃ヲ目撃スルニ砲側ニ一名ツ、ノ支那人ヲ配置シ
テ射撃ヲ教習スルモノアルヲ確認セリ察スルニ急速島
合ノ輩ヲ呼集シテ兵員ヲ補缺セシモノナルヘシト

砲艦「マンヂウール」浦鹽ヨリ元山入港(十一月八)

砲艦「マンヂウール」元山出港

附記

(九月八)ハ横須賀ニ向ケ函館發
伊艦「ヴァイツトル」ルビザアニ(同國東洋艦隊司令長官グレネツト少將旗艦)及ヒ「ビエモン」ト二隻ハ長崎ヨリ仁川ニ入
港

十一月三

第一戰隊通報艦千早訓練ノ爲メ佐世保出港今福ニ向ヒ
即日著(十一月二十三)
即日著(同二十五)參看)

十一月三

小村外務大臣ハ本日附ヲ以テ栗野公使ニ電訓スルニラ
ムスドルフ伯ハ本月二十五日皇帝ニ謁見ノ旨ナレハ可
成速ニ伯ニ會見シローゼン男ヘ發訓ノ手續ヲ執ラレシ
ト否ヲ問合スヘキ旨ヲ以テヒシカ問モナク栗野公使ノ
二十七日附發電ニ接ス
第二戰隊(常警)吾妻欠(佐世保出港相ノ浦沖碇泊
軍艦浪速泰皇島ヲ經テ大沽著(十一月二十)

十一月三

軍艦常警佐世保ニ於テ入渠
軍艦吾妻本隊ヨリ分離シテ佐世保發九十九島灣ニ投錨
軍艦浪速芝罘ニ向ケ大沽發
驅逐艦不知火朝鮮南岸ニ向ケ佐世保發
水雷艇燕ハ去八月二十二日海軍造船廠ニ於テ竣工受授
結了十一月二十七日佐世保ニ向ケ吳ヲ發ヒシカ此ノ日
佐世保著(五月四日及七六
月十五日參看)

栗野公使ノ本日附發電ニ曰クラムスドルフ伯ハ皇帝陛
下ニ謁見ノ爲メ十一月二十五日行在所ニ赴ク旨ナリシ
カ皇后陛下御病氣ノ爲メ見合ハセタル旨木官ニ語ラレ
タリト(此ノ電報ハ二
十八日東京著)

露國帆船「ナジエー」シユダ號(登簿噸數六七噸七八)ハ
去十月十八日浦鹽ヲ出港セシカオルガ灣寄港後此ノ日
暴風避難及ヒ食糧淡水等積入ノ爲メ函館入港
英國汽船「クルーサー」ダー號(總噸數四、二二〇)英炭搭
載東洋ニ向ケ蘇士ヲ通過ス(本船ハ露國雇船十九隻中
ノ一ナルコト後ニ知ラレタリ)(十二月二十)

砲艦「マンヂウール」旅順口ニ向ケ馬山浦出港(十一月二十)
英國汽船「ボーチレー」號(總噸數三、八一)英炭搭載東
洋ニ向ケ蘇士ヲ通過ス(本船ハ露國雇船十九隻中ノ一
ナルコト後ニ知ラレタリ)(十二月二十)

十一月三

豫備艦驅逐艦不知火常備艦隊ニ編入セララル(十二月十)
山木海軍大臣ハ魚形水雷發射規則ヲ定メ來十二月一
日ヨリ施行セシメ又失踪ノ魚形水雷艦搜索方ニ關シ
發令ス

第一戰隊佐世保出港發島南方ニ於テ高速力艦隊運動ヲ
爲ス其ノ主ナル研究ハ單縱陣ヲ基本隊形トセル諸種ノ
一齊回頭陣形變換トス
軍艦浪速大沽ヨリ芝罘著(十一月二十)
軍艦高千穂秋津洲ハ清國廣東省碣石灣ニ於テ瓜生常備
艦隊司令官豫定次第書ノ通り警備隊聯合常襲艦砲
射撃ヲ實施ス(十一月二十二日及
二十五日參看)

水雷艇第二十一號(第二十四號)ハ横須賀發後處々ニ寄
港ヒシカ此ノ日函館著(十一月十)
軍艦宮古ハ六月十三日ヨリ七月二日マテ瓜生司令官旗
艦高千穂ニ隨ヒ長江筋ヲ往復航江ヒシカ其ノ後上海ニ在
泊セシト一ヶ月餘其ヨリ衛山島象山浦ニ到リ八月十七日
上海ニ歸港十月七日マテ同港ニ在泊シテ後臺灣方面ヲ巡
航シ此ノ日廈門ヨリ佐世保ニ歸著(七月三日十月八日、十一
月二日同二十六日參看)

十一月二

小村外務大臣ハ本日附ヲ以テ栗野公使ニ訓令スルニ日
露交渉ハ帝國政府カ露國政府ノ提言ニ對シテハ總テ之
ニ速答ヲ與フルニモ拘ラス懸案既ニ四ヶ月ノ久シキニ
互リ而モ其ノ終局ノ如何ハ未タ確然豫見シ得ルノ域
ニ達セス帝國政府ハ憂懼ニ堪ヘサルカ故ニ可成速ニ

在芝罘山下大佐ノ本日附報告中ニ曰クアレキセイエフ
太守ハ愈來十二月二日露都ニ向ヒ發程スル由信スヘ
キ向ヨリ報告ニ接シタリタルニ一市長サワロフモ同市
繁榮策ヲ講センカ爲メ同シク十二月下旬露都ニ向ヒ出
發スヘシト云フ又本月十八日頃ヨリ本邦人洗濯屋ノ
露艦内ニ入ルヲ嚴禁セラレタル由是露艦隊鎮南浦行云
々ノ報道(十一月十)事前ニ本邦新聞紙上ニ現ハレシ如キ
其ノ原因タリシナランカ又日曜日祭日等ニ當リ艦隊乘
員ノ外出上陸平常ニ異ナルコトナシト
水雷艇第二百十二號及ヒ第二百十三號アルザール著港
(十一月三)
英國汽船「ホーウ」ホックホル號(總噸數三、七二二)英
炭搭載東洋ニ向ケ蘇士ヲ通過ス(本船ハ露國雇船十九
隻中ノ一ナルコト後ニ知ラレタリ)(十二月二十)

此ノ日頂露國ハ英國安社ニ於テ製造ノ智利戰艦「コン
ステチューション」(一、八〇〇噸)及ヒ昆社ニ於テ製
造ノ同國戰艦「リベルタッド」(噸數同上)ヲ買入レント
試ミタレトモ英國政府ニ先ンセラレ果サス

十二月二

ラムズドルフ伯ニ會見シ最痛切ニ交渉問題速決ノ緊要ヲ説示スヘキ旨ヲ以テス

第一戰隊ハ此ノ日前發島南方ニ於テ單縱陣ヲ基本隊形トセル諸種ノ一齊回頭陣形變換及ヒ蛇行運動ヲナシ午後各小隊ノ對抗運動ヲ行ヒ第一小隊ハ東郷司令長官自カラ指揮シ第二小隊ハ梨羽司令官之ヲ指揮ス對抗ハ諸種ノ對勢ニ應ジテ各艦砲火ノ指揮、敵艦距離測定、射手照準法及ヒ水雷發射照準法ヲ練習スルヲ主トス右終テ佐世保入港

軍艦千代田青島ニ向テ芝罘發(十一月二十) (四〇參看)

軍艦吾妻單獨出艦佐世保ニ歸港(十一月二十) (九〇參看)

軍艦千代田青島著

栗野公使ノ本日附發電ニ曰ク木官ノ聞ク所ニ據レハ露國政府ハ今猶アレキセイエフ太守ト頻繁ニ通信ヲ重ネ居レリト云フト

東洋増遣新艦「ツエザレウ井子」ハ去九月十二日佛國ツロン港ヲ發セシカ回航中坐礁シタルコトアルモ直ニ離レ此ノ日旅順ニ到着ス(新著艦 第十六)

東洋増遣新艦「バヤーン」ハ去八月十一日露都ヲ發セシカ回航中異狀ナク此ノ日旅順ニ到着ス(新著艦 第十七)

在仁川但馬濟遠艦長ノ本日附報告中ニ曰ク目下常港ニ在泊スル露艦四隻中(四〇參看)最近一週間ニ於テ「ホルターワ」ノ一回内筒砲射撃ヲ施行セシ外ハ外面上ニ顯ハレタル動作ヲ認メズト

丁抹汽船「プリンス、ウラジミール」號雜貨搭載東洋ニ向ケ蘇士ヲ通過ス(露國履船十九隻中ノ一ナルコト後ニ

十二月三

東郷司令長官ハ常備艦隊驅逐隊編制ヲ左ノ如ク改定シ來四日ヨリ成立セシム(七月一〇、九月五〇同) (十七日、十月七〇參看)

第一驅逐隊 曉、霞、朝潮、白雲

第二驅逐隊 雷、電、噴、噴

第三驅逐隊 薄雲、漣

以上第一戰隊ニ屬ス

第四驅逐隊 春雨、村雨、遠鳥、朝霧

第五驅逐隊 叢雲、夕霧、陽炎

以上第二戰隊ニ屬ス

第二戰隊(常磐、吾妻)佐世保入港(十一月二十) (八〇參看)

軍艦高千穂秋津洲ハ何レモ廈門ヨリ香港著(十一月三) (十日參看)

驅逐艦不知火佐世保ヨリ馬山浦著(十一月二十) (九〇參看)

知ラレタリ(十二月二十) (八〇參看)

ラムズドルフ伯ハ此ノ夜栗野公使ヲ接見シ懸案問題ニ就キテハ猶アレキセイエフト交渉中ナリト述ヘ尙皇帝陛下ハ十二月五日還幸ノ旨ニ付來八日拜謁シ本件速決ノ必要ヲ具奏シ然レ後ローゼン男ニ發訓スヘント言ヒシニ付其ノ拜謁ノ日取ヲ早メシコトヲ望ミシモ種々ノ故障ヲ唱ヘ九日ニ至ラサレハ拜謁ノ結果ヲ知ラシメ難シト言ヘリ

戰艦「ベトロバウロウスク」及ヒ巡洋艦「ボヤーリン」封書命令ヲ帶ヒ旅順出港

砲艦「ラズボイニク」大連灣ヨリ馬山浦ニ入港木艦ハ同國ノ國祭日(十二月十九日皇帝ニコライ第二世陛下命名日)ヲ同港ニ於テ祝スル趣ナレハ同日マテハ引續キ碇泊スルノ豫定ナラント推スト(在馬山浦三浦領事報告)

在芝罘山下大佐ノ本日附報告中ニアレキセイエフ太守ノ露都行期日ハ猶未定ノ由ナリ(十一月三)又同太守ノ非戰論ノ理由ハ東洋ニ於テ自國ノ船渠ニ乏シキカ爲メナリト云フニアル由ナリ又戰艦「セウスト」ボリ修理改善ヲ要スル個所極メテ重大ニシテ全然戰闘ニ堪ヘス而テ其ノ修理ハ旅順口ニ於テ爲スヲ得ス其ノ工事ハ約八ヶ月以上ヲ要スルモノナリ而テ潛航艇ハ目下旅順ニ存在セスト

在芝罘増田大尉ノ本日附報告ニ曰ク大連灣ノ貯炭高ハ十月下旬艦隊ノ同灣碇泊中(十月二十)ニ積込ミタルカ爲

十二月四

豫備艦隊島松島橋立ハ練習艦ト定メ練習ノコトニ關シテハ海軍教育本部長ノ指揮ヲ受ケシメラル(八月二十七日參看)
 第一戰隊佐世保出港色瀬(高サ四十九呎)尖岩ヲ標的トシ豫定ノ特別高速力艦砲射撃ヲ施行シ終テ歸港
 水雷艇第六十七號第六十八號ハ函館ヨリ横須賀著(十一月十六日參看)

十二月五

軍艦隅田上海ニ於テ組立竣工此ノ日進水本籍ヲ吳鎮守府ト定メラル(六月二十日參看)

メ約二千噸ニ減シタルニハ約二萬噸ヲ貯フ由特ニ兩地ニ就キ取調ヘシメタル者ノ報告ニ接シタリト
 露國汽船「プログレス」號ハ義ニ室蘭ヨリ浦鹽(航行ノ途次矢越沖ニ於テ日本郵船會社所有汽船東海丸ト衝突シ函館ヘ來リ(十一月二十日參看)入渠修繕ノ末此ノ日證據保全ノ爲メ同會社ノ申請ニ依リ假差押ヲ執行セラレタリ同船乗組員一同ハ昨日宮島丸ニテ浦鹽ニ向ヒ歸還セリ
 運送船兼練習艦「オケアン」新嘉坡入港(十一月十日參看)

司令長官スタルク中將ノ旗艦戰艦「ベトロパウロウスク」及ヒ巡洋艦「ボヤーリン」旅順ヨリ仁川ニ入港ス右ノ外同港ニハ既に戰艦「ボルター」及ヒ驅逐艦二隻(十一月八日參看)砲艦「ポール」(十一月十日參看)在泊スルアリ露國カ斯克勢力ヲ京城ニ近キ港灣ニ集合スルハ現時ノ一問題タル龍岩里開放ニ反對スル示威運動ノ爲メナラント云フ

在仁川但馬濟遠艦長ノ木日附報告中ニ曰ク昨日入港セル露國戰艦「ベトロパウロウスク」及ヒ巡洋艦「ボヤーリン」ニ訪問使ヲ遣リシカ其ノ露國將校トノ雜話ニヨレハ彼等ハ大ニ我カ一等巡洋艦ノ威力ヲ恐怖スルモノ、如ク見ヘ又彼ノ旗艦ニハ士官以上二十一名、下士卒六百二十名ヲ有スト云フモ是定員ニシテ實際ハ缺員多カルヘシ又彼等ハ日本海軍ノ將校充實セルヲ羨望スルモノノ如ク殊ニ一艦ニ二人以上ノ軍醫官ヲ置クハ甚緊要ノ

附 記

十二月六

英國支那艦隊司令長官ブリッヂ大將ハ通報艦「アラクリチ」ニ坐乘シテ今日佐世保ニ來港皇禮砲ヲ發ス松島答砲シ次テ大將ニ對シ制規ノ禮砲ヲ行ヒ大將之ニ答フ 岐島鎮守府司令長官大將ヲ訪問ス其ノ後東郷司令長官ハ麾下司令官幕僚ヲ率非テ訪問シ同司令官官退艦ノ時制規ノ禮砲ヲ受ケ次ニ各艦長英艦ニ赴ク大將ハ答禮告別ノ爲メ鎮守府ニ至リ歸途東郷司令長官ヲ敷島ニ答禮、各司令官艦長參謀離杯告別ヲ爲シ大將ノ退艦ニ際シ禮砲ヲ行フ尋テ「アラクリチ」出港艦隊總員艦側ニ整列シ大將ヲ送ル大將深ク厚意ヲ謝シテ去ル此ノ間僅ニ時餘ヲ費セリ

東郷常備艦隊司令長官ハ麾下驅逐隊各母艦ヲ左ノ通り改定ス(十月七日參看)

母艦	部	屬	驅	逐	艦
初島	砲	臺	朝	雲	
三島	砲	臺	朝	雲	
八島	砲	臺	朝	雲	
出雲	砲	臺	朝	雲	
八雲	砲	臺	朝	雲	
常磐	砲	臺	朝	雲	
淺間	砲	臺	朝	雲	

事ナリト云ヘリ現時露國海軍ニ於テハ軍醫官ノ缺乏ヲ苦慮シツ、アルカ如シ又目下當港ニ碇泊セル露伊兩國艦隊(十一月二十日參看)ノ將校等ハ入港以來事アリケニ互ニ往復シテ親交ヲ表示セントスルモノ、如ク一昨三日以來露伊兩國公使及ヒ司令長官ハ互ニ旗艦ヲ訪問シ長時間ヲ經テ退艦セリト

司令長官スタルク中將ノ代理トシテ參謀長サリチエツフ中佐ハ昨日ノ我カ訪問ニ對シ濟遠ニ來訪ス其ノ時濟遠艦長ハ露艦隊入港ノ目的并ニ滞在日數等ヲ問フ所アリシモ唯二三日在港スヘシト答フルノミ
 露國履船「ベナーチ」號新嘉坡出港(十一月十日參看)

軍艦常備出渠(十一月三十日)

練習艦豊橋役務ヲ解カレ第三豫備艦ト定メ特別定員ヲ置ク同艦ハ從來軍需品輸送ノ任務ニ従事シ各軍港間ニ往復セシモノニシテ此ノ日吳ヨリ佐世保著
山本海軍大臣ハ艦艇及ヒ各部特科兵配置表并ニ戰時特設各船舶部隊及ヒ水雷團要港部等臨時増加特科兵配置表ヲ改正ス
第三戰隊(笠置欠)訓練ノ爲メ佐世保出港即日寺島水道南側ニ假泊ス笠置ハ佐世保港内ニ在リ

在芝罘山下大佐ノ本日附報告中ニ曰ク露艦「ヅジギート」ハ下士養成ノ練習艦ニシテ過日旅順口出發歸歐ノ途ニ就ケリ又驅逐艦ハ露海軍ニ於テハ艦隊附屬水雷艇ト公稱シ目下旅順ニアル驅逐艦ノ内一隻ハ明年五月以後ニアラサレハ完整ヲ期スヘカラス又三隻ハ目下修理中ニシテ何レモ三四ヶ月ヲ經サレハ竣工セサルヘシ又増遣艦「ツエザレウ井子」及ヒ「バヤーン」ノ定員ハ下士以下ハ略充實シ居ルモ士官ハ定員ノ三分ニ達セス戰艦「モリス」ト「ボリ」ノ戰闘ニ堪ヘサルハ汽罐ノ使用惡シカリシ爲メ全然其ノ不用ニ歸セシニ依ル去三日「ペトロパウロウ」及ヒ「ボヤーン」ノ旅順出艦ハ仁川港ニ示威運動ヲ爲スニアリト其ノ筋ヨリ聞込ミタリ驅逐艦ニ於ル機關官ハ各艦一名ノ定員ナレトモ現時一名ニテ二隻乃至三四隻ヲ兼務ス又在旅順口海陸軍ノ軋轢ハ近來益々甚シキヲ加ヘ數日前海軍ノ一將校殺サレ陸軍將校二名重傷ヲ蒙ルノ失態ヲ見ルニ至リ又陸軍部内ニ於テハアレキセイエフ太守ノ威信失墜ス其ノ原因ハ太守ノ處置繼子根性ニ出テ海軍ニ厚クシテ陸軍ニ薄シト云フニアリ又通化附近ニ於テ參謀中佐マドリロフノ率非ル三百ノ露兵數千ノ馬賊ニ圍マレタル風説ハ事實ニ相違ナキモ深ク之ヲ秘ス又「ツエザレウ井子」バヤーン「マンヂウール」三艦ハ目下繫船池内ニ横附ス「ツエザレウ井子」及ヒ「バヤーン」ハ共ニ船體白色煙突黃土橋ハ

十二月八

東郷常備艦隊司令官ハ麾下軍艦水雷艇防禦部署標準ヲ改定ス
第三戰隊(笠置欠)寺島錨地出艦即日同錨地ニ歸泊ス
軍艦秋津洲廈門ニ向ケ香港發(十二月三日)

十二月九

在英海軍大佐玉利親賢ハ本日附ヲ以テ其ノ筋ニ電問シテ曰ク伊國ニ於テ製造中ノ亞爾然丁裝甲巡洋艦二隻ヲ彈藥トモ英貨百五十三萬磅ニテ賣却スル由「ギップス」商社ヨリ内報アリ日本政府ニテ購入ノ見込ナキヤト
第一戰隊通報艦千早今福發即日佐世保著(十一月二十日)
第二戰隊(吾妻、常磐欠)特別高速力艦砲射擊高速力艦隊運動、砲及ヒ水雷ニ關スル諸教練ヲ施行スル爲メ黒島沖ニ向ケ佐世保出港即日黒島沖ニ投錨

黒ク塗レリト
砲艦「マンヂウール」旅順口發、行先不明
運送船兼練習艦「オケアン」本國ニ向ケ新嘉坡出港(十二月三日)
和蘭汽船「フォルミナ」號(總噸數三、六三八)英炭搭載東洋ニ向ケ蘇士ヲ通過ス(本船ハ露國雇船十九隻中ノ一ナルコト後ニ知ラレタリ)(十二月三日)
砲艦「ボープル」旅順ニ向ケ仁川ヲ發ス(十二月四日)同艦ハ十一月初旬以來仁川ニ在泊セシカ既ニ警備ノ任ヲ了ヘタルヲ以テ本日出港ス交代艦「ギリヤーク」ノ來港スルマデハ「ボヤーン」仁川ニ滯泊スヘシト云フ
獨逸汽船「バタビヤ」號(總噸數一、〇四六)ハ英炭其ノ他搭載英國汽船「ロサリ」號(總噸數四、三七〇)ハ雜貨搭載此ノ日何レモ蘇士ヲ通過ス(此ノ二船ハ露國雇船十九隻中ノモノナルコト後ニ知ラレタリ)(十二月二十日)
ラムスドルフ伯ハ本日栗野公使ニ語ルニアレキセイエフ太守ノ提案ヲ基礎トシテ談判ヲ繼續スヘキ旨ノ勅命昨八日ヲ以テ同太守及ヒローゼン公使ニ發送セラレタリ尤日本ノ提案ニモ充分ノ考量ヲ加ヘタルナリト
在浦鹽某ハ本日附ニテボボーフ島情況再視察ノ報告ヲ提出ス右ハ九月二十四日提出ノ報告ヲ増補セルモノナリ
本日附浦鹽發信ニ曰ク浦鹽港口設備ノ浮標ハ例年ノ如ク陸上ニ曳揚ケアリ又浦鹽方面寒氣ノ襲來ハ例年ヨリ

第三戰隊(笠置欠)行動前日ニ同シ
驅逐艦不知火ハ十二月八日馬山浦ヲ發セシカ(十二月三)
此ノ日佐世保著
水雷艇第七十一號ハ本年六月三十日佐世保海軍造船廠
ニ於テ進水九月十四日木籍ヲ佐世保鎮守府ト改定セラ
レシカ此ノ日竣工受授結了
軍艦千代田青島發芝罘ニ向フ(十二月二)

十二月十

軍艦吾妻、常磐佐世保出港第二戰隊ニ合ス
第二戰隊出雲、淺間、八雲、磐手ノ四艦ハ黑島沖出艦色瀬ニ
向ヒ特別高速度力艦砲射撃ヲ施行シ終テ黑島沖ニ歸泊ス
第三戰隊(笠置欠)ハ赤島水道中旗艦千歳ニ於テ聯
合懸賞内筒砲射撃裝填術競技ヲ施行ス
軍艦高千穂香港ヨリ澎湖島著(十二月三)

十二月十

海軍次官海軍少將齋藤實ハ玉利大佐ニ亞爾然丁軍艦購
買ノ希望ヲ返電ス(十二月九)
東郷常備艦隊司令長官ハ佐世保ニ於テ主隊日令ヲ發ス
其ノ要領左ノ如シ
一主隊ハ來十五日以後各隊順次ニ出發朝鮮海峽附近
ニ於テ諸種聯合作業ノ訓練ニ從事シ本年末迄ニ當
港ニ歸港ス
一第一戰隊(千早欠)ハ來十五日前當港出發別紙行

早キコト約三週間ニシテ漸次港面ニ結氷ヲ見ルニ至リ
又碎氷船ハ既ニ準備ニ著手シタリト

在英玉利大佐ノ本日附發信ニ曰ク露國戰艦「オスラー
ビヤ」ハ東洋回航ノ途次地中海ニ於テ坐礁シ艦底損傷
シ伊國スベシアニ於テ晝夜工事ヲ施行シツ、アリシカ
今週間ニ東洋ニ向ケ出發スヘキノ命ヲ受ケタル旨今ス
ベシアヨリ英國海軍省ヘ報告アリタリト(八月十一日及ヒ)
英國汽船「ラスベラ」號(總噸數三、八三七)ハ英炭搭載蘇
士ヲ通過ス(本船ハ露國雇船十九隻中ノ一ナルコト後
ニ知ラレタリ)(十二月二十)

ローゼン公使ハ小村外務大臣ヲ訪問シ我カ確定修正案
(十月三十)ニ對スル復答トシテ露國政府ノ對案ヲ公然提
出ス之ヲ第二回ノ露國對案トス此ノ對案ハ八ヶ條ヨリ
成リ滿洲ニ關スル條項ヲ全然削除シ日露協商ヲ以テ單
ニ韓國ノミニ關スルコト、シ而テ又韓國ニ於テ北緯三
十九度以北ニ中立地帯ヲ設クルコト又韓國ノ領土ヲ日
本ニテ軍略上ノ目的ニ使用セサルコトニ就テハ從來ノ
主張ヲ其ノ儘維持ス

動豫定表ニ準シテ行動ス

一第二戰隊ハ高速度力艦隊運動結了後適宜機關ノ手入
ニ從事シ來二十三日迄ニ鎮海灣ニ於テ第一戰隊ニ
合同スヘシ
一第三戰隊ハ特別高速度力艦砲射撃結了後便宜當港出
發來十九日迄ニ鎮海灣若クハ釜山ニ於テ第一戰隊
ニ合同スヘシ
一第一、第二驅逐隊ハ競争水雷發射結了後適宜機關
ノ手入ニ從事シ來廿二日迄ニ馬山浦若クハ鎮海灣
ニ於テ第一戰隊ニ合同爾後其ノ行動ヲ共ニスヘシ
十二月十五日佐世保著
同十六日鎮海灣著同十七、八日同灣泊
同十九日鎮海灣發釜山著
同二十日釜山泊同二十一日釜山發馬山浦著
同二十二日馬山浦泊
同二十三日馬山浦發鎮海灣著
同二十四日鎮海灣泊同二十五日同灣發
同二十六日佐世保著
東郷常備艦隊司令長官ハ其ノ筋ニ報告スルニ第一戰隊
ハ來十五日佐世保出港對馬釜山港馬山浦、巨濟島ニ至
リ二十六日歸港シ第二、第三戰隊及ヒ各驅逐隊モ二十日
頃マテニ巨濟島ニ來會セシムルノ行動ヲ取ラントスル
コトヲ以テス
第二戰隊常磐、吾妻ハ黑島沖出艦色瀬ニ向ヒ特別高速度力

在京城松石陸軍歩兵大佐ノ本日附發電ニ曰ク露國ハ韓
國ト將校備聘條約ヲ締結セリ其ノ大要左ノ如シト

一 事變ニ際シ露國皇帝ハ韓國皇帝ノ請求ニ應ジ露國
將校下士ヲ派遣スルコト
二 露國將校ハ侍衛隊ニ屬シ各大隊二名以上タルコト
三 此ノ契約ハ他ノ諸隊ニ及スコト
四 供給及ヒ旅費ノコト
五 露國人以外ノ者ヲ用ヒサルコト
戰艦「ベトロパウロウ」同「ボルター」驅逐艦「ウヌ
シ」テリヌイ」ハ旅順ニ向ヒ仁川ヲ發ス(十一月八)是ヨ
リ先キ京釜鐵道沿路ナル燕岐ニ於テ日本人ト露國人ノ
通辯トシテ伴ヘル韓人トノ間ニ紛争起リ韓人毆打セラ
レテ死亡セリトノ噂アリ果シテ眞實ナリトセハ之ヲ探
査スルノ必要アルヲ以テ右各艦或ハ仁川出港ヲ延引ス
ヘントノ說アリシモ是ニ至ラズシテ已メリ
露國雇船「マリスト」號(十一月十)新嘉坡著

十二月十日

艦砲射撃ヲ施行シ終テ黒島沖ニ歸泊
第二戰隊通報艦龍田佐世保ニ向ケ吳發(十一月十日)
第三戰隊(笠置欠)ハ前日同様ノ訓練ニ從事ス

山本海軍大臣ハ常備艦隊司令長官ノ第一戰隊及ヒ驅逐艦行動ニ關スル報告ニ對シ今ヤ時局問題ハ最重要大視スヘキ時機ニ在ルヲ以テ我カ艦隊ハ佐世保附近ニ集中シテ命ヲ待ツヲ要スルカ故ニ其ノ主力ヲ分割スルヲ不利ナリトシ又屢内訓セシ如ク驅逐艦ハ重大ナル任務ヲ遂行スルノ準備ヲ整ヘ寸毫ノ故障モ忽ニセザランコトヲ望ミ艦隊ノ修理ヲ要スルモノハ此ノ際大至急工事ヲ以テ竣工セシムヘキヲ命ス

伊集院軍令部次長ハ常備艦隊司令長官ニ發電シテ曰ク臨戰準備陸揚品中差當リ差支ナキモノヲ徐々内密ニ陸揚アランコトヲ希望ス但何レモ外見ニ目立タサル様注意アランコト肝要ナリ又各艦ノ和炭貯量ハ通常速力ノ二晝夜分位ニ留メ置カル、方可ナラント

在芝罘山下大佐ハ此ノ日ヨリ六ヶ月間密偵トシテ在旅順露國新聞記者ヲ備入ル
第二戰隊黒島沖出艦高速力艦隊運動ヲ爲シ終テ黒島沖ニ歸泊
第三戰隊(笠置欠)ハ寺島水道出艦色瀬ヲ標的トシ高速力特別艦砲射撃ヲ爲シ終テ佐世保入港

軍艦濟遠ハ木浦不穩(日韓人夫騒動)ノ件ニ付駐韓林公

砲艦「コレット」ハ十一月中旬旅順ニ於テ入渠十二月七日出渠セシカ今十二日夜旅順ヨリ芝罘入港
在芝罘山下大佐ノ本日附發信ニ曰ク旅順ヨリノ情報ニ依レハ極東太守ハ太平洋艦隊將校定員ヲ波羅的及ヒ黒海艦隊ヨリ至急繰合セ補充セラレンコトヲ電請セリト云フ又旅順口選拔陸軍大學校學生八名露都ニ赴クノ途中俄ニ召還セラレタリト
英國汽船「エンマ」號ハ雜貨及ヒ爆發藥搭載東洋ニ向ケ蘇士ヲ通過ス(本船ハ露國履船十九隻中ノ一ナルコト後ニ知ラレタリ)(十一月二十)

十二月十日

使ノ請求ニ依リ同地ニ向ケ仁川出港
軍艦千代田青島ヨリ芝罘著(十一月九)本艦長海軍大佐村上格一ハ同日附ヲ以テ軍令部長ニ發電シテ曰ク石炭及ヒ水糧食補充ノ爲メ十七日又ハ十九日仁川港ニ向ケ出發二十九日頃歸著ノ豫定ナリト

第二戰隊高速力黒島沖出艦艦隊運動ヲ終リ佐世保入港

第二戰隊通報艦龍田吳ヨリ佐世保著(十一月十日)

軍艦朝日、吉野入渠ノ爲メ何レモ吳ニ向ケ佐世保發

軍艦高千穂昨十二日澎湖島ヲ發セシカ本日打狗著(十一月十日)

軍艦濟遠ハ木浦投錨後領事承諾ノ上陸戰隊ヲ揚ケ約二十

十分間領事館敷地内ニ於テ操練ス

軍艦等置單獨佐世保出港即日寺島水道ノ南側ニ投錨(十一月七日乃至同)

在京城松石陸軍歩兵大佐ノ發電ニヨレハ太平洋艦隊司令長官スマルク中將ハ韓國皇帝ニ謁見シ其ノ際奏上シテ曰ク日露協商ハ今尙商議中ニシテ滿韓交換ノ如キハ露國ノ承諾スル能ハサル所ナリ若シ万一直ニ武力ニ訴フルコトアルモ斷シテ日本ヲシテ韓國ニ勢力ヲ專ニセシメサルヘシ日本ハ財政上開戦ノ餘裕ナシ韓國若シ孰レニモ就カサル半途ノ態度ニ出ツルコトアラハ露國ハ已ムヲ得ス韓國ヲ擁護スル能ハサルモ知ルヘカラス露國ハ先ツ今回ノ宮城護衛ノ件(十一月十日)ヲ取極メ進ンテ露韓兩國ノ親交ヲ擴張セントス龍岩浦開港ハ露國ノ斷シテ望マサル所ナリト

在芝罘山下大佐ノ本日附發信ニ曰ク昨夜露國砲艦「コレット」ノ當港ニ來リシハ我カ軍艦ノ動靜ヲ觀察スル爲メナラント
砲艦「マンザール」ハ本月七日旅順口發以來所在不明ナリシカ「ノース、チャイナ、デーリー、ニウス」ハ此ノ日同艦ノ上海ニ入港セル旨ヲ報ス

十二月十日

艦隊條例中改正ヲ加ヘラレ之ト同時ニ鎮守府艦隊條例

砲艦「ギリヤーク」旅順口ヨリ仁川入港

ハ廢止セラル
 東郷常備艦隊司令長官ハ驅逐艦不知火ヲ第五驅逐隊
 (十二月三)ニ編入シ其ノ母艦ヲ出雲ニ指定ス
 (二月五)ニ編入シ其ノ母艦ヲ出雲ニ指定ス
 軍艦高千穂打狗發射日安平著(十二月十)
 軍艦秋津洲香港ヨリ厦門著(十二月八)
 軍艦笠置寺島水道鑑地出艦色瀬ニ向ヒ高速力遠距離射
 撃ヲ爲シ終テ佐世保入港(十二月十)

在芝罘山下大佐ハ本日附ヲ以テ旅順口ノ情勢ヲ報告ス
 其ノ報告中昨十三日調査シタル旅順口東繫船池内、西
 港内、港口、港外ノ在泊軍艦ノ名ヲ列記シタル後日ク新
 著艦「ツエザレウ非チ」ハ北岸船渠ノ西側ニ横附ケ戰闘
 色ニ塗換ヘ中ナリ(十二月七)新著艦「バヤーン」ハ「ツエザ
 レウ非チ」ノ背後ニ在リ同シク塗換ヘ中ナリ旅順口ノ
 防材ハ既ニ開ケ兩側海岸ニ引附ケアリシカ(十二月九)
 其ノ後西側ノ分ハ全部撤去ス軍艦ニ屬スル水雷防禦網
 ハ卷テ陸上ニ納庫スルヲ目撃セシ者アリ缺員補充ニ關
 シテハ當局者ハ其ノ路ナキニ苦ムノ餘、濫職其ノ他不
 名譽ノ罪過ノ爲メ制官セラレタル士官ヲ復職セシメン
 トスルヨリシテ海軍部内ニ反抗ノ暗流起ル露京陸軍大
 學在學中ノ砲兵及ヒ工兵將校二十名以上ハ旅順ニ召還
 セラレタルコトヲ聞ク右ハ全ク時局ノ不穩ト陸軍部内
 士官ノ缺乏ヲ示スニ足ル(十二月十)鴨綠江畔森林採伐事
 業ノ蹊蹠ニ依リ役員備用契約ノ廢棄ヨリ損害要償ノ訴
 訟頻起セリト

十二月十

横須賀水雷團第一艦隊及ヒ舞鶴水雷團第二十艦隊ヲ此
 ノ際異ニ回航セシムヘキ旨海軍大臣ヨリ各其ノ所管鎮
 守府司令長官ニ訓令ス
 東郷常備艦隊司令長官ハ佐世保ニ於テ左ノ第一戰隊日
 令ヲ發ス
 當隊(朝日、千早欠)ハ明十六日午前八時三十分當港
 出發片島附近ニ於テ解列各艦各自ニ高島炭焚火試驗

砲艦「コレーツ」旅順口ニ向ケ芝罘出港(十二月十)

十二月十

ニ從事シ當日夕刻當隊ハ當港ニ入港龍崎附近ニ假泊
 シ明後十七日午前八時三十分當隊ハ再出港過般二回
 ノ常裝藥試射ノ殘彈ヲ以テ艦隊戰術射撃ヲ施行ス
 齋藤海軍次官ハ本日附ヲ以テ在芝罘先任艦長タル浪速
 艦長海軍大佐和田賢助ニ申進スルニ千代田ノ仁川回航
 ハ一日モ早ク決行セシメラレタシ又千代田仁川回航ノ
 途次巡威島及ヒ延平列島鑑地ヲ視察シ島陰ニ於テ炭水
 配給等ノ爲メ假泊地ニ適スルヤ否ヲ確メ報告スル様取
 計ハレタシト
 軍艦朝日佐世保ヨリ吳著(十二月十)
 軍艦須磨入渠ノ爲メ長崎ニ向ケ佐世保發射日長崎著

本日附浦鹽發信ニ曰ク目下浦港在泊露艦「ロシーヤ」
 「ロモボイ」「リユーリク」及ヒ「ボガツイリ」及ヒ假裝巡洋
 艦「レナ」ノ五隻ハ四挺鎗ヲ用ヒ冬籠リヲ爲シ居レリ其
 ノ位置ハ例年ノ通り港内深ク「ニコライ」船渠ニ繫泊セ
 スシテ軍港司令官々舎前面ヨリ海軍俱樂部ノ南側ニ至
 ル間ナリ浦鹽ニ碎氷船「テデーシツ」號備附以來港内
 ノ交通社絶スルコトナク商船ノ如キハ毎ニ既定ノ棧橋
 ニ繫止スト尙此ノ通信ニ軍艦鑑地位置ノ見取圖ヲ附ス

十二月十

第一戰隊ハ惠比須灣出港色瀬ニ於テ前二回常裝藥艦砲射撃ノ殘彈ヲ以テ射撃ヲ施行シ即日佐世保歸港

軍艦淺間入渠ノ爲メ吳ニ向ヒ佐世保發

軍艦千歲入渠ノ爲メ長崎ニ向ケ佐世保發即日長崎著

十二月八

山本海軍大臣ハ常備艦隊ノ艦船ニ乗組中ノ定員外下士卒ハ此ノ際所屬海兵團ニ復歸セシムヘキヲ命ス

東郷常備艦隊司令長官ハ佐世保ニ於テ左ノ第一戰隊日令ヲ發ス

(一)當分ノ内第一戰隊ハ常港ニ止リ編隊シテ行動スルコトナシ

(二)此ノ碇泊中各艦ハ各個ノ訓練ニ從事シ且艦砲及ヒ艇砲内筒砲射撃、水雷艇、水雷發射等ヲ施行スヘシ

(三)訓練ノ爲メ單獨港外ニ出テントスル艦ハ豫メ認許ヲ受クヘシ

(四)此ノ碇泊中各艦ハ受令後二十時間以内ニ復舊ノ見込ヲ以テ機關ノ解放手入ニ著手シテ差支ナシ

軍艦笠置秋季演習ノ爲メ佐世保出港川内灣ニ投錨

軍艦千代田ハ延平列島及ヒ巡威島諸地ヲ視察シテ後此

ノ日仁川著本艦長ハ同日附ヲ以テ海軍次官ニ電稟スル

ニ延平列島ハ冬季假泊地ニ不適當ト認ム又巡威島(スニドウ)ハ冬季ニ於テ港口出入困難ナルカ故ニ完全ナル艦隊假泊地ト認メ難シ併シナカラ同地方一帯ニ於テ

他ニ當港ヨリ長キ港灣アルト思ハレス云々(十二月十)

軍艦高千穂福州ニ向ケ安平發同日澎湖島著(十二月十)

汽船「ハーマントーク」號(國籍及ヒ噸數不詳)石炭千三百噸ヲ積ミ旅順口ヨリ門司ニ入港、目的地ハ浦鹽ナリト云フ(門司稅關支署長發電)

十二月九

駐伊大山公使ハセノア駐在帝國名譽領事ノ内報ヲ本日附ニテ小村外務大臣ニ轉電シテ曰ク亞爾然丁政府ハ智利トノ軍備限縮條約ニ因テ共ノ二隻ノ軍艦ヲ手放スノ已ムナキニ至リタルニ付當地「アンサルド」會社ニテ製造シタル二隻ノ同國軍艦即チ「モレノ」及ヒ「レヴァダ」イア「賣物」ト成レリ帝國政府ハ右二艦ヲ買入レラレル意アリヤト

齊藤海軍次官ハ在英玉利大佐ヘ亞爾然丁軍艦ノ竣工期日ヲ取調ヘ至急電報スヘキ旨申送ル

軍艦吉野出渠此ノ日佐世保ニ向ケ吳出港(十二月十)

軍艦高砂秋季演習ノ爲メ矢上灣ニ向ケ佐世保出港

軍艦秋津洲馬公ニ向ケ厦門發(十二月十)

艘島佐世保鎮守府司令長官ハ軍港ノ治安上必要ヲ認メ佐世保港口艦船ノ監視警戒ニ關スル規程(八ヶ條)及ヒ哨艇警戒服務細則ヲ設ク

軍艦須磨ハ長崎ニ於テ入渠修理ヲ了リ(十二月十)此ノ日佐世保ニ向ケ長崎發

軍艦高砂佐世保ヨリ矢上灣著

軍艦千早佐世保ヨリ薄香ヲ經テ此ノ日吳著(十二月十)

軍艦秋津洲厦門ヨリ馬公著

山本海軍大臣ハ三井物産合名會社汽船萬田山丸(總噸數四、五二三)ヲ艦隊用需品運搬ノ爲メ運送船トシテ雇上ク(此ノ月雇上船五隻中ノ一)

巡洋艦「ボヤリリン」及ヒ驅逐艦「グロゾウオイ」ハ何レモ旅順ニ向ケ仁川出港(十二月十日及ヒ)

砲艦「ラズボイ」長崎ニ向ケ馬山浦出港(十二月三)

駐佛本野公使ノ本日附發信ニ曰クビセルタ(北阿ソ)ニス(一港)ヨリ來電ニヨレハ同港碇泊ノ露國艦隊(戰艦「オスラー」及ヒ「裝甲巡洋艦」トミトリ、ドンスコイ)巡洋艦「アウローラ」及ヒ五隻ノ驅逐艦ヨリ成リ司令官ハ

ウイレニウス少將ナリ)ハ極東ニ向ヒ出發ノ命令ヲ俟チ居レリ尙數日內ニ更ニ六隻ノ驅逐艦右艦隊ニ加ハルヘシト

水雷艇第二百二十一號及ヒ第二百二十二號ノ二隻ハ西國「フェロー」著(十二月十)

義勇艦隊汽船「ニイザニ」ノヴゴロツト號(總噸數三三

百十五

十二月三

小村外務大臣ハ本日露國公使トノ會見ニ於テ我カ原提案ト露國ノ新對案(八月三〇日及十月十一日參看)トノ間ニ協商ノ地理的範圍ニ關シ根本ノ大差アルヲ指示シ且帝國政府カ極東ニ於テ日露兩國ノ利益相接觸スル總テノ地方ヲ今回ノ協商ニ入ル、コトヲ以テ一般ノ利益ノ爲メ希望スヘキ儀ト思惟スルニ至リタル所以ヲ十分ニ説明シタル上露國政府カ此ノ點ニ關シ其ノ態度ヲ再考セシコトヲ希望スル旨言明ス

小村外務大臣ハ本日附ヲ以テ栗野公使ニ訓令スルニ露國ノ新對案ニ對シ修正ヲ求ムルノ日上書ヲヲムスドルヲ伯ニ提出スヘキ旨ヲ以テス此ノ修正中ニハ韓國領土使用ニ關スル制限及ヒ韓國ノ中立地帯ニ關スル條項ヲ削除ス

山本海軍大臣ハ佐世保鎮守府司令長官ニ命スルニ軍艦松島ヲ直ニ横須賀ニ回航シ修理ニ著手セシムヘキヲ以テス軍艦笠置高砂秋季演習結了此ノ日何レモ佐世保入港(十二月十八日參看)

驅逐艦曉、白雲入渠ノ爲メ長崎ニ向ケ佐世保發即日長崎著

水雷艇鷲(五月二十日參看)ハ吳海軍造船廠ニ於テ進水

六七)ハタルニヨリ長崎入港載貨ナシ仕向先ハ浦鹽ナリト云フ(長崎稅關長發電)

太平洋捕鯨會社汽船「ニコライ」號(總噸數二二四)ハ韓國新浦ヨリ長崎入港

砲艦「ラズボイニク」士官葬儀ノ爲メ馬山浦ヨリ長崎入港其ノ出港日時未定(在長崎軍艦千歲出羽司令官發電)

在露明石陸軍步兵大佐ノ本日附發電ニヨレハ露國ハ必要ノ時期ニ際シ極東ニ増遣シ得ヘキ兵數ハ總計四軍團ナリト云フ而テ目下到着セシハ約二師團ニシテ約三萬人ナリト

勸業加商工業會社汽船「ヨチック」號(總噸數四〇〇)ハトロバウロウスクヨリ横濱ニ入港仕向先ハ不明ナレトモ三月頃迄碇泊ノ豫定ナリト云フ(橫濱稅關長發電)

獨逸汽船「ロシヤ」號唐津ニ向ケ神戸出港仕向先ハタルニナリト云フ(四月十一日參看)

十二月三

山本海軍大臣ハ緒明菊三郎所有汽船千代丸(總噸數二七〇七)ヲ艦隊用需品運搬ノ爲メ運送船トシテ雇上ク(此ノ月雇上船五隻中ノ一)

齊藤海軍次官ハ今年ノ下士卒冬季休暇ヲ許サレサル旨其ノ向々ニ通牒ス

在英玉利大佐ハ海軍次官ニ返電シテ曰ク亞爾然丁軍艦二隻ハ悉皆竣工公試運轉結了ス御購入ノ希望ナラハ即金拂ニテ英貨百五十三萬磅ヲ標準額トシテ交渉ヲナシ速ニ事ヲ決セサレハ種々ノ障害ヲ起スヘシト

山本海軍大臣ハ在佛公使館附武官海軍大佐竹内平太郎ニ速ニ伊國ニ赴キ賣物ト爲レルニ要ス亞爾然丁國軍艦ノ現狀ヲ觀察スヘキ旨發訓ス

本日ヨリ海軍將校及ヒ相當官ノ轉職等ハ官報ニ掲載スルコトヲ止メ辭令通報ヲ以テ之ヲ内示ス

第一戰隊各艦艦載水雷艇水雷砲爭發射ヲ爲ス

軍艦吉野吳ヨリ佐世保著(十二月十日參看)

軍艦須磨長崎ヨリ佐世保著(十二月十日參看)

軍艦高千穂ハ福州ニ向ケ澎湖島發(十二月十日參看)

驅逐艦薄雲小濱ニ向ケ佐世保出港即日小濱著

山本海軍大臣ハ三井物産合名會社汽船有明丸(總噸數二、九八七)ヲ艦隊需品運搬ノ爲メ運送船トシテ雇上ク(此ノ月雇上船五隻中ノ一)

東清鐵道會社汽船「スンガリ」號(總噸數一、四一五)上海入港

十二月三十一日

栗野公使ハ口上書(十二月二十)ヲラムスドルフ伯ニ手交シ且伯ニ向ヒ現下ノ情勢ニ於テハ若シ協商ヲ遂クルコト能ハサルトキハ重大ナル困難否葛藤ヲ生起セサルニ限ラサルヘケレハ伯ニ於テモ希望ノ目的ヲ達センカ爲メ十分盡力セラレンコトヲ切望スル旨ヲ述フ

竹内海軍大臣ハ電訓ニ從ヒ伊國ニ向ヒ巴里ヲ出發ス小村外務大臣ハ海軍大臣ノ依頼ニ應ジ此ノ日駐英林公使ニ電訓スルニ伊國ニテ製造ノ亞爾然丁國軍艦二隻帝國政府ニ於テ即金拂ヲ以テ購入スヘキニ付「ギツプス」ヨリ玉利公使館附武官へ申出タル價格百五十三萬磅ノ範圍内ニテ船體機關及ヒ兵器共完備ノ上伊國ニ於テ受授ノ假契約ヲ作ルヘシ但我カ海軍造船兵監督官ヲ派遣シ軍艦現狀検査ノ結果ニ由テハ解約ノ權ヲ保留スル旨ヲ以テス

駐韓林公使ハ我カ軍艦ノ仁川在泊ヲ希望セシニ付在仁川村上千代田艦長ヨリ直接海軍大臣ニ同艦ノ進退ヲ伺ヒシカ大臣ハ當分同港ニ在泊差支ナキ旨此ノ日電訓ス東郷常備艦隊司令官ハ主隊ノ各艦ニ便宜英炭ヲ増載シ又便宜ニ月分ノ糧食及ヒ豫算殘額全部ノ需品ヲ準備シ置クヘキ旨ヲ訓令ス

軍艦三笠、敷島ハ此ノ日ヨリ聯合野外演習ヲ施行ス(本二十六日迄ノ豫定)

軍艦朝日出渠此ノ日佐世保ニ向ケ吳出港(十二月二十)

第二戰隊(淺間、龍田)四季演習ノ爲メ佐世保出港後港内ニ置伏スル敵艦隊ノ逸出セントスルニ擬シ片島ニ向ヒ飛越射撃ヲ爲シ總テ佐世保港外ニ假泊、終夜警戒

在英玉利大佐ノ本日附發電ニ曰ク「ギツプス」商社ノ許ニ南米ヨリノ來報ニヨレハ又々露國ハ亞爾然丁軍艦二隻ヲ購入セントシツ、アリト

砲艦「ラズボイニク」長崎出港其ノ行先ハ馬山浦ナラント云フ(長崎稅關長發電)(十二月二十)

在浦鹽川上貿易事務官ノ本日附報告中ニ曰ク本年ハ例年ヨリモ約二十日間早ク嚴寒來リ亞母爾灣ハ本月初旬ヨリ漸次結氷シ今日ニ於テハガモーフ岬以北堅凍シ「ロシーヤ」「グロモボイ」「リューリク」「ボガツイリ」及ヒ「レナ」(元ヘルン)ノ五艦ハ堅氷ニ鎖サレ乗組員ハ氷上ヲ歩行シテ陸上トノ交通ヲ保チ夜間ノ交通ヲ便ニスル爲メ各艦ヨリ海岸マテ輕便電燈ヲ裝置點火シ碎氷船ハ毎日碎氷ニ從事スト

函館稅關長ノ本日附發電ニ曰ク目下函館ニ碇泊スル露國帆船「ジエーシエ」(十一月二十)同「ボーブリク」(十一月十八)及ヒ露國汽船「ブログレス」(十一月二十)ノ三隻ハ皆越冬ノ苦ナリト

東清鐵道會社汽船「アムール」號(總噸數二、四一五)長崎入港仕向先大連灣ナリト云フ(長崎稅關長發電)

十二月二十四日

驅逐艦擊演習ヲ爲ス八島本演習ニ參加ス

軍艦千歲長崎ニ於テ入渠修理ヲ了リ(十二月二十)佐世保ニ向ケ長崎發即日佐世保著

軍艦濟遠訓練ノ爲メ本浦沖ニ出テ即日歸港(十二月二十)

軍艦高砂入渠ノ爲メ吳ニ向ケ佐世保發

山本海軍大臣ハ各學校并ニ練習所ノ定員下士卒ハ必要欠クヘカヲササル者ノ外ハ此ノ際補欠員トシテ在籍鎮守府ノ海兵團ニ入團セシメ同時ニ其ノ等級員數ヲ報告スヘキ旨發令ス

山本海軍大臣ハ此ノ日大臣祕書官海軍中佐野間口兼雄ヲ佐世保軍港ニ特派シ滿洲事件ニ關スル第一回御前會議(十二月二十)ノ大要ヨリ日露交渉ノ顛末書ヲ東郷司令官ニ交附シ且内報スルニ軍備補充ニ關スル緊急勅令ノ不日公布セラレヘキコト并ニ竊ニ艦隊ノ戰時編制ヲ施行スルノ允裁ヲ得タルコトヲ以テシテ右ニ對シ東郷司令官ハ曰ク我カ艦隊ノ士氣旺盛ニシテ諸種ノ訓練準備モ亦遺憾ナシ何時如何ナル命令ニ接スルトモ必ス遂行シ得ヘキハ小官ノ深ク信スル所、要ハ我先ツ打撃ヲ彼ニ加ヘ以テ戰機ヲ制スルニアリ乃チ時至ラハ迅速其ノ命ヲ下サレ以テ機ヲ逸セサランコトヲ望ムト(野間口祕書官直ニ歸京復命ス)(十二月二十)

第二戰隊平戸海峽附近ニ於テ對抗演習夜中各處ニ散在驅逐艦之ヲ搜索襲撃スルノ演習ヲ行フ

在木浦但馬濟遠艦長ノ本日附報告ニ木浦紛擾事件ノ一段落ヲ告クルト同時ニ今回紛擾ノ主謀者タル金監理ヲ

北獨逸ロイド會社汽船「ステルベルグ」號(總噸數二、四八〇)石炭搭載浦鹽ヨリ門司入港仕向先ハ香港ト稱ス(門司稅關支署長發電)

駐英林公使ノ本日附發電ニ曰ク在倫敦高田商會カ其ノ取引先ナルカーザフ石炭商ヨリ得タル内報ニヨレハ該商人カ露國側ヨリ聞及ヒタル所ニテハ十九隻ノ汽船ハ各露國ノ買入レタル石炭六千噸ヲ搭載シ已ニ極東ニ向テ航行中ナリ又「ハンブルグ」「アメリカ」汽船「パタピヤ」號ハ更ニ一萬噸ノ石炭輸送ノ爲メ近々露國ノ雇入ル、所ト爲ルヘシト云フト

免官シ且九名ノ煽動者ヲ放逐シタルハ我カ面目ヲ保留スルヲ得ヘント思惟スト尙之ニ添フルニ該事件ニ關スル議訂書ノ摘要ヲ以テス

第二戰隊通報艦龍田秋季演習ノ爲メ佐世保出港伊万里灣ニ投錨

軍艦高千穂安平港ヨリ澎湖島ヲ經テ福州馬尾入港(十二日)

十二月二

在伊竹内大佐ノ本日附發電ニ曰ク二艦トモ十五日以内ニ出シ得艦體機關兵裝完備公試成績良好遅延スレハ他ニ取テラ、恐レアリ我カ政府ノ方針至急電報アリタシ小官ハ嫌疑ヲ避ルタメ二十七日歸任シタシ

軍艦新高ニ全定員ヲ置ク(六日)

軍艦朝日吳ヨリ佐世保著第一戰隊ニ合ス(十二日)

第二戰隊(淺間龍田欠)防禦網ヲ張りタル儘航行終テ佐世保ニ歸港ス(十二日)

驅逐艦曉、白雲ハ長崎ニ於テ入渠修理ヲ了リ薄雲ハ小濱ヨリ長崎ヲ經テ此ノ日何レモ佐世保入港(十二日)

山本海軍大臣ハ大坂商船株式會社汽船福岡丸(總噸數二、七四四)ヲ艦隊用需品運搬ノ爲メ運送船トシテ雇上ク(此ノ月雇上船船五隻中ノ一)

十二月二

海軍軍令部條例改正セラレ

明治三十六年度海軍戰時編制改正セラレ又同實施要領書ノ改正アリ明治三十七年度海軍戰時編制ハ前年度ノ

砲艦「ラズボイニク」長崎ヨリ馬山浦入港(十二日)

義勇艦隊汽船「ニーザニ」ノヴゴロット號(十二日)及ヒ東清鐵道會社汽船「ノンニ」號(總噸數二、四六四)浦鹽入港

在浦鹽川上貿易事務官ノ本日附報告ニ曰ク露國巡洋艦「ロシーヤ」リューリック「グロモボイ」ボガツイリ及ヒ運送船「レナ」ハ依然浦鹽ニアリテ近頃薩哈噠炭ヲ搭載シ

モノヲ襲用準據セシメラレ又同實施要領書モ前年度ノモノヲ襲用準據スルコト、ナル

伊東軍令部長ハ假根據地防禦計畫書及ヒ附圖并ニ羅州群島防禦計畫書及ヒ附圖ヲ樞要ノ向ニ配附ス

在英造船監督官海軍造船大監松尾鶴太郎及ヒ造兵監督官海軍大佐岩本耕作ハ亞爾然丁軍艦檢査ノ命ヲ受ケ伊國ニ向ケ出發ス

東郷常備艦隊司令長官ハ旗艦ヲ敷島ヨリ三笠ニ變更シ幕僚以下ヲ率非轉乘ス

十二月二

東郷常備艦隊司令長官ハ今回ノ特別高速力射撃ノ成績カ前回ノ常裝藥射撃ニ比較シ著シク進歩發達シタル實蹟ヲ見テ其ノ所感十ヶ條ヲ列舉シ、麾下各艦隊及ヒ主務將校ニ訓示ス

軍艦敷島入渠ノ爲メ吳ニ向ケ佐世保發

軍艦千早吳ニ於テ入渠修理ヲ了リ昨二十六日佐世保ニ向ケ吳ヲ發セシカ此ノ日佐世保著(十二日)

第二戰隊通報艦龍田昨二十六日秋季演習結了此ノ日伊万里發即日佐世保著(十二日)

軍艦秋津洲馬公ヨリ廈門入港(十二日)

在伊竹内大佐ハ便宜歸任命ヲ待ツコト、ナル(十二日)

十二月二

戰時大木營條例改正セラレ

軍事參議院條例公布セラレ共ノ第四條ニ依レハ軍事參議官ハ元帥、陸軍大臣、海軍大臣、參謀總長、海軍軍令部長特ニ軍事參議官ニ親補セラレタル陸海軍將官トス

毎日碎氷船ヲ以テ周圍ノ氷ヲ破壞シ以テ萬一ヲ用意シ居リ又水雷艇ハ大形ノモノ四隻小形九隻ハ工場附近ニ陸揚シ大形ノモノ六隻ハ入渠シ汽罐ヲ取外シ其ノ他損所修理中ナリト

東清鐵道會社汽船「スンガリ」號仁川入港(十二日)

露國履船「ホーウツク」號(十一日)同「プリンス」ウラヂミール「號(十二日)ハ新嘉坡入港ノ日ハ不明ナレトモ此ノ日何レモ同所出港

水雷艇第二百二十一號及ヒ第二百二十二號ハ葡國リスボンニ著ス(十二日)

在倫敦玉利大佐ノ本日附發電ニヨレハ露國ノ爲メ英炭ヲ搭載シ英國ヲ出發シタル船舶左ノ如シ

船名	國籍	總噸數	所屬會社名	積込品
ホーウツク	英	三、七二二	東清鐵道會社	煤

(右ト同時ニ軍事参議官條例ハ廢止)
 軍備補充ニ要スル經費支辨及ヒ京釜鐵道工事速成ニ必
 要ナル資金調達ニ關スル緊急勅令公布セラレ
 京釜鐵道株式會社ニ關スル勅令公布セラレ
 海軍々令部定員表改正セラレ(部長以下合計五十四人)
 明治三十六年度海軍戰時編制ニ準據シ第一、第二、第三
 艦隊ヲ編制シ第二、第三艦隊ヲ以テ聯合艦隊ヲ組織セシ
 メラレ常備艦隊ヲ解カル
 本日左ノ辭令アリ

補第一艦隊司令長官 海軍中將 從三位勳一 東郷平八郎
 補第三艦隊司令長官 海軍中將 從四位勳三 片岡 七郎
 補第二艦隊司令長官 海軍中將 從四位勳二 上村彦之丞
 第一、第二、第三艦隊巡航區域ヲ帝國周海及ヒ清國、韓國、
 露國沿岸ト定メラル
 海軍少將出羽重遠、同梨羽時起ハ第一艦隊司令官ニ補
 セラル
 海軍少將瓜生外吉ハ第二艦隊司令官ニ補セラレ之ト同
 時ニ海軍大臣ハ目下在福州馬尾瓜生司令官ニ高千穂ヲ
 率非佐世保ニ回航スヘキ旨訓令ス
 海軍省人事局長兼海軍將官會議々員海軍少將三須宗太
 郎ハ第二艦隊司令官ニ轉補セラレ
 海軍兵學校長海軍少將東郷正路ハ第三艦隊司令官ニ轉
 補セラレ同時ニ海軍大臣ハ同官ニ松島、殿島、橋立ノ三
 艦ヲ指揮シ海軍少尉候補生ノ練習ニ從事スヘキ旨訓令
 シ共ノ練習航路ヲ指定ス(十二月初四日)
 海軍大佐島村速雄ハ第一艦隊參謀長ニ補セラレ海軍省

ラスベラ	同	三八三七	コリス汽船會社	十二月十日
ベナーチ	同	三九一〇	「ダウ」汽船會社	十一月十日
ラドレー	同	三二〇〇	「アグリス」汽船會社	十一月二十一日
マリニシア	同	三三五五	「マリニシア」汽船會社	十一月二十日
マリステ	同	三五〇六	「マリステ」汽船會社	十一月十日
ビーチ	同	三八一	「ビーチ」汽船會社	十一月十日
クルーサー	同	四二〇	「クルーサー」汽船會社	十一月十日
アパーロー	同	四二九	「アパーロー」汽船會社	十一月十日
フォクストン	同	四二七	「フォクストン」汽船會社	十一月十日
アルストン	同	三三三七	「アルストン」汽船會社	十一月十日
パター	同	三五九二	「パター」汽船會社	十一月十日
ハーパー	同	一〇四六	「ハーパー」汽船會社	十一月十日
フオルミナ	同	四二八九	「フオルミナ」汽船會社	十一月十日
プリンス	同	三六三八	「プリンス」汽船會社	十一月十日
カリー	同	五五四九	「カリー」汽船會社	十一月十日
ロサ	同	三五〇八	「ロサ」汽船會社	十一月十日
トウキ	同	四三七〇	「トウキ」汽船會社	十一月十日

東清鐵道會社汽船「アルグン」號(總噸數二四一九)タル
 ニヨリ長崎入港
 東清鐵道會社汽船「ノンニ」號ハ何日浦鹽ヲ發セシヤ
 ハ不明ナレトモ此ノ日浦鹽入港(十二月初二日)
 東清鐵道會社汽船「スガリ」號旅順ニ向ケ仁川出港(十
 月二十六日)
 露國々旗ヲ掲ケル外國商船一隻浦鹽入港
 東亞汽船會社汽船「マンヂユリア」號(總噸數六一九三)
 東洋ニ向ケ蘇士ヲ通過ス

軍務局々員海軍大佐加藤友三郎ハ第二艦隊參謀長ニ東
 宮武官海軍大佐中村靜嘉ハ第三艦隊參謀長ニ轉補セラ
 ル
 海軍大佐淺井正次郎、海軍中佐石田一郎、同土屋光金ハ
 第一艦隊驅逐隊司令ニ、海軍中佐長井祥吉同眞野巖次
 郎ハ第二艦隊驅逐隊司令ニ補セラレ
 東郷第一艦隊司令長官ハ第一艦隊驅逐隊司令淺井大佐
 ニ第一驅逐隊司令、同石田中佐ニ第二驅逐隊司令、同土
 屋中佐ニ第三驅逐隊司令ヲ命ス
 上村第二艦隊司令長官ハ第二艦隊驅逐隊司令長井中佐
 ニ第四驅逐隊司令、第二艦隊驅逐隊司令眞野中佐ニ第
 五驅逐隊司令ヲ命ス
 海軍軍令部出仕山下海軍大佐ハ海軍々令部參謀ニ轉補
 セラレ(九月七日)
 金剛艦長海軍中佐森義太郎ハ海軍々令部
 出仕ニ轉補セラレ(同官ハ十二月三十日附テテ軍)
 名ノ補職アリ
 海軍中將角山秀松ハ片岡中將ニ代リテ竹敷要港部司令
 官ニ補セラレ
 聯合艦隊左ノ如ク編制セラレ

第一艦隊	三笠、初瀬、朝日、敷島、富士、八島、宮古、 千歳、笠置、吉野、高砂、 白雲、霞、曉、朝潮、 雷、電、龍、曙、 海軍、海、東雲、 出雲、磐手、吾妻、八雲、常磐、淺間、千早、 高千穂、浪速、須磨、明石、 速島、村雨、朝霧、春雨、
第二艦隊	出雲、磐手、吾妻、八雲、常磐、淺間、千早、 高千穂、浪速、須磨、明石、 速島、村雨、朝霧、春雨、
第三艦隊	出雲、磐手、吾妻、八雲、常磐、淺間、千早、 高千穂、浪速、須磨、明石、 速島、村雨、朝霧、春雨、
第四艦隊	出雲、磐手、吾妻、八雲、常磐、淺間、千早、 高千穂、浪速、須磨、明石、 速島、村雨、朝霧、春雨、

第五驅逐隊 陽炎、遊雲、不知火、夕霧
宮古及比羅平ハ各其ノ所屬艦隊ノ通報艦タラシム

東郷聯合艦隊司令長官ハ司令長官、司令官、旗艦及ヒ驅逐隊司令乘艦ヲ左ノ如ク指定ス

三笠 東郷第一艦隊司令長官旗艦
出雲 上村第二艦隊司令長官旗艦
千歳 出羽第一艦隊司令官旗艦
高千穂 瓜生第二艦隊司令官旗艦
磐手 三須第二艦隊司令官旗艦
初瀬 梨羽第一艦隊司令官旗艦
白雲 淺井第一艦隊第一驅逐隊司令乘艦
速烏 長井第二艦隊第四驅逐隊司令乘艦
雷 石田第一艦隊第二驅逐隊司令乘艦
海雲 土屋第一艦隊第三驅逐隊司令乘艦
陽炎 真野第二艦隊第五驅逐隊司令乘艦

第三艦隊ハ鎮遠、扶桑、松島、嚴島、橋立、秋津洲、千代田、和泉、濟遠、大島、赤城、摩耶、宇治、龍田ノ十五隻ト定メラル

松島、嚴島、橋立ハ練習艦ヲ兼ネシメラル

當時第三艦隊所在位置左ノ如シ

鎮遠	横須賀
扶桑	同右
松島	同右
嚴島	吳
橋立	佐世保

秋津洲	厦門
千代田	仁川
和泉	横須賀
濟遠	木浦
大島	佐世保
赤城	吳
摩耶	舞鶴
宇治	佐世保
龍田	漢口
	佐世保

第三艦隊ハ當分ノ内聯合艦隊ニ編入セラレヌ

豫備艦豐橋ハ聯合艦隊附屬水雷母艦ト定メラル(十二月七)

第二艦隊軍艦浪速、第三艦隊軍艦秋津洲、千代田、濟遠、宇治ハ清國韓國警備ノ任務ヲ兼ネシメラル

豫備艦高雄警備艦ト定メラル

練習艦平遠、天城、天龍海門ハ役務ヲ解カレ第一豫備艦ト定メ全定員ヲ置ク

豫備艦大和、葛城、磐城ニ全員ヲ置ク

第二豫備艦愛宕、筑紫ヲ第一豫備艦ト定メ全定員ヲ置ク

軍艦比叡警備艦ト定メラル同艦ハ艦隊所在地ヘノ需品供給ニ從事セシメラレ(十一月十五)爾來各軍港間ヲ往復セシカ此ノ日警備艦ト爲リ第三海軍區ニ回航セシメラル

ハ、ヲ以テ海軍大臣ハ日高舞鶴鎮守府司令長官ニ訓令スルニ比叡ハ佐世保鎮守府司令長官ノ指揮下ニ在テ従前ノ任務ニ服セシムヘキ旨ヲ以テス

十二月三

第十一艦隊水雷艇第七十五號ニ定員ヲ置ク(六月二十五日) 戰時特設各船舶部隊條例并ニ定員表中改正セラレ共ノ附則中「明治三十七年四月一日ヨリ施行スラ削ル(十一月二十一日)」
 山本海軍大臣ハ第三艦隊中鎮遠、扶桑、和泉、龍田ハ吳方面ニ大島、赤城、摩耶、島海ハ竹敷ニ在ラシムヘキ旨訓令ス又軍艦高雄ハ函館ニ回航シ同港ヲ常泊地トシ海峽附近ノ警備ニ任スヘキ旨訓令ス
 軍艦淺間ハ本月十九日吳著(十二月十一日)入渠修理ヲ了リ本月二十六日佐世保ニ向ケ吳ヲ發セシカ此ノ日佐世保著
 臺灣ニ臺灣守備軍司令官ヲ置クノ件公布セララル
 伊國ゼノア出張中ノ松尾岩木兩監督官ノ本日附發電ニ曰ク巡洋艦二隻共工事大體良好「アンサルド」會社ハ便宜ヲ計ルカ故ニ未済工事一月七日マテニ結了スヘント 襄ニ定員ヲ減シタル諸望樓ニハ適任ナル下士卒ヲ以テ從前ノ通り充實ス
 對馬國豆蔵及ヒ平戸島白嶽ニ假設ノ無線電信機完成ス
 山本海軍大臣ハ水雷艇庫ニハ平時裝束スヘキ場所ノ指定ニ拘ラス便宜裝束セシムル旨告達ス(六月十八日)
 山本海軍大臣ハ在仁川軍艦千代田ハ何分ノ命令アルマテ同港ニ滞在スヘキ旨電訓ス
 龍飛崎、彈崎、西郷、壹岐崎等ノ望樓ニ充員ス(九月二十日)
 軍艦敷島佐世保ヨリ吳著(十二月二十日)
 第四驅逐隊(十二月三)訓練ノ爲メ佐世保出港伊方里ニ向ケ瓜生司令官ハ訓令ニ從ヒ軍艦高千穂ヲ率非佐世保ニ向ケ福州馬尾ヲ發ス(十二月二十日)

在芝罘山下大佐ノ本日附發信ニ曰ク大連灣ノ情報ニヨレハ昨日芝罘トノ定期航海船第二德和丸ハ本邦人ノ船長船員ヲ突然解雇シ露國人ヲ以テ之ニ代ヘタリ該船ハ二百噸ノ汽船ニシテ大連居住清國豪商德和カ日本ヨリ購入シ清國船籍ニ入レタルモノナリト
 巡洋艦「ツジギート」ハ襄ニ旅順情報中(十二月七)既ニ歸途ニ上リタリト傳ヘ爾後所在不明ニ屬セシカ上海刊行「アース」チヤイナ、デーリー、ニウス」ノ報スル所ニヨレハ此ノ日象山浦ヨリ上海ニ入港
 東清鐵道會社汽船「ブレイ」號(登簿噸數四四五)浦鹽出港

十二月三

片岡第三艦隊司令長官ハ鎮遠ヲ旗艦ニ指定ス

本月中旬總理大臣官邸ニ於テ會議ノ際愈々開戦トナレハ露國ニ先ンシテ韓國京城ヲ占領センカ爲メ尙ニ變裝兵數千人ヲ派遣スルコトノ陸軍當局者ノ提議ニ對シ海軍當局者ハ制海權先制利用ノ見地ニ基キ其ノ再考ヲ望ミ交渉ノ結果互ニ委員ヲ出シテ協議スルコト、爲セシカ此ノ日伊東軍令部長、伊集院軍令部次長、軍令部副官海軍中佐上泉德彌、軍令部參謀海軍中佐財部彪、同海軍少佐中野直枝ハ大山參謀總長以下數名ノ委員ト熟議ノ末戰闘ハ先ツ海軍ヲ以テ開始スルコトニ定メ即日軍令部次長ハ佐世保鎮守府司令長官ニ發電シテ曰ク内外ニ對シ極メテ秘密ヲ保ツ爲メニ成シ得ル限りノ手段ヲ盡シ陸軍兵三千及ヒ小數ノ馬匹ヲ三千噸内外ノ運送船三隻ニ搭載ノ必要生スルヤモ計ラレス早岐日宇附近右實行ニ適スルヤ否ヤ調査ノ上至急報告アリタシト後之ニ對シ同司令長官ヨリ實行ニ適スト認ムル旨回報アリ乃チ之ヲ陸軍當局者ニ通牒ス
 聯合艦隊出征ノ場合ニハ前進根據地防禦用トシ防材ニ海里及ヒ七心電纜八千米突ヲ至急準備スヘキ旨海軍大臣ヨリ其ノ筋ニ訓令ス
 竹内大佐既ニ歸任此ノ夜巴里ヨリ倫敦ニ行ク
 竹内大佐及ヒ獨國駐在軍中佐鈴木貫太郎ハ購入軍艦回航中監督官トシテ乘組歸朝ヲ命セララル
 在英玉利大佐ノ本日附發電ニ曰ク購入軍艦回航員ハ安

巡洋艦「ワリヤ」グ旅順ヨリ仁川入港
 在芝罘山下大佐ハ本日附ヲ以テ旅順口情勢ヲ報告ス其ノ報告中昨二十九日旅順港ニ於ル露艦ノ現在ノ位置ヲ示シタル後曰ク艦隊ハ晝間別ニ操練ヲ爲スノ形跡ヲ認メス夜間ハ每夜信號稽古ヲ爲スモノ、如シ毎週一二回總端舟操練ヲ爲スコトアリ 水雷防禦網竝ニ「ブーム」ハ取外セシ儘ナリ旅順港口ノ防材ハ全部引上ケ終レリ(十二月十一) 旅順口糧食ノ貯藏高ヲ推算スルニ一朝包圍セララル、ニ至ラハ六ヶ月ヲ支フル能ハサルヘシ旅順ニ在ル陸兵ノ數ハ新師團編制ノ八個聯隊到著セハ四万乃至四万二千八ニ達スヘシアレキモエフ太守ノ露都行(十二月三)ハ無期限ニ延期セラレタリ或ハ外交上爲メニスル所アリテ露都招喚ノ説ヲ流布セシモノナリトノ説アリト(二十七年一月)
 東清鐵道會社汽船「アルグン」號タルニニ向ケ長崎出港(十二月二十)
 義勇艦隊汽船「ニイヂニ」ノヴゴロッド號浦鹽出港(十二月十五)
 義勇艦隊汽船「カザン」號總噸數五、九七二東洋ニ向ケ蘇士ヲ通過ス

記附

十二月三

社ニ擔任ヲ命スル等一軍艦ニ付回航費保險料共英貨五万五千磅ナリト

軍艦橋立佐世保出港即日竹敷著

水雷艦鶴ハ川崎造船所ニ於テ進水ス(六月二十)

片岡第三艦隊司令長官ハ軍艦嚴島ヲ東郷司令官ノ旗艦ニ指定ス

山本海軍大臣ハ森岡真所有汽船嚴島丸(總噸數三、八八二)ヲ艦隊諸品運搬ノ爲メ運送船トシテ雇上ク(此ノ月雇上船五隻中ノ一)

米艦ウィックスバーク上海ヨリ仁川入港(艦長コムマンダー、ウィリヤム、エー、マルシヤル)

亞爾然丁裝甲巡洋艦二隻購入契約調印ヲ了リ、リヴァダピアハ春日「モレノ」ハ日進ト命名セラル

軍艦高砂本月二十四日吳著(十二月二十)入渠修理ヲ了リ

本月三十日佐世保ニ向ケ吳ヲ發シシカ此ノ日佐世保著

軍艦龍田英炭搭載ノ爲メ吳ニ向ケ佐世保發(十二月二十)

在浦鹽川上貿易事務官ノ本日附報告ニ曰ク當港碇泊巡洋艦隊四隻及ヒ假裝巡洋艦「レナ」ハ此ノ日例ニナク盛ニ汽罐ヲ焚キ總テノ煙突ハ煤煙ヲ吐キ艦内水兵ノ混雜一方ナラサル模様アリシカ其ノ中「グロモボイ」ハ周圍ノ結氷ヲ破碎シテ出港シ殘四艦ハ依然氷中ニ碇泊スルモ引續キ汽罐ヲ焚キ何時出港スルモ計リ難シト

英船「マリスト」號(十二月二十)浦鹽ニ入港英炭ノ揚陸ヲ始ム本年中英炭ノ浦鹽輸入ハ之ヲ以テ第三回トス(八月二十及ヒ九月十)

砲艦「ラズボイ」ニク旅順ニ向ケ馬山浦出港(十二月二十)

義勇艦隊汽船「ボロネー」號(總噸數五、六一六)麵麩及ヒ麥粉等四千噸ヲ搭載シオデッサヨリ長崎入港目的地ハ浦鹽ナリト云フ(長崎稅關長發電)

太平洋捕鯨會社船「ニコライ」號韓國新浦ニ向ケ長崎發

一月二

明治三十七年

山本海軍大臣ハ本日附ヲ以テ東郷、上村兩司令長官ニ通達スルニ野間口秘書官ノ復命ニ係ル貴官ノ言明及ヒ艦隊現狀奏聞シタル處御満足ニ御思召サルトノコトヲ以テス(昨年十二月三)

栗野公使ハフランスドルフ伯ニ會見シ昨年十二月二十一日ノ口上書ニ關スル露國政府ノ處置ヲ問合セタルニ其ノ答フル所ハ時局ニ何等ノ新發展ヲ見ス

山本海軍大臣ハ駐露公使館附武官海軍大佐酒井忠利ニ電訓スルニ同國駐在軍少佐川原架太郎歸朝ヲ命セラルポートヘッドニ滞在セシメラルヤモ知ルヘカラス

同地マテハ成ルヘク急行シ到著ノ上ハ電信宛名ヲ電報シ命ヲ待タシムヘキヲ以テス

軍艦富士入渠ノ爲メ吳ニ向ケ佐世保發

瓜生司令官旗艦軍艦高千穂福州ヨリ佐世保ニ入港ス(昨年十二月三)

軍艦島海竹敷ニ向ケ佐世保發(昨年十二月三)

竹内大佐此ノ夜倫敦發歸任

一月二

山本海軍大臣ハ本日附ニテ在佛竹内大佐ニ電訓スルニ購入軍艦豫定航路變更ノトキハ電報ヲ寄港地ハ英領ヲ選ビ危險ナレハ英領港灣ニ入り命ヲ待チビセルタニ在

明治三十七年一月

百二十九

巡洋艦「アルマーズ」水兵六百名ヲ載セ獨國キール著港(昨年十一月)

水雷艇第二百二十一號及ヒ二百二十二號ジブラルター著(昨年十二月三)

露國帆船「ペーリリグ」號「ベトロパウロ」ヨリ鮮土三万二千餘尾搭載横濱ニ入港

東清鐵道會社汽船「ノニー」號浦鹽ヨリ釜山入港即日長崎ニ向フ(昨年十二月三)

露國雇入英船「バーマ」號東洋ニ向ケ蘇士ヲ通過ス(昨年十二月三)

英炭ヲ搭載セル露國雇入商船十九隻(昨年十二月三)ノ内此ノ日マテニ蘇士ヲ通航シタルモノ十五隻アリ

一昨日俄ニ浦鹽ヲ出港シタル裝甲巡洋艦「グロモボイ」ハ今二日元山入港

東清鐵道會社汽船「ブーレイ」號ハ浦鹽ヨリ「ノニー」

附記

ル露艦及ヒ地中海ニ在ル露艦ニ注意スヘキ旨ヲ以テス
日高舞鶴鎮守府司令長官ハ軍港保安ノ必要ヲ認メ舞鶴
港口通過艦船ノ監視警戒規定(九ヶ條)及ヒ哨艦警戒服
務規則ヲ設ク
軍艦富士佐世保ヨリ吳著(一月二日)
軍艦初瀬佐世保ニ於テ入渠
第四驅逐隊伊万里ヨリ佐世保入港(昨年十二月二日)
在仁川千代田艦長ノ本日附發電ニ曰ク只今米國運送船麻尼刺ヨリ海兵百名ヲ乗セ入港ス形勢危急ノ場合ニ於テ
直ニ入京公使館護衛ニ充ツル準備ナリト米艦ウイックスバーク艦長ハ言ヘリト

一月三日

軍艦春日ハ本籍ヲ吳鎮守府日進ハ舞鶴鎮守府ト定メラル
練習艦嚴島、松島、橋立ニ乗組中ノ少尉候補生ハ第一期
練習ヲ中止シ直ニ在役各艦ニ分乗ヲ命セラル
片岡第三艦隊司令長官ハ幕僚ヲ率井鎮遠ニ乗艦
東郷司令官江田内ニ於テ軍艦嚴島ニ乗艦横須賀ニ向ケ
出港(昨年十二月三十日參看)

一月四日

第一艦隊軍艦宮古ハ第三艦隊ニ編入セラレ第三艦隊軍
艦龍田ハ第一艦隊ニ編入セララル(昨年十二月二日)
第三艦隊兼練習艦松島、嚴島、橋立ハ兼練習艦ヲ解カル
艦隊附屬敷設隊準備員トシテ吳鎮守府附置カル
第三艦隊旗艦鎮遠、和泉、扶桑吳ニ向ケ横須賀出港
嚴島橋立、松島ハ練習艦ヲ解カレタルヲ以テ海軍大臣
ハ東郷司令官ニ任務ニ差支ナキ艦ヲ一日モ早ク吳ニ回

號ハ釜山ヨリ何レモ長崎入港(昨年十二月二十九日及)
義勇艦隊汽船、エカテリノスラフ(號(總噸數五、六二七)
新嘉坡入港同日出港同船ハ陸兵八百ヲ搭載ス(新嘉坡
發電)

巡洋艦、グロモボイ元山出港(一月二日)

巡洋艦、ワリヤーク旅順口ニ向ケ仁川出港(昨年十二月三十日參看)

砲艦、ガイダマール旅順口ヨリ芝罘入港

戰艦、ツエザレウ井子昨日旅順内港ヲ出テ今日港外ニ碇泊ス

東清鐵道會社汽船、セルカ號(總噸數一、三五九)仁川入港

在浦鹽川上貿易事務官ノ本日附報告ニ曰ク當港碇泊ノ
露艦「ロシーヤ」「リユールク」及ヒ「ボガツイリ」三艦ハ去二
日以來盛ニ糧食及ヒ炭炭ヲ積込ミ汽罐ハ客年十二月三
十一日以來焚積ケ愈、同艦隊ハ出師準備ヲ始メタルニ
相違ナキモノト認ム但水雷艇ハ依然何等ノ異狀ヲ認メ
ス又露國義勇艦隊汽船ハ今日浦鹽ニ入港スヘキ「ウ
オロネー」號ノ外今後同社ノ汽船ハ長崎(往復共)寄

航スヘキ旨訓令ス

軍艦橋立竹敷ヲ經テ此ノ日横須賀著(昨年十二月三十日參看)

軍艦赤城竹敷ニ向ケ吳發

在英玉利大佐ハ本日附ニテ海軍次官ニ發電シテ曰ク在

ゼノア松尾造船大監ノ意見ニテハ露國ハ我カ兩艦出航

ニ對シ妨害運動ヲ爲スノミナラス目下同地多數ノ同國

艦艇追跡ノ恐アルカ故ニ南米通過ヲ得策ト爲スト

在伊松尾、岩木兩監督官ハ本日附ニテ海軍次官ニ發電シ

テ曰ク露國士官數人我カ軍艦ノ舉動秘密探偵ノ爲メ此

ノ地ベルンヤロセルタ并ニ附近ニアリ露國軍艦モ注意

怠ラス蘇士運河ヲ通過スレハ追跡サル、恐レ多シト認

ム一月三日玉利公使館附ニ南米ヲ經テ回航セシメラレ

度旨ヲ以テ其ノ回航契約ヲ申出タリ今日ノ場合回航費

少々ノ増加ニハ代ヘ難シト思惟ス伊太利政府ニハ相當

保護依頼アリント思考ス工事ハ會社ニ於テ晝夜幾ト全

力ヲ盡シ進行中一月七日ニハ必ス(一字不明)ノ管外航

ハ地中海ノ英國軍艦同様鼠色トナセリト

鈴木中佐昨三日伯林ヲ發シ本日伊國セノアニ到著ス

英國駐在海軍機關中監賀茂嚴雄、獨國駐在海軍少佐山

所廣海、露國駐在海軍少佐川原袈裟太郎(一月一日)佛國駐

在海軍少佐松村純一、佛國駐在海軍大尉丸山壽美太郎、

獨國駐在海軍大尉筑土次郎ハ本日附ヲ以テ歸朝命セララル

一月五日

山本海軍大臣ハ省令第一號ヲ以テ當分ノ内艦隊艦船軍
隊ノ進退其ノ他軍機軍略ニ關スル事項ヲ新聞紙及ヒ雜

明治三十七年一月

百三十一

港ヲ爲サ、ル事ニ一決シ當地同社支店ヘモ其ノ旨通知
シ來リタルコトヲ確開ス又裝甲巡洋艦「グロモボイ」此
ノ日午後三時三十分浦鹽ニ歸港シ(一月三日)又義勇艦隊汽
船「ウオロネー」號ハ午後四時入港セシカ同船ニハ多
額ノ彈藥ヲ搭載セル由ナリト

大連灣方面ハ去一日以來寒氣嚴シテ此ノ日同灣防波

堤以內結水汽船微速力ニテ進ム能ハス(在芝罘山下大

佐發電)

砲艦「ガイダマール」芝罘出港(一月三日)

東清鐵道會社汽船「ノニ」號ハ長崎ヨリ(一月二日)同「シ

ルカ」號ハ仁川ヨリ(一月三日)何レモ上海ニ向ケ出港

東清鐵道會社汽船「アムール」號(昨年十二月三十一日)ハ何日長崎

ヲ出港セシヤ不明ナレトモ此ノ日上海入港即日長崎

東清鐵道會社汽船「モンゴリア」號(總噸數二、九八一)列

ルニヨリ長崎入港

船名不詳ノ露國汽船一隻旅順口ニ向ケ新嘉坡ヲ發ス

(新嘉坡發電)

旅順口ヨリノ情報ニヨレハ同港ニテハ本日朝ヨリ出入

船舶ニ嚮導ヲ附スルコト、ナル(在芝罘山下大佐發電)

附記

一月六日

誌等ニ記載スルコトヲ禁ス
 齋藤海軍次官ハ本日附ニテ在伊松尾、岩木兩監督官ニ
 發電シテ曰ク兩艦共工事終リ次第成ルヘク速ニモルタ
 軍港ニ入港命ヲ待テト竹内ニ傳達セヨ出發ノ際航海先
 ヲ不分明ナラシムル様充分注意セヨト
 在伊松尾、岩木兩監督官ハ本日附ニテ海軍次官ニ發電
 シテ曰ク電信領收ビセルタニハ露國軍艦三隻モルタニ
 ハ驅逐艦五隻アリ訓令ニ依リ目下出艦準備中ナレトモ
 差支ナキヤ念ノ爲メト
 山本海軍大臣ハ第二艦隊ニ屬スル諸艦(驅逐艦ヲ除ク)
 ニハ英炭ヲ積載セシムヘキ旨訓令ス(昨午七月)
 軍艦敷島出渠此ノ日佐世保ニ向ケ吳發(昨午十二月十七)
 軍艦八雲入渠ノ爲メ長崎ニ向ケ佐世保發
 瓜生第二艦隊司令官ハ將旗ヲ須磨ニ移ス(一月一)
 軍艦大島入渠ノ爲メ吳ニ向ケ佐世保發
 軍艦島海佐世保ヨリ海香ヲ經テ此ノ日竹敷著(一月一)
 軍艦高雄函館ニ向ケ横須賀發(昨午十二月二)
 山本海軍大臣ハ日本郵船株式會社所有汽船日光丸(總
 噸數五、五三八)同神戶丸(總噸數二、八七七)同立神丸
 (總噸數二、七〇三)ヲ雇上ク
 在仁川千代田艦長ノ本日附發電ニ曰ク今朝米國海兵三十
 ト「ウィック」スバーク艦長ハ言ヘリト
 英艦「クレンシー」威海衛ヨリ仁川入港

第十四艦隊第一艦隊ニ編入セラル(該隊ハ日下佐
 第九艦隊第二艦隊ニ編入セラル(該隊ハ日下佐

在英玉利大佐ノ本日附發電ニ曰ク東洋回航中ノ巡洋艦
 「アッローラ」(昨午十二月)ハ希臘ビレ港ニ向ヒビセルタ
 出港 又英領「モルタニア」リシ驅逐艦五隻(昨午十二月)
 スダ灣(クリート島)ニ向ケ出航セリト
 東清鐵道會社汽船「ブレイヤ」號旅順口ニ向ケ長崎出港
 (一月三)
 東清鐵道會社汽船「インカオ」號(登簿噸數八四)芝罘入
 港
 諾威汽船「スレーブナー」號英炭千八百噸ヲ積ミ旅順ニ
 向ケ長崎出港(昨午十二月三)
 太平洋捕鯨會社汽船「アレキサンデル」號(總噸數二六
 一)長崎入港其ノ目的地ハ元山ナリト云フ(長崎稅關長
 發電)

ローゼン公使ハ小村外務大臣ニ十二月二十一日ノ我カ提
 案ニ對スル露國政府ノ復答ヲ手交ス其ノ要領ハ依然韓

第一艦隊(日下佐)第十艦隊(日下佐)第十一艦隊(日下佐)第十
 號ハ佐世保ニアリ(昨午十二月) 第十六艦隊(日下佐)第二十艦隊
 第二艦隊(日下佐) 水雷艇小隊、水雷艇第五號(以上二隻ハ日下) 第三
 艦隊ニ編入セラル(以上各艦隊九
 第十五艦隊水雷艇雲雀及ヒ雄ニ定員ヲ置ク
 海軍々分部參謀海軍少將細谷資氏ハ第三艦隊司令官ニ
 轉補セラル
 軍艦初瀬出渠(本月三)
 第三艦隊訓練ノ爲メ佐世保出港寺島水道南方ヲ常泊地
 トス
 第二艦隊(八雲欠)及ヒ第四艦隊(高千穂欠)佐世保出港
 對抗演習ヲ施行シ終テ惠比須灣ニ假泊ス
 高千穂入渠修理ノ爲メ吳ニ向ケ佐世保出港同艦ハ吳ニ
 於テ機械水雷落下装置ヲ取附クルコトナル
 軍艦浪速芝罘ヨリ佐世保入港(昨午十一月)
 軍艦嚴島江田内ヨリ横須賀著
 軍艦赤城吳ヨリ竹敷著(一月四)
 齊藤海軍次官ハ本日附ニテ松尾、岩木兩監督官ニ返電
 シテ曰ク差支ナシ猶出發日取決定ノ上ハ豫報セヨト
 竹内大佐、賀茂機關中監ヲ初メ兩艦ニ監督トシテ乘組
 ムヘキ諸將校及ヒ便乘者鈴木大軍醫等各其ノ駐在セン
 國ヨリ此ノ日ゼノアニ到着ス
 山本海軍大臣ハ日本郵船株式會社汽船仁川丸(總噸數
 二、三三二)同春日丸(總噸數三、八一九)同金州丸(總噸

國領土使用ニ關スル制限及ヒ韓國ノ中立地帯ニ關スル條
 項(昨午十二月)ヲ維持シ日本政府ニシテ之ニ同意セハ露
 國政府ハ左ノ趣意ノ一個條ヲ本案協約中ニ挿入スルコ
 トヲ承諾スヘント
 滿洲及ヒ其ノ沿岸ハ日本ノ利益範圍外ナルコトヲ日
 本ニ於テ承諾スルコト同時ニ露國ハ滿洲ノ區域内ニ
 於テ日本又ハ他國カ其ノ清國トノ現行條約ノ下ニ獲
 得シタル權利及ヒ特權(但居留地設定ヲ除ク)ヲ享有
 スルヲ阻礙セサルヘキコト
 巡洋艦「ホヤリ」旅順口ヨリ仁川入港
 東清鐵道會社汽船「ニングタ」號(登簿噸數四八二)同「イ
 ンカオ」號芝罘出港(一月五)
 諾威汽船「センチス」號(總噸數二、二五〇)石炭二千五百十
 噸搭載旅順口ヨリ門司入港其ノ目的地ハ芝罘ヲ管ナリ門
 司稅關支署長發電)
 東清鐵道會社汽船「モンゴリア」號(登簿噸數四六)釜山
 出港(一月四)
 太平洋捕鯨會社汽船「ゲオルギ」號(登簿噸數四六)釜山
 入港
 長崎在泊成川金剛艦長ノ本日附報告中ニ曰ク東清鐵道
 會社汽船「マンチユリア」號ハ長崎三菱造船所ノ手ニテ
 主機ヲ陸揚シ「エンヂン、ピヤリ」ングヲ修理シツ、アリ
 竣工マテニハ向後約一ヶ月ヲ要スル山ナリト

一月七日
軍艦浪速及ヒ秋津洲清韓警備ノ任務ヲ解カル(昨年四月二十日及ヒ十月二十八日參看)
山本海軍大臣ハ當分ノ内戰時特設各船舶部隊條例並ニ定員表ニ依リ假設海軍望樓ノ定員ニ充ツヘキ信號兵曹信號兵ハ適宜其ノ數ヲ減シ電信術ノ心得アル水兵若クハ望樓手ヲ以テ之ヲ補充スルコトヲ得ヘキ旨訓令ス
山本海軍大臣ハ第三艦隊所屬第一艇隊、第十艇隊、第十一艇隊、第二十艇隊ヲ解散シ同航セシムヘキ旨訓令ス
竹内大佐ハ本日午前二時海軍大臣ニ發電スルニ二隻共ニ八日出港ノ旨モルタニ立寄ラス直ニポートセードニ急行セントス是非共モルタニ立寄ルヘキヤ長旅ナシニ軍艦旗ヲ掲ケ出港スルコトニ決ス就テハ軍艦トシテ交際無論出來難シ此ノ旨伊國政府ニ通知スル様取斗ハレタシト(此ノ電報七日午後六時東京著)

ポートセードヨリ本日附ノ發電ニヨレハ東洋回航中ノ巡洋艦「ドミトリ」、ドンスコイ及ヒ驅逐艦七隻ハ一月十二日頃戰艦「オスラービヤ」ハ一月十五日頃蘇士通過ノ豫定ナリト
東清鐵道會社汽船「シルカ」號仁川ヨリ上海入港(一月三日參看)
波羅的汽船會社汽船「ベッチー」號(總噸數二、八二四)浦鹽入港
英國汽船「バーニシア」號(露國船十九隻中ノ一)英炭五千百三十五噸搭載浦鹽入港

松尾、岩本兩監督官ハ本日午後五時、アンサルド會社ヨリ兩艦領收ノ手續ヲ了ル同日夜半ヲ以テ總テノ工事ヲ中止ス岩本監督官ハ歸任ノ途ニ就ク
兩艦本邦ヘ回航ニ付安社ヨリ監督トシテ特派シタル英國人エドワード、ルイス、ダルクワンプル、ボイル、春日艦長ノ職務ヲ執ルヘキ同ヒュー、ハウエイス、ペーレンター、日進艦長ノ職務ヲ執ルヘキ同ジヨン、フランシス、リリー以下回航ノ爲メ雇入レタル英國人此ノ日夜半セノアニ著シ直ニ乘艦シ機關長及ヒ機關部員タル伊國人モ同夜乗艦ス

山本海軍大臣ハ聯合艦隊司令長官ニ命スルニ海軍少佐布目滿造ヲ遞信省ノ電線敷設船沖繩丸ニ便乗出發セシムルニ付軍艦明石ヲ同船ニ附シ出發セシムヘシ沖繩丸ハ來九日佐世保ニ入港スヘシ明石ノ任務ニ就テハ布目少佐ヨリ直接開取リ同少佐ト協議ノ上任務ニ服セシムヘキヲ以テス依テ瓜生第二艦隊司令官ハ之ヲ明石ニ傳達シ八日中ニ惠比須灣(一月六日參看)ヨリ佐世保ニ歸港ヲ命シ出港ノ準備ヲ爲サシム
在芝罘山下大佐ハ此ノ日附ヲ以テ歸朝ヲ命セラル(昨年二月二十八日參看)
軍艦三笠佐世保ニ於テ入渠
軍艦富士佐世保ニ向ケ吳發(一月二日參看)
軍艦敷島吳ヨリ佐世保著(一月五日參看)
片岡第三艦隊司令長官旗艦鎮遠吳著(一月四日參看)
軍艦大島佐世保ヨリ吳著即日入渠(一月五日參看)
軍艦濟遠水浦發釜山ニ向フ(昨年十二月二日及ヒ十三日參看)

記附

一月八日

山本海軍大臣ハ日本郵船株式會社汽船天津丸(總噸數二、九四二)同芝罘丸(總噸數一、九三三)同玄海丸(總噸數一、四四六)大坂商船株式會社汽船臺南丸(總噸數三、三一一)三井物産合名會社汽船彦山丸(總噸數三、七一一)同富士山丸(總噸數二、〇四三)ノ六隻ヲ雇上ルコトヲ得セシメラル

山本海軍大臣ハ本日附ニテ小村外務大臣ニ照會スルニ日進、春日兩艦回航ノ義ハ英國ノ一會社ニ依托シ、二ノ帝國海軍將校ヲ監督トシテ乘組マシムルニ止ムルヲ以テ軍艦タル禮儀ヲ欠クカ如キコトアルヘキニ付可然諒知セラル、操伊國政府ヘ聲明センコトヲ以テス

伊集院軍令部次長ハ片岡第三艦隊司令長官ニ向ヒ宮古ヲ此ノ際馬山浦五島方面ニ在ラシメ露艦ノ動靜ヲ視察シ同地方ニ危險物ヲ沈置スル等ノコトナキヤヲ監視シ軍令部ニ報告セシメ又砲艦ハ可成速ニ竹敷ニ集合セシメラレ度希望ヲ申進ス片岡司令長官ハ即日在佐世保宮古艦長海軍中佐枋内曾次郎ニ馬山浦、五島方面ニ急行スヘキ電令ヲ發ス

在芝罘山下大佐ノ本日附發電ニ曰ク義ニ砲艦「ザビヤ」カニ乗セシ歩兵二個中隊ヲ水兵ノ服裝ト爲シ巡洋艦「ボヤリ」ニ移シ一月五日旅順出港場合ニ依リ仁川港領事館及ヒ居留民保護ノ爲メ上陸セシムルノ内命ヲ受ケ居ル山ナリ又一月五日及ヒ六日ノ夜各艦々内ノ不用器具ヲ揚陸セリ又旅順口貯藏食糧軍需品ノ半ハ其ノ用ヲ爲サス又防禦水雷貯藏三百八十個アルモ其ノ實用ニ適スルモノハ約三百ニ過キスト云フト

義ニ英領モルタヲ出港シタル露國驅逐艦五隻ハスタ灣(クリート島)ニ著外二隻ハビゼルトヨリ同灣ニ向ケ航海中ナリ(一月五)

東清鐵道會社汽船「ニングタ」號芝罘入港(一月六)

臺灣總督府海軍參謀長ノ本日附發電ニ曰ク英國汽船「ラドレー」號(露國船十九隻中ノ一)石炭搭載ノ爲メ本日基隆入港同船ハ露國海軍用石炭四千餘噸ヲ積ミ居レリ約十時開碇泊ノ後旅順口ニ向フ等ナリト

諸威汽船センチス號石炭及ヒ雜貨ヲ搭載シ門司出港(一月六)

記附

一月九日

軍艦富士丸ヨリ佐世保著(一月七)

第一艦隊軍艦龍田(一月四)佐世保ニ向ケ吳發(一月三)

軍艦浪速入渠ノ爲メ吳ニ向ケ佐世保發(一月六)

第四驅逐隊中春雨、村雨ハ入渠ノ爲メ長崎ニ向ケ佐世保發即日長崎著

第十六艇隊竹敷發即日佐世保著(一月六)

軍艦扶桑橫須賀ヨリ吳著(一月四)

軍艦濟遠木浦ヨリ釜山著(一月七)

山本海軍大臣ハ日本郵船株式會社汽船肥後丸(總噸數一、四一九)日本商船株式會社汽船武州丸(總噸數一、二四九)森三樹太郎所有汽船報國丸(總噸數二、七四六)ノ三隻ヲ雇上ル

英國水兵二十名士官一名此ノ日正午京城ニ入ル

豫備艦平遠海門ハ警備艦ト定メラル(昨年十二月三)

軍艦濟遠清韓警備ノ任務ヲ解カル(昨年十二月二)

日進、春日此ノ日午前一時伊國セノア港ヲ出發シ本邦ニ向フ

山本海軍大臣ハ驅逐艦、水雷艇及ヒ第一、第二、第三艦隊編入ノ諸艦并ニ警備艦ヲシテ水線以上ノ外面全體ヲ濃鼠色ニ塗リ換ヘシムヘキ旨ヲ訓令ス

山本海軍大臣ハ横須賀、東京灣口、函館、大湊、吳、下ノ關佐世保竹敷、長崎、舞鶴、馬公、基隆ニ在テハ水雷艦ヲ裝填シ何時ニテモ積出ニ應シ得ルカ如ク敷設ニ要スル諸準備ヲ爲シムヘキヲ訓令ス

東郷聯合艦隊司令長官ハ聯合艦隊ノ戰策ヲ制定シ我カ

駐韓吉田少佐ノ本日附發電ニ曰ク露國兵四十六名本日前四時京城ニ入ルト

巡洋艦「ドミトリ」及ヒ驅逐艦二隻スタ灣ニ著(昨年十二月二十)

戰艦「オスラー」及ヒ水雷艇二隻(第二百十二號及ヒ第二百十三號ナラン)此ノ日午後ビゼルト出港(昨年十一月十二)

東清鐵道會社汽船「ニングタ」號芝罘出港(一月八)

同「アルグン」號同「ノニ」號上海入港(昨年十二月三十)

太平洋捕鯨會社船「ミハイール」號(登簿噸數一、〇七一)釜山入港

附 記

一月十日

聯合艦隊ノ全部カ略均勢ノ敵艦隊ト洋中ニ遭遇シテ之ト決戦スル戦法ノ綱領ヲ此ノ日部下ニ豫示ス
 東郷聯合艦隊司令長官ハ各戰隊ヲシテ二晝夜分(十節)ノ和炭ヲ積載シ得ル餘積ヲ殘シ英炭ヲ滿載シ被服糧食需品ヲ充實セシム
 第一艦隊軍艦龍田吳ヨリ佐世保著(一月八) 第二戰隊(吾妻、八雲欠)及ヒ第四戰隊中須磨惠比須灣ヨリ佐世保ニ歸港(一月六) 軍艦吾妻入渠ノ爲メ吳ニ向ヒ佐世保發 軍艦八雲長崎ニ於テ入渠修理ヲ終リ此ノ日佐世保ニ歸港(一月五) 第二十艦隊舞鶴ヨリ佐世保著(一月六) 軍艦大島竹敷ニ向ケ吳發(一月七) 電線敷設船沖繩丸ハ船體ヲ黒塗シ富士丸ト假稱シ此ノ日佐世保ニ入港ス(一月七) 軍艦宮古佐世保出港即日竹林浦入港(一月八) 松尾監督官及ヒ其ノ他倫敦ニ向ケセシメテ發ス 日本郵船株式會社汽船三池丸(總噸數三、三六四)大安丸(總噸數二、四四九)三井物産合名會社汽船愛宕山丸(總噸數二、〇四三)ニ三隻ヲ雇上ク
 在京城吉田少佐ノ本日附發電ニ曰ク伊國水兵二十名將校一名ハ九日正午入京スト又京城郵便局長ノ本日附發電ニ曰ク佛國水兵二十名ハ午後一時五十分入京スト
 在仁川村上千代田艦長ノ本日附發電ニ曰ク英艦「タルボット」香港ヨリ入港本艦ヨリ南四十度西六鐘四分ノ一ノ處ニ碇泊スト(艦長「コムマンダー」ルイス、ベリー) 巡洋艦「アッローラ」希臘「ヒレ」出港(一月五)

同「ダオルギ」號釜山出港(一月六) 露國農務省帆船「ゴルリツア」號(登簿噸數六〇)釜山入港

附 記

一月十日

ニ各國商船碇泊位世ヲ至急通報スヘキヲ以テス 横須賀鎮守府司令長官海軍大將男爵井上良馨ハ小樽港假裝防禦計畫書ト共ニ小樽港防禦編制表及ヒ附圖ヲ提出ス東郷第一艦隊司令長官ハ第一戰隊戰策ヲ制定シ第一戰隊カ單獨ニテ敵ノ艦隊ト格闘スル戦法ノ綱領ヲ此ノ日部下ニ豫示ス
 軍艦三笠出渠(一月七) 軍艦吾妻佐世保ヨリ吳著(一月九) 軍艦浪速佐世保ヨリ吳著(一月八) 軍艦宮古竹林浦出港鎮海灣ヲ視察シ馬山浦著(一月九) 軍艦橋立吳ニ向ケ横須賀發(一月四) 軍艦秋津洲吳ニ向ケ廈門發(一月三) 軍艦和泉横須賀ヨリ吳著(一月七) 軍艦濟遠吳ニ向ケ釜山發(一月四) 第三艦隊司令長官海軍中將片岡七郎ハ其ノ旗艦ヲ嚴島ニ、東郷司令官旗艦ヲ和泉ニ變更シ細谷司令官旗艦ヲ扶桑ニ指定ス 軍艦高雄大湊ヲ經テ此ノ日函館著(一月五) 山本海軍大臣ハ日本郵船株式會社汽船福井丸(總噸數二、九四三)同營口丸(總噸數一、九六六)同越後丸(總噸數一、二八〇)三井物産合名會社汽船劍山丸(總噸數四、一二八)緒明菊三郎所有汽船太郎丸(總噸數三、一一七)ノ五隻ヲ雇上ク
 在上海英國支那艦隊司令長官ブリッヂ大將ハ東京駐在英國公使ニ祕報シテ曰ク獨逸海軍將校ヨリ得タル諜報ニヨルニ獨逸東洋艦隊ハ獨逸皇帝陛下ノ命ニ依リ膠州灣ニ集中セラレタリ右ハ英國支那艦隊カ威海衛ニ集中セリトノ虛報ニ基クモノナリ之カ爲メ獨逸司令長官ノ聯合往航并ニ獨逸皇子ノ上海來航ハ取止メ又ハ延引セラレタリト

二月十一

竹敷要港部定員表中司令官中少將ヲ中將ニ改メラル
豫備艦愛宕ハ第三艦隊ニ編入セラル(昨年六月二十日参看)同艦ハ目
下横須賀ニアリ
軍艦對島ニ全定員ヲ置ク(昨年六月)
要港部水雷團所屬水雷艇ハ一ヶ年ノ警備就役日數ヲ六
ヶ月ト定メラレタル所此ノ際ニ限リ司令官長官司令官ノ
必要ト認めル場合ニハ該規定ニ依ラス警備就役スルコ
トヲ得セシメラル(昨年九月)
此ノ際海軍戰時編制ニ準據シ整備スヘキ海軍各部ノ定員ニ
充ツヘキ下士卒ハ當該定員表ノ總員數ヲ超過セザル限リハ
適宜兵種ノ異ナルモノヲ以テ補充スルコトヲ得セシメラル
戰時特設部隊編制ニ付佐世保鎮守府所管豫備役、後備
役、海軍下士卒ノ一部ハ補充ノ爲メ大演習ノ名義ノ下
ニ召集セシメラル
吳鎮守府並ニ佐世保鎮守府ニ於ル明治三十六年度小演
習ハ施行セシメラレス
山木海軍大臣ハ本日附ヲ以テ各所管長官及ヒ各艦長ニ
訓示スルニ時局ノ必要ニ應スル施設經營多端ニシテ之
ニ關聯スル各般ノ行務亦劇甚ヲ加フ此ノ時ニ際シ各官
ハ宜シク部下ヲ督勵シ工事其ノ他各般ノ事業ノ簡易ヲ
尙ヒ實際ニ適切ナルヲ旨トシ其ノ經費ノ節約ヲ計リ以
テ國庫ノ負擔ヲ輕減スルコトヲ努ムヘキ旨ヲ以テス
山木海軍大臣ハ望樓信號書ヲ定メ明治三十七年一月二
十日ヨリ使用セシム
山木海軍大臣ハ綾島佐世保鎮守府司令官長官ニ假根據地

巡洋艦「ワリヤーク」旅順口ヨリ仁川入港
砲艦「サビヤーク」旅順口ヨリ芝罘入港
駐韓吉田少佐ノ本日附發電ニ曰ク露國水兵二十六名將
校四名正午汽車便ニテ入京セリ又先ニ入京セシ水兵二
十二名ハ本日午後三時汽車便ニテ仁川港ニ向ケ出發ノ
筈ト
在仁川村上千代田艦長ノ本日附發電ニ曰ク露國士官二
名水兵二十名此ノ日午後汽車便ニテ京城ヨリ「ギリヤーク」
ニ歸艦スト
巡洋艦「ドミトリ」ドンスコイ及ヒ驅逐艦七隻此ノ日
午後二時三十分ボートセードニ向ヒスダ灣出港水雷艇
第二百十二號、第二百十三號ハビゼルトヨリシラキエ
ース(東岸ノ一港ニ著(九日参看))
東清鐵道會社汽船「アルグン」號旅順口ニ向ケ上海出港
(二月九)
同「シムカ」號旅順口ニ向ケ上海出港(二月七)
同「アムール」號旅順口ヨリ長崎入港(二月四)
諾威汽船「セイルス」號(噸數未詳)タルニヨリ
長崎入港

防材材料中準備ニ時日ヲ要スルモノハ直ニ之ニ著手ス
ヘキヲ命ス
山木海軍大臣ハ日高舞鶴鎮守府司令官長官ニ左ノ如ク訓
令ス

目下佐世保ニ向ケ回航セシメツ、アル比叙ノ任務ヲ
急速遂行セシムル様取計フヘシ同艦佐世保へ回著ノ
上ハ佐世保鎮守府司令官長官ノ指揮下ニ在テ進退スヘ
キ現任務ヲ解除ス依テ同艦並ニ金剛ハ至急其ノ軍港
ニ回著セシムヘシ(昨年十二月二)
齊藤海軍次官ハ片岡第三艦隊司令官長官ニ發電スルニ訓
令以外ノ艦隊行動ニ關シテハ豫メ認許ヲ經ルコトニセ
ラレタシ宮古ノ事ニ就テハ伊集院軍令部次長ニ注意シ
置ケリト(二月八)
海軍々令部ハ此ノ月中旬ニ至リ從來研究ヲ重ネタル對
露作戰方針ヲ決定ス其ノ一ハ開戦ノ時機共ノ二ハ作
戰計畫(第一、第二、第三、第四計)共ノ三ハ沿岸防禦ニ係ル
伊集院軍令部次長ハ在仁川村上千代田艦長ニ發電スル
ニ軍艦對島附近ニ碇泊スル商船位置ハ變更アル都度電
報アリダキ旨ヲ以テス
兒玉參謀本部次長ハ豫テ協定セシ北京ヨリキヤクダニ
通スル電線破壞ノ件實行何時ニテモ差支ナキ旨ヲ伊集
院軍令部次長ニ通知ス
軍艦明石ハ沖繩丸ト共ニ佐世保ヲ發シ八口浦附近ニ至
リ同船ノ海底電線敷設事業ヲ護衛スヘキノ訓令ヲ受ケ
此ノ日相共ニ出港ス(二月七)
第三艦隊寺島水道鋪地ヨリ佐世保入港(二月六)

防材材料中準備ニ時日ヲ要スルモノハ直ニ之ニ著手ス
ヘキヲ命ス
山木海軍大臣ハ日高舞鶴鎮守府司令官長官ニ左ノ如ク訓
令ス

片岡第三艦隊司令長官ハ麾下艦隊區分ヲ左ノ通り定メタル旨本日附ニテ報告ス

戰	艦	艇	隊
第五	鎮遠、嚴島、橋立、松島、宮古		
第六	和泉、秋津洲、千代田		
第七	扶桑、濟遠、大島、赤城、摩耶、島海、宇治、愛宕		
第一	六十七號、六十八號、六十九號、七十號		
第十	四十號、四十一號、四十二號、四十三號		
第十一	七十二號、七十三號、七十四號、七十五號		
第二十	六十二號、六十三號、六十四號、六十五號		

但宮古ハ第五艦隊ノ通報艦タラシム

汽船報國丸(一月八)仁川丸(一月六)天津丸(一月七)武州丸(一月八)武揚丸(一月六)ヲ艦隊用特別運送船ト定ム
 汽船春日丸(一月六)日光丸(一月五)ハ假裝水雷母艦ト定ム
 汽船臺灣丸(一月七)臺中丸(一月十三)ハ假裝巡洋艦トシテ聯合艦隊附屬ト定メラル

汽船江都丸(一月十三)三池丸(一月九)ハ工作船トシテ聯合艦隊附屬ト定ム
 汽船神戸丸ハ病院船トシテ聯合艦隊附屬ト定ム(一月五)
 汽船金州丸(一月六)彦山丸(一月七)有明丸(一月十二)山口丸(一月六)太郎丸(一月十)福岡丸(一月十二)ハ艦隊附屬運送船ト定ム
 汽船喜佐方丸ハ鎮守府専用運送船トシ横須賀鎮守府所管ト定ム(一月六)
 汽船肥後丸ハ大湊水雷團専用運送船ト定ム(一月八)

汽船福井丸ハ鎮守府専用運送船トシ吳鎮守府所管ト定ム(一月十)
 汽船千代丸(一月十二)京都丸(一月十四)ハ鎮守府専用運送船トシ佐世保鎮守府所管ト定ム
 汽船佐倉丸(一月六)山城丸(一月九)近江丸(一月七)基隆丸(一月十二)萬田山丸(一月十二)愛宕山丸(一月九)富士山丸(一月七)嚴島丸(一月十二)ハ艦隊用運送船ト定ム
 汽船臺東丸ハ鎮守府専用運送船トシ舞鶴鎮守府所管ト定ム(一月十)
 汽船立神丸ハ要港部専用運送船トシ佐世保鎮守府所管ト定ム(一月五)
 汽船新瀉丸(代船大安丸)陸摩丸(一月六)劍山丸(一月十)ハ假根據地防備隊専用運送船ト定ム
 軍艦摩耶竹敷ニ向ケ舞鶴發(一月十二)
 御前會議開カル山本海軍大臣以下各大臣(桂總理大臣不參)伊藤侯、山縣侯、松方伯、井上伯、大山參謀總長、兒玉參謀次長、伊東軍令部長、伊集院次長參列ス
 假根據地防備隊、艦隊附屬敷設隊、艦隊補給員、驅逐隊及ヒ艇隊補給員明治三十六年度海軍戰時編制ニ依リ編制セシメラレ假根據地防備隊ハ佐世保鎮守府ニ附屬セシメラル
 舞鶴海軍港務部長兼舞鶴豫備艦部長海軍少將餅原平二假根據地防備隊司令官ニ轉セシラレ且同隊職員ヲ置カル第一艇隊ハ出師準備整ヒ吳出航豐浦ヲ經テ竹敷ニ向フ

巡洋艦「ホヤリ」旅順口ニ向ケ仁川出港(一月六)
 駐韓吉田少佐ノ本日附發電ニ曰ク露國水兵二十九名正午汽車便ニテ京城ニ入ル一月九日露兵入京ノ趣電報セシハ誤リト在旅順或信據スヘキ者ヨリ同地ニ於ル露人ノ舉動及ヒ艦艇ノ情況ニ付本日附ニテ報シテ曰ク二月八日及ヒ九日ノ兩日ニ於テ旅順口在泊ノ露艦ハ木製ノ器具及ヒ引火ノ物件ヲ盡ク船渠ニ揚陸セリ在渠ノ二砲艦ハ已ニ出渠セリ造船廠ハ日夜各種ノ必要物件ヲ急造セリ猶其ノ餘ニ旅順ニ警匪甚多ク竟ニ白晝強盜ヲ爲スニ至リ各店舖ハ日沒後一概ニ閉鎖シ夜中劫奪ニ遇フ者亦尠カラズ之カ爲メ

軍艦嚴島本月十日横須賀ヲ發シシカ(一月六)此ノ日吳著
 軍艦橋立横須賀ヨリ吳著(一月十)
 軍艦大島吳ヨリ竹敷著(一月九)
 軍艦宮古馬山浦發鎮海灣附近ヲ巡航ス(一月十)
 軍艦濟遠ハ昨年八月十三日韓國ニ向ケ佐世保發以來馬
 山浦 釜山 迎日灣 竹邊灣 月移島 元山 新浦 利源灣 城
 津 羅津浦ヲ歴航シ今後釜山馬山浦鎮海灣 竹林浦 五
 文島所安島鎮南浦 木浦ニ出入セシカ木日吳著
 海軍中佐森義太郎ハ昨年十二月三十日軍事視察ノ爲メ
 清國出張ヲ命セラレ本年一月四日東京出發今十二日芝
 罌ニ著シ旅順方面ノ諜報ニ從事ス
 東郷聯合艦隊司令長官ハ水雷母艦豐橋(一月十三)運送
 船福岡丸仁川丸ヲ第一特務隊ニ編入ス
 山本海軍大臣ハ日本郵船株式會社汽船江都丸(總噸數三、三
 三、一八二)大阪商船株式會社汽船臺中丸(總噸數三、三
 一九)同基隆丸(總噸數一、六六九)ノ三隻ヲ雇上ク

ニ露吏ノ巡察最嚴ナリ一月十一日劇場 散開後形跡疑ハ
 シキ者五十餘名拘留セラレシカ其ノ落著ハ不明ナリ露國
 商人ハ日露協商成立ノ望ミアリト言ヒ居レリ露國ノ郵便
 局ハ外國人ノ郵便物ヲ受附ケサルヲ以テ芝罌ヨリ轉送セ
 サルヘカラサルカ故ニ其ノ到達ノ期日ヲ豫期シ難シト
 在浦鹽川上貿易事務官ノ本日附報告ニ曰ク當港在泊巡
 洋艦隊ノ四隻ハ今十二日マテニ出師準備ヲ終リ又假裝
 巡洋艦「レナ」ハ目下載炭中ニシテ何レモ昨今悉ク氷ヲ
 掘リテ錨ヲ卷キ上ケ出港ニ差支ヘナクシ水雷艇ハ大小
 形共陸揚ケ又ハ入渠中ナリト
 戰艦「オスラービヤ」ハ斯塔灣ニ著即日出港(一月九)
 諾威汽船「ドーリス」號(總噸數一、五三四)旅順ヨリ門
 司入港同港ニ於テ石炭二千五百噸ヲ積載ス其ノ目的
 地ハ芝罌ノ管(門)司稅關支署長發電)
 太平洋捕鯨會社船「アレキサンドル」號釜山ニ向ケ長崎
 出港即日釜山入港(一月五)
 同「ゲオルギー」號釜山入港(一月九)
 東清鐵道會社汽船「シルカ」號仁川入港(一月十二)即日旅
 順口ニ向ケ出港
 英國汽船「ビーチレー」號(露國船十九隻中ノ一)英炭五千七
 百十三噸搭載浦鹽入港
 義勇艦隊汽船「ニジニ」ノ「ヴゴロツ」號上海入港(一月十三
 日)
 東清鐵道會社汽船「アンニ」號上海出港(一月九)

一月十三

小村外務大臣ハ本日附ヲ以テ栗野公使ニ訓令スルニ確
 實ヲ保スル爲メ露國ノ復答(一月六)ニ對シローゼン公使
 へ開陳シタル次第ヲ口上書トシラハムスドルフ伯へ手交
 シ此ノ上時局ノ解決ヲ遷延セシムルハ兩國ノ爲メ

在ポートセードノ確實ナル筋ヨリ發セル本日附電報ニ
 曰ク巡洋艦「アウローラ」及驅逐艦七隻ハ本日ポートセ
 ードニ著今載炭中巡洋艦「ドミトリー」ドンスコイハ運
 河ニ入ル蘇士到著ノ上載炭ノ管戰艦「オスラービヤ」ハ

極メテ不利益ナルカ故ニ可成速ニ復答アラシコトヲ希
 望スル旨附言スヘキヲ以テス其ノ口上書要領ハ左ノ如シ
 韓國領土使用ニ關スル制限及ヒ韓國中立地帯設定ニ
 關スル條項ヲ削除シ滿洲ニ關スル露國ノ提議ニ對シ
 テハ左記ノ修正ヲ提出ス
 滿洲及ヒ其ノ沿岸ハ日本ノ利益範圍外ナルコトヲ日
 本ニ於テ承認スルコト但露國ハ滿洲ノ領土保全ヲ尊
 重スルコトヲ約スルコト、露國ハ滿洲ノ區域内ニ於
 テ日本又ハ他國カ其ノ滿洲トノ現行條約ノ下ニ獲得
 シタル權利及ヒ特權ヲ享有スルコトヲ阻礙セサルヘ
 キコト、韓國及ヒ其ノ沿岸ハ露國ノ利益範圍外ナルコ
 トヲ露國ニ於テ承認スルコト
 鈴木中佐ノ午前十一時五十分ポートセード發電ニ曰ク
 春日著直ニ運河ニ入ラントス日進未タ來ラズト
 山本海軍大臣ハ鯨島佐世保鎮守府司令長官ニ向ヒ明治
 三十六年度根據地防禦計畫ニ基キ此ノ際假根據地防備
 隊著手順序書ノ要領ニ依リ諸般ノ準備ヲ爲シ便宜船積
 ミシ置ク様取計フヘキ旨内訓ス
 東郷聯合艦隊司令長官ハ第一期艦砲教練射撃ヲ止メ其
 ノ規定彈數ヲ以テ特別ノ艦砲射撃ヲ施行スヘキ旨麾下
 艦隊ニ訓令ス
 軍艦吾妻出渠此ノ日佐世保ニ向ケ吳著(一月十)
 軍艦松島吳ニ向ケ横須賀發(一月十二)
 驅逐艦春雨村雨長崎ニ於テ入渠修理ヲ了リ此ノ日何レ
 モ長崎發即日佐世保入港第四驅逐隊ニ合ス(一月八)
 細谷第三艦隊司令官第七戰隊指揮官ト爲リ扶桑ニ乘艦

同十四日午後ポートセード著ノ豫定ナリト
 此ノ日頃義勇艦隊汽船「アリヨール」號及ヒ「サラトフ」號
 ハ二千ノ兵員ト武器ヲ搭載シセバストーポリヲ出發ス
 諸威汽船「セイリス」號石炭千三百噸、機械油六百
 八十噸、石油發動小汽船一隻其ノ他雜貨搭載旅順口ニ向
 ケ長崎出港(一月十一)
 東清鐵道會社汽船「アムール」號石炭五百噸、木炭三百俵
 其ノ他雜貨搭載タルニニ向ケ長崎出港(一月十一)
 東清鐵道會社汽船「ノンニ」號長崎入港(一月九)
 太平洋捕鯨會社船「ニコライ」號釜山入港(一月十三)
 同「ゲオルギー」號釜山出港(一月十二)
 同「アレキサンドル」號釜山出港(一月十二)
 義勇艦隊汽船「ウオロネー」號浦鹽出港(一月四)

一月十四

豫備艦筑紫警城ハ第三艦隊ニ編入セラル(昨年四月十二日参)
 目下筑紫ハ吳警城ハ佐世保ニアリ
 豫備艦天龍練習艦金剛ハ警備艦ト定メラル(昨年十一月五日参)
 戦時特設部隊編制ニ付吳鎮守府所管豫備艦下士卒ノ一部分モ補充ノ爲メ大演習ノ名義ノ下ニ召集セシメラル(一月十一)
 日進午前九時三十分ポートセード著午後三時蘇士ニ向ケ發、竹内大佐ノ本日附發電ニ曰ク機關部人少ノ爲メ速力十三以上ヲ出テス増員玉利ニ照會出艦ノ際露國軍艦ニテハ艦長會議中ニシテ士卒多數我カ艦ニ注意ス齋藤海軍次官ハ川原少佐ニ左ノ訓令ヲ與フ
 貴官ハ常分ノ間ポートセードニ駐在シ左ノ件々ニ注意シ必要ト認メタルトキハ其ノ概要ヲ本官ニ電報スヘシ(一月四)
 (一)蘇士運河ヲ通航スル露國軍艦、水雷艇、義勇艦隊及ヒ運送船ノ艦船名時日並ニ其ノ積荷
 (二)日露事件ニ關聯シ歐洲爾餘ノ列強カ新ニ軍艦水雷艇ヲ絶東ニ派遣スルカ如キアラハ其ノ國籍艦名、隻數並ニ其ノ蘇士通航ノ時日
 (三)黒海艦隊及ヒ地中海艦隊(露)ノ動靜
 (四)近東ニ發生スル事件殊ニマセドニヤ問題ノ成行ニシテ將來列國ノ國際問題トナルカ如キ兆アルモノ以上ノ外必要ト認ムル事項

在ポートセード竹内大佐ノ本日附發電ニ曰ク當港ニ在ル露艦ハ巡洋艦「アウローラ」驅逐艦七隻ニシテ載炭ヲ終リ「オスラービヤ」ヲ待合セ居リ又蘇士ニハ裝甲巡洋艦「ドミトリ」ドンスコイ載炭中ナリト
 駐英林公使ノ本日附發電ニ曰ク「タイムス」ノ一記者カ本官ヲ來訪シ内密ニ告クル所ニヨレハ東洋回航中ノ露國軍艦ハ佛領チブーテル(編者曰ク紅海南口ニテ亞)及ヒブロー、コンドール(編者曰ク西貢河)ニテ載炭スヘシブロー、コンドールハ餘リ世上ニ知レ居ラサル所ナルカ故ニ露艦ノ載炭モ人ノ注意ヲ惹クコト少ナルヘシト
 又同公使ノ本日附發電ニ曰ク在旅順「ロイテル」特派員ノ報スル所ニヨレハ鴨綠江口ニ於ル露國軍隊用ノ軍需品ハ遼陽ニ向ケ送出スヘキ旨一月十二日命令アリタリ遼陽ニハ一個聯隊鴨綠江口進發ノ用意中ナリト
 獨逸汽船「バタビア」號(露國船十九隻中ノ一)長崎入港積荷浦鹽行英炭九千六百三十九噸ナリト云フ
 太平洋捕鯨會社船「ニコライ」號釜山出港(一月十三)
 太平洋捕鯨會社船「アレキサンドル」號釜山入港(一月十三)
 太平洋捕鯨會社船「ゲオルギ」號釜山入港即日出港(十三)
 東清鐵道會社船「ノンニ」號釜山入港(一月十三)
 北獨逸「ロイド」會社汽船「ステルベルグ」號糧食千九十五噸ヲ搭載シ旅順口ニ向ケ仁川出港(昨年十二月二)

附 記

一月十五

軍艦吾妻吳ヨリ佐世保著第二戰隊ニ合ス(一月十三)
 軍艦浪速出渠此ノ日佐世保ニ向ケ吳發(一月十)
 片岡第三艦隊司令長官ハ將旗ヲ鎮遠ヨリ嚴島ニ移シ東郷司令官ハ將旗ヲ嚴島ヨリ和泉ニ移ス(一月十)
 山本海軍大臣ハ片岡第三艦隊司令長官ニ電訓スルニ宮古ノ代ニ一艦ヲ派遣シ其ノ任務ヲ繼承セシメ宮古ハ代艦ノ到着ヲ待チテ吳ニ歸ラシメ無線電信機取附ノ工事ニ著手セシムヘキ旨ヲ以テス依テ同司令長官ハ大島艦長海軍中佐廣瀬勝比古ニ馬山浦ニ急行宮古ト交代スヘキ旨電令ス
 第三艦隊第十一艦隊(第七十二號及ヒ第七十三號)并ニ第十六艦隊ハ佐世保發竹敷ニ向フ(一月六日及ヒ一月八日参)
 軍艦宮古鎮海灣ヨリ馬山浦ニ入ル(一月十二)
 軍艦愛宕竹敷ニ向ケ横須賀發(一月十一)
 山本海軍大臣ハ廣海二三郎所有汽船京都丸(總噸數二、六四四)ヲ雇上フ
 在仁川村上千代田艦長ノ本日附發電ニ曰ク佛艦「パスカル」入港本艦ヨリ南二十七度西八鏈ニアリト(艦長海軍中佐セネ)在ポートセード竹内大佐ノ本日附發電ニ曰ク當港ニハ英國一等巡洋艦「ナイアダ」(三、四〇〇噸)在泊シ蘇士ニハ同國一等巡洋艦「キング」アルフレッド(一四、一〇〇噸)及ヒ同國二等巡洋艦「ダイアナ」(五、六〇〇噸)石炭補充中ナリト
 警備艦海門、平遠ハ第三艦隊ニ編入セラル(一月九)目下海門ハ佐世保平遠ハ横須賀ニアリ
 豫備艦天城、葛城ハ警備艦ト定メラル(昨年十二月二)
 春日及ヒ日進定員表設ケラレ當分ノ内定員ヲ置カス
 數日前臺灣守備軍司令官ニ親補セラレタル陸軍中將黒瀬義門ハ必要ノ時機ニ際シ總督ニ代リ守備軍ノ指揮ヲ

太平洋捕鯨會社船「アレキサンドル」號釜山ヨリ長崎入港(一月十四)
 獨逸汽船「バタビア」號旅順口ニ向ケ長崎出港積荷英炭九千六百三十九噸及ヒ焚用炭千噸ナリト云フ(一月十四)
 東清鐵道會社汽船「ノンニ」號釜山出港(一月十四)

執リ共ノ任務ニ服スルノ時ハ一ニ總督ノ訓令ヲ待ツヘキ旨内訓セラレ又同官ハ陸軍守勢存戦計畫海軍出師準備計畫ニ基ク一切ノ軍務ヲ委任セラル

春日ハ正午蘇士發、亞典ニ向ヒ日進ハ午前十一時五十分蘇士著同日夕ベリムニ向フ竹内大佐ハ蘇士ニ於テ英國軍艦ヲ訪問ス同大佐ノ報ニ「ドミトリ、ドンスコイ」ハ甚靜穩其ノ艦長ハポートセードニ赴キタルカ如シト

山本海軍大臣ハ春日、日進ニ要スル定員ハ當分ノ内海軍總定員數中ニ増加セラレサルモノト看做シ海軍定員令第三條ノ補缺員ヲ以テ之ニ充ツヘキ旨ヲ達ス

齋ニ釜山郵便局長ヨリ露國捕鯨船ニ海軍士官ヲシキ者數名乗組釜山ニ在泊中ニシテ海底電線切斷ノ懸念アリト共ノ筋ヘ保護方ヲ請求セシメテ海軍大臣ハ在馬山浦宮古艦長ニ電令シ釜山ニ回航シ領事ト協議シ相當ノ注意ヲナスヘキ旨ヲ以テセシカ此ノ日同艦釜山ニ赴キ艦長ハ直ニ領事ニ面會シ其ノ出處ヲ質シタルニ事實無根ニシテ全ク郵便局長ノ杞憂ニ過キサルモノト認ム

財部軍令部參謀ハ佐世保及ヒ吳軍港ニ至リ作戰方針決定書(一月十二)ヲ各艦隊司令長官等ニ交附シ傍ラ相互意志ノ疏通ヲ計ル爲メ共ノ希望ヲ聽キ之ト同時ニ艦隊諸般ノ狀況、人心ノ一致等ヲ視察スヘキノ命ヲ受ケ木日東京ヲ發ス

東郷第一艦隊司令長官ハ第一艦隊艦砲射擊ニ關スル日令ヲ發ス(來十八日以後佐世保港)(一月十三)
(外ニ於テ施行スル豫定)(一月十三)
第三艦隊佐世保出港(一月十一)(一月十三)

軍艦漢速吳ヨリ佐世保著第四艦隊ニ合ス(一月十四)
沖繩丸和ノ浦、八口浦間ノ海底電線敷設ヲ了リ結果良好ノ旨本日附ニテ電報アリ(一月十一)
片岡第三艦隊司令長官ハ東郷、細谷兩司令官ヲ會シ朝鮮海峽警戒、陸兵輸送警戒、鎮海灣占領ニ付大體ノ方針及ヒ計畫ヲ示ス

軍艦松島橫須賀ヨリ吳著(一月十三)
第十一艦隊(第七十二號、七十三號)及ヒ第十六艦隊佐世保ヨリ竹敷著(一月十四)
第一艦隊ハ橫須賀ヨリ第二十艦隊ハ佐世保ヨリ竹敷著宮古ト交代ノ命ヲ受ケタル大島ハ竹敷馬山浦ニ向ケ急行セシカ宮古ハ海軍大臣ヨリ前記ノ電令ヲ受ケ釜山ニ赴キシニ付引繼ノ爲メ同港ニ回航ス

軍艦秋津洲廈門ヨリ吳著(一月十三)

一月十六
山本海軍大臣ハ海軍准士官以上ニシテ定年限年齢ニ達スル者ハ當分現役ヲ繼續ヒシメ又海軍下士卒ニシテ現役滿期ニ至ル者ハ當分ノ内該服役ヲ延期ス(海軍省令第一號)

山本海軍大臣ハ必要ノ時機ニ際シテハ海外ヘ發送スル電報ニ關シ遞信大臣ト協定スルコト、爲ス

山本海軍大臣ハ日高舞鶴鎮守府司令長官ニ向ヒ金剛比叡ハ此ノ際至急舞鶴ニ歸港兵備ヲ完成セシメ右兵備完成ノ上ハ直ニ佐世保ニ回航セシムヘキ旨訓令ス(金剛ハ此ノ日以前既ニ舞鶴ニ歸港其數ハ舞鶴ニ向ケ)
東郷聯合艦隊司令長官ハ各種彈丸ニ伊集院信管取附方

太平洋捕鯨會社船「ゲオルギ」號釜山入港(一月十四)
同「ニコライ」號釜山入港(一月十四)
東清鐵道會社船「ノン」號元山入港即日浦鹽ニ向ケ出港(一月十五)
東清鐵道會社汽船「モンゴリヤ」號上海入港(一月六)
英國汽船「アバロア」號(英國船十九隻中ノ一)東洋ニ向ケ蘇士ヲ通過ス

ノ件各艦ニ出師準備用治療品搭載ノ件、驅逐艦及ヒ水雷艇ニ煉炭ニ晝夜分ノ餘積ヲ存シテ適宜英炭搭載貯藏ノ件各艦艇防塞川木炭搭載貯藏ノ件ヲ訓令ス

第三戰隊色瀬ニ於テ特別高速度力艦砲射撃施行了リテ佐世保入港(二月十五)

軍艦高千穂吳ニ於テ機械水雷落下装置取附方ヲ了リ此ノ日佐世保ニ向ケ吳發(二月六)

軍艦明石八口浦行ノ任務ヲ了リ此ノ日沖繩丸ヲ伴ヒ佐世保ニ向ケ長山島附近ヲ發ス(二月十一)

片岡第三艦隊司令長官ハ麾下艦隊區分表中第七戰隊ノ欄ニ筑紫及ヒ磐城、水雷艇隊ノ部ニ第十六艦隊白鷹第三十九號、第六十六號、第七十一號ヲ追加スト本日附ニテ報告ス(二月十一日同)

片岡第三艦隊司令長官ハ吳在泊各艦(鎮遠、嚴島、橋立、松島、扶桑、濟遠、筑紫、和泉、秋津洲)ニ臨戰準備ヲ命ス

大島釜山著宮古ヨリ事務引繼ヲ受ク宮古吳ニ向ケ釜山發

水雷艇雲雀ハ昨年十月二十一日吳海軍造船廠ニ於テ進水三十七年一月十日竣工受授了同十四日佐世保ニ向ケ吳ヲ發セシカ此ノ日佐世保著(二月六)

在仁川村上干代田艦長ノ本日附發電ニ曰ク獨艦、ハンサ、膠州灣ヨリ入港木艦ヨリ南八十三度西四鐘三ニ投錨ス來十九日出港ノ豫定ナリト

山本海軍大臣ハ戰時特設艦船ハ海軍禮砲條例ニ據リ禮砲ヲ發スルニ及ハサル旨ヲ訓令ス

附記

又二十六日以來戰鬪艦ハ旅順港内ニ入り巡洋艦ハ港外ニ出ク彼ハ巡洋艦作戦ノ方針ニ意アルモノ、如シ又電線破壊ノ件ハ兵力ニ依ルニアラスンハ成功保シ難シト同シク本日附ニテ發信ス(編者曰ク山下大佐中央部ヨリ先キ命セラ)

東清鐵道會社汽船「スンガリー」號ハ京城行大麥十三個ヲ積ミ旅順ヨリ仁川入港即日上海ニ向ケ出港(二月十二)

同「ノンニー」號元山ヨリ城津入港即日浦鹽ニ向ケ出港(二月十六)

獨船「ハインリッヒ、メンツェル」號ハ露國用ト思ハル、石炭及ヒ爆發藥ヲ積載シ此ノ日蘇士ヲ通航ス(本船ハ露國カ東洋へ英炭搬送ノ爲メ備入レタル外國商船十九隻以外ノモノナリ)

露國砲艦「コレーツ」旅順ヨリ仁川入港

本日附新嘉坡發電ニ曰ク東洋回航中ノ露國軍艦カ載炭スヘキ地點ハブロー、コンドールニアラスシテ佛領カムラン灣(支那支那)ナルヘキコト疑ナシト(二月十四)

二月十七

山本海軍大臣ハ葛城、磐城、海門ハ固有兵裝ヲ復舊セスシテ測量艦タル艦裝ヲ其ノ儘ニ爲シ置クヘキ旨訓令ス

軍艦高千穂、明石此ノ日何レモ佐世保入港(二月十六)

瓜生第二艦隊司令官ハ將旗ヲ浪速ニ移ス是ヨリ先キ軍艦高千穂ハ一月一日南浦ヨリ佐世保ニ著須臾、明石ハ當時佐世保在泊浪速ハ一月七日芝罘ヨリ佐世保入港發

ニ初テ第四戰隊總艦ノ集中ヲ見タリト雖モ入渠其ノ他小修理ノ爲メ直ニ分離セルヲ以テ其ノ佐世保ニ集中シテ瓜生司令官直接ノ指揮下ニ編隊ノ訓練ヲ爲シ得ルニ至リシハ本日ヲ以テ初トス

片岡第三艦隊司令長官ハ麾下艦隊區分表中(二月十一日)第七戰隊ノ欄ニ海門、平遠ヲ追加スト本日附ヲ以テ報告ス

細谷第七戰隊指揮官旗艦扶桑竹敷ニ向ケ吳出港(二月八)

第十一艦隊水雷艇第七十四號ハ明治三十六年十月一日川崎造船所ニ於テ進水同年十二月八日吳ニ向ケ神戸發

三十七年一月十四日吳ニ於テ受授了セシカ此ノ日佐世保ニ向ケ吳發(二月六)

汽船香港丸(二月十九)及ヒ日本丸(二月二十)ハ假裝巡洋艦トシ聯合艦隊附屬ト定メラル

豫備艦大和ハ警備艦ト定メラル(二月十八)

山本海軍大臣ハ明治三十七年度(自三十六年十二月)砲煩射

明治三十七年一月

二月十八

擊用彈藥年額表ヲ定ム但艦隊等ニ於テ既ニ消耗シタル分ハ木表ノ範圍内トシ殘額ヲ木表ノ區分ニ準シ消耗スヘキ旨訓令ス

山本海軍大臣ハ船舶臨檢等ノ必要生スル前ニ豫メ左ノ如ク軍艦ヲ配置スヘキ旨夫々訓令ス

函館 軍艦 高雄
横濱 軍艦 天城
神戸 軍艦 天龍
門司 軍艦 大和
長崎 軍艦 葛城
釜山方面 軍艦 大島外一艦
右各艦ノ現在地左ノ如シ
軍艦高雄ハ一月五日函館ニ向ケ横須賀ヲ發シシカ同十日函館著其ノ後同港ニ在泊ス天城ハ横須賀天龍及ヒ大和ハ吳葛城ハ佐世保大島ハ馬山浦ニアリ
齋藤海軍次官ハ露西亞帝國商船拿捕除外ニ關スル勅令案及ヒ戰時禁制品ニ關スル閣令案ヲ帝國軍艦ノ指揮官殊ニ開港場ノ警備ニ服スル者ニハ豫メ之ヲ告知セシムルノ必要ヲ認メ此ノ日關係ノ諸向ニ配附内報ス
齋藤海軍次官ハ命ニ依リ片岡司令長官ニ申進スルニ馬山浦五濟島附近ニ在テ警備ノ任務ニ服スル大島(二月十四日)ハ五濟島ニ在テハ殊ニ露艦ノ來リテ同方面ニ危險物ヲ沈置スル等ノ舉ニ出テサルヲ注意シ其ノ舉動ヲ直接報告スヘキ様同艦長ヘ訓示相成度旨ヲ以テス
伊集院軍令部長ハ駐韓吉田少佐ニ電訓スルニ豫テ訓

英國汽船「マリスト」號(英國郵船十九隻中ノ一)浦鹽ヨリ門司入港同港ニ於テ石炭四千七百噸ヲ積載ス其ノ仕向先ハ芝罘ナリト云フ
太平洋捕鯨會社船「アレキサンドル」號釜山ニ向ケ長崎出港(二月十五) 諸威汽船「スレーブ」號唐津ヨリ唐津炭千八百五十噸搭載長崎入港其ノ仕向先ハ旅順口ナリト云フ(二月十五) 英國汽船「ロサリ」號(英國郵船十九隻中ノ一)長崎入港(二月十八) 東清鐵道會社汽船「アルゴン」號大連灣ヨリ長崎入港(二月十八) 同「アンニ」號浦鹽入港(二月十五) 獨逸汽船「バタビヤ」號英炭九千噸餘ヲ積ミ浦鹽入港(二月十五) 東清鐵道會社汽船「モンゴリヤ」號上海出港(二月十六)

一月十九

令シアル電線切斷ノ件ハ一度切斷スルモ直ニ修繕シ得ルモノナルヲ以テ屢場所ヲ換ヘテ切斷シ是非四五日間ハ不通ナラシムル様計畫シ置クヘキ旨ヲ以テス
第一戰隊佐世保出港諸訓練施行ノ後黒島沖ニ假泊ス驅逐艦夕霧入渠ノ爲メ長崎ニ向ケ佐世保出港即日長崎著鎮遠吳出港
三十擧半克砲彈丸ヲ下瀬彈ニ改造ヒシ爲メ甲島ニ於テ命中射撃ヲ施行シシカ結果良好ナラス
第十艦隊佐世保發竹敷ニ向フ(二月十六日) 軍艦宮古釜山ヨリ吳著(二月十六) 軍艦隅田ニ全定員ヲ置ク(二月十六) 大阪商船株式會社汽船「東丸」(總噸數二〇〇九)ヲ雇上ク
山本海軍大臣ハ大和天龍ニ測量艦ノ艦裝ヲ其ノ儘ニ爲シ置クヘキ旨訓令ス
日進午後二時ベリム著
伊集院軍令部長ハ駐韓吉田少佐ニ巡威島及ヒ牙山ニ見張人ヲ出スヘキ旨電訓ス
川原少佐去九日露都ヲ發シ此ノ夕ボートセードニ到著シ訓令ノ任務ニ從事ス(二月十四) 第一戰隊艦砲射撃施行了テ佐世保入港 第二戰隊佐世保出港艦隊運動施行了テ惠比須灣ニ假泊ス千早佐世保ニ歸港
細谷司令官艦裝扶桑吳ヨリ第十艦隊ハ佐世保ヨリ此ノ日何レモ竹敷著(二月十七日) (十八日) 著

在英玉利大佐ノ本日附發電ニ曰ク露國東洋増派艦艇ハ蘇士ニアリ三四日中ニ同地ヲ出發スヘシ戰艦「オスラービヤ」ハジブールニ向ケ驅逐艦ハソコトラ島ニ石炭船ヲ回送シ置キ載炭ノ計畫ヲナス此ノ(一字不明)ヲ率井ル司令官ノ話ニ依レハ三月中旬ナラテハ旅順ニ著シ難シト(二月十四) 又本日附發電ニ曰ク露國水雷艇第二百十二號第二百十三號ボートセードニ著外ニ義勇艦隊汽船「アリヨール」號及ヒ「サフト」號碇泊ス(二月十三) 蘇士ニハ戰艦「オスラービヤ」及ヒ巡洋艦「ドミトリ」ドンスコイ碇泊シ居レリト

軍艦比叡佐世保ヨリ舞鶴著(一月十六日)
 第十一艇隊水雷艇第七十四號ハ吳ヨリ佐世保著(十七日)
 日本海軍大臣ハ東洋汽船株式會社汽船香港丸(總噸數六、二六九)ヲ雇上リ

附

一月二十

在仁川村上千代田艦長ノ本日附發電ニ曰ク英艦「クレンシー」ヨリ海兵十五名士官一名上陸京城ニ行ク
 春日午前六時半亞典著日進午前八時半ベリム發
 日本海軍大臣ハ時局ニ際シ韓國、北清及ヒ露領沿岸地方ニ派遣ノ軍人軍屬ニハ防塞服ヲ交附スヘキ旨通達ス
 東郷聯合艦隊司令長官ハ各部隊ノ各艦艇ニ和炭又ハ煉炭一晝夜ノ餘積ヲ殘シテ適宜英炭ノ滿載貯藏方、航海用需品充實方、水管及ヒ汽罐ノ防塞被覆速成方、舵機ノ檢査方、機關手入方ノ制限、各艦艇乗員ノ佐世保市外出遊禁止ノ令ヲ發ス
 出羽第一艦隊司令官ハ第三戰隊戰策ヲ制定シ本戰隊カ

獨逸汽船「ザクセン」號(總噸數五、〇二六)獨逸「ブレイマン」
 ハーブンヨリ橫濱入港積荷樂器二十八個總一箱寫真器械十八個「レモン」二百箱其ノ仕向先ハ浦鹽ナリト云フ
 和蘭汽船「フオルミナ」號(露國原船十九隻中ノ一)ハ門司入港積荷英炭五千四百噸其ノ仕向先ハ浦鹽ナリト云フ(門司稅關支署長發電)
 太平洋捕鯨會社船「ゲオルギー」號釜山出港(一月十六日)
 同「アレキサンドル」號長崎ヨリ釜山入港即日日出港(一月十八日)
 同「ニコライ」號釜山出港(一月十六日)
 義勇艦隊汽船「カザン」號兵員二千搭載西方ヨリ新嘉坡入港(一月十二日)
 英國汽船「カール」號(總噸數三、五〇八)露國原船十九隻中ノ一石炭五千噸搭載蘇士ヲ通過シ浦鹽ニ向フ
 在芝罘森中佐ハ此ノ日現在ノ露國軍艦所在ヲ電報スルコト左ノ如シ
 旅順港外「ベトロパウロウスク」
 「バルラーダ」
 「アスコリド」
 「ノーウ井ク」
 港内東方「セワストーポリ」
 「ギリヤーク」
 「グレミヤ」
 「シー」(修理中)
 「エニセイ」
 「コレウ」
 港内西方「レトウ井ザン」
 「ツエザレウ井チ」
 「ベレスウエート」
 「ボベータ」
 「ヂイヤーナ」
 「ボヤーリン」
 「アムール」
 「アツワージヌイ」

艦隊ノ耳目トシテ搜索偵察等ノ戰略的任務ニ從事スルニ當リ時々單獨敵ノ巡洋艦ト對戰シ加之聯合艦隊ノ協同戰闘ニ際シテモ能ク其ノ輕快敏速ナル特性ヲ利用シテ機宜ニ適スル運動ヲ採リ以テ主戰艦隊ノ威力ヲ助長セサルヘカラサル場合ニ於ル本戰隊ノ戰法ヲ此ノ日部下ニ豫示ス
 第二戰隊惠比須灣出艦砲射擊施行了テ前日ノ如ク同灣ニ假泊ス(千早佐世保出港即日歸港)

大連灣「ラスボイニク」
 芝罘「ザビヤカ」
 (編者曰ク右報告中「フサードニク」
 「ガイダマク」ノ二隻ニ對シテ何等通報ナシ當時所在不明ニ屬セシモノナラン驅逐艦ハ依然内港ニ碇泊シアルモノト推定ス(巡洋艦「ツジギート」ハ昨年十二月二十九日)
 (參看砲艦「コレウ」ハ一月二十一日參看)
 ポートセードヨリノ電報ニヨレハ義ニ同地ニ集合セル露國艦船ハ此ノ日朝マテニ盡ク運河ニ入レリト云フ
 獨逸汽船「ステルベルグ」號浦鹽ニ向ケ神戸出港積荷麥粉一萬袋米八百七十五袋及ヒ密柑千二百箱(一月十四日)
 東清鐵道會社汽船「アルグン」號タルニニ向ケ長崎出港積荷石炭四百五十噸木炭百俵牛乳罐詰三百個其ノ他雜貨(一月十八日)
 諸威汽船「スレープナー」號旅順口ニ向ケ長崎出港積荷電氣機械一個石油百五十箱廢船四隻、菓物野菜等四百五十四個(一月十八日)
 太平洋捕鯨會社船「アレキサンドル」號釜山入港(一月十九日)
 東清鐵道會社汽船「スガリ」號仁川ヨリ上海入港(一月十七日)
 義勇艦隊汽船「カザン」號旅順ニ向ケ新嘉坡出港(一月十九日)
 露國北海汽船會社汽船「エドワート」
 「パレー」號(總噸數三、〇三四)浦鹽ニ向ケ新嘉坡出港
 獨逸汽船「ケーニヒスベル」號(總噸數四、八五六)浦鹽ニ向ケ新嘉坡出港

記附

一月二十

在仁川村上千代田艦長ノ本日附發電ニ曰ク佛艦ド、グードン入港本艦ヨリ南二十五度西十四鐘三ノ處ニ投錨スト
井上侍從武官聖旨ヲ齎シ艦隊所在地ニ向ケ東京發
海軍給與令公布セラル(勅令第六八號)
春日亞典出港

上村第二艦隊司令長官ハ第二艦隊單獨戰策ヲ制定シ
第二艦隊カ單獨ニテ敵ノ艦隊ト戰フニ際シ取ルヘキ戰
法ノ綱領ヲ此ノ日部下ニ豫示ス

第二艦隊(千早欠)惠比須灣出艦常裝裝射擊施行了テ佐
世保ニ歸港

第四艦隊佐世保出港艦砲射擊了リ即日入港

第五艦隊(宮古欠)第六艦隊(千代田欠)(一月十二)射擊訓
練ノ爲メ吳發宮島著

片岡第三艦隊司令長官ハ海軍大臣ヨリ大島ノ外ニ一艦
釜山ヘ派遣スヘキ命ヲ受ケ此ノ日在竹敷細谷司令官ニ

赤城ヲ派遣シ警備ノ任ニ服セシメ特ニ露國艦船ノ舉動
ニ注意シ直接之ヲ海軍大臣ニ報告セシムヘキ旨ヲ電令ス

又同長官ハ麾下各部隊ノ各艦艇ニ適宜防塞川トシテ木
炭ヲ搭載貯藏セシム

廣瀬大島艦長ハ釜山港ニ於ル船舶汽船團平船石舟庫
船水船通船浚渫船漁船(韓船)ノ隻數總噸數或ハ積量

ノ調査書ヲ海軍大臣ニ提出ス
軍艦天城ハ横須賀發即日横濱著(一月十八)

防禦海面令公布セラル本令ニ依リ海軍大臣ハ戰時又ハ

砲艦「ボートル」旅順口出港

在浦鹽川上貿易事務官ノ本日附報告ニ曰ク當港ニ於
ル露國艦隊ハ其ノ後異狀ヲ認メス(一月十二)又巡洋艦グ
ロモボイ及ヒ假裝巡洋艦レナハ本日マテ引續キ英炭
積込中ナリ右艦隊ハ令下三時間以内ニ出港ノ準備整
居ルト
砲艦「コレイツ」仁川出港(一月十八)即日入港
英國汽船「フォルミン」號浦鹽ニ向ケ門司出港(一月十九)
太平洋捕鯨會社船「ゲオルギ」號釜山入港(一月十九)
同「ニコライ」號釜山入港(一月十九)
英國汽船「フォクストン」號(英國船十九隻中ノ一)東
洋ニ向ケ新嘉坡出港

一月二十

事變ニ際シ區域ヲ限リテ防備海面ヲ指定スルコトヲ得
(勅令第十一號)

山本海軍大臣ハ竹敷要港部司令官ニ竹敷要港防禦水雷
計畫書中防禦ノ部電氣機械水雷ノ數二十八個ヲ三十

五個ニ改定スル旨ヲ達ス

東郷聯合艦隊司令長官ハ驅逐隊艇隊司令ニ特ニ認許セ
ラレタル彈丸ヲ以テ常裝裝射擊ヲ施行スヘキ旨ヲ訓令

ス
第三艦隊(釜置欠)佐世保出港色瀬ニ於テ高速力常裝裝
艦砲射擊施行了テ即日歸港(釜置ハ汽船掃除中ナルヲ

以テ佐世保ニ殘ル)
鎮遠ハ再三十海半克砲命中射擊ヲ爲シシカ結果良好ナ
リ(一月十八)

軍艦赤城ハ二十一日ノ訓令ニ依リ本日竹敷出港(一月十六)
釜山著艦長海軍中佐藤本秀四郎ハ廣瀬大島艦長ト協議

シ釜山ヲ根據トシテ大島、赤城、交番馬山浦ニ至リ其ノ
任務ヲ盡シタキ旨即日細谷司令官ニ發電ス

軍艦濟遠及ヒ筑紫ハ竹敷ニ向テ吳發(一月十二日同)
(十四日參看)

井上侍從武官吳ニ著シ第三艦隊ニ到ル
小村外務大臣ハ栗野公使ニ訓令スルニ我カ最近ノ口上

書(一月十三)ニ對スル露國ノ回答ノ性質及ヒ其ノ回答ノ日
取ニ就キラムスドルフ伯ノ意見ヲ確ムヘキ旨ヲ以テス

東郷聯合艦隊司令長官ハ春日丸(母艦)三池丸、神戶丸
山口丸、福岡丸、九州丸、仁川丸、武州丸、武陽丸、天津丸報

砲艦「グレミヤ」同「ギリヤーク」旅順口ニ於テ
入渠砲艦「ザビヤカ」西港ニ入港
蘇士ヨリ本日附發電ニヨレハ「プレスチャーン」(東洋
回航中ノ露國驅逐艦七隻中ノ一)推進機損所アル爲メ
今二十三日午後入渠セリ水雷艇二隻(第二百十二號及
第二百十三號)モ機關故障アリ三四日修理ヲ要ス旗

砲艦「ザビヤカ」芝罘出港(一月十一)
在英玉利大佐ノ本日附發電ニ曰ク巡洋艦「ドミトリ」ド
ンスコイ「アウローラ」驅逐艦六隻及ヒ義勇艦隊汽船アリ
ヨール號本日午前七時東洋ニ向ヒ蘇士出航(一月十四)
戰艦「オスラービヤ」驅逐艦一隻及ヒ水雷艇二隻ハ尙蘇
士ニ止マル水雷艇ハ同所ニ於テ入渠スルナラント
太平洋捕鯨會社船「アレキサンデル」號長崎ニ向ケ釜山出
港(一月二十)
露國東亞汽船會社汽船「マンチエトリ」號ハ香港行ト
稱スル彈藥若干ヲ搭載新嘉坡ニ到着セシカ此ノ日出港
ノ旨ナリト(新嘉坡發電)(一月十八日參看)

一月二十四日

附記

國丸、臺中丸、臺南丸ヲ第一特務隊ニ、日光丸(母艦)、江都丸、太郎丸、彦山丸、香港丸、日本丸ヲ第二特務隊ニ編入ス

第一戰隊佐世保出港特別常襲藥射隊ヲ施行シ即日入港

軍艦敷島入港ノ際千島瀬ニ座礁約三時間ニシテ離礁ス

片岡第三艦隊司令長官ハ第三艦隊戰策ヲ制定シ第三艦隊カ朝鮮海峡ノ監視若クハ輸送船隊援護ノ任務ニ處スル麾下艦艇ノ配置及ヒ敵ト出會スルニ當リ各部隊協同作戰ニ要スル大綱ヲ此ノ日部下ニ豫示ス

第五戰隊(宮古丸)第六戰隊(千代田丸)ハ高速力試驗及ヒ射擊訓練ヲ終リテ此ノ日宮島ヨリ吳ニ歸港ス(一月二十二日)

軍艦大島宮崎陸軍歩兵少佐一行ヲ便乗セシメ釜山出港

巨濟島南側ヲ航行シ午後三時露梁津著揚陸點ニ便ナルヤヲ視察ス

軍艦海門佐世保ヨリ竹敷ニ入港第七戰隊ニ合ス(一月十七日)

山本海軍大臣ハ東洋汽船株式會社汽船日本丸(總噸數六、二六八)ヲ雇上テ

此ノ日獨艦「デーチス」神戸ヨリ馬山浦入港即日膠州灣ニ向ケ出港(一月五日)

英艦「クレッシ」威海衛ニ向ケ仁川出港(附記參看)

井上待從武官佐世保ニ著シ聯合艦隊ニ到ル

艦「オスラーロバ」ハ此ノ驅逐艦及ヒ水雷艇ノ修理ヲ待テ義勇艦隊汽船「サフト」號英艦「アパロー」號(露國艦十九隻中ノ一)ト共ニ出港スルナラン旗艦「オスラーロバ」乗組主計官ノ言ナリトテ傳フル所ニヨレハ東洋回航中ノ諸艦ハジブール、サパン(ブローウエー)其ノ次ハ多分西貢ニ寄港スルナラン東洋回航中ノ水雷艇第二百二十一號及ヒ第二百二十二號シシリ島パレルモニ向ケアルゲール出港(一月一日)

在桑港帝國領事ノ本日附報告ニ曰ク當港所在某汽船會社ハ露國軍隊用食料品ヲ汽船「コブチク」號「コレア」號「チャイナ」號ノ三隻ニ搭載シテ東洋ニ輸送スル約定アルコトヲ發見セリト

太平洋捕鯨會社船「アレキサンドル」號釜山ヨリ長崎入港(一月二十日)

獨逸汽船「ステルベルグ」號神戸ヨリ長崎入港其ノ仕向先浦鹽積荷焚料炭四百噸麥粉食糧等一萬八千二百一十個(一月二十日)

獨逸汽船「アックチーバ」號(總噸數五、五七〇)長崎入港其ノ仕向先旅順口積荷貯船三隻小蒸氣一隻

東清鐵道會社汽船「ノンニ」號浦鹽出港(一月十八日)

東清鐵道會社汽船「モンゴリア」號上海入港(一月十八日)

東清鐵道會社汽船「ノンニ」號浦鹽ヨリ城津入港(一月十八日)

本日附牙山發信ニヨレハ二十一日仁川出港ノ露國砲艦

栗野公使ハ此ノ日ラムズドルフ伯ニ面會シ我カ最近提案ニ對スル伯ノ意見ヲ問ヒ尙露國同答ノ何日頃交附セラルヘキカヲ試問セシニ伯ハ巨細ノ問題ニ入りテ談話スルヲ好マサル風ヲ示シ或點ニ關シテハ同意レ難キコトアリト答ヘタルノミ又伯ハ其ノ意見ヲ一月二十六日皇帝ニ陳奏シ遠カラサル内ニ回答ヲ發シ得ヘキ見込ナリト述フ尙同伴ニ關シ外務省政務局長ト、ハートウィツグノ言フ所ニ據レハ目下アレキセイエフト協議中ナレハ日本ニ對スル回答ハ何日頃發セラル、ヤ未タ豫言スヘカラスト

聯合艦隊附屬水雷母艦豐橋ハ第三艦隊附屬水雷母艦ト定メラル(昨年十二月二日)右ニ付片岡第三艦隊司令長官ハ在佐世保豐橋艦長海軍大佐丹羽教忠ニ出師準備ヲ整ヘ竹敷要港ヘ回艦シ細谷司令官ノ指揮ヲ受クヘキ旨ヲ訓令ス

山本海軍大臣ハ筑前國沖ノ島ニ假設望樓設置方ヲ訓令ス

敷島觸礁ノ際推進器翼ヲ損傷セシヲ以テ速力試驗ノ爲メ佐世保出港結果良好即日歸港(一月二十日)

第四戰隊及ヒ千早佐世保出港色瀬附近ニ於テ常襲藥射隊施行即日歸港

驅逐艦夕霧長崎ニ於テ入渠修理(一月十八日)ヲ了リ本月二十二日同所ヲ發セシカ此ノ日佐世保著第五驅逐隊(昨年十二月二十八日)ニ合ス

片岡第三艦隊司令長官ハ第三艦隊、海軍望樓輸送船隊連帶信號規約並ニ輸送船隊一般心得草案ヲ其ノ筋ニ提出ス

「コレイツ」ハ當時牙山ヲ偵察シタル模様アリト

諾威汽船「ノア」號(總噸數一、四九七)福州ヨリ門司入港

諾威汽船「センチス」號唐津ヨリ長崎入港其ノ仕向先旅順口積荷唐津炭千五百五十噸(一月八日)

東清鐵道會社汽船「ノンニ」號浦鹽ヨリ城津入港(一月十八日)

記附

片岡第三艦隊司令官ハ機關働作ノ保安ニ關シ殊ニ重要ナリト認メタル局所ノ検査ヲ此ノ際確實ニ爲シ置キ又此ノ際照準器、發火電池等ノ兵器并ニ舵機操砲機械ノ嚴密ナル検査ヲ行フヘキ旨ヲ部下ニ命ス

軍艦大島露梁津發即日釜山著(二月二十)同艦長ハ本日附ヲ以テ露梁津視察ノ結果ヲ其ノ筋ニ電報ス其ノ内容ハ航路標識ヲ設ケナハ夜間トモ麗水々道ニ由リ容易ニ入津スルヲ得ヘク六千噸以上ノ運送船數隻トモ露梁津水道中央ニ碇泊スルヲ得潮流急激ナラス揚陸ニ便ナリ附近漁船約三十隻ハ直ニ集メ得ヘシ云々

軍艦平遠竹敷ニ向ケ横須賀發(二月十五)

軍艦濟遠及ヒ筑紫ハ何レモ吳ヨリ竹敷著第七艦隊ニ合ス(二月二十)

在芝罘森中佐ノ本日附發電ニ曰ク旅順口ヨリノ情報ニ依レハ獨艦「ハンサ」二十日午後旅順入港二十四日出港

五月二十

露艦「ツジギート」上海出港(昨午十二月三)

米國汽船「サイベリア」號(總噸數一一、三〇〇)桑港ヨリ橫濱へ入港積荷靴用皮十卷ニシテ其ノ仕向先旅順口ナリト云フ

太平洋捕鯨會社船「アレキサンデル」號ハ石炭百八十噸搭載釜山ニ向ケ長崎出港(二月二十)

諾威汽船「セントス」號ハ醫療器械十五個及ヒ雜貨搭載旅順口ニ向ケ長崎出港(二月二十)

東清鐵道會社汽船「アムール」號タルニヨリ長崎入港(二月十三)

望スル旨本日附ヲ以テ申送ル

第三艦隊等置佐世保出港色瀬ニ於テ高速方常裝藥戰團射撃ヲ施行シ即日歸港(二月二十)

片岡第三艦隊司令官ハ昨二十四日麾下艦隊附屬水雷艇ニ英炭ヲ搭載セシメ度義海軍大臣ニ電申セシカ此ノ日海軍次官ヨリ此ノ際英炭積込ノ件ハ認許セラレス尙現時ノ通り煉炭ヲ使用セシムヘキ旨返電ス

又同長官ハ第三艦隊各艦艇常裝藥射撃施行ノ後機會アラハ第二期教練射撃ヲ施行セシメ度ニ付此ノ際三十七年度ノ彈藥繰上ケ消耗方ヲ電申セシカ此ノ日艦政本部長ハ三十七年度砲彈射撃用彈藥年額表(二月十八)ニ依ラレタキ旨返電ス

細谷第三艦隊司令官ハ第七艦隊戰策ヲ制定シ其ノ戰策ハ第三艦隊戰策ニシテ第七艦隊ニ關スルモノヲ敷衍シ且其ノ戰隊單獨ニ遭敵ノ場合ニ處スル艦隊戰ノ大要ヲ策定スルモノトシテ此ノ日部下ニ豫示ス

軍艦赤城陸軍特派員大江陸軍二等主計ヲ便乘セシメ露梁津ヲ經テ馬山浦ニ向ヒ釜山出港巨濟島西南岸ヲ巡航シ分島島ニ假泊ス

軍艦天龍一月二十三日神戸ニ向ケ吳ヲ發セシカ此ノ日神戸著(二月十八)

軍艦大和昨二十四日門司ニ向ケ發セシカ此ノ日門司著(二月十八)

軍艦葛城佐世保發即日長崎著(二月十八)

東清鐵道會社汽船「スンガリー」號上海ヨリ仁川入港(二月二十)

同「モンゴリア」號上海出港(二月二十)

此ノ日ボートセード發電ニ曰ク露國小汽船第二給水船「ハベル」シンオール(芬蘭海灣ノ北岸)ヨリ旅順口へ回航ノ途曳船ヲ借入レテ運河ヲ通過シタリ又露國東亞汽船會社汽船「キタイ」號(總噸數四、六六〇)ハ雜貨五千六百噸搭載オデッサヨリ浦鹽へ回航ノ途同シク此ノ日ニ運河ヲ通過シタリト

六月二十

小村外務大臣ハ本日附以テ栗野公使ニ電訓スルニ懸案問題ノ解決ノ際限ナク遅延スルハ目下ノ時局ニ於テ容シ、ル所タルヲ以テ可成速ニラムスドルフ伯ニ會見シ露國政府ノ回答ヲ促スヘキ旨ヲ以テス
春日、日進半定員表及ヒ音羽半定員表ヲ定ム
片岡第三艦隊司令長官ハ麾下艦隊區分表中左ノ通り追加スト本日附ニテ報告ス(一月十七日同十六)

特務隊一第 三一號 橋

片岡第三艦隊司令長官ハ此ノ日海軍大臣ヨリ爾來ノ行動ニ關シ聯合艦隊司令長官ト熟議ヲ爲シ置クヘシトノ電訓ヲ受ケ即夜參謀長ヲ率非テ佐世保ニ出張ス
又同長官ハ第三特務隊ニ編入シタル豐橋ノ軍港、要港在泊中ハ同艦ヨリ水雷艇ニ補給品ヲ供給セサルコト、ス
第五戰隊及ヒ第六戰隊(千代田欠)吳發玖波著
水雷艇第七十四號竹敷ニ向ケ佐世保發(一月十九日同十六)
水雷艇第七十五號ハ明治三十六年十一月十日川崎造船所ニ於テ進水同年十二月二十三日吳ニ向ケ神戸發三十七年一月二十三日吳ニ於テ受授結了セシカ此ノ日佐世保ニ向ケ吳發(一月十六日同十六)
軍艦赤城露梁津著陸軍便乘者ヲ上陸セシメ統營港ニ假泊ス(一月二十日同十六)
軍艦磐城一月二十四日竹敷ニ向ケ佐世保ヲ發シシカ此ノ日竹敷ニ入港第七戰隊ニ合ス(一月十四日同十六)

ラムスドルフ伯ハ此ノ日栗野公使ノ回答ヲ促セルニ對シテ曰ク陸海兩相及ヒ他ノ關係官ハ時局問題討議ノ爲メ一月二十八日會合シ其ノ決議ヲ皇帝ニ上奏シテ裁可ヲ請フ旨ナリアレキセイエフ太守モ來會ノ旨ナリシカ今ハ見合セトナリシ以テ同太守ノ意見ハ程ナク電信ニテ到達スルナラント思ハル、カ故ニ日本ヘノ回答ノ期日ハ之ヲ確言スル能ハサルモ甚シキ遲延ナカルヘキコトヲケハ言明シテ差支ナシト又同伯ハ其ノ筋ヨリノ報告ニヨレハ日本ハ多數ノ軍隊軍器及ヒ軍需品ヲ韓國ニ派遣セルカ如シト云ヒ之ニ關シ栗野公使ニ說明ヲ求メ同公使カ是等ノ事實ニ就テハ更ニ知ル所ナシト答ヘタルニ尙同伯ハ兩國政府カ誠實ニ重要ナル商議ヲ進行セシメツ、アル間ニ於テ日本カ斯様ノ行動ヲ爲サハ甚シキ惡感ヲ與フルコトヲ免レサルヘシト附言ス
在芝罘森中佐ヨリ本日附ニテ左ノ發電アリ
旅順口ヨリノ情報ニヨレハ目下義勇艦隊汽船ヨリ麵麴、ビスケット、箱入約一萬五千個ヲ陸揚納庫中ナリ木邦并ニ南方ヨリ和炭ヲ搭載セル汽船七隻到著總計約二萬三千噸ヲ陸揚中ナリ此ノ外ニ旅順口現在貯藏高ハ英炭八萬噸、煉炭一萬五千噸、和炭十四萬噸、民間貯藏高約二萬五千噸ニシテ合計約二十八萬三千噸而テ旅順口全體ニ於テ一日ノ石炭消費高ハ二千噸ナリ近頃和炭十一萬噸ノ請負契約成立セリ驅逐艦中餵裝未濟ノモノ尙三隻アリト云フ
東清鐵道會社汽船「シルカ」號旅順口ヨリ長崎入港(一月十三日同十六)

七月二十

第三艦隊軍艦大島赤城第一艦隊ハ第一艦隊ニ編入セララル軍艦新高及ヒ第三艦隊第二十艦隊ハ第二艦隊ニ編入セラ(一月十五日同二十四)
軍艦新高ハ目下横須賀造船廠ニ於テ餵裝中ナリ(一月十五日同二十四)
金州丸、彦山丸、山口丸、太郎丸、福岡丸(艦隊附屬運送船)ヲ聯合艦隊所屬ト定ム
有明丸(艦隊附屬運送船)ヲ第三艦隊所屬ト定ム
立神丸(要港部專用運送船)ヲ馬公要港部所屬ト定ム
日進ハ午前十一時四十分春日ハ午後三時半古倫母著軍艦敷島推進器翼變換ノ爲メ佐世保工廠船渠ニ入渠ス(一月二十三日同二十四)
第二驅逐隊佐世保出港即日歸港
第五、第六戰隊(千代田欠)ハ玖波發東郷司令官指揮ノ下ニ甲島附近ニ於テ常裝藥射擊施行了テ玖波著(一月二十日同十六)
軍艦愛宕ハ横須賀ヨリ竹敷ニ入港第七戰隊ニ合ス(一月十四日同十六)
第九艦隊(昨年九月十四日及ヒ)射擊ノ爲メ佐世保出港即日歸港(一月十六日同十六)

太平洋捕鯨會社船「アレキサンドル」號釜山ニ向ケ長崎出港(一月二十日同十六)
東清鐵道會社汽船「スガリ」號旅順口ニ向ケ仁川出港(一月二十日同十六)
同「ノン」號釜山ニ向ケ元山出港(一月二十日同十六)
在芝罘森中佐ヨリ本日附ニテ左ノ發電アリ
旅順口ヨリノ情報ニヨレハアレキセイエフ太守ハ巡洋艦「ノウヰ」最近試運轉ノ結果不満足ナルヲ慨嘆シ其ノ原因全然機關部員ノ未熟ヨリ起ルヲ認メ各艦艇ニ此ノ際熱心ニ機關取扱ノ講究方ヲ嚴達セリト云フ(該艦ハ計畫速力二十五節ナルニ實際十九節以上ヲ出サス)又魚形水雷百三十、防禦水雷多數本國ヨリ到着セリ又某將官ヨリ傳聞スルニ太守ハ既ニ作戰命令ヲ制定セシモ陸軍大臣ハ之ニ反對シ更ニ立案シ裁可ヲ經テ電令シタル由又近來太守府ト陸軍大臣トノ間往々意見衝突スルモノ、如シ開戰ニ至ラハ太守府ハ露國陸軍ノ主力ヲ集中セントスル奉天府若クハ哈爾濱ノ内ニ移スヘシト云フ

諾威汽船「アルゴ」號(總噸數千三百噸許)神戸ヨリ門司入港即日芝罘ニ向ケ出港積荷石炭千七百噸
諾威汽船「ノア」號芝罘ニ向ケ門司出港積荷石炭二千噸(一月二十日同十六)
東清鐵道會社汽船「アムール」號ダニニ向ケ長崎出港積荷石炭二百五十噸、軍器二十個、食料品等二百二十噸(一月二十日同十六)

水雷艇第七十四號ハ佐世保ヨリ竹敷著第十一艇隊ニ合
ス(一月二十)
水雷艇第七十五號吳ヨリ佐世保著(一月二十)
軍艦赤城統營ヨリ馬山浦著便乗者退艦ス(一月二十)
在馬山浦藤本赤城艦長ノ木日附發電ニ曰ク同艦ハ出港
後五濟島沿岸ヲ偵察シ昌善島西水道通過去二十六日露
梁津ニ至リ陸軍主計官ヲシテ上陸川辨ノ上再度便乗セ
シメ欲知島水道統營竹林浦五濟島ヲ偵察ス異狀ナシ兼
田陸軍大尉ノ語ニヨレハ馬山浦ト露梁津間交通不便ニ
シテ情報ヲ得ルニ困難ナルヲ以テ憲兵五名ニ變裝セシ
メ各一名宛ノ通辯ヲ附シ一人一日行程十二里ノ割ニテ
兩所間ニ飛脚ノ任務ヲ開始セリト

小村外務大臣ハ木日附ヲ以テ栗野公使ニ訓令スルニ韓
國ニ日本軍隊軍器送遣ノ報ヲ否認シタル上韓國々境ニ
於ル露軍集中ノ報ニ付實否ヲ質シ尙懸案問題ニ對ス
ル露國回答ノ性質及ヒ日取等ヲ尋ヌヘキ旨ヲ以テ右
ニ付栗野公使ハ木日附ヲムスドルフ伯ニ會見セシニ伯
ハ懸案問題ニ付アレキシス太公及ヒ海軍大臣ハ二月一
日、陸軍大臣及ヒ伯自身ハ二月二日ニ各陛下ニ面奏ス
ル所アルヘク而テ二月二日ニハ露國ノ回答ヲアレキ
セヨフ太守マテ送致スルヲ得ルナラント思料スト言
ヒ又伯ハ栗野公使カ上述ノ時日ヨリ以前ニ回答送附ノ
運ニ至ランコトヲ請求シタルニ對シ謁見ノ日取變更ス

一月二十

四個(一月二十)
東清鐵道會社汽船「シルカ」號浦鹽ニ向ケ長崎出港積荷石
炭二百五十噸、鐵材二百八十、雜貨百三十八個(一月二十)
露國農務省帆船「ゴルリツア」號釜山出港(一月九)
太平洋捕鯨會社汽船「アレキサンデル」號釜山出港(一月二十)
同「ニコライ」號釜山出港(一月二十)
同「ゲオルギー」號釜山出港(一月二十)
同「ミハイール」號釜山出港(一月九)
義勇艦隊汽船「エカテリノスラフ」號新嘉坡ヨリ浦鹽入
港(一月二)
同「カザン」號新嘉坡ヨリ香港入港(一月十九)
同「ニイヂニ」ノヴゴロツト號上海ヨリ新嘉坡入港(一
月二十)

太平洋捕鯨會社汽船「アレキサンデル」號釜山ヨリ長崎入港
(一月二十) 即日元山ニ向ケ出港積荷石炭燃料共二百噸
東清鐵道會社汽船「ソニー」號元山ヨリ釜山入港(一月二十)
義勇艦隊汽船「ニイヂニ」ノヴゴロツト號本國ニ向ケ
新嘉坡出港(一月二十)

ルコト能ハスト答ヘ尙二月二日ニハ回答ノ發送ヲ見ル
様精々盡力スヘシト繰返シ陳述ス
日進、春日午後六時半古倫母發
伊集院軍令部次長ハ日露事件史若クハ日露海戰史編纂
準備トシテ日誌編纂ノ趣意書及ヒ其ノ體裁ノ一例ヲ添
ヘテ日誌編纂及ヒ提出方ヲ本日附ニテ關係ノ諸向ニ照
會ス

山下海軍大佐ハ昨年九月來芝罘、旅順、大連灣間ヲ往來
シテ露國行動ノ視察ニ任ゼシカ此ノ日歸朝ス(昨年九月七
月二十八)
東郷聯合艦隊司令長官ハ第一艦隊ニ編入セラレタル大
島、赤城ヲ第一特務隊ニ入レ第二艦隊ニ編入セラレタル
新高ヲ第四戰隊ニ入ル(一月二十)

瓜生第二艦隊司令官ハ第四戰隊戰策ヲ制定シ本戰隊カ
一單位トシテ交戦ニ際シ執ルヘキ戰法ノ綱領ヲ此ノ日
部下ニ豫示ス
軍艦新高(一月二十)佐世保ニ向ケ横須賀發
軍艦明石入渠ノ爲メ長崎ニ向ケ佐世保發
第二驅逐隊佐世保出港即日入港

第五第六戰隊(千代田)玖波發吳著(一月二十)
此ノ日在竹敷細谷司令官ハ大島、赤城ハ第一艦隊ニ編
入セラレタルニ付第七戰隊中ヨリ一變ヲ馬山浦、釜山
港方面ニ派遣シ大島、赤城ノ任務ヲ繼續セシムヘキ旨訓
令ヲ受ケ直ニ島海、愛宕ノ二艦ヲ該方面ニ急派ス(一月十
六日二十一日)
軍艦摩耶ハ一月十一日竹敷ニ向ケ舞鶴ヲ發セシカ此ノ

日竹敷ニ入港第七戦隊ニ合ス(一月十一日参考)
軍艦赤城馬山浦發即日釜山著(一月二十七日参考)

一月二十

軍艦明石佐世保ヨリ長崎著(一月二十日参考)
軍艦鳥海、愛宕竹敷ヨリ釜山ニ入港赤城大島ヨリ任務引繼ヲ受ク
軍艦平遠横須賀ヨリ竹敷著第七戦隊ニ合ス(一月十七日参考)
斯クテ此ノ日ニ至リ宇治ノ外第七戦隊各艦竹敷方面ニ集合シ船體塗替亦終了ス
軍艦宇治昨年十月十一日上海著(昨年九月十日参考)後長江筋各港ヲ經テ同月二十七日漢江ニ著セシカ爾來同港ニ在泊ス
第二十艦隊竹敷發即日佐世保著第二艦隊ニ合ス(一月十日参考)

在仁川佛艦「グードン」ハ千代田ヨリ南二十九度西一哩一鐘ノ地ニ錨場ヲ變更ス(一月二十日参考)

一月三十

小村外務大臣ハ栗野公使ニ露國回答ノ確タル日取ヲ問合スヘキ旨訓令ス
在釜山島海ハ機關ニ故障ヲ生シ竹敷ニ歸リテ修理ヲ加フルノ必要起リ此ノ日在竹敷筑紫ヲ一時交迭トシテ急派ス筑紫即日釜山著島海ヨリ任務ノ引繼ヲ受ク
軍艦大島、赤城釜山發(一月二十七日参考)竹敷ニ寄港即日佐世保ニ向ケ出港

諸威汽船「セルン」號(總噸數一、三八三)香港ヨリ門司入港即日芝罘ニ向ケ出港積荷石炭二千噸
諸威汽船「フリッガ」號(總噸數一、四〇六)唐津ヨリ長崎入港積荷旅順行石炭千二百五十噸ナリト云フ
東清鐵道會社汽船「ソニー」號長崎入港(一月二十日参考)
同「シムカ」號長崎ヨリ浦鹽入港(一月二十日参考)
義勇艦隊汽船「カザン」號ハ一昨日香港ニ入港セシカ此ノ日載炭了リ旅順口ニ向ケ出港ノ豫定陸兵千二百及ヒ彈藥ヲ搭載シ居レリ(一月二十日参考)
英艦「アルストン」號(露國艦船十九隻中ノ一)英炭六千噸ヲ積ミ東洋ニ向ケ蘇士ヲ通過ス
在倫敦玉利大佐ノ本日附發電ニ曰ク露國捕鯨船ハ日韓間海底電線切斷ニ使用セラルヘシトノ説アリト
露國帆船「ベリリ」號ハ一月一日横濱入港後(一月十日参考)
同二十二日横濱船渠會社ニ入渠船底ニ修理ヲ加ヘ同三十日空船ノ儘(乗組員露人十二名獨逸人二名)米國桑港ニ向ケ直航ス同船ハ本國政府ノ内命ヲ帶ヒ桑港ヨリ鐘諸類ヲ積載シ露領ペトロパワロウスクヘ復航スルト云フ(神奈川縣知事報告)
丁抹汽船「ビュンマン」號(總噸數一、四〇四)ダルーニヨリ

記附

一月三十

栗野公使ハ此ノ日夕ラムスドルフ伯ニ會見シタルニ伯曰ク露國回答發送ノ日取ハ全然皇帝陛下ノ聖斷ニ依ルコトナレハ正確ニ之ヲ告クルコト能ハスト
山本海軍大臣ハ本日附ニテ在新嘉坡帝國領事氣附竹内大佐宛左ノ電報ヲ發ス
時局ハ彌々切迫シ和戰何レカニ決スルハ數日中即チ新嘉坡發艦ノ後ナルヘシ故ニ兩艦共其ノ地ヨリ本邦

佛艦「グードン」長崎ニ向ケ仁川出港

門司入港石炭千九百噸積込ノ上ダルーニ向ケ管ナリト云フ
諸威汽船「レボア」號(總噸數一、四五七)上海ヨリ門司入港即日芝罘ニ向ケ出港積荷石炭千二百噸
諸威汽船「フリッガ」號旅順ニ向ケ長崎出港積荷ハ前報ト異ナリ石炭ニ關シテハ言フ所ナク白紋油四百九十三樽
解舟四隻電線二十六噸其ノ他ノ雜貨ナリト云フ(一月二十日参考)
東清鐵道會社汽船「ソニー」號上海ニ向ケ長崎出港積荷石炭千九百噸木炭百六十噸(一月二十日参考)
英國汽船「バーニシア」號(露國艦船十九隻中ノ一)石炭ヲ浦鹽ニ運送シテ後室蘭入港船體船員怪シキ點ナシト云フ(附館發電)一月二十七日参考)
義勇艦隊汽船「カザン」號旅順ニ向ケ香港出港(一月二十日参考)
東清鐵道會社汽船「アルグン」號上海入港(一月二十日参考)
東亞汽船會社汽船「マライヤ」號(總噸數四、八四七)香港出港
在釜山西山筑紫艦長ノ本日附發電ニ曰ク領事ノ談ニヨレハ馬山浦ニハ露國人リリワヘツナル者謀報ニ從事ス釜山港ニ在ル露國人ハ領事ト(電文不明)露國捕鯨船二十八日元山津ニ向ケ出港例年此ノ季節捕鯨船釜山ニ入港稀ナリト(一字不明)ト
此ノ日頃英國汽船「アルストン」號(露國艦船十九隻中ノ一)英炭六千噸搭載東洋ニ向ケ蘇士ヲ發ス

ニ直航スヘシ但航路ハ可成清韓沿岸ニ偏セラル様ニ
スヘシ兩艦ヲ通シテ士官以上ノ待遇ヲ受クヘキ資格
ヲ有スルモノ、員數并ニ總乘組員數ヲ電報セヨ
山本海軍大臣ハ刻下時局ノ困難共ノ極ニ達シ和戰ノ分
ル、所數日ノ間ニ迫リタルヲ以テ更ニ各司令長官、各
司令官ニ我カ海軍ノ任務及ヒ心得ヲ訓示シ同時ニ在仁
川村上千代田艦長ニモ其ノ心得方ヲ訓示シ其ノ結文ニ
韓國沿岸ニ於テハ他ノ列國トノ關係ヲ惹起セサル限ハ
國際公法上ノ例規ヲ重視スルヲ要セスト言ヘリ之ヲ開
戰前ニ於ル海軍大臣最後ノ訓示トス
此ノ月海軍々令部ニ於テハ各種ノ情報ヲ綜合シ旅順港
防備圖ヲ調製刊行シ必要ノ諸向ニ配賦ス
東郷聯合艦隊司令長官ハ其ノ筋ヘ電稟スルニ一令ノ下
第一、第二驅逐隊ヲシテ旅順港外敵艦隊ヲ急襲撃セシム
ル目的ヲ以テ主力出發ヨリ少クモ二日前ニ該兩隊ト春
日丸、龍田ヲ八口浦マテ派遣シ置カンコトヲ希望ス旅
順港内閉塞ハ第一著ニハ施行セス又「コロク」(昨年十二月
韓國派遣)ハ牙山附近ニ上陸セシムルヲ得策ト信スル旨
ヲ以テス
山本海軍大臣ハ軍艦宇治ニ揚子江筋ノ水標設置水路測
量事業ヲ中止シ其ノ人員ヲ乗セ速ニ佐世保ニ歸航スヘ
キ旨電訓ス(二月二十
九日參看)
片岡第三艦隊司令長官ハ第三艦隊ニ編入セラレタル有
明丸(二月二十
七日參看)ヲ給炭船ト定メ第三特務隊ニ追加ス(二月
二十六日
參看)

此ノ日頃英國汽船「ヒースバーン」號(總噸數四二三五)
英炭六千噸ヲ載セ東洋ニ向ヒ蘇士ヲ發ス

二月二日

軍艦敷島出渠(二月二十
七日參看)
軍艦明石長崎ヨリ佐世保著(二月二十
九日參看)
軍艦大島赤城佐世保著(二月二十
七日參看)
第一艦隊佐世保ニ向ケ竹敷發(二月二十
七日參看)
海軍戰時給與規則中増修支給方及ヒ被服物品給與方ニ
關スル件改正セラル(二月
二日官報)
伊東軍令部長ハ東郷聯合艦隊司令長官ニ電報シテ曰ク
第一、第二驅逐隊春日丸及ヒ龍田ヲ八口浦マテ派遣シ置
クコト差支ナシ其ノ出發ノ時機ヲ二日前ニ通知スルコ
トモ出來得ル見込ナリ通知後其ノ他ノ戰隊モ艦隊ノ行
動ヲ暗マス爲メ主力出發以前ニ演習ノ名義ヲ以テ便宜
伊万里カ五島マテ進メ置カレテハ如何又敵艦隊ニ對ス
ル急襲撃ノ豫定日取若シ天候等ノ之ヲ許サ、ルトキ次
ニ第一打撃ヲ敵ニ加フヘキ驅逐隊名及ヒ其ノ日取ヲ電
報アレト右ニ對シ東郷聯合艦隊司令長官ハ即日答電シ
テ曰ク急襲撃ハ發令ヨリ第二日ノ夜ヨリ翌朝黎明マ
テノ管天候若シ之ヲ許サ、レハ其ノ風キ次第矢張第一、
第二驅逐隊ヲシテ實行セシムル考ナリト
在佐世保聯合艦隊下士卒半數上村中將引率ノ下ニ島嶼
子嶽ニ運動會ヲ催ス
軍艦新高橫須賀ヨリ佐世保入港第四戰隊ニ合ス(二月二十
九日參看)
水雷艇雄ハ明治三十六年十一月五日吳海軍造船廠ニ於
テ進水同三十七年一月二十三日竣工受授結了二月二十
九日佐世保ニ向ケ吳ヲ發セシカ此ノ日佐世保著(二月二十
九日參看)

在芝罘森中佐ノ本日附發電ニ曰ク一月三十一日「ボベ
ーダ」「ザイヤーナ」「エニセイ」「ボヤーリン」ハ港外ニ出ツ
依テ港外現在戰艦三、巡洋艦七ト爲ル砲艦「ギリヤーク」
出渠砲艦「カイダマーク」「フサードニク」及ヒ運送船「アン
ガラ」港内ニアリ砲艦「ラズボイニク」「ツジギート」大連
灣ニアリ(二月二十
九日參看)英國商船「コロムビア」號(總噸數三三五)及
ヒ「チユンキン」號(重慶號總噸數一三五八)ノ二隻大連通トナル軍港往
來ハ露國商船ノミト爲ル通信不自由ナレトモ差支ナシト
英國汽船「クルーサー」號(露國商船十九隻中ノ一)旅順口
ヨリ門司入港
瑞典汽船「リサ」號(總噸數一、五七七)タルニ「ヨリ門司
入港」
諾威汽船「スレーブナー」號旅順ヨリ長崎入港(二月二十
九日參看)
東清鐵道會社汽船「アムール」號タルニ「ヨリ長崎入港
(二月二十
九日參看)
諾威汽船「セイルスタッド」號唐津ヨリ仁川入港積荷唐
津炭千四百二十噸(二月二十
九日參看)
東清鐵道會社汽船「スンガリー」號仁川入港即日上海ニ
向ケ出港(二月二十
九日參看)
本日附元山發電ニ曰ク露國捕鯨船「三隻絶」元山ニ

水雷艦鷯ハ(昨年六月三)吳海軍造船廠ニ於テ進水ス(竣工ハ四月十二日)
 在釜山筑紫艦長海軍中佐西山保吉ハ本日附ニテ細谷司令官ニ發電シテ曰ク昨夜駐韓公使館附武官ヨリ聞ク在大丘府憲兵隊報告ニ土人ノ言ニヨレハ露國軍艦二隻迎日灣ニ入港セリト云フト右ニ對シ細谷司令官ハ即日筑紫艦長ニ急行迎日灣ヲ視察スヘキヲ命ス

二月二日

日進、春日此ノ日午前十一時五十七分新嘉坡著
 伊集院軍司令部次長ハ東郷聯合艦隊司令長官ニ打電シテ曰ク最初ノ急襲撃ト外交上最後通牒トハ至大ノ關係ヲ有ス返電ニヨレハ天候ノ如何ニ依リ其ノ時機確定セサルカ如シ第二日ノ夜驅逐隊ノ襲撃出來サル場合ニハ翌朝戰隊ヲ以テ攻撃セラレサルヤ可成確實ノ時機至急回報アラントヲ希望スト
 東郷聯合艦隊司令長官ハ本日催サルヘキ聯合艦隊下士卒半數運動會ハ都合ニ依リ取止メシム
 軍艦筑紫迎日灣ニ向ケ釜山發(一月三十)
 軍艦宇治佐世保ニ向ケ漢口發(一月三十)
 軍艦島海釜山ヨリ竹敷著修理ニ著手ス(一月三十)
 第一艦隊竹敷ヨリ佐世保著(一月三十)

出入スト

東清鐵道會社汽船「ニングタ」號芝罘入港(一月九)
 東清鐵道會社汽船「ムクデン」號(總噸數一、五六五)大連ヨリ上海入港
 東清鐵道會社汽船「アルグン」號上海出港(一月三十)
 東亞汽船會社汽船「マンチューリア」號新嘉坡ヨリ香港入港(二月二十)

本日附旅順發信ニ曰ク第九聯隊(東部西伯利狙撃步兵第三旅團)ハ一月三十一日及ヒ二月一日ノ兩日中ニ旅順ヨリ何レヘカ出發セリ無論本聯隊ハ各乘換驛ニ配置セラル、モノナルヘシ本日ハ第十聯隊(前記ト同旅團)ノ第一先發隊、明日ハ同後發隊ト三個中隊ヨリ成ル砲兵大隊出發スル等ナリ此ノ中砲兵ハ遼陽ニ派遣セラレ斯グテ一個ノ狙撃旅團ハ二月七日マテニ滿洲并ニ韓國々境沿岸地方ノ各指定駐屯點ニ到達スヘキ等ナリ全艦隊ハ就役シ内港西方ノ錨地ヨリ外港ニ出テタリ内港西方ノ錨地ニハ「アンガラ」及ヒ「アツワ」ジヌイト尙若干ノ驅逐艦ノミ殘ル各艦何レモ銳意兵員ノ操練ニ從事シ士官兵員ノ上陸モ艦長大ニ之ヲ制限セリ一月三十一日ハ日曜日ナリシモ艦隊ノ各艦ヨリハ一人ノ水兵上陸スルモノナク唯内港ニ碇泊スル艦艇ノ乗員ノミ上陸セリト此ノ日頃錫蘭太守ヨリ或筋ヘノ發電ニ依レハ露國ハブローウエーニ石炭三萬噸ヲ有シ又佛艦「アンフェルネ

ル(印度洋艦隊ノ一隻)ハ現ニ同地ニ於テ載炭中ナリト	英國汽船「コブチック」號(總噸數四、三五六)米國ヨリ橫濱入港、積荷ノ内糧食罐詰百五十五個ハ仕向先旅順口、牛肉二千九十三斤(樽?)ハ仕向先浦鹽(一月二十)
英國汽船「ウィーン」號(總噸數一、九九二)旅順口ヨリ門司入港	米國汽船「ブレアデス」號(總噸數三、七五三)門司ヲ經旅順口及ヒタルニ一ヘ向ケ神戸出港積荷ノ内麥粉四萬袋、米六十袋、「ミルク」八百箱其ノ他雜貨ハ仕向先旅順口ヘハ麥粉三萬四千八百九十六袋、材木二百一其ノ他雜貨ハ仕向先大連灣
東清鐵道會社汽船「ニングタ」號芝罘出港(二月一)	東清鐵道會社汽船「インカオ」號芝罘入港(一月六)
東清鐵道會社汽船「ノンニ」號旅順口ヨリ上海入港(二月一)	獨逸汽船「デラ」號(總噸數五、〇〇五)ハンブルヒヨリ橫濱入港仕向先浦鹽
獨逸汽船「アミゴ」號(總噸數一、一八六)芝罘ニ向ケ門司出港積荷石炭千四百噸	獨逸汽船「ブロンデー」號(總噸數六一三)上海ヨリ仁川入港
東亞汽船會社汽船「マンチューリア」號香港出港(二月一)	北海汽船會社汽船「エドワード、バレー」號香港入港(一月二十)
英國汽船「トゥッパード」號(噸數未詳)露國船十九隻中	煉炭六千四百噸ヲ積ミ浦鹽ニ向ケ蘇士ヲ發ス

二月三日

露國艦隊旅順出港行衛不明ノ電報此ノ日午後七時軍令部ニ達スルヤ山本海軍大臣伊東軍令部長ハ諸方面ニ向テ警戒ヲ加フヘキコトヲ議決シ夫々水雷敷設ノ實施ヲ命ス東郷聯合艦隊司令長官ハ昨日伊集院軍令部次長ノ發電ニ對シ答電シテ曰ク我カ艦隊ヲ敵ノ強勢ナル海岸砲臺砲火ノ下ニ暴露セシムルコトハ本職ハ戰略上寧ロ最後ノ手段ト考ヘ居レリ故ニ其ノ砲臺掩護ノ下ニアル艦隊ヲ攻撃スルニモ成ルヘク戰隊ヲ用ヒス驅逐隊ノ夜襲ニ依ラントス其ノ時期ハ天候ノ爲メニ左右セラル、コトハ免レサルモ先ツ第二日ノ夜ニ實行出來サレハ第三日ノ夜ニ出來ルモノト豫期シテ外交上ノ手續ヲ執ラレテハ如何ト東郷聯合艦隊司令長官ハ麾下驅逐隊若クハ艇隊ノ一隊ヲシテ此ノ日ヨリ十一日ニ至ル間毎夜佐世保港口ヲ巡邏警戒セシムル件無線電信機ヲシテ常ニ受信ヲ爲シ得ルノ準備ニアラシムル件當直艦ハ終夜汽艇ヲ準備シ置クヘキ件ヲ訓令ス

山下軍令部參謀ハ東郷聯合艦隊司令長官及ヒ片岡第三艦隊司令長官ニ交附スヘキ封令ヲ帶ヒ此ノ日午後六時東京ヲ發ス

此ノ日頃ヨリ旅順方面ノ天候ヲ屢聯合艦隊ニ通知ス片岡第三艦隊司令長官ハ細谷司令官ニ向ヒ假根據地防備隊到着マテ第七戰隊及ヒ第十六艇隊ヲ以テ亶濟島方面ヲ占領スルノ計畫ヲ爲シ置クヘキ旨ヲ電訓セシカ細谷司令官ハ右ニ對シ本日共ノ計畫書ヲ郵送提出ス

在芝罘森中佐ノ本日午後三時四十分發電ニ曰ク旅順口ヨリノ情報ニヨレハ三日午前十時前露國戰艦「レトウ非ザン」「ボベード」「ベトロバウロウスク」「ボルターリ」「レスウエート」「ツエザレウトルチ」ノ六隻、巡洋艦「バヤーン」「バルラーダ」「ヂイヤーナ」「アスコリド」「ボヤーン」ノ一ツ、井ク「六隻、水雷敷設艦「アムール」」「エニセイ」ノ二隻及ヒ砲艦「ギリヤーク」出港行衛不明ト

在門司伊東大和艦長ノ本日附發電ニ曰ク釜山碇泊中ノ捕鯨船海底電線ヲ切斷セントスル說アリト

東洋回航中ノ露國巡洋艦「アウローラ」「ドミトリ」「ドンスコイ」及ヒ驅逐艦「？」ハ此ノ日チブーテルニ著ス(在英玉利大佐發電)(二月二十)

諾威汽船「ヘルメス」號(總噸數一、三三八)門司ヲ經テ旅順ニ向ケ神戸出港積荷ナシ

諸威汽船「レナ」號(總噸數一、六二九)旅順ニ向ケ門司出港積荷石炭二千二百二十噸

東清鐵道會社汽船「アムール」號(總噸數一、九七七)浦鹽(二月)

獨逸汽船「ブロンデー」號旅順口ニ向ケ仁川出港積荷洋酒及ヒ雜貨(二月)

義勇艦隊汽船「エカテリノストラフ」號浦鹽出港軍人乘組居レリト云フ(二月二十)

東清鐵道會社汽船「シムカ」號浦鹽出港(二月二十)

波羅的汽船會社汽船「アンナ」號(總噸數一、九七七)浦鹽

附記

二月四日

西山筑紫艦長ノ本日附發電ニ曰ク迎日灣ヨリ釜山ニ歸著昨日迎日灣ヲ視察セリ土人ノ言フ所ニ依レハ近來外國軍艦入港シタルモノナシ歸途途念ノ爲メ蔚山灣ヲ視察セシモ外國軍艦ナシト

在仁川村上千代田艦長ノ本日附發電ニ曰ク本艦小月尾島燈臺ヨリ南三十七度西四十一度ノ處ニ錨場ヲ變更ス

在仁川村上千代田艦長ノ本日附發電ニ曰ク英國商船「アシヤックス」號小月尾島燈臺ヨリ南八十七度西七度半ニ錨場ニ投錨

御前會議開カレ伊藤侯爵、山縣元帥、大山參謀總長、桂總理大臣、松方伯爵、井上伯爵、山本海軍大臣、小村外務大臣、寺內陸軍大臣、曾根大藏大臣參列ス

山本海軍大臣ハ參內上奏スル所アリ午後八時勅ヲ奉シ角田竹敷要港部司令官及ヒ在竹敷細谷第三艦隊司令官、東郷聯合艦隊司令長官及ヒ鮫島佐世保鎮守府司令長官ニ命スルニ昨日旅順ヲ出發セル露國艦隊ノ行先ハ今尙不明ナリ彼若シ大口灣口又ハ佐世保軍港ニ近ツキ敵意ヲ表スルヲ認メハ直ニ擊破スヘキヲ以テス又同大臣ハ片岡第三艦隊司令長官ニ速ニ吳方面ニ在ル麾下艦隊ヲ率非竹敷要港ニ回港スヘキヲ命ス

山本海軍大臣ハ各鎮守府司令官及ヒ各要港部司令官ニ向ヒ水雷敷設實施ノコトハ表面上演習ノ名義ヲ以テ施行シ經費ハ事件費支辨ト心得ヘキ旨ヲ電訓ス

山本海軍大臣ハ本日午後九時十分東郷聯合艦隊司令長

出港
東清鐵道會社汽船「インカオ」號芝罘出港(二月)

栗野公使ハ此ノ日午後八時ラムズドルフ伯ノ請ニ依リ會見シタルニ伯曰ク露國回答ノ要旨ハ唯今アレキセイエフ太守ニ發電シ置キタリ右ハ同太守ヨリ我カ公使ヨリセン男ニ轉送セシムル等ナリ同太守ニ於テ地方ノ情況ヲ斟酌シ是迄露國ノ主張スル所ニ變更ヲ加フルコト恐ラクハ無カルヘシト

ボートセードヨリ本日附發電ニ依レハ東洋回航中ノ戰艦「オスラービヤ」驅逐艦「プレスチヤーシチー」水雷艇二隻及ヒ義勇艦隊汽船「サラトフ」號本日午前七時打掃ヲテ蘇士ヲ出港ス(二月十九)

在元山大木副領事ノ本日午後發電ニ曰ク捕鯨船「シビボ」號「リサイガル」號「グレギ」號「ブルク」號「ユスエチ」號「グロネビ」號「フョール」號「ドゥベデ」號ノ八隻元山入港ト

英國汽船「コブチツク」號神戸ニ向ケ橫濱出港(二月)

英國汽船「サイベリヤ」號ハ去一月二十五日橫濱入港當

官及佐世保鎮守府司令長官ニ發電スルニ「コロク」(三月三十日)ハ速ニ佐世保ニ於テ乗船スヘキ旨令發令セラレタリト
海軍々令部ニ於テハ露國主力艦隊旅順出港ノ目的ヲ諸
種ノ方面ヨリ觀察シ判斷ヲ下シ其ノ目的ハ攻勢ヲ取ル
カ爲メニアラスシテ訓練ノ爲メカ且之ニ對スル我カ國
ノ態度如何ヲ見シカ爲メナルカ若クハ示威運動ナルカ
若クハ浦鹽艦隊ト相會センカ爲メナルカ若クハ陸兵ヲ
分乘シ北韓ニ輸送スルモノナラント爲ス
海軍省ニ於テ陸海軍ノ要職相會シ軍議深夜ニ及フ
伊集院軍令部次長ハ東郷聯合艦隊司令長官ニ發電スル
ニ外交上最後ノ手續ヲ爲スト同時ニ艦隊發進ノ命令下
ルコトニ決定セラレシ故主力發進ニ二日前ニ第一第二驅逐
隊等ヲ八口浦マテ進メ置キ急襲ヲ爲スノ策ハ自然變更
ノ必要アルヘシト考フト(四日午後一時四十五分發電)
此ノ夜要衝ノ各方面ニ於テハ軍艦及ヒ驅逐隊ヲ以テ巡
邏警戒シ又ハ各港口木防禦水雷ノ敷設ニ著手シ對馬要
塞ニハ配兵シテ不虞ニ備フ東郷聯合艦隊司令長官ハ艦
下艦船中圓艦ヲ備フルモノハ十節ニ對スル艦數ニ汽釐
スヘキコト、不時ノ出港ニ差支ナカラシムヘキコト、公
用ノ外下士卒ノ上陸ヲ許サ、ルコト、艦尾燈々位ハ水平
線以下ヲ照サ、ル標檢査シ置クコトヲ訓令ス
此ノ夜東郷聯合艦隊司令長官ハ上村第二艦隊司令長官
以下各司令官艦長ヲ旗艦三笠ニ會シ戰機切迫ニ付益警
戒ヲ嚴ニスヘキ旨訓示シ其ノ筋ヨリ電命ノ次第ヲ傳達ス
片岡第三艦隊司令長官ノ本日附發電ニ曰ク軍艦筑紫ハ

時仕向先ハ旅順口ナリトノ報ニ接セシカ右ハ誤ニシテ
同船ハ桑港、橫濱間ノ定期航海船ナルコトヲ知ル(二月二
日) 米國汽船「ブレアデス」號旅順ニ向ケ門司出港積荷麥粉一
万三千五百袋(本船積荷ノ數量前報ト) 諸威汽船「アクチーブ」號(總噸數一、三七七)旅順ヨリ門
司入港
波羅的汽船會社汽船「ベッチー」號(二月七日)石炭積込ノ爲メ
浦鹽ヨリ室蘭入港載炭濟ノ上ハ新嘉坡ニ向フト云フ
露國捕鯨船四隻元山出港恐ラクハ浦鹽ニ向フナラント
云フ
英國汽船「ウエンチヤウ」號温州號總噸數八八八(旅順
口ニ向ヒ芝罘出港(其ノ芝罘入港) 英國汽船「チユンキン」號(重慶)芝罘入港(二月一日) 韓國汽船「登簿噸數七九六」芝罘入港積荷ナシ
英國汽船「ミルトン」號(總噸數三、二六七)棟炭四千六百
八十二噸ヲ積ミ旅順口ニ向ケ蘇士ヲ發ス

二月五日

日中釜山港口ニアリテ釜山港韓望樓監視、夜間釜山
港南灣ニ警戒砲泊軍艦愛宕ハ日中鎮海灣港口ニアリテ
セントネル方面監視夜間馬山浦ニ警戒砲泊共ニ陸上ト
連通ヲ取り晝夜交代シテ一個水雷艇隊ハ竹敷要港々口
鎮海灣港口間ヲ巡航警戒セシムト
細谷司令官ハ角田司令官ト協議ノ上海門、磐城、摩耶ヲ
尾崎灣ニ警戒砲泊セシム
第十艇隊警戒監視ノ爲メ(竹敷)出港
軍艦愛宕馬山浦著當地方異狀ナシト報ス
日本郵船株式會社汽船熊野丸ハ假裝水雷母艦トシ東洋
汽船株式會社汽船亞米利加丸ハ假裝巡洋艦トシ聯合艦
隊附屬ト定メラル
軍艦宇治(第三艦隊)ハ清韓警備ノ任務ヲ解カル(二月二
日) 日本郵船株式會社汽船熊野丸(總噸數五、〇七八)ヲ履
上ク
午前山本海軍大臣、伊東軍令部長、伊集院同次長相伴ヒ
テ參内閣下ニ伏シ開戦ノ好機今日ニアルヲ奏上シ、作
戰命令案ヲ捧ケテ聖斷ヲ仰キ奉リシニ敍思暫クニシテ
終ニ之ヲ裁可アラセラレ作戦命令ヲ左ノ如ク定メラル
之ヲ大海令第一號トス
露國ノ行動ハ我ニ敵意ヲ表スルモノト認メ帝國艦隊
ヲシテ左ノ行動ヲ取ラシメラル
一聯合艦隊司令長官并ニ第三艦隊司令長官ハ東洋ニ
在ル露國艦隊ノ全滅ヲ圖ルヘシ

在芝罘森中佐ノ本日午前十時二十五分發電ニ曰ク旅順
口ヨリノ情報ニヨレハ二月三日同港ヲ出港セシ露國艦
隊ハ同夜大連灣ニ假泊二月四日午後三時前後歸港全部
港外ニ砲泊スト(右電報ハ今日午後三時三十分東京
著)
其ノ後森中佐發電ニ曰ク四日「ポーブル」出港行衛知レ
ス同夜港外艦隊砲泊地ノ外方ハ驅逐艦四隻ニテ警戒セ
リ二日以来彼ノ地海陸聯合軍警戒嚴重人心恟々タリト
云フト

一聯合艦隊司令官ハ速ニ發進シ黃海方面ニ在ル露國艦隊ヲ擊破スヘシ臨時韓國派遺隊ノ海上輸送中ノ行動ハ聯合艦隊司令官之ヲ指示スヘシ

三第三艦隊司令官ハ速ニ鎮海灣ヲ占領シ朝鮮海峽ヲ警戒スヘシ

天皇陛下ハ政府ニ命ジテ露國ト交渉ヲ斷テ我カ獨立自衛ノ爲メニ自由ノ行動ヲ執ルコトニ御決定アラセラルタルニ付陸海軍ニ勅語ヲ賜フ

右勅語ニ對シ海軍ニテハ海軍大臣、海軍々令部長、各鎮守府司令官、聯合艦隊司令官、第三艦隊司令官、各要港部司令官、各奉答文ヲ捧呈ス

小村外務大臣ハ此ノ日午後二時栗野公使ニ訓令スルニ日露協商ニ關スル談判ヲ斷絶シ同時ニ帝國政府ハ自衛ノ爲メ并ニ帝國ノ權利及ヒ利益ヲ擁護スル爲メ最良ト思惟スル獨立ノ行動ヲ採ルコトノ權利ヲ保留スル旨露國政府ヘ通牒方并ニ露國政府トノ外交關係ヲ斷絶シ館員ヲ率井テ露京ヲ撤退スル旨露國政府ヘノ通牒方ヲ以テス右發電後約三時間ヲ經テ昨夜栗野公使カラムストルフ伯ト會見シタル電報東京ニ著ス

佐世保鎮守府司令官ヲシテ鎮海灣ニ假根據地ノ設備ヲ開始セシメラル(大海令第一號ノ二)

海軍戰時編制實施セシメラル(大海令第一號ノ三)

軍事郵便物ニ關スル勅令公布セラル(勅令第十九號)

第二艦隊軍艦須磨ハ第三艦隊ニ編入セラル右ニ付同艦ハ速ニ竹敷ヘ回航ノ電令ヲ受ク

在京城吉田少佐ノ本日午前發電ニ曰ク露國艦隊行衛目下搜索中ナレトモ未タ分カラズ多分大連灣ト想像セラレ電信線故障ナシト

森中佐ハ此ノ日戰艦三隻旅順出港ノ件ヲ報シカ之ヲ正誤シ同日午後三時「ヒリス」ト「ボリ」出港修理濟試運轉ナラン「ボーブル」歸港スト報ス

本日附旅順發信ニ曰ク東洋回航中ノ各艦ハ太守ノ訓令ニ依リ特ニ其ノ途中ニ在テ水雷艇防禦ノ演習ヲ爲シ「アムール」「エニセイ」ノ兩艦ハ大連灣ニ於テ水雷艇演習ヲ行ヒツ、アリ兩艦各百九十個ノ水雷ヲ搭載ス艦隊ノ始終施行スル操練ノ種類ハ戰艦及ヒ水雷艇(防禦攻擊共)ニシテ又或港灣ニ羅列スル島嶼ニ陸戰隊ヲ上陸セシムル等ノ操練ヲ行ヘリ本日三十輛以上ノ支那車ヲ徵發シ火藥庫ヨリ水雷艇所附近并ニ老虎尾半島ニアル各砲臺ニ彈藥ヲ運搬シツ、アリ二月二日ヨリ三日ニ互リ要塞砲兵ノ二個中隊ハ砲灣々面ヲ瞰射スヘキ砲臺ヲ建設センニハ幾許ノ時日ヲ要スルヤヲ試驗センカ爲メ夜中秘密ニ作業ヲ始メ翌朝九時ニ止メシカ其ノ結果斯ル位置ニ於テハ僅々九尹砲三門ト機關砲八門トヲ据附ケルカ最大限ナルヲ知レリ又新市街ノ背而丘上ニ砲ノ据附方ハ目下ハ土墩ノ築造共ノ他砲員用土窖ノ築造ニ全力ヲ注キツ、アリ此處ニハ要塞砲兵半中隊ヲ配置スル旨ナリト云フ

了抹汽船「プリンス」ウラヂミール號(總噸數五、五四九)
(露國艦隊十九隻中ノ一、十三)旅順ヨリ門司入港本船ハ曩ニ英炭

山本海軍大臣ハ日露交戰中何分ノ命令アルマテ明治二十七年大本營制定捕獲規程ヲ適用スヘキ旨發令シ又各國船舶書類ヲ一册ニ纏メ必要ノ諸向ニ配賦ス

山本海軍大臣ハ左ノ各地點ニ望樓ヲ假設スヘキヲ命ス、但事務開始ノ時期ハ更ニ令達スルコト、セリ

- | | |
|----------|----------|
| 相模國觀音崎 | 相模國劍崎 |
| 渡島國惠山崎 | 渡島國白神崎 |
| 豐後國佐賀關 | 奄美大島曾津高崎 |
| 對馬國大河内 | 對馬國下御崎 |
| 對馬國鄉崎 | 壹岐國若宮島 |
| 五島宇久島城ヶ岳 | 筑前國沖ノ島 |
| 臺灣正門角 | 臺灣鼻頭角 |
| 臺灣登鼻鼻 | 臺灣大甲 |
| 澎湖島裏正角 | 澎湖島拱北 |
| 澎湖島リシタ一角 | |
- 山本海軍大臣ハ又左ノ各地點ニ無線電信機ヲ裝置スヘキヲ命ス
- 對馬國豆岐崎 肥前國平戸島
- 海軍豫備役、後備役將校同相當官兵曹長准士官ノ一部
 本日附ヲ以テ充員召集ヲ令セラル
- 海軍豫備役下士卒及ヒ佐世保鎮守府ニ於ル後備役水兵
 ハ本日附ヲ以テ充員召集ヲ令セラル但橫須賀鎮守府ニ
 於ル水兵機關兵ハ明治三十五年一月一日以後現役ヲ離
 レタルモノニ限ラル
- 海軍豫備役後備役准士官及ヒ下士卒ニシテ服役滿期ニ

七千噸ヲ旅順ヘ輸送セシモノナリト云フ

諾威汽船「アクチー」號旅順ニ向ケ門司出港積荷石炭千八百噸(二月四)

英國汽船「チンキヤン」號(總噸數一、九八六)芝罘ヨリ門司入港仕向先青島

獨逸汽船「アミゴ」號門司ヨリ芝罘入港(二月三)

獨逸汽船「ケーニヒスベル」號載炭ノ爲メ基隆入港(二月三)

積荷大連ヘ雜貨六百九十五噸 旅順ヘ雜貨四十九噸 浦鹽ヘ鐵板鐵棒並ニ函入器械二百三十噸 右ハ軍用品ナルヤ否ヤ判然セサレトモ何レモ露國用ノモノニシテ膠州灣ヲ經テ旅順ニ向フ管基隆ニハ二日間碇泊ノ豫定アリト云フ

諾威汽船「セイルスタッド」號仁川出港(二月)

義勇艦隊汽船「ウオロネー」號オデッサニ向ケ上海出港(二月十三)

東清鐵道會社汽船「スンガリー」號仁川ヨリ上海入港(二月)

至ル者ハ當分ノ内該服役ヲ延期ス(海軍省令第三號)
 山本海軍大臣ハ此ノ日先ツ海軍中佐室田習三外十四名ノ豫
 後備將校及ヒ相當官ヲ召集シ横須賀鎮守府ニ參著セシム
 伊東軍令部長ハ東郷聯合艦隊司令長官ニ發電スルニ聯
 合艦隊出發スルトキハ内外ニ對シ努メテ其ノ行動ヲ秘
 スルノ件及ヒ臨時韓國派遣隊ノ任務ニ關スル件ヲ以テ
 シ又千代田ト聯合艦隊トノ會合點及ヒ其ノ時刻ヲ問
 合セタリ(午後一時三十分發)
 海軍軍令部參謀山下大佐ハ此ノ日佐世保ニ著シ東郷聯
 合艦隊司令長官ニ封書ヲ手交シ開封ノ電令ヲ待テ之ヲ
 披見スヘキヲ以テス次テ同司令長官ハ開封ノ命ニ接シ
 之ヲ披見セシニ其ノ封書ハ大海令第一號ノ大命及ヒ山
 本海軍大臣カ之ニ附シタル同令煥發ノ理由書ナリ
 午後伊集院軍令部長ハ東郷聯合艦隊司令長官及ヒ細
 谷第三艦隊司令官ニ發電スルニ鎮南浦巡威島牙山ニハ
 我カ通信員派遣シアリ又八口浦ニ電線保護ノ爲メ巡查
 駐在シアルモ未タ何等ノ報ニ接セサリシヲ以テ右諸地
 方ニハ異狀ナキモノ、如ク認ムト
 伊東軍令部長ハ午後三時在京城吉田少佐ニ電令スルニ
 豫定ノ場所ニ於テ義州府電線及ヒ元山津以北電線ヲ切
 斷スヘキヲ以テシ之ト同時ニ陸軍當局者ニ北京、キヤクタ
 電線破壞ノ件即時實行方(二月十一日參看)ヲ請求シ而テ吉田
 少佐ハ同日午後八時半京城發ニテ電線切斷委細拜承ノ
 旨返電ス
 在新嘉坡竹内大佐ハ本日午後海軍大臣ニ發電シテ曰ク
 士官二十七共ノ他ノ人々約三百出港ノ際ナラテハ八數

確定シ難シ航路ハ呂宋ノ北端ヨリ横須賀軍港ニ向フ管
 止ムヲ得サレハ木邦ノ他所ニ寄港スルヤモ計ラレス速
 カハ約十二ト(二月三十日參看)

東郷聯合艦隊司令長官ハ佐世保軍港ニ於テ聯合艦隊命
 令ヲ發ス其ノ要領左ノ如シ

一聯合艦隊ハ六日當港ヲ發シ成ルヘク行動ヲ隱蔽シ
 テ急速黃海ニ進出シ旅順及ヒ仁川方面ノ敵ヲ擊破
 スルト同時ニ韓國京城占領ノ目的ヲ有スル陸軍兵
 フ仁川若クハ牙山附近ヨリ揚陸セシメントス

二旅順方面ノ敵ハ第一及ヒ第二戰隊(淺間欠)第三戰
 隊及ヒ各驅逐隊ヲ以テ之ヲ擔任シ仁川ノ敵ニ對シ
 テハ第四戰隊(臨時淺間ヲ附屬ス)及ヒ第九第十四
 艇隊ヲ以テ之ニ當ラシメ且同隊ヲシテ陸軍運送船
 ノ護衛ニ任セシム

三來八日午後五時間島ノ約南東ノ東二十五哩ノ地點ニ
 テ各驅逐隊ハ本隊ニ分レ第一、第二、第三驅逐隊ハ旅順
 口ニ第四、第五驅逐隊ハ大連灣ニ進ミ索敵襲撃スヘシ
 四仁川方面ニ於ル作戰ノ計畫實施ニ就テハ凡テ瓜生
 司令官ニ一任ス

五此ノ行動ヲ了レハ各部隊ハ一度牙山灣ニ集中シ後
 命ヲ待ツヘシ

軍艦明石ハ先ニ沖繩丸ヲ護衛シ佐世保、玉島(八口浦)間
 ニ敷設隱蔽セル海底電線開通ノ爲メ通信技手數名ヲ便
 乘セシメ此ノ夜八口浦ニ向ケ佐世保出港

片岡第三艦隊司令長官ハ第五戰隊及ヒ第六戰隊(千代田
 欠)ヲ率非竹敷ニ向ヒ吳出港馬關海峽ニ於テ軍艦大和ヨ

附記

リ封令第一號ヲ開披スヘキ旨海軍大臣ノ命令ヲ受取ル
 午後七時四十分片岡司令長官旗艦嚴島大曾根南方淺洲
 ニ於テ擱坐シタルモ後二時間許ヲ經テ離洲前記六隻
 ト共ニ六連島沖ニ假泊同長官ハ司令官艦長ヲ來會セシ
 メ封令第一號ニ基キ艦隊命令ヲ發ス共ノ要領左ノ如シ
 第三艦隊ハ鎮海灣ヲ占領シ朝鮮海峽ヲ警戒ス依テ第
 七戰隊及ヒ第十六艇隊ハ直ニ鎮海灣ヲ占領シ第十(一
 十九日)及ヒ第十一艇隊(一月十五日、同二十)ハ速ニ豫定警戒
 參看)就キ第五戰隊(宮古欠)第六戰隊ハ豆殿崎附近
 豫定警戒配備ニ就キ宮古ハ直ニ豆殿崎ニ到リ無線電
 信ヲ以テ情報問合ノ後竹敷ニ急行シ本命令ヲ細谷司
 令官ニ達スヘシ又集合地點ヲ豆殿崎ノ南々西五哩トス
 第三第三艦隊午後五時臨戰準備終リ東京灣警備ニ就ク
 第三艦隊附屬水雷母艦豐橋昨四日佐世保ヲ發セシカ此
 ノ日竹敷著(二月二十
 水雷艇第七十五號 佐世保發竹敷著第十一艇隊ニ合ス
 (二月二十
 日本郵船株式會社汽船和模丸(總噸數一、九二六)同朝
 顏丸(總噸數二、四六四)板谷合名會社汽船米山丸(總噸
 數二、六九三)ノ三隻ヲ雇上ク
 在仁川村上千代田艦長ノ本日附發電ニ曰ク米國海軍運炭船一隻入港月尾島燈臺ヨリ北八十三度西六鏢ノ處ニ投
 錨スト

戰局日誌(開戰前誌)終